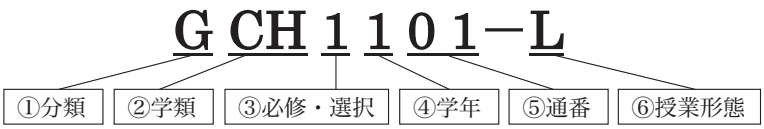
Ⅳ

講義概要

科目ナンバリングについて

本学総合人間学部では、2019年度から科目ナンバリング制度を導入します。
科目ナンバリング導入の目的は授業科目に特定の番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を示し、教育プログラムにおけるカリキュラムの体系性を明示する仕組みです。
科目ナンバリングを導入することで、学生が科目の水準や専門性に応じて適切な授業科目を選択し、受講する手助けとなります。
2020年度はP104の開講科目表に科目ナンバーを掲載します。科目ナンバリングの構造は以下の通りです。



①分類
一般教養科目 …… G　　総合人間学部専門科目 …… I

②学類
〈一般教養科目〉
導入教育 …… FR（Freshman）
キリスト教教学系 …… CH（Christianity）
人文科学系 …… HU（Humanities）
社会科学系 …… SS （Social Science）
自然・情報科学系 …… NI （Natural Science&Information Technology）
外国語 …… FL （Foreign Language）
健康・スポーツ系 …… PE （Physical Education）
キャリア教育 …… CE （Career Education）
体験学修 …… EL （Experiential Learning
〈専門科目〉
キリスト教人間学系 …… CS （Christian Studies）
福祉相談援助系 …… SW（Social Work）
地域福祉開発系 …… CD（Community Development）
子ども支援系 …… CF （Child and Family Studies）
臨床心理系 …… CP （Clinical Psychology）
専門共通 …… AD（Advanced、国際、卒論等）

③各分類ごとの必修または選択
必修→1　　選択→2　　選択必修→3

④学年
1：大学1年次レベル
2：大学2年次レベル
3：大学3年次レベル
4：大学4年次レベル

⑤学年ごとの通番
01から始め、学年ごとに通番する。

⑥授業形態
講義 …… L （Lecture）　　演習 …… S （Seminar）
実技 …… P （Practice）　　実習 …… T （Training）

2020年度　開講科目表

開講科目表の見方

①授業科目欄：○○○→□□□は2018年度より名称が変更となった科目です。
左の○○○は2017年度以前の科目名、右の□□□は2018年度以降の科目名。
科目名が変更された科目については再履修できません。

②開講状況欄：2014～2017年度入学者と2018年度編入生及び2019年度3年次編入生は、2017年度以前の欄を参照してください。
2018年度1年次入学者、2019年度1・2年次入学者は、2018年度以降の欄を参照ください。
入学年度により同一科目で所属科目群の異なる科目は、**太字**で当該科目の所属の群を表記しています。
例）「キャリアデザイン基礎」を履修した場合、は2017年度以前入学者については教養科目の扱いだが、2019年度1年次入学者については、専門科目の専門演習科目群の扱いとなります。

③必修・選択等欄：◎印：必修　○印：選択必修　無印：選択　×印：履修不可

教養（Liberal Arts）科目

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等		科目ナンバー	掲載ページ
				2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者		
教養科目群	総合人間学	2	1	前期1	前期1	◎	◎	GFR1101-L	109
	聖書を読む	2	1	後期1	後期1	◎	◎	GCH1101-S	109
	キリスト教概論Ⅰ	2	1	前期1	前期1	◎	◎	GCH1102-L	110
	キリスト教概論Ⅱ	2	1	後期1	後期1			GCH2101-L	111
	社会福祉原論Ⅰ	2	1	前期1	前期1	◎	◎	GSS1101-L	112
	社会福祉原論Ⅱ	2	1	後期1	後期1			GSS2101-L	113
	心理学	2	1・2	前期1	前期1	◎	◎	GHU1101-L	115
	心理学Ⅱ→心理学概論	2	1・2	後期1	後期1			GHU2101-L	115
	生命・生態・進化Ⅰ→現代生命科学Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1	前期1			GNI2110-L	116
	生命・生態・進化Ⅱ→現代生命科学Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1	後期1			GNI2111-L	117
	スポーツと健康（体育実技を含む）A	2	1・2	前期1	前期1			GPE2101-P	118
	スポーツと健康（体育実技を含む）B	2	1・2	後期1	後期1			GPE2102-P	119
	海と森の生物Ⅰ→環境科学Ⅰ	2	2・3・4	休講	休講			GNI2201-L	—
	海と森の生物Ⅱ→環境科学Ⅱ	2	2・3・4	休講	休講			GNI2202-L	—
	地球と宇宙Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1	前期1			GNI2112-L	119
	地球と宇宙Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1	後期1			GNI2113-L	120
	自然科学の視点Ⅰ	2	1・2・3・4	閉講	×			—	—
	自然科学の視点Ⅱ	2	1・2・3・4	閉講	×			—	—
	中世史との対話	2	1・2	2021	2021			GHU2102-L	—
	近世史との対話	2	1・2	2021	2021			GHU2103-L	—
	憲法	2	1・2	前期1	前期1			GSS2102-L	121
	法学	2	1・2	後期1	後期1			GSS2103-L	121
	社会学	2	1・2	前期1	前期1			GSS2104-L	122
	社会学Ⅱ	2	1・2	後期1	後期1			GSS2105-L	123
	政治学（国際政治を含む）	2	1・2	閉講	閉講			GSS2106-L	—
	文学Ⅰ　→　文学	2	1・2	閉講	閉講			GHU2104-L	—
	文学Ⅱ	2	1・2	閉講	×			—	—
	教養としての哲学	2	1・2	前期1	前期1			GHU2105-L	124
	哲学と論理	2	1・2	後期1	後期1			GHU2106-L	124
	教育学	2	1・2	後期1	後期1			GHU2107-L	125
	音楽の基礎	2	1・2	前期1	前期1			GHU2108-P	126
	音楽の実際	2	1・2	後期1	後期1			GHU2109-P	127
	コミュニケーションの演習	2	1	前期1	前期1		◎	GFR1102-S	128
	コミュニケーションの理論	2	1	閉講	×	◎		—	—
	異文化間コミュニケーション	2	2・3・4	2021	2021			GFR2201-L	—
	キャリア概論Ⅰ→キャリアデザイン基礎	2	2・3	前期1	**専門演習**			—	129
	キャリア概論Ⅱ→キャリアデザイン実践	2	3	後期1	**専門演習**			—	130
	コンピュータ入門Ⅰ	2	1・2	前期1	前期1			GNI2114-P	131
	コンピュータ入門Ⅱ	2	1・2	後期1	後期1			GNI2115-P	132
	視覚障害者 PC 入門	2	1	前期1	前期1			GNI2116-P	132
	情報言語コミュニケーションⅠ	2	2・3・4	閉講	×			—	—
	情報言語コミュニケーションⅡ	2	2・3・4	閉講	×			—	—
	英語 Reading	2	1	前期2	前期2	○〈1〉	○〈1〉	GFL3104-S	133
	英語 Speaking/Listening	2	1	前期2	前期2	○〈1〉	○〈1〉	GFL3101-S	134
	英語 Writing/Grammar	2	1	前期2	前期2	○〈1〉	○〈1〉	GFL3105-S	135
	英語特別演習（Independent Study）	1	2・3・4	適宜	適宜	○〈1〉	○〈1〉	GFL3201-S	136
	英語 Reading 演習 A（基礎）	1	2・3	休講	休講	○〈1〉	○〈1〉	GFL3202-S	—
	英語 Reading 演習 B（発展）	1	2・3	休講	休講	○〈1〉	○〈1〉	GFL3203-S	—

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等		科目ナンバー	掲載ページ
				2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者		
教養科目群	英語 Speaking/Listening 演習	2	2・3	前期2	前期2	○〈1〉	○〈1〉	GFL 3204-S	137
	英語 Writing 演習	1	2・3	休講	休講	○〈1〉	○〈1〉	GFL 3205-S	—
	英語特別プログラム（ESP: English for Special Purposes）	1	1・2	後期1	国際	○〈1〉		IAD 2101-S	137
	ドイツ語 初級 A（読本・会話）I →ドイツ語会話 I	1	1・2	休講	休講			GFL 2101-S	—
	ドイツ語 初級 A（読本・会話）II →ドイツ語会話 II	1	1・2	休講	休講			GFL 2102-S	—
	ドイツ語 初級 B（文法） →ドイツ語初級 I	1	1・2	前期1	前期1			GFL 2104-S	138
	ドイツ語 初級 B（文法） →ドイツ語初級 II	1	1・2	後期1	後期1			GFL 2105-S	139
	ドイツ語 中級 A（講読・会話）I →ドイツ語講読 I	1	1・2	休講	休講			GFL 2104-S	—
	ドイツ語 中級 A（講読・会話）II →ドイツ語講読 II	1	1・2	休講	休講			GFL 2105-S	—
	ドイツ語 中級 B（文法） →ドイツ語中級	2	1	休講	休講			GFL 2106-S	—
	外国の言語と文化 初級（韓国語）	1	1・2・3・4	前期1	前期1			GFL 2107-S	139
	外国の言語と文化 中級（韓国語）	1	1・2・3・4	休講	休講			GFL 2108-S	—
	外国の言語と文化 初級（中国語）I	1	1・2・3・4	休講	休講			GFL 2109-S	—
	外国の言語と文化 初級（中国語）II	1	1・2・3・4	休講	休講			GFL 2110-S	—
	外国の言語と文化 （フィリピノ語）	1	1・2・3・4	後期1	国際			IAD 2102-S	140
	日本語特講（留学生）I	1	1・2	前期1	前期1			GFL 2111-S	141
	日本語特講（留学生）II	1	1・2	後期1	後期1			GFL 2112-S	141

教養科目まとめ
・総合人間学、聖書を読む、キリスト教概論 I 、社会福祉原論 I 、心理学、コミュニケーションの理論
（2018年度以降入学者はコミュニケーションの演習）は必修。
・〈1〉英語科目のうち2単位以上を選択必修。
以上の必修、選択必修を含めて30単位以上を履修すること。

専門科目

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等		科目ナンバー	掲載ページ
				2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者		
総合人間学コア科目群	人間・文化とキリスト教 I	2	2・3	前期1	前期1	○〈2〉	○〈2〉	ICS 3201-L	142
	人間・文化とキリスト教 II	2	2・3	後期1	後期1	○〈2〉	○〈2〉	ICS 3202-L	143
	キリスト教の人間観 I	2	2・3・4	前期1	前期1	○〈2〉	○〈2〉	ICS 3203-L	144
	キリスト教の人間観 II	2	2・3・4	後期1	後期1	○〈2〉	○〈2〉	ICP 3201-L	144
	社会福祉の基礎	2	2	前期1	前期1	○〈2〉	○〈2〉	ISW 3201-L	145
	ソーシャルワーク論 I	2	2	前期1	前期1	○〈2〉	○〈2〉	ISW 3202-L	146
	ソーシャルワーク論 II	2	2	後期1	後期1	○〈2〉	○〈2〉	ISW 3203-L	147
	ターミナルケアとグリーフワーク	2	2・3・4	後期1	キャリア（相談）	○〈2〉		ISW 2215-L	148
	障害者福祉の諸問題	2	2	キャリア（相談）	前期1		○〈2〉	ISW 3204-L	148
	高齢者福祉の諸問題	2	2	キャリア（相談）	休講		○〈2〉	ISW 3205-L	—
	地域福祉論 I	2	2	前期1	前期1	○〈2〉	○〈2〉	ICD 3201-L	149
	地域福祉論 II	2	2	後期1	後期1	○〈2〉	○〈2〉	ICD 3202-L	150
	社会保障論 I	2	2	キャリア（地域）	前期1		○〈2〉	ICD 3203-L	151
	ボランティア・市民活動論	2	2・3	前期1	キャリア（地域）	○〈2〉		ICD 2202-L	152
	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	後期1	国際	○〈2〉		IAD 2201-L	153
	児童福祉の諸問題	2	2	前期1	前期1	○〈2〉	○〈2〉	ICF 3201-L	154
	教育心理学	2	2	後期1	後期1	○〈2〉	○〈2〉	ICF 3202-L	154
	発達心理学（発達障害を含む）→発達心理学	2	2	後期1	後期1	○〈2〉	○〈2〉	ICF 3203-L	155
	国際社会福祉概説	2	2	前期1	国際	○〈2〉		IAD 2202-L	156
	心理療法概説	2	2	閉講	×	○〈2〉		—	—
	カウンセリング実技の基本	2	2	前期1	前期1	○〈2〉	○〈2〉	ICP 3202-L	157
	カウンセリングの実際（2018年度まで） 旧カリ科目	2	2	閉講	×	○〈2〉	○〈2〉	—	—
	心理学研究法 III（データ解析）→心理学研究法 I（データ解析）	2	2	キャリア（心理）	前期1		○〈2〉	ICP 3203-L	157
	心理検査技法 I →心理的アセスメント	2	2・3・4	キャリア（心理）	前期1		○〈2〉	ICP 3204-L	158
	心理学基礎実験→心理学実験	2	2	後期2	後期2	○〈2〉	○〈2〉	ICP 3205-S	159
総合人間学いのちと教育科目群	いのち学序説	2	1・2	後期1	後期1	○〈3〉	○〈3〉	ICP 3101-L	160
	人間の尊厳と人権	2	2・3・4	2021	2021	○〈3〉	○〈3〉	ICP 3206-L	—
	福祉のキリスト教的源流	2	2・3・4	休講	休講	○〈3〉	○〈3〉	ISW 3206-L	—
	社会福祉とキリスト教	2	2・3・4	2021	2021	○〈3〉	○〈3〉	ISW 3207-L	—
	キリスト教と生命倫理	2	2・3・4	2021	2021	○〈3〉	○〈3〉	ICP 3207-L	—
	人間・いのち・世界 I	2	3・4	前期1	前期1	○〈3〉	○〈3〉	ICP 3301-L	160
	人間・いのち・世界 II	2	3・4	後期1	後期1	○〈3〉	○〈3〉	ICP 3302-L	161
	キリスト教の倫理	2	2・3・4	後期1	後期1	○〈3〉	○〈3〉	ICP 3208-L	162
国際プログラム科目群	英語特別プログラム（ESP: English for Special Purposes）	1	1・2	教養	後期1			IAD 2101-S	137
	外国の言語と文化（フィリピノ語）	1	1・2・3・4	教養	後期1			IAD 2102-S	140
	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	コア	後期1			IAD 2201-L	153
	国際社会福祉概説	2	2	コア	前期1			IAD 2202-L	156
	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	キャリア（地域）	前期1			IAD 2203-L	163
	海外研修 A（アジア）	2	1・2・3・4	実践	休講			IAD 2103-T	—
	海外研修 B（欧米）	2	1・2・3・4	実践	休講			IAD 2104-T	—
	海外インターンシップ前ゼミ	2	3	実践	後期1			IAD 2301-S	163
	海外インターンシップ A（アジア）	2	3	実践	集中			IAD 2302-T	164
	海外インターンシップ B（欧米）	2	3	実践	休講			IAD 2303-T	—
外国語原典講読科目群 総合人間学	英語聖書 I	1	1・2	閉講	×			—	—
	英語聖書 II	1	1・2	閉講	×			—	—
	キリスト教フレッシュマンゼミ	2	1	後期1	演習			ICS 2101-S	165
	旧約聖書原典講読	2	2	閉講	閉講			ICS 2201-S	—
	新約聖書原典講読	2	3・4	閉講	閉講			ICS 2301-S	—
	ドイツ語聖書	2	2	閉講	×			—	—

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等		科目ナンバー	掲載ページ
				2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者		
総合人間学外国語原典講読科目群	ヘブル語	8	2	通年2	通年2			ICS2202-S	165
	ギリシア語	8	3	通年2	通年2			ICS2302-S	166
	ラテン語Ⅰ　2020年度は東京神学大学で開講	2	3・4	前期1	前期1			ICS2303-S	167
	ラテン語Ⅰ　2020年度は東京神学大学で開講	2	3・4	後期1	後期1			ICS2304-S	168
	社会福祉英専門書講読	2	2・3・4	休講	休講			ISW2201-L	―
	臨床心理英専門書講読A	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2201-S	169
	臨床心理英専門書講読B	2	2・3・4	休講	休講			ICP2202-S	―
	臨床心理英語論文読解Ⅰ	2	2・3・4	後期1	後期1			ICP2203-S	170
	臨床心理英語論文読解Ⅱ	2	2・3・4	休講	休講			ICP2204-S	―
総合人間学総合演習科目群	キャリア概論Ⅰ→キャリアデザイン基礎	2	2・3	**教養**	前期1		○〈4〉	IAD2204-L	129
	キャリア概論Ⅱ→キャリアデザイン実践	2	3	**教養**	後期1		○〈4〉	IAD2304-S	130
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	**ｷｬﾘｱ(相談)**	前期1			ISW2101-S	170
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	**ｷｬﾘｱ(相談)**	後期1			ISW2102-S	171
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2・3	**ｷｬﾘｱ(相談)**	前期1		○〈4〉	ISW2202-S	172
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	**ｷｬﾘｱ(相談)**	前期1			ISW2301-S	173
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	3	後期1	後期1			ISW2302-S	173
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	4	前期1	2021			ISW2401-S	174
	ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	後期1	2021			ISW2402-S	175
	キリスト教フレッシュマンゼミ	2	1	**外国語**	後期1			ICS2101-S	165
	キリスト教特講ゼミⅠ	2	2	前期1	前期1			ICS2203-S	176
	キリスト教特講ゼミⅡ	2	2	後期1	後期1			ICS2204-S	176
	キリスト教特講ゼミⅢ	2	3	前期1	前期1			ICS2305-S	177
	キリスト教特講ゼミⅣ	2	3	後期1	後期1			ICS2306-S	177
	キリスト教特講ゼミⅤ	2	4	前期1	2021			ICS2401-S	178
	キリスト教特講ゼミⅥ	2	4	後期1	2021			ICS2402-S	178
	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	**ｷｬﾘｱ(心理)**	後期1			ICP2101-S	179
	卒業演習プレゼミナール	1	3	後期1	後期1			ICP2301-S	180
	卒業演習Ⅰ	2	3	後期1	後期1			IAD2305-S	180
	卒業演習Ⅱ	2	4	前期1	2021			IAD2401-S	181
	卒業演習Ⅲ	2	4	後期1	2021			IAD2402-S	182
	卒業論文	4	4	通年1	2021			IAD2403-S	183
総合人間学実践科目群	海外研修　→海外研修A（アジア）海外研修B（欧米）	2	1・2・3・4	集中	**国際**			―	―
	食といのちと環境Ⅰ	2	2・3	前期1	前期1			ICS2205-L	184
	食といのちと環境Ⅱ	2	2・3	後期1	後期1			ICS2206-L	185
	ボランティア実習	2	2	休講	休講			ICD2201-T	―
	介護技術演習	1	2	閉講	×			―	―
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2・3	後期1	後期1			ISW2203-S	186
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	3・4	前期1	前期1			ISW2303-S	186
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	3・4	前期1	前期1			ISW2304-S	187
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	1	3・4	後期1	後期1			ISW2305-S	188
	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	2	4	前期1	2021			ISW2403-S	189
	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	2	4	後期1	2021			ISW2404-S	190
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	3	後期1	後期1			ISW2306-S	190
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4	前期1	2021			ISW2405-S	191
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	4	前期1	2021			ISW2406-S	192
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	4	3・4	前期1	前期1			ISW2307-T	193
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	通年1	2021			ISW2407-T	194
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	4	3・4	通年1	通年1			ISW2308-T	194
	精神保健福祉現場実習	3	4	閉講	×			―	―
	精神保健福祉実習	4	4	前期1	2021			ISW2408-T	195
	インターンシップゼミ	2	3	前期1	前期1			ISW2309-S	196
	インターンシップⅠ	1	3	前期1	前期1			ICD2301-T	197
	インターンシップⅡ	1	3	前期1	前期1			ICD2302-T	197
	インターンシップⅢ	1	4	前期1	2021			ICD2401-T	198
	インターンシップⅣ	1	4	前期1	2021			ICD2402-T	199
	海外インターンシップ前ゼミ	2	3	後期1	**国際**			IAD2301-S	163
	海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ→海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟA（アジア）、海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟB（欧米）	2	3	集中	**国際**			IAD2303-T	164
	臨床心理実習前演習　（2018年度まで）　旧カリ科目	2	2	閉講	×			―	―
	→心理実習Ⅰ	2	2	後期1	後期1			ICP2205-T	199
	臨床心理実習Ⅰ　（2019年度まで）　旧カリ科目	2	3	閉講	×			―	―
	→心理実習Ⅱ	2	3	前期1	前期1			ICP2302-T	200
	臨床心理実習Ⅱ　（2019年度まで）　旧カリ科目	2	4	閉講	×			―	―
総合人間学キャリア形成科目群（キリスト教人間学系）	世界の宗教Ⅰ	2	2・3・4	2021	2021			ICS2207-L	―
	世界の宗教Ⅱ	2	2・3・4	2021	2021			ICS2208-L	―
	文化史	2	1・2・3	前期1	前期1			ICS2102-L	201
	比較文化論	2	3・4	後期1	後期1			ICS2307-L	202
	いのちのキリスト教史	2	2・3・4	休講	休講			ICS2209-L	―
	日本における死生学	2	4	前期1	2021			ICS2403-L	203
	キリスト教と死生学	2	4	後期1	2021			ICS2404-L	203
	キリスト教カウンセリング	2	3・4	後期1	後期1			ICS2308-L	204
	キリスト教の歴史Ⅰ	2	3	2021	2021			ICS2309-L	―
	キリスト教の歴史Ⅱ	2	3	後期1	後期1			ICS2310-L	205
	聖書入門Ⅰ（旧約）	2	2・3	2021	2021			ICS2210-L	―
	聖書入門Ⅱ（新約）	2	2・3	後期1	後期1			ICS2211-L	206
	旧約聖書精読	2	3・4	2021	2021			ICS2311-L	―
	新約聖書精読	2	3・4	後期1	後期1			ICS2312-L	207
	旧約聖書の人間観	2	3	後期1	後期1			ICS2313-L	207
	新約聖書の人物像	2	3	2021	2021			ICS2314-L	―

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等		科目ナンバー	掲載ページ
				2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者		
総合人間学キャリア形成科目群（キリスト教人間学系）	聖書に見るジェンダー	2	3・4	後期1	後期1			ICS2315-L	208
	スピリチュアリティーと聖書の伝統	2	3・4	休講	休講			ICS2316-L	—
	美術史	2	2・3・4	前期1	前期1			ICS2212-L	209
	キリスト教美術特講	2	2・3・4	後期1	後期1			ICS2213-L	210
	キリスト教文学特講Ⅰ→キリスト教文学特講	2	1・2	2021	2021			ICS2103-L	—
	キリスト教文学特講Ⅱ	2	2・3・4	閉講	×			—	—
	キリスト教音楽実技Ⅰ	2	1・2・3・4	通年	通年			ICS2104-P	210
	キリスト教音楽実技Ⅱ	1	2・3・4	前期1	前期1			ICS2214-P	211
	キリスト教音楽実技Ⅲ	1	2・3・4	後期1	後期1			ICS2215-P	212
	礼拝音楽と讃美歌	2	4	閉講	×			—	—
	日本の宗教Ⅰ	2	2・3	前期1	前期1			ICS2216-L	213
	日本の宗教Ⅱ	2	2・3	後期1	後期1			ICS2217-L	214
	キリスト教の信仰	2	4	前期1	2021			ICS2405-L	214
総合人間学キャリア形成科目群（福祉相談援助系）	社会福祉の歴史	2	1・2・3	閉講	×			—	—
	社会福祉入門	2	1	後期1	後期1			ISW2103-L	215
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	後期1	後期1			ISW2204-L	216
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	4	後期1	2021			ISW2409-L	216
	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	4	前期1	2021			ISW2410-L	217
	ソーシャルワーク論Ⅵ	2	4	後期1	2021			ISW2411-L	218
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	2	3・4	後期1	後期1			ISW2310-L	219
	介護概論	2	1・2	前期1	前期1			ISW2104-L	219
	高齢者福祉の諸問題	2	2	休講	コア			—	—
	高齢者福祉論	2	2	後期1	後期1			ISW2205-L	221
	障害者福祉の諸問題	2	2	前期1	コア			ISW3204-L	148
	障害者福祉論	2	2	後期1	後期1			ISW2206-L	222
	保健医療サービス	2	3	後期1	後期1			ISW2311-L	223
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2	2	前期1	前期1			ISW2207-L	224
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2	2	後期1	後期1			ISW2208-L	224
	精神障害者の生活支援システム	2	2	後期1	後期1			ISW2209-L	225
	SST	2	2・3・4	休講	休講			ISW2210-S	—
	権利擁護と成年後見制度	2	1・2	後期1	後期1			ISW2105-L	226
	公的扶助論	2	3	後期1	後期1			ISW2211-L	227
	就労支援サービス	2	3	後期1	後期1			ISW2312-L	227
	更生保護制度論	2	2	後期1	後期1			ISW2212-L	228
	医学一般→人体の構造と機能及び疾病	2	2	前期1	前期1			ISW2213-L	229
	精神保健	2	1・2・3・4	後期1	後期1			ISW2106-L	230
	精神医学→精神疾患とその治療	2	2・3・4	後期1	後期1			ISW2214-L	231
	ターミナルケアとグリーフワーク	2	2・3・4	コア	後期1			ISW2215-L	148
	聴覚障害者のコミュニケーション	2	1・2・3・4	後期1	後期1			ISW2107-L	232
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前期1	演習			ISW2101-S	170
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後期1	演習			ISW2102-S	171
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2・3	前期1	演習			ISW2202-S	172
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	前期1	演習			ISW2301-S	173
	キャリアアップゼミ→ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	後期1	演習			ISW2402-S	175
	社会福祉特講A	2	4	後期1	2021			ISW2412-L	233
	社会福祉特講B	2	4	後期1	2021			ISW2413-L	234
総合人間学キャリア形成科目群（地域福祉開発系）	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	前期1	国際			IAD2203-L	163
	ボランティア・市民活動論	2	2・3	コア	前期1			ICD2202-L	152
	社会保障論Ⅰ	2	2	前期1	コア			ICD3203-L	151
	社会保障論Ⅱ	2	2	後期1	後期1			ICD2203-L	234
	地域支援技法Ⅰ	2	3・4	前期1	前期1			ICD2303-L	235
	地域支援技法Ⅱ	2	3・4	後期1	後期1			ICD2304-L	236
	福祉行財政と福祉計画	2	3	集中	集中			ICD2305-L	237
	福祉サービスの組織と経営	2	3	後期1	後期1			ICD2306-L	238
	社会福祉調査	2	3・4	後期1	後期1			ICD2307-L	238
	福祉実践調査	2	3・4	休講	休講			ICD2308-L	—
	地域開発総論	2	4	前期1	2021			ICD2403-L	239
	社会福祉特講C	2	3	後期1	後期1			ICD2309-L	240
総合人間学キャリア形成科目群（子ども支援系）	保育原理と保育士の専門性	2	2	前期1	前期1			ICF2201-L	241
	児童福祉論	2	2	後期1	後期1			ICF2202-L	242
	レクリエーションとグループリーダー	2	2	後期1	後期1			ICF2203-S	243
	発達障害の理解	2	2	閉講	×			—	—
	障害者・障害児心理学	2	2	後期1	後期1			ICF2204-L	243
	家族福祉論	1	3	閉講	×			—	—
	家族心理学	2	2・3・4	前期1	前期1			ICF2205-L	245
	子どもと教育	2	3	前期1	前期1			ICF2301-L	246
	子どもと家族の国際問題と支援	2	3	後期1	後期1			ICF2302-L	246
	子どものプレイセラピー　（2019まで開講）　旧カリ科目	2	3・4	閉講	×			—	—
	プレイセラピーの理論と実際　新カリ科目	1	3・4	2021	2021			ICF2303-L	—
	子どものグリーフワーク　（2019まで開講、2021年より奇数年隔年）	1	3・4	2021	2021			ICF2304-L	—
	虐待への対応　（2019まで開講）　旧カリ科目	1	3	閉講	×			—	—
	教育カウンセリング→教育・学校心理学	2	2・3・4	前期1	前期1			ICF2206-L	247
	家族療法	2	2・3・4	休講	休講			ICF2207-L	—
	小児と高齢者の栄養	2	2・3・4	前期1	前期1			ICF2208-L	248
	子ども支援キャリアデザイン	2	1・2・3	前期1	前期1			ICF2101-S	249
	野外活動とキャンプ→野外活動とキャンピング	2	1・2・3・4	前期1	前期1			ICF2102-P	249
	保育士特講Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1	前期1			ICF2103-L	251
	保育士特講Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1	後期1			ICF2104-L	252

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等		科目ナンバー	掲載ページ
				2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者		
総合人間学キャリア形成科目群（臨床心理系）	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	後期1	**演習**			ICP2101-S	179
	臨床心理学概説　→心理学的支援法	2	1	前期1	前期1			ICP2102-L	252
	臨床心理の倫理（2018年度まで）　旧カリ科目	2	2・3・4	閉講	×			―	―
	公認心理師の職責　　新カリ科目	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2206-L	254
	心理療法演習	2	2・3・4	後期1	後期1			ICP2207-S	254
	青年心理学	2	1・2・3・4	前期1	前期1			ICP2103-L	255
	心理学研究法Ⅰ（統計基礎）→心理学統計法	2	1	後期1	後期1			ICP2104-L	256
	心理学研究法Ⅱ（質的研究）→質的研究法	2	2・3・4	後期1	後期1			ICP2208-L	257
	心理学研究法Ⅲ（データ解析）→心理学研究法Ⅰ（データ解析）	2	2	前期1	**コア**			ICP3203-L	157
	質問紙調査法実習　→質問紙調査法	2	3	前期1	前期1			ICP2303-S	258
	人間行動観察実習→心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）	2	3・4	前期1	前期1			ICP2304-S	259
	心理検査技法Ⅰ→心理的アセスメント	2	2・3・4	前期1	**コア**			ICP3204-L	158
	心理検査技法Ⅱ　→心理検査技法演習	2	2・3・4	後期1	後期1			ICP2209-S	260
	学習心理学→学習・言語心理学	2	2・3・4	後期1	後期1			ICP2210-L	261
	認知心理学→知覚・認知心理学	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2211-L	261
	生理心理学	2	2・3・4	集中	集中			ICP2212-L	262
	神経心理学→神経・生理心理学	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2213-L	262
	カウンセリングの理論→臨床心理学概論	2	1・2	前期1	前期1			ICP2105-L	263
	絵画療法	1	2・3・4	閉講	×			―	―
	箱庭・コラージュ療法	1	2・3・4	閉講	×			―	―
	自律訓練法	1	1・2・3	休講	休講			ICP2106-L	―
	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	前期1	前期1			ICP2214-L	264
	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	後期1	後期1			ICP2215-S	265
	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	前期1	前期1			ICP2216-S	266
	サイコドラマⅢ演習	1	2・3・4	前期1	前期1			ICP2217-S	267
	人格心理学→感情・人格心理学	2	2・3・4	後期1	後期1			ICP2218-S	267
	交流分析	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2219-L	268
	社会心理学　→社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	集中	集中			ICP2220-L	269
	産業組織心理学→産業・組織心理学	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2221-L	270
	精神分析学	2	2・3・4	後期1	後期1			ICP2222-L	271
	ストレス学　（2018年度まで）　旧カリ科目	2	2・3・4	閉講	×			―	―
	健康・医療心理学　　新カリ科目	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2223-L	272
	福祉心理学	2	3・4	後期1	後期1			ICP2305-L	273
	犯罪心理学→司法・犯罪心理学	2	2・3・4	集中	集中			ICP2224-L	274
	関係行政論	2	2	後期1	後期1			ICP2225-L	275
	心理演習　　新カリ科目	2	2	後期1	後期1			ICP2226-L	276
	臨床心理特講A（大学院進学支援講座）	2	2・3・4	前期1	前期1			ICP2227-L	277

専門科目まとめ
・〈2〉総合人間学コア科目群から8単位以上を選択必修とする。
・〈3〉総合人間学キリスト教といのち科目群から4単位以上を選択必修とする。
・〈4〉総合人間学総合演習科目群の「キャリアデザイン基礎」「キャリアデザイン実践」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」より
　1科目2単位選択必修（2018年度入学者より）
以上の選択必修を含めて、72単位以上を取得すること。

卒業要件
教養科目から必修、選択必修を含めて30単位以上
専門科目から選択必修を含めて72単位以上
以上を含めて124単位以上を取得することが必要

総合人間学

科目ナンバー	GFR1101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
原島　博、谷口　俊一郎、ジャン・プレゲンズ、上村　敏文、髙山　由美子、金子　和夫、加藤　純、田副　真美	

[到達目標]
（1）人間とは何か、人間の尊厳とは何かを多面的に考察し理解することができる。
（2）地域、日本、世界を構成する私たちはどのような社会づくりをめざすべきなのか。それを学際的に考察し理解することができる。
（3）大学の理念、5つのコースの内容、アプローチ、連携のシステムを理解し、自らの職業選択などに活かすことができる。

[履修の条件]
総合人間学部の必修科目であり、新入生は入学初年度に必ず受講すること。

[講義概要]
人間を魂とこころと生活、家族や地域社会と関わる存在として総合的に理解し、対人援助に関わる高度専門職業人としての基礎を培う。そのために、キリスト教の人間理解と世界への洞察を軸として、人間存在を包括的・総合的に理解する。特に、「いのち」を巡る諸問題を探求する力と人間の存在を重んじる心を涵養し、他者との関係性に生きること、その倫理について学ぶ。さらに、総合人間学としての学びを具体的なキャリアに結びつけながら、学びをふかめていく。

■授業計画
第1回　総合人間学とは
第2回　キリスト教における人間理解
第3回　地域と人間
第4回　福祉と人間
第5回　子ども・家族と人間
第6回　こころと人間
第7回　言語習得とコミュニケーション
第8回　宇宙より重くかけがえのない存在であるヒト
第9回　生命の誕生
第10回　人の始まりと進化
第11回　いのちの科学
第12回　いのちの意義
第13回　がんの予防
第14回　総合人間学をふりかえって
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
「その他の評価方法」とは、毎回提出するリアクションペーパーの内容や、授業時における質疑応答などの内容により評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定テキストの各単元の要約と重要語句について、また、毎回配布される講義資料により予習・復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として次回の講義内容において行う。また、授業内での質問等はその都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、3.総合的・実践的な学習能力、4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。宗教、生活、子ども、こころ、いのち、言語、文化など学際的に人間理解を進めることにより、人間を包括的にとらえることができる価値・知識・技術を身につける。

[テキスト]
10代からのいのち学-あるがん研究者のつぶやき（谷口俊一郎）
オフィスエム出版社　定価1404円
それぞれの講義では、テーマに合わせた配布資料がある。

[参考文献]
必要に応じて、講義の時に紹介する。

聖書を読む

科目ナンバー	GCH1101-S
2単位：後期1コマ	1年　必修
河田　優	

[到達目標]
キリスト教精神に基づく本学において、これからの対人援助の専門的な学びのためにまず「聖書を読む」。聖書を広く、深く読み進める中で、聖書がなぜ長い歴史の中で多くの人々の心を動かし、愛と奉仕の生き方に向かわせたかを学ぶ。また聖書を題材にして、自分の意見をまとめ、相手に伝える力を養う。

[履修の条件]
必修科目。いずれのコースを希望する者も必ず履修すること。

[講義概要]
旧約・新約聖書全体についての基礎的なオリエンテーションの後、聖書を読み進め、人間や世界についての理解と思索を深める。講義形式ばかりではなく、時にグループになり意見を交し合い、学びを深める。またワークシートを用いて調べ学習なども行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　一人で読む、グループで読む、自然の中で読む、礼拝で読むなど、それぞれの聖書の読み方について
第2回　聖書基礎知識　聖書の成立から現代にいたるまで世界中で読まれる聖書
第3回　旧約聖書
創世記①　聖書を繰り返し読み黙想する。創造物語

からそこに記されている疑問点をあげる。
第4回　旧約聖書
創世記②　創造物語から与えられた疑問点をテーマとし、図書館で文献を調べる。
第5回　旧約聖書
創世記③　小レポートの書き方について学び、創造物語から小レポートを作成する。
第6回　旧約聖書
この時代に生きる私たちの視点で旧約聖書の名言を読む
第7回　聖書物語を著す絵本や漫画、インターネット上の動画などから作者の信仰を探る
第8回　新約聖書
福音書①　イエス・キリストの降誕と新しい約束について
第9回　新約聖書
福音書②　山上の説教をもとにイエス・キリストの教えを考える。
第10回　新約聖書
福音書③　イエス・キリストの受難への道（ワークシート）
第11回　新約聖書
福音書④　イエス・キリストの十字架と復活（ワークシート）
第12回　新約聖書
この時代に生きる私たちの視点で新約聖書の名言を読む。
第13回　映像や音楽から読む聖書
視覚や聴覚による聖書を楽しむ。
第14回　礼拝で読まれる聖書
聖書と黙想の体験をする。
第15回　発表
イエスのたとえ話を解釈し、今日的意味についてまとめる。

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
発言など授業での積極的な取り組み
ワークシートなどの宿題。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
次回の授業として予告される聖書個所をあらかじめ読んでおく。聖書にある語句などを予め調べておく。指定された図書、聖書個所、礼拝に出席してのレポートなど与えられた課題への取り組み。
各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業で提出したリアクションペーパーについては、次回の授業でフィードバックを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
本学ディプロマポリシーの「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書を読むことにより、キリスト教の愛と命について深く学ぶ。また意見交換を行い、その学びを深める。

［ テキスト ］
聖書（日本聖書協会　新共同訳が望ましい）

［ 参考文献 ］
特になし。
授業で紹介。

［ 備考 ］
学内で行われる礼拝に複数回出席し、礼拝の感想や聖書から語られるメッセージの要約を課題として実施します。

キリスト教概論 I

科目ナンバー	GCH1102-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
河田　優	

［ 到達目標 ］
①「キリストの心を心とする」という建学の精神に基づいて教育を進める本学において、コースに分かれて専門的な学びを始める前に、キリスト教の基本を理解する。
②歴史や芸術など様々な面からキリスト教を学び、私たちの生活に根付いているキリスト教についての知識を深める。

［ 履修の条件 ］
必修。特に条件はなし。キリスト教に関心を持って授業に臨むことを期待します。

［ 講義概要 ］
毎時間の授業は、授業ごとにテーマを定め、概論として聖書をはじめて読む学生にもわかりやすくキリスト教を紹介していくことになります。
時には、ビデオなどの視聴覚教材を用いながら、より理解を深めていきます。またキリスト教に関する働きに従事する特別講師による講義もあります。
随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めていきます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
ミッションスクールとしてのルーテル学院 I
本学の建学の精神とミッションステートメントについて学ぶ
第2回　ミッションスクールとしてのルーテル学院 II
ルーテル学院の礼拝、宗教活動について学ぶ
第3回　身近にある様々な教会とカルト
地域のキリスト教会を紹介し、それぞれの特徴を知る。
第4回　社会に生きるキリスト者
信仰者として社会奉仕をされている方の講演を聞く。
第5回　聖書の紹介 I
成立から私たちの手元に届くまで

第6回　聖書の紹介Ⅱ
　　旧約、新約聖書の構成
第7回　聖書の紹介Ⅲ
　　旧約聖書からよく知られている聖書物語
第8回　キリスト教の歴史Ⅰ
　　使徒たちから始まる教会
第9回　キリスト教の歴史Ⅱ
　　ルターの宗教改革
第10回　キリスト教の歴史Ⅲ
　　近代から現代までの教会
第11回　日本とキリスト教
　　キリスト教伝来から現代の教会
第12回　キリスト教から現代を考えるⅠ
　　聖書から見るわたしたちのいのちと性
第13回　キリスト教から現代を考えるⅡ
　　キリスト教の暦とわたしたちの生活　クリスマスや結婚式
第14回　キリスト教と芸術
　　キリスト教絵画や音楽の紹介
第15回　試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(10%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
発言など授業での積極的な取り組み

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに次回の授業内容テーマを予告するので、指定された聖書個所、関連の図書などをあらかじめ読む。復習としては、授業内容と関連した事柄を調べ、毎回ノートにまとめる。各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業後に提出されたリアクションペーパーは、次回の授業にフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学ディプロマポリシーの「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書をテキストに「神が愛しておられるいのち」について学び、互いのいのちの尊厳のために仕え合う人間性を養っていく。

[テキスト]
旧新約聖書(新共同訳を用いますが、口語訳・新改訳聖書でも可)

[参考文献]
土井かおる著　よくわかるキリスト教(ＰＨＰ研究所)1,350円
富田正樹著　キリスト教資料集(日本キリスト教団出版局)1,000円

[備考]
授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
礼拝や聖書についての学びのためにも、学校の礼拝や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。

キリスト教概論Ⅱ

科目ナンバー	GCH2101-L
2単位：後期1コマ	1年
河田　優	

[到達目標]
①聖書から特にイエス・キリストの生涯を学び、罪ある人間を救おうとされる神の愛とその働きについて理解します。
②現代社会のさまざまな問題を、キリスト教的な考え方からも捉えていくことができる程の基礎的学力を得ます。
③福祉やカウンセリング、地域社会や子供などの専門分野での学びにどのようにキリスト教の教えが関わっているかを学び、専門的な学びの土台とします。

[履修の条件]
キリスト教概論Ⅰを履修済みであることが望ましい。また、キリスト教に関心を持って積極的な発言を期待します。

[講義概要]
毎時間の授業は、聖書から学ぶことが中心です。聖書をはじめて読む学生にもわかりやすく聖書の言葉を解説します。時には、ビデオなどの視聴覚教材、さらにワークシートなどを用いながら、より理解を深めます。
キリスト教活動に関わる特別講師を招き、講義をすることがあります。
随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　日本人の宗教観とキリスト教について
第2回　神の存在と人の存在
　　神とは何か、人とは何かを考える
第3回　神の創造と人間の罪
　　旧約聖書の創世記から神と人との関わりを考える
第4回　救いへの招き
　　律法と預言を通して示された神の救い
第5回　イエス・キリストの生涯Ⅰ
　　クリスマスの出来事を中心に学ぶ
第6回　イエス・キリストの生涯Ⅱ
　　イエスの奇跡をどのように受け止めればよいか
第7回　イエス・キリストの生涯Ⅲ
　　エルサレムへ向かう受難の道から救い主としてのイエスを考える
第8回　イエス・キリストの生涯Ⅳ
　　キリスト教の中心と言える十字架と復活について深く学ぶ
第9回　イエス・キリストの教え
　　山上の説教を取り上げ、現代にも生きている御言葉と出会う
第10回　イエス・キリストの教えⅡ
　　イエスの語るさまざまなたとえ話について考える
第11回　教会の暦と私たちの生活

私たちの生活と関わるキリスト教について
第12回　愛と奉仕に生きたマザーテレサとその信仰を受け継ぐ者について
第13回　現代における命と平和の問題について
第14回　まとめ
キリスト教を土台としたミッションスクールで学び、遣わされていく私たち
第15回　試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(10%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
発言などによる授業への積極的な取り組み。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに次回の授業内容テーマを予告、その授業内容に関連の本などを予め読む。また授業内容についてノートを作成する。各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
時に授業でリアクションペーパーを提出する。そのフィードバックは次回の授業においてなされる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学のディプロマポリシーである「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。特にキリスト教の中心であるイエスの言葉とその生涯を学ぶ中で、隣人への愛について深く学ぶ。

[テキスト]
旧新約聖書(新共同訳を用いますが、口語訳・新改訳聖書でも可)

[参考文献]
土井かおる著　よくわかるキリスト教(ＰＨＰ研究所)1,350円
富田正樹著　キリスト教資料集(日本キリスト教団出版局)1,000円

[備考]
授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
礼拝や聖書についての学びのためにも、学校や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。礼拝出席の感想を課題とする場合があります。

社会福祉原論Ⅰ

科目ナンバー	GSS1101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
市川　一宏	

[到達目標]
「さまざまな条件のもとにある一人ひとりの人間のいのちと価値を尊び、他者を理解し支え、共に生きることを学ぶ」ことを目的とする。そのため、社会福祉原論は、ソーシャルワーカーを目指して学習する起点となる講義で、基礎知識と基礎的援助技術の習得を目標とし、以下の視点で講義を行う。
①社会福祉そのものの基盤となる理念を学ぶ。②社会福祉の展開過程を学ぶ、③最低生活保障である生活保護制度について学ぶ
④歴史や先駆者の働きを通して、今日の社会福祉のあるべき姿を模索する。
⑤制度体系を学習する。

[履修の条件]
卒業に必要な科目である。また「社会福祉援助技術現場実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績以上で単位取得しなければならない。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

[講義概要]
社会福祉を学んでいく導入として、社会福祉の思想、理論、実践を考察し、社会福祉に関わる基礎知識を習得することを目指す。具体的には、授業計画に沿って学習を進めていくが、以下の講義だけでなく、事例、視聴覚教材を用い、議論しながら学んでいくことを重視する。

■授業計画
第1回　<オリエンテーション「今日の社会福祉問題と社会福祉の特徴」>
家庭崩壊、孤立、貧困、介護、子育て等の社会福祉問題を示し、施設収容・貧困対策中心から在宅福祉、予防重視、利用者の個別性重視へと転換した社会福祉を学習する。
第2回　<社会福祉の先人から福祉の源流を学ぶ(1)石井十次>
児童養護の父と言われた石井の足跡をたどり、現在でも示唆を与える小規模養護、教育重視の意味を考える。
第3回　<社会福祉の先人から福祉の源流を学ぶ(2)糸賀一雄>
知的障害者の父と言われた糸賀の『福祉の思想』(NHKブックス)を題材に、発達保障と存在保障を守り続けた糸賀の思想を検証する。
第4回　<社会福祉の理念と構成>
福祉の理念「ノーマリゼーション」・「参加と平等」の考え方と実際の施策について学ぶ
第5回　<社会福祉の歴史「イギリスの歴史から学ぶ(1)」>
1601年エリザベス救貧法、1834年改正救貧法による厳しい救貧政策の展開を学ぶ。
第6回　<社会福祉の歴史「イギリスの歴史から何を学ぶか(2)」>
ビクトリア時代、社会改良期、そして第2次世界大戦にいたる時期を焦点に、ＣＯＳ.セツルメント運動、ブースやラウントリーの貧困調査を踏まえ、社会福祉の源流を学ぶ。
第7回　<社会福祉の歴史「イギリスの歴史から学ぶ(3)」>
ベバリッジ等による福祉国家、シーボームによる福祉改革、そして今日における福祉施策の展開を学ぶ。
第8回　<社会福祉の歴史「日本の社会福祉の展開(1)」>

恤救規則、救護法という救貧制度を中心に、明治期から第2次世界大戦までの制度を学ぶ。

第9回　＜社会福祉の歴史「日本の社会福祉の展開（2）」＞
第2次世界大戦後の生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法、昭和30年代の精神薄弱者福祉法、老人福祉法、母子福祉法という福祉六法時代の社会福祉を学ぶ。

第10回　＜社会福祉の歴史「日本の社会福祉の展開（3）」＞
高度経済成長を経て、入所施設中心から在宅福祉へ、救貧制度から社会福祉制度へと転換する社会福祉を学び、今日の社会福祉の意義を考える。

第11回　＜社会福祉の定義＞
これまでの講義の整理を行い、慈善事業、社会事業、社会福祉等の言葉の整理を行うとともに、社会福祉の根拠法を示し、組織・法体系を学ぶ。

第12回　＜貧困問題の所在＞
児童の貧困、高齢者の貧困、そして派遣労働者等の労働者の貧困と、貧困問題は拡大している。その現状と問題点を考察する。

第13回　＜生活保護の仕組みと現状＞
生活保護制度の原理と運用の原則を軸に、扶助、福祉事務所の体制、施設等、生活保護制度の仕組みを学ぶ。

第14回　＜生活保護の課題と生活困窮者自立支援＞
現在の生活保護が直面する課題を明らかにしつつ、新たに発足した生活困窮者自立支援制度の意義と今後の課題について学ぶ。

第15回　試験

［成績評価］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（30％）

［成績評価（備考）］
・期末試験の評価を中心に成績70％
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する評価30％
・なお、出席については、4分の3以上を求める。
成績は、原則として、秀、優、良とし、その基準に達しない場合には、単位を取得できない。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
前期試験に関しては、後期授業の開始時にコメントを行う。課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性と心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること3. 総合的・実践的な学習能力、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること

［テキスト］
山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房、随時レジメを配布し、講義を補強します。

［参考文献］
厚生の指標『社会福祉と介護の動向』

社会福祉原論 II

科目ナンバー	GSS2101-L
2単位：後期1コマ	1年
市川　一宏	

［到達目標］
「心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること」を目的とする。社会福祉原論は、ソーシャルワーカーを目指して学習する起点となる講義で、基礎知識と基礎的援助技術の習得を目標とし、以下の視点で講義を行う。
①高齢者、児童、障害者等の生活問題を理解する。
②高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉等の各分野の社会福祉制度の現状と課題を理解する。
③各分野に共通する地域福祉の現状について理解する。
④社会福祉士等の専門職、児童相談所等の専門機関、専門的援助の知識および実践を理解する。

［履修の条件］
社会福祉士受験資格を取得する学生は、本科目を一定の成績以上で単位取得しなければならない。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

［講義概要］
社会福祉問題に関する客観的な分析を行い、社会福祉制度・政策等の体系的理解を目指す。今日の社会福祉は、経済的貧困とともに、高齢者や障害者の介護、自立生活を妨げるバリアーの問題、児童を養育する家庭基盤が揺らぎと子育ての難しさ、地域における孤立等、多様かつ広範な問題に取り組んでいる。また、その推進者であるソーシャルワーカーは、生活困窮者支援、孤立した住民への支援、高齢者ケア、障害者の自立支援、養護を必要とする子どもの生活・学習支援、医療現場における生活支援等、さまざまな役割を担っている。それらの実践を通して、具体的な役割を検証する。
なお、本講義では、受講生が問題を認識し、福祉制度の考え方やサービスの意味を理解できるよう、事例や調査結果を活用し、互いの学びを深める。

■授業計画

第1回　＜社会福祉制度体系と近年の動向＞
社会福祉法および児童福祉法、老人福祉法等の福祉関係法を踏まえ、近年の社会福祉の動向を考察する。

第2回　＜児童福祉問題の所在＞
家庭では養育できない養護児童、両親の就労等による保育を要する児童、被虐待児童、非行児童が直面する様々な生活課題と、児童が成長するために必要な支援について検討する。

第3回　＜児童福祉の制度体系と運営＞
児童福祉法、児童虐待防止法の基本的内容を学び、社会的養護の考え方、保育対策について検討する。その際、児童相談所、福祉事務所、家庭裁判所等の役割について、検討する。また、非行児童を生み出す要因、犯罪の再犯をもたらす要因を明確にし、児童福祉法、少年法、刑法、犯罪者予防更正法による基本的な自立支援システムを学習する。

第4回　＜高齢者福祉問題の所在＞
人口の高齢化と少子化による社会の影響、高齢者の孤立、高齢者世帯の小規模化、認知症高齢者等の要介護高齢者の増加、高齢者の経済的問題等を提示し、高齢者福祉の役割を検討する前提を明確にする。

第5回　＜高齢者福祉の体系と運営＞
介護保険を含む高齢者福祉制度を検討するとともに、高齢者の生活を支える住宅保障、バリアフリー施策、保健医療等のサービスの現状と課題を提起する。

第6回　＜障害者（身体障害児者・知的障害児者・精神障害者）問題の所在＞
障害の定義と障害者が直面する様々な生活課題を検証するとともに、障害者福祉制度が取り組む障害者の課題を明確化する。

第7回　＜障害者福祉の体系と運営＞
児童福祉法による障害児福祉制度、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者総合支援法等の基本的内容について学習する。

第8回　＜家族の意味を問う＞
社会福祉は、家族がどのように関わるか、または家族をどのように支援し、家族の代わりにどのように当事者を支援してきたか、家族の意味を問いながら、検討する。

第9回　＜母子・父子福祉問題の所在と福祉の運営＞
離婚の増加にともない、増加する母子・父子世帯が直面する生活課題を検証し、母子・父子福祉制度について学習する。

第10回　＜医療福祉問題の所在と医療福祉・医療ソーシャルワーカーの役割＞
疾病や障害をもち、保健医療との関わりが強調されている今日、医療、病院等の保健医療の場において、社会福祉の立場から患者のかかえる経済的、心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る医療ソーシャルワーカーの果たす役割に対する期待が増加しており、専門職の役割を学習する。

第11回　＜地域福祉問題の所在＞
住民間の関わりの減少と家族の小規模化、住民のニーズの多様化に伴い、孤立、自殺、虐待が顕著に増加している。

第12回　＜地域福祉システムの現状と課題１＞
地域福祉の推進者・機関である社会福祉協議会・NPO 法人・ボランティア、民生委員等の役割を検討するとともに、行政、社会福祉法人や社会福祉協議会等の民間非営利組織、住民、専門職との協働のあり方について学習する。

第13回　＜地域福祉システムの現状と課題２＞
地域福祉の推進者・機関である社会福祉協議会・NPO 法人・ボランティア、民生委員等の役割を検討するとともに、行政、社会福祉法人や社会福祉協議会等の民間非営利組織、住民、専門職との協働のあり方について学習する。

第14回　＜社会福祉の援助技術と専門従事者＞
社会福祉制度が対応する生活課題は、複雑化、多様化、深刻化しており、それらの解決を援助する専門職の専門性が求められている。ソーシャルワークの専門性を考察し、社会福祉士等に求められる役割を学習する。

第15回　試験

［ 成績評価 ］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（30％）

［ 成績評価（備考） ］
・期末試験の評価を中心に成績70％
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する評価30％
・なお、出席については、４分の３以上を求める。
・成績は、原則として、秀、優、良とし、その基準に達しない場合には、単位を取得できない。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性と心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること3. 総合的・実践的な学習能力
ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること

［ テキスト ］
山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房、随

時レジメを配布し、講義を補強します。

[参考文献]
厚生の指標『社会福祉と介護の動向』

[備考]
毎回、レジメと教科書を持参のこと

心理学

科目ナンバー	GHU1101-L
2単位：前期1コマ	1〜2年　必修
松田　崇志	

[到達目標]
本講義では，心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また，日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について，授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

[履修の条件]
特になし
※後期の「心理学概論」と連続した内容である。

[講義概要]
心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。前期の心理学では，「錯視はなぜ起きるのか?」「どうしたら効率的に記憶できるのか?」といった人間の情報処理についての内容や，「どのように経験によって行動を変容させていくのか?」「人は生涯にわたりどのように発達していくのか?」といった学習と発達についての内容を中心に，心理学を広く概観していく。
各授業の中では，それぞれのテーマについて概説するとともに，簡単な実験や調査を入れながら，心理学の知見を確認する。
授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション，講義の進め方，心とは?
第2回　心理学とは何か?
第3回　知覚①：視知覚
第4回　知覚②：注意の仕組み
第5回　記憶①：記憶の仕組み
第6回　記憶②：記憶術
第7回　記憶③：日常生活における記憶
第8回　言語と思考
第9回　小テスト
第10回　学習①：条件付け
第11回　学習②：運動学習，観察学習
第12回　感情と動機づけ
第13回　発達①：乳幼児・児童・青年
第14回　発達②：成人・老年
第15回　試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
小テストと最終試験に加え，毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業後に配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで，他者理解が深まり，より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
①内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学(第16版)」　金剛出版　2015年　(本体価格：22,000円+税)
②無藤隆他「心理学(New Liberal Arts Selection)」　有斐閣　2004年　(本体価格：3,700円+税)
③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門–人の心を知る科学(有斐閣ストゥディア)」　有斐閣　2015年(本体価格：1,800円+税)
④青木紀久代・神宮英夫　「カラー版　徹底図解　心理学」新星出版社　2008年　(本体価格：1,500円+税)

[備考]
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。

心理学概論

科目ナンバー	GHU2101-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
松田　崇志	

[到達目標]
本講義では，心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また，日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について，授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

[履修の条件]
特になし。
※前期の「心理学」と連続した内容である。

[講義概要]
心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。本講義では，「心理学の成り立ち」について，心理学の歴史と応用について紹介する。また，「人の心の基本的な仕組み及び働き」につい

て，生物学的基礎，知能，パーソナリティ，社会，臨床の各領域の知見や理論について広く概観していく。
各授業の中では，それぞれのテーマについて概説するとともに，簡単な実験や調査を入れながら，心理学の知見を確認する。
授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション，講義の進め方，授業に使用する参考文献の紹介
第2回　心理学の成り立ち
第3回　心の生物学的基盤：脳の構造と機能，自律神経系・内分泌系，遺伝
第4回　知能：知能の理論，知能検査
第5回　パーソナリティ：パーソナリティの理論，パーソナリティの発達
第6回　社会①：対人関係：印象形成，対人魅力
第7回　社会②：社会的認知：原因帰属，ステレオタイプ，対人認知
第8回　社会③：集団：他者の存在，同調，服従
第9回　小テスト
第10回　臨床①：心の健康と不適応
第11回　臨床②：精神障害
第12回　臨床③：心理アセスメント
第13回　臨床④：心理療法
第14回　心理学の展開
第15回　試験

［ 成績評価 ］
試験（55％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（15％）

［ 成績評価（備考） ］
小テストと最終試験に加え，毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業後に，配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで，他者理解が深まり，より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

［ テキスト ］
特になし

［ 参考文献 ］
①内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学（第16版）」　金剛出版　2015年　（本体価格：22,000円+税）
②無藤隆他「心理学（New Liberal Arts Selection）」　有斐閣　2004年　（本体価格：3,700円+税）
③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門--人の心を知る科学（有斐閣ストゥディア）」　有斐閣　2015年（本体価格：1,800円+税）
④青木紀久代・神宮英夫　「カラー版　徹底図解　心理学」新星出版社　2008年　（本体価格：1,500円+税）

［ 備考 ］
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。

現代生命科学 I

科目ナンバー	GNI2110-L
2単位：前期1コマ	1〜4年
谷口　俊一郎	

［ 科目補足情報 ］
現代生命科学Ⅰは科学の歴史、背景、考え方中心、現代生命科学Ⅱは具体的に現代生命科学全般を解説する。両講義においては形而下、形而上を意識して「生命」と「いのち」を使い分ける。

［ 到達目標 ］
現代生命科学の視点と考え方「人間を地球におけるヒト生物と位置付けその生死を分子レベルから捉える」に慣れる。同時に科学の有用性と限界そして哲学や信仰との相違と相互関係を把握し、現代科学とキリスト教信仰が両立することを知る。

［ 履修の条件 ］
記憶よりも考えることに重きを置くので積極的に自分の考え、疑問点を授業後あるいは次の授業で提出すること、また前期授業終了時に課題を出すのでそれに対するレポートを必ず提出すること。

［ 講義概要 ］
最初に科学の考え方を科学史、科学哲学の側面から講義形式で解説し、キリスト教信仰との関わりなどについて議論する。現代科学の始まり、その特徴、そして現代科学が理解する、宇宙の始まり、そして生命の始まり、ヒト生物の始まりを概観する。現代科学の一つとしての生命科学の具体的成果、得られた知識を理解するための基礎的考え方に重きを置いて説明する。時に理解を深めるためのブレインストーミング形式の対話時間も設ける。

■授業計画

第1回　イントロダクションー私の生命科学との関わり
第2回　考えるということについてー質問の整理（HowとWhy）
第3回　現代科学の始まりー科学革命はキリスト教との争いだったのか?
第4回　現代科学の考え方ー数学、物理から生物学まで概観
第5回　宇宙の始まりから地球の始まり
第6回　生命の始まり
第7回　ヒトの始まりー多細胞の誕生、DNA科学からヒトの起源と謎
第8回　現代生命科学でわかることとわからないことーヒトと人

間、生命といのち
第9回　生命の基本単位である細胞の構造・機能・遺伝子（DNA）・蛋白質などについて
第10回　細胞が生きるということ、死ぬということー細胞計画死、寿命時計
第11回　がんを通してみる生命といのちーがん研究者の経験から
第12回　がんを通してみる生命といのちーがん発生の仕組み（遺伝子の傷を考える）
第13回　がんを通してみる生命といのちーがんの予防と先端的治療治療
第14回　総論ーヒト（自分）は如何に生きているか、生きるかーHow?
ヒト（自分）はなぜ生きるか、生きる意義・目的は何かーWhy?
第15回　試験レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（20%）

［成績評価（備考）］
本授業では考え方を学ぶのが目的なので授業への出席と、授業における質問や意見発表による積極的学習態度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業ごとに200分の準備学習（予習・復習）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
講義ごとに、提出される質問、意見に対しては提出された用紙に回答を記載し、あるいは次講義の中でフィードバックを行う。課題レポートに対しても同様のフィードバックを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
現代生命科学の考え方や知識、現代生命科学的視点からの人間理解におけるリテラシー、科学的理解の限界及び科学倫理の諸問題に対処する視点を得、また意見交換を行うことによって、1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を養う機会とする。

［テキスト］
10代からのいのち学ーあるがん研究者のつぶやき（谷口俊一郎）オフィスエム出版社　定価1404円

［参考文献］
自然科学とキリスト教（J.ポーキングホーン、本多峰子訳）教文館2500円+税
科学と宗教（A.E.マクグラス、稲垣久和・倉沢正則・小林高徳訳）2500円+税
池上彰が聞いてわかった生命のしくみ（岩崎博史、田口英樹）朝日新聞出版　1500円+税
現代生命科学（東京大学生命科学教科書編集委員会編）羊土社　2800円+税

現代生命科学Ⅱ

科目ナンバー	GNI2111-L
2単位：後期1コマ	1〜4年
谷口　俊一郎	

［科目補足情報］
現代生命科学Ⅰは科学の歴史、背景、考え方中心、現代生命科学Ⅱは具体的に現代生命科学全般を解説する。両講義においては形而下、形而上を意識して「生命」と「いのち」を使い分ける。

［到達目標］
現代生命科学の成果を理解し、自然、生命、人間を多面的に深く理解すると同時に科学でわかること、わからないことを明確にする。現代生命科学では把握し切れないことも同時に学び、哲学や信仰との相違や相互作用を把握し、現代科学とキリスト教信仰が両立することを知る。

［履修の条件］
記憶よりも考えること理解することに重きをおくこと、従って自分の考え、不明な点を積極的に提示すること。後期授業終了時に示す課題に対する試験レポートは必ず提出すること。

［講義概要］
現代生命科学の教科書に沿って、各項目ごとに講義形式でパワーポイントなどを用いて説明を行う。必要に応じて、現代生命科学Ⅰで触れた科学の背景・考え方・限界について説明し、哲学や信仰との相違・接点・相互作用について議論する。内容の理解を深めるために必要に応じブレインストーミング形式の対話を行う。

■授業計画
第1回　イントロダクションー現代生命科学Ⅰの概要説明と現代生命科学Ⅱの狙い説明
第2回　生命科学と現代社会の関わり
第3回　生命はどのように設計されているか
第4回　ゲノム情報はどのように発現するのか
第5回　複雑な体はどのようにしてつくられるか
第6回　脳はどこまでわかったか
第7回　がんはどのような現象か（1）−基礎生物
第8回　がんはどのような現象か（2）−予防と治療
第9回　私たちの食と健康の関係
第10回　ヒトは病原体にどのように備えるか
第11回　環境と生物はどのようにかかわるか
第12回　生命科学技術はここまで進んだ
第13回　生命倫理はどこに向かいつつあるのか
第14回　生命や生物の不思議をどのように理解するかー総論
第15回　レポートあるいは試験

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（20%）

［成績評価（備考）］
授業に対する質問、意見から積極的に学ぶ姿勢を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業ごとに200分の準備学習（予習・復習）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義毎に、自分の考え方、質問を提出する用紙あるいは課題レポートにコメントや回答を記載し、また次講義において追加説明や質問などに対するコメントを行いフィードバックとする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
現代生命科学の考え方や知識、現代生命科学的視点からの人間理解におけるリテラシー、科学的理解の限界及び科学倫理の諸問題に対処する視点を得、1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を養う機会とする。

[テキスト]
現代生命科学（東京大学生命科学教科書委員会編）　羊土社　2800円+税
10代からのいのち学ーあるがん研究者のつぶやき（谷口俊一郎）オフィスエム出版社　1404円

[参考文献]
自然科学とキリスト教（J.ポーキングホーン、本多峰子訳）教文館　2500円+税
科学と宗教（A.E.マクグラス、稲垣久和・倉沢正則・小林高徳訳）2500円+税
池上彰が聞いてわかった生命のしくみ（岩崎博史、田口英樹）朝日新聞出版　1500円+税

スポーツと健康（体育実技を含む）A

科目ナンバー	GPE2101-P
2単位：前期1コマ	1〜2年
仲宗根　森敦	

[到達目標]
生涯にわたり健康で豊かな生活をおくるためには、日常的な運動・スポーツの実践が重要であり、自身の体調を管理する方法や栄養学的な知識の習得が必要不可欠である。この講義では、生活習慣病の予防、運動を介した体調管理、日常的に運動に親しむような態度や知識を獲得することを目的とする。

[履修の条件]
履修の条件
①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
②他者とのコミュニケーションをとることができること
③実技が可能であること
④実技は男女一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

[講義概要]
健康で豊かな日常生活を過ごすためには運動に対する理論的な知識や技術、態度といったものが不可欠になります。そのような運動に対する知識を学び、簡単な運動を行うことで自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学んで行きます。

■授業計画
第1回　「ガイダンス」 授業の目的と進め方について概説する
第2回　（実技①）「体力テスト」体力テストを実施しコンディショニングを把握する
第3回　（実技②）「体つくり運動」動くことを楽しむための体つくりの運動を実践する
第4回　（実技③）「ウォーキング」脂肪燃焼を目的とした有酸素トレーニングを実践する
第5回　（実技④）「ラジオ体操」ラジオ体操を実践する
第6回　（実技⑤）「なわとび①」なわとびの実践
第7回　（実技⑥）「なわとび②」高難度のなわとびの実践
第8回　（実技⑦）「なわとび③」様々ななわとび 運動の応用の実践
第9回　（実技⑧）「球技」フットサル
第10回　（実技⑧）「球技」バスケット
第11回　（講義①）運動と栄養
第12回　（講義②）運動と心
第13回　（講義③）生活習慣病とその予防
第14回　レポート
第15回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（45%）、課題提出（25%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
講義全体の２/３以上の出席をしていること。
毎回授業の小レポートの提出をすること（1回3点×15回分）
授業で行う種目のルールに関する予習（1回5点×5）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
３総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

[テキスト]
テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

[参考文献]
なし

[備考]
第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束

事などの大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようにしてください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようにしてください
各自運動着およびランニングシューズを用意すること。
実技授業の際には、アクセサリー類や貴金属は外して臨むこと。
本授業は天候や授業理解度によって、講義内容が変更になることがあります。

スポーツと健康（体育実技を含む）B

科目ナンバー	GPE2102-P
2単位：後期1コマ	1〜2年
仲宗根　森敦	

［到達目標］
健康な生活を生涯にわたり営むには、運動の実践やスポーツ活動への参加が必要不可欠である。日常的な運動・スポーツの実践は身体に様々な適応と変化をもたらす。生活習慣病の予防や減量などのポジティブな適応や、突然死や熱中症などのネガティブな側面も有する。本講義では、運動に対する知識を学び、自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学ぶことを目的とする。本講義は座学と実技を融合して行う。

［履修の条件］
①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
②他者とのコミュニケーションをとることができること
③実技が可能であること
④実技は男女一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

［講義概要］
講義にて、運動が身体に与える生理的な適応を概説する。不活動が健康に与える影響、生活習慣病の予防における運動の役割、熱中症のメカニズムなどの知識を獲得した後に、生涯にわたり実践できるポピュラーなスポーツ・運動を実践する。その際、教場は学内および近隣の公園を最大限に活用する

■授業計画
第1回　ガイダンス、オリエンテーション（講義の進め方および実技に対する注意事項等の説明）
第2回　（実技）スポーツ実践①フットサル
第3回　（実技）スポーツ実践①フットサル
第4回　（実技）スポーツ実践②バスケット
第5回　（実技）スポーツ実践②バスケット
第6回　（実技）スポーツ実践②ティーボール
第7回　（実技）スポーツ実践③ドッチビー
第8回　（実技）スポーツ実践④ドッチボール
第9回　（実技）スポーツ実践⑤アルティメット
第10回　（実技）スポーツ実践⑥ペタンク
第11回　（実技）スポーツ実践⑦ダンス
第12回　（講義）「運動と栄養」運動後の食事の影響について
第13回　（講義）「運動との関わり」青年期・壮年期・高齢期の各時期において運動とどのように関わるべきかを理解する
第14回　まとめレポート
第15回　まとめ

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（45%）、課題提出（25%）、その他の評価方法（0%）

［成績評価（備考）］
講義全体の2／3以上の出席をしていること。
毎回授業の小レポートの提出をすること（1回4点×15回分）。
授業で行う種目のルールに関する予習（1回5点×5）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

［テキスト］
テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

［参考文献］
なし

［備考］
第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束事などの大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようにしてください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようにしてください。
各自運動着およびランニングシューズを用意すること。
実技授業の際には、アクセサリー類や貴金属は外して臨むこと。
本授業は天候や授業理解度によって、講義内容が変更になることがあります。

地球と宇宙Ⅰ

科目ナンバー	GNI2112-L
2単位：前期1コマ	1〜4年
田辺　俊彦	

［到達目標］
天文学を学ぶことにより科学的な発想法,論理的な考え方を身に

つけ,未知の問題に対処する能力を養うことを目標とする.

[履修の条件]
天文学,自然科学一般に興味を有する者.
初回の受業に出ることが必須.
続けて「地球と宇宙 II」を履修することが望ましい.

[講義概要]
現代天文学概論の講義を行う.
地球と宇宙 I では主に太陽系内天体及びそれに関連する現象をとり扱う.

■授業計画

第1回　天文学とはどのような学問か.天文学が扱う天体,現象について概説する.
第2回　電磁波の性質,天文学における観測,望遠鏡
第3回　宇宙の大きさ,宇宙の諸階層,天球座標
第4回　地球の運動,月の運動,日食,月食
第5回　暦,時間と時刻
第6回　惑星の運動
第7回　力学と万有引力の法則
第8回　スペース・ミッション,惑星の科学
第9回　惑星各論(内惑星)
第10回　惑星各論(外惑星,衛星,環)
第11回　太陽系内の小天体(小惑星,彗星,惑星間塵)
第12回　太陽系外縁天体,惑星の新しい定義,新しい太陽系の姿
第13回　太陽系の形成
第14回　巨大隕石の衝突,恐竜の絶滅
第15回　-

[成績評価]
試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする.

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う.

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する.この科目を履修することで,科学的な発想法,論理的な考え方を身につけ,未知の問題に対処する能力を養うことができる.

[テキスト]
使用しない.

[参考文献]
適宜紹介する.

地球と宇宙 II

科目ナンバー	GNI2113-L
2単位：後期1コマ	1〜4年
田辺　俊彦	

[到達目標]
天文学を学ぶことにより科学的な発想法,論理的な考え方を身につけ,未知の問題に対処する能力を養うことを目標とする.

[履修の条件]
天文学,自然科学一般に興味を有する者.
「宇宙と地球 I」を履修していることが望ましい.

[講義概要]
I に引続き現代天文学概論の講義を行う.
地球と宇宙 II では太陽系外天体を扱う.

■授業計画

第1回　輻射とスペクトル
第2回　星座と恒星,年周視差と距離,恒星の運動
第3回　恒星の明るさ,等級,恒星の色,恒星のスペクトルとスペクトル型
第4回　HR 図, HR 図と恒星の分類
第5回　連星・重星,変光星,高密度星とブラックホール
第6回　散開星団と球状星団, HR 図と星団
第7回　恒星のエネルギー, HR 図と恒星の進化,元素の起源
第8回　太陽の物理
第9回　脈動型変光星の周期・光度関係,恒星までの距離決定
第10回　星間物質,星団,星形成
第11回　我々の銀河系
第12回　銀河の分類,様々な銀河
第13回　ハッブル・ルメートルの法則,銀河団,銀河の進化
第14回　初期宇宙,宇宙の起源と進化
第15回　-

[成績評価]
試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする.

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う.

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する.この科目を履修することで,科学的な発想法,論理的な考え方を身につけ,未知の問題に対処する能力を養うことができる.

[テキスト]
使用しない.

［参考文献］
適宜紹介する.

憲法

科目ナンバー	GSS2102-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
金子　和夫	

［到達目標］
国の最高法規である日本国憲法について理解する。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験、各種公務員採用試験や教員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

［履修の条件］
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格を希望する者は、「権利擁護と成年後見制度」とあわせて履修すること。それ以外の者もそうしてほしい（「法学」履修者）。

［講義概要］
本講義は国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という基本原理を中心に、具体的事例をあげながら講義する。中でも基本的人権を中心に、その一般理論、自由権、社会権の内容について判例をあげながら紹介する。さらに、三権分立や地方自治についても講義する。

■授業計画
第1回　ガイダンス授業（法の一般理論・憲法の基本原理）
第2回　国民主権
第3回　平和主義
第4回　基本的人権の一般理論（幸福追求権）
第5回　基本的人権の一般理論Ⅱ（平等権）
第6回　自由権Ⅰ（精神的自由）
第7回　自由権Ⅱ（人身の自由）
第8回　自由権Ⅲ（経済的自由）
第9回　社会権Ⅰ（生存権）
第10回　社会権Ⅱ（生存権に関する判例）
第11回　社会権Ⅲ（教育権、勤労権、労働基本権）
第12回　三権分立（その抑制と均衡）
第13回　財政（政教分離原則、公私分離原則）
第14回　地方自治（自治体の事務、条例）
第15回　試験

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［成績評価（備考）］
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
憲法に規定される基本的人権を始めとした理念・原則・条文に関し、新聞記事やＴＶニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につける。

［テキスト］
『ポケット六法』（令和2年版）（有斐閣、2,090円、税込）
その他講義資料を配布する。

［参考文献］
憲法に関する文献は、専門的な研究書から受験参考書まで数多くあるので、自分で使いやすい文献を利用すること。
渋谷他『憲法１・２・３』<有斐閣アルマ>（有斐閣）
初宿他『いちばんやさしい憲法入門』<有斐閣アルマ>（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（有斐閣）など

［備考］
授業はキャッチボール形式です。教員の質問に対し多くの学生に答えてもらう形式で進めます。

法学

科目ナンバー	GSS2103-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
金子　和夫	

［到達目標］
民法を中心に権利擁護制度について理解する。成年後見制度や消費者保護制度、損害賠償制度、虐待防止関係制度、不服申立て制度などを概観し、教員採用試験、公務員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

［履修の条件］
本科目は「憲法」とあわせて履修してほしい。社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験希望者は「権利擁護と成年後見制度」を参照すること。

［講義概要］
民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不

服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護制度やそれに係る機関・専門職について、関連法制度を含めてその実際を理解する。

■授業計画

第1回　ガイダンス（相談援助の必要な法律問題）
第2回　行政法（行政処分と不服申立て）
第3回　民法（契約と消費者保護）
第4回　民法（国家賠償を含む損害賠償）
第5回　民法（夫婦とＤＶ防止法）
第6回　民法（親子と児童虐待防止法）
第7回　民法（扶養・相続と高齢者虐待防止法）
第8回　民法（権利能力、行為能力）
第9回　成年後見制度（制度の概要）
第10回　成年後見制度（任意後見を含めた動向）
第11回　成年後見制度（その実際）
第12回　権利擁護制度（専門機関）
第13回　権利擁護制度（専門職）
第14回　権利擁護制度（権利擁護制度の実際）
第15回　試験

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［成績評価（備考）］
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やＴＶニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性、および、3.総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得る。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得る。

［テキスト］
『ポケット六法』（令和2年度）（有斐閣、2,090円、税込）
その他講義資料を配布する。

［参考文献］
憲法、行政法、民法それぞれにテキストが多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。
川井健『民法入門』（有斐閣）
石川他『はじめての行政法』＜有斐閣アルマ＞（有斐閣）
『権利擁護と成年後見制度』（中央法規）
『法学』（全国社会福祉協議会）など

［備考］
授業はキャッチボール形式で行います。教員の質問に対し多くの学生が答える方法で授業を進めます。

社会学

科目ナンバー	GSS2104-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
西下　彰俊	

［到達目標］
我々の人生を社会学の基礎概念の一つである「ライフコース」という観点から捉える。ライフコースとは何かについて受講生に理解してもらう。
社会学では、このライフコースの前半に焦点を当てる。特に、子ども、女性を中心にしつつ、日本社会ではどのような社会問題があるかを理解する。比較の準拠点としてスウェーデンを選び、スウェーデンと日本を比較する。

［履修の条件］
特になし。

［講義概要］
ライフコースの前半に焦点を当て、現代社会で生起している様々な問題を素材に社会学的の観点から捉えることとする。取り上げるトピックスは、いじめ、ひきこもり、モラトリアム、失業、フリーター、派遣社員などである。これらの社会問題を、「家族の小規模化」、「核家族化」、「家族の個人化」、「産業化」、「少子化」、「ＩＴ化」等の社会変動という背景要因と関連づけて、分かりやすく説明する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　社会学の基礎概念その１　地位と役割、属性と業績
第3回　社会学の基礎概念その２　ライフコース、役割変動
第4回　社会学の基礎概念その３　マージナルマン
第5回　社会学の基礎概念その４　核家族化、家族変動
第6回　何故、晩婚化・非婚化が進むのか
第7回　晩婚化と非婚化は社会問題ではない
第8回　何故、いじめがなくならないのか
第9回　いじめと福沢諭吉
第10回　何故、ひきこもりとニートが増えたのか
第11回　ひきこもる自由とその危うさ
第12回　健康を害するライフスタイルとしてのタイプ Ａ
第13回　性別役割分業とは何かースウェーデンと比較する
第14回　まとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
毎回のリアクションペーパーの内容から積極的な参加度の程度を調べ、成績評価に加味する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
オリエンテーションで配付する資料を参考にする。配付資料には、各回の授業で取り上げる資料・文献のリストを載せるので、毎回当該文献・資料を予習しまた復習する。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回授業内容に関する2問の問いかけをし、リアクションペーパーに記述してもらう。そのリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
社会学は社会関係学であるし、人間関係学でもある。本講義を通じて、全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を身に付けることが到達目標である。

[テキスト]
テキストは使用しない。レジュメを配布する。

[参考文献]
オリエンテーションで配付する資料を参考にする。加えて、授業内で適宜紹介する。

社会学 II

科目ナンバー	GSS2105-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
西下　彰俊	

[到達目標]
人生後半のライフコースに焦点を当て、家族関係、定年退職、介護といったトピックスを中心に社会学の概念を用いながら学ぶ。特に、日本社会をスウェーデン社会や韓国・台湾と比較することに重点を置いて学ぶ。特に介護に関しては、社会全体の社会問題であると同時に、受講生一人ひとりの老後問題として感得するセンスを身につけることを学ぶ。

[履修の条件]
社会学Ⅱを履修するには、社会学Ⅰが履修済みであることが望ましい。

[講義概要]
個人のライフコースの後半部分において、家族や社会と関わる部分について、スウェーデンと日本・韓国・台湾を比較しながら論じる。特に介護(ケア)が重要なライフイベントになるので、両国の介護問題、介護政策についても詳しく論じる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念の説明(その1)
第3回　人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念の説明(その2)
第4回　韓国・台湾・日本における老親と子どもの家族関係・インフォーマル関係
第5回　スウェーデンにおける老親と子どもの家族関係・インフォーマル関係
第6回　各国の社会参加論
第7回　ケアにかかわるニーズ論
第8回　介護の社会化と介護のインフォーマリゼーション
第9回　スウェーデンと東アジアにおける介護労働者の苦悩と改善策
第10回　要介護高齢者の人権と異議申し立て
第11回　韓国・台湾・日本における高齢者虐待の発生メカニズムと防止システム
第12回　スウェーデンにおける高齢者虐待の発生メカニズムと防止システム
第13回　ビデオ学習 NHK『安心して老いる社会　スウェーデン』
第14回　まとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
毎回のリアクションペーパーの内容から授業に対する積極的参加度を把握し、評価に加味する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストで扱う章及び論点について予習および復習をすること。毎回の授業で、次回で扱う内容の予告をする。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回2問前後の質問をし受講生の知識や意見をリアクションペーパーに回答してもらう。そのフィードバックを次回の授業の冒頭で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
社会学は、人間関係学であり、社会関係学である。授業内容の理解を通じて、2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を習得することが本講義の到達目標である。

[テキスト]
使用しない。レジュメを配布する。

[参考文献]
適宜、授業中に紹介する。

[備考]
なし。

教養としての哲学

科目ナンバー	GHU2105-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
石井　砂母亜	

[到達目標]
　哲学者の〈問いの立て方〉と〈考え方〉に触れることで、受講者一人ひとりが自らの足場を疑い、問いに彩られた眼差しをもって物事を見られるようになる。

[履修の条件]
履修条件は特にない。

[講義概要]
　「哲学とは何か?」と聞かれて、「哲学とは○○なものです」と答えられるようなものはおよそ哲学ではない。哲学(philosophia)とは〈知を愛し求める〉営みであり、答えを見つけて「はい、それでおしまい」といった類のものではないからである。こうした問いに対して強いて答えるなら、「哲学とは、今、あなたの〈問い〉そのものだ」と答えるほかない。この授業では、差し当たり〈考え続ける〉ことを「哲学」と呼んでおきたいと思う。
毎回の授業では、歴史上の賢人たちの〈問いの立て方〉とそこから導き出される〈考え方〉を学んでゆく。特に、西洋思想の源泉となった古代ギリシャの思想に触れることで、受講者と共に、〈問いを立てる〉ということ、その問いから〈考える〉ということを試みたい。
講義形式の授業が基本となるが、一部の題材についてはＤＶＤ等の映像や画像を活用してグループディスカッションを行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション(１)――授業の進め方など
第2回　オリエンテーション(２)――「考える」ということ、「問いを立てる」ということ
第3回　古代ギリシャへの招待状
第4回　ミュトスからロゴスへ――神話的世界観からの脱却
第5回　アルケーへの眼差し――「哲学」誕生
第6回　フォアソクラティカ(１)――イオニアの哲学
第7回　フォアソクラティカ(２)――南イタリアの哲学
第8回　ソフィスト登場――ピュシスからノモスへ
第9回　ソクラテス(１)――善美なるものを求めて
第10回　ソクラテス(２)――ただ生きるのではなく、よく生きるということ
第11回　プラトン(１)――ソクラテスの死と対峙して
第12回　プラトン(２)――美しいものの中で出産する
第13回　アリストテレス(１)――プラトンへの応答
第14回　アリストテレス(２)――幸せな生を求めて
第15回　試験

[成績評価]
試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
授業への参加度

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の授業を通して、自ら問い、「考える」ことを始めて欲しい。
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回講義冒頭において行う。
期末試験は、試験期間内に実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、物事を総合的多角的に捉え論理的に考えることができるようになる。またこうして身につけた論理的思考力を通して、自ら考え、自らの見解を他者に表現できるようになる。

[テキスト]
岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書441)、岩波書店、2007年、860円+税。

[参考文献]
左近司祥子編著『西洋哲学の10冊』(岩波ジュニア新書613)、岩波書店、2009年。
熊野純彦『西洋哲学史――古代から中世へ』(岩波新書1007)、岩波書店、2006年。
授業時に適宜紹介する。

[備考]
成績評価欄の「課題提出」は、授業最後に毎回課するリアクションペーパーである。
原則として、５回欠席した場合は単位不可とする。

哲学と論理

科目ナンバー	GHU2106-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
石井　砂母亜	

[到達目標]
　哲学者の〈問いの立て方〉と〈考え方〉に触れることで、受講者一人ひとりが、自らの足場を疑い、問いに彩られた眼差しをもって物事を見られるようになる。

[履修の条件]
履修条件は特にないが、「教養としての哲学」を履修していることが望ましい。前期の学びを発展させた講義内容となる。

[講義概要]
　「哲学とは何か?」と聞かれて、「哲学とは○○なものです」と答えられるようなものはおよそ哲学ではない。哲学(philosophia)とは〈知を愛し求める〉営みであり、答えを見つけて「はい、それで

おしまい」といった類のものではないからである。こうした問いに対して強いて答えるなら、「哲学とは、今、あなたの〈問い〉そのものだ」と答えるほかない。この授業では、差し当たり〈考え続ける〉ことを「哲学」と呼んでおきたいと思う。
毎回の授業では、歴史上の賢人たちの〈問いの立て方〉とそこから導き出される〈考え方〉を学んでゆく。特に後期では、「私とは何か」という問いを灯火として、受講者と共に〈問いを立てる〉ということ、その問いから〈考える〉ということを試みたい。
講義形式の授業が基本となるが、一部の題材についてはＤＶＤ等の映像や画像を活用してグループディスカッションを行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション──授業の進め方など
第2回　失われたものを求めて──十牛図を味わう（1）
第3回　失われたものを求めて──十牛図を味わう（2）
第4回　記憶の旅──十牛図からの展開
第5回　〈わたし〉と記憶──「人生はビギナーズ」を観る
第6回　記憶の旅路で──アウグスティヌス
第7回　わたしの中で〈わたし〉に出会う──アウグスティヌス『告白』を読む（1）
第8回　わたしを超えて、あなたにおいて──アウグスティヌス『告白』を読む（2）
第9回　〈わたし〉からの出発──近代的自我
第10回　理性を正しく導くために──デカルト『方法序説』を読む（1）
第11回　われ思う、ゆえに我あり──デカルト『方法序説』を読む（2）
第12回　私は何を知りうるか──カント（1）
第13回　私は何をなすべきか──カント（2）
第14回　自我の破れ―他者の呼び声に応答すること
第15回　試験

［成績評価］
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（10％）

［成績評価（備考）］
授業への参加度

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回の授業を通して、自ら問い、〈考える〉ことを始めて欲しい。
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回講義冒頭において行う。
期末試験は、試験期間内に実施する。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、物事を総合的多角的に捉え論理的に考えることができるようになる。またこうして身につけた論理的思考力を通して、自ら考え、自らの見解を他者に表現できるようになる。

［テキスト］
酒井潔『自我の哲学史』（講談社現代新書1792）、講談社、2005年。
※必要な資料は授業時に配布する。

［参考文献］
左近司祥子編著『西洋哲学の10冊』（岩波ジュニア新書613）、岩波書店、2009年。
熊野純彦『西洋哲学史−古代から中世へ』（岩波新書1007）、岩波書店、2006年。
熊野純彦『西洋哲学史−近代から現代へ』（岩波新書1008）、岩波書店、2006年。
岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書441）、岩波書店、2007年。
※授業時に適宜紹介する。

［備考］
成績評価欄の「課題提出」は、授業最後に毎回課するリアクションペーパーである。
原則として、5回欠席した場合は単位不可とする。

教育学

科目ナンバー	GHU 2107-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
橋本　憲幸	

［到達目標］
「教育」とは何かについて、教育論議やこれまでの自身の被教育体験に囚われずに、また、教育学の諸理論を踏まえながら、自ら考えられるようになる。教育に関する答えを求める姿勢も必要だが、それ以上に重要なことは、教育に関する問いを自ら立て、それについて自ら吟味し続けられるようになることである。

［履修の条件］
履修希望者は初回の講義に出席すること。そこで講義の進め方や課題などについて説明する。やむをえない事情で初回に出席できない場合や出席できなかった場合は必ず申し出ること。

［講義概要］
私たちは、これまで教育を受けてきた体験があることから、「（よい）教育」とは何かについて、自分なりの見方を持つようになる。だが、その「（よい）教育」は別の角度から捉えたとき、「（よい）教育」とは必ずしも呼べないかもしれない。それは「学習」と呼ばれるべきものかもしれないし、「福祉」かもしれない。本講義では、「教育」とはどのようなものなのか、他者にどのように関与することなのか、人間をどのようにしようとすることなのかを改めて根底から考えるための契機を提供する。自分がどのような教育観を有しているのかを自覚し、それを教育学の諸理論を踏まえて自省することが重要である。その過程で、教育には答えがない、教育には答えしかない、教育について考えても仕方がない、と開き直りたくなることがあるかもしれない。その前で踏みとどまり、教育について粘り強く省察し続けていくことを強く期待する。

■授業計画

第1回　講義「教育学」のねらいと進め方
第2回　「教育」とは何であったか
第3回　教育学は「教育」をどう定義するか
第4回　教育の本質とは何か
第5回　教育の本質を踏まえて教育するとはどういうことか
第6回　教師はなぜ教えられるか
第7回　教育は民主主義的に決定すべきか
第8回　学校は必要か
第9回　教育は社会を変革できるか
第10回　教育は子どものためにある、か
第11回　教育は子どもを守れるか
第12回　家庭ではなく学校で教育する意義はあるか
第13回　教育は子どもの幸せを願えるか
第14回　総括
第15回　試験

[成績評価]
試験(60%)、レポート(25%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(15%)

[成績評価(備考)]
授業内課題(毎時のリフレクション・ペーパーの記入)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習として、教育に関する本や報道に目を通し、そこで「教育」がどのように捉えられているのかを理解する。復習として、当該回で取り上げた本や論文を実際に読み、講義内容の理解を深める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リフレクション・ペーパーのフィードバックを次回講義冒頭で実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
とりわけ「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に関連する。他でもない教育という他者への関わり方への理解を深める。教育以外の他者関与のあり方を把握するための補助線を引く。

[テキスト]
使用しない。文献を適宜紹介する。

[参考文献]
橋本憲幸, 2018,『教育と他者――非対称性の倫理に向けて』春風社. (4,000円+税)
末松裕基編, 2016,『現代の学校を読み解く――学校の現在地と教育の未来』春風社. (2,300円+税)　※とくに第10章

[備考]
講義は板書で進める予定。

音楽の基礎

科目ナンバー	GHU2108-P
2単位：前期1コマ	1〜2年
渡邉　公実子	

[到達目標]
1.楽典の基礎知識を身につける。14種類の全音階的音程の判別ができるようになる。2.ボディーパーカッションに挑戦し、グループで創作活動を行い、発表する。3.創作したリズムを楽譜に書き起こし、仲間と共有して演奏する。4.読譜力を高める。

[履修の条件]
音楽に興味を持つ者。授業内容を毎回復習し、知識・技術の習得に努力すること。

[講義概要]
音楽は古来より、人間の身体や魂に調和をもたらし、また、豊かな人間形成に深く関与するものとして、大切な教養科目とされてきた。この授業では、歴史の中で様々な文化を背景に育まれ、受け継がれてきた「人に調和をもたらす音楽」を、自分自身の力で読み取り、表現へとつなげられるような基礎力を養うことに目標をおく。前期は基礎的な音楽理論(楽典)を学びながら、音楽実技(視唱・リズム打ち・リズム創作・ボディーパーカッショングループ発表)に取り組む。後期の「音楽の実際」も続けて履修すると、1年間で楽典の基礎的な学びが身につく。履修者の人数やレベルに応じて授業内容は変更されることがある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション・講義内容の説明
　　読譜能力・基礎知識テスト
第2回　楽譜について/リズム導入
第3回　楽譜について/リズムⅠ
第4回　リズムについて(DVD 鑑賞)/音楽用語
第5回　音程(全音階的音程)Ⅰ/リズム創作Ⅰ
第6回　倍音について/リズム創作Ⅱ
第7回　楽典復習/リズム創作Ⅲ
第8回　楽典復習/小試験Ⅰ
第9回　リズム創作発表
第10回　音階Ⅰ/呼吸と発声Ⅰ
第11回　声帯の動き・喉の仕組みについて(DVD 鑑賞)
第12回　音階Ⅱ/呼吸と発声Ⅱ
第13回　小試験Ⅱ
第14回　音階Ⅲ/アンサンブル(歌唱・リズムなど)
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(50%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
楽典の基礎知識は復習をして暗記する努力が必要。本科目では各授業回に各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習

等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテストを実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、添削して返却。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3.総合的実践的な学習能力」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。ミュージック・リテラシーを得ること、高めることで、より深く音楽作品を読み解き、味わうことが可能となる。また、音楽を通してその背景にある思想や文化に関心を持ち、理解を深めれば、音楽と共に、より豊かな教養を身につけることにつながるだろう。音楽の学びは、調和のとれた全人的な人間形成に必要不可欠なものと位置付けられてきた歴史があり、音楽を探求することは真理を見つめることにも繋がる。音楽は人間にとって大切なコミュニケーションツールの一つである。

[テキスト]
改訂『音楽通論』教育芸術社(934円+消費税)ISBN978-4-87788-421-5
(※必ず購入すること)
その他、随時プリントを配布

[参考文献]
必要に応じて授業内で紹介。

[備考]
毎回、次の3点を持参すること。
1.テキスト　2.配布したプリント　3.筆記用具(楽譜を書く時には鉛筆使用が望ましい)
(※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること)

音楽の実際

科目ナンバー	GHU2109-P
2単位：後期1コマ	1〜2年
渡邉　公実子	

[到達目標]
1.楽譜から音楽を読み取る基礎力を身につける。2.音楽を知的に理解し、簡単な分析ができるようになる。3.指揮法の基礎を学び、実践できるようになる。

[履修の条件]
「音楽の基礎」を履修済みが望ましい。後期から受講する場合は、前期「音楽の基礎」の授業内容を第3回の授業時までに習得する必要がある。

[講義概要]
音楽は古来より、人間の身体や魂に調和をもたらし、また、豊かな人間形成に深く関与するものとして、大切な教養科目とされてきた。この授業は、前期に引き続き、歴史の中で様々な文化を背景に育まれ、受け継がれてきた「人に調和をもたらす音楽」を、自分自身の力で読み取り、表現へと繋げられるような基礎力を養うことに目標をおく。後期も基礎的な音楽理論(楽典)を学びながら、音楽実技に取り組む。実技は主に、実践に役立つ指揮法の基礎を学び、簡単な楽曲の指揮ができるようになることを目指す。履修者の確定と共に、人数やレベルに応じて授業内容は変更されることがある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション・講義内容の説明
　　基礎知識テスト・前期学習内容の復習Ⅰ
第2回　前期学習内容の復習Ⅱ/音名と音程(全音階的音程)/音階
第3回　音程Ⅰ(半音階的音程)
第4回　音程Ⅱ(半音階的音程)/リズム・アンサンブルⅠ
第5回　音階Ⅰ/リズム・アンサンブルⅡ
第6回　音階Ⅱ/調性
第7回　調名/調号Ⅰ
第8回　小試験Ⅰ/近親調Ⅰ
第9回　移調・転調/指揮法の基礎
第10回　指揮法の基礎と実践Ⅰ(DVD鑑賞)/近親調Ⅱ
第11回　指揮法の基礎と実践Ⅱ/和音Ⅰ
第12回　和音Ⅱ/指揮法の基礎と実践Ⅲ
第13回　小試験Ⅱ/オペラ(DVD鑑賞)Ⅰ
第14回　実技試験(指揮)/オペラ(DVD鑑賞)Ⅱ
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(50%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した楽典の基礎知識は、その都度よく復習して暗記する努力が必要。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテストを実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、添削して返却。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3.総合的実践的な学習能力」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。ミュージック・リテラシーを得ること、高めることで、より深く音楽作品を読み解き、味わうことが可能となる。また、音楽を通してその背景にある思想や文化に関心を持ち、理解を深めれば、音楽と共に、より豊かな教養を身につけることにつながるだろう。音楽の学びは、調和のとれた全人的な人間形成に必要不可欠なものと位置付けられてきた歴史があり、音楽を探求することは真理を見つめることにも繋がる。音楽は人間にとって大切なコミュニケーションツールの一つである。

[テキスト]
改訂『音楽通論』教育芸術社(934円+消費税)ISBN978-4-87788-421-5

（※必ず購入すること）

[参考文献]
必要に応じて授業内で紹介。

[備考]
毎回、次の３点を持参すること。
1.テキスト2.配布プリント3.筆記用具（楽譜を書く時に鉛筆使用が望ましい）
（※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること）

コミュニケーションの演習

科目ナンバー	GFR1102-S
2単位：前期1コマ	1年　必修
柿崎　広幸	

[到達目標]
１、日本語の表記、特質について理解し正しい文章（レポート、小論文等）を書くことができる。
２、与えられたテーマについて資料を適正に駆使し、論理的な文章を書くことができる。
3, 手紙、はがき、案内状などの実用的な文を書くことができる。

[履修の条件]
講義には当然継続性があるので、コミュニケーション能力を高めるためにできるだけ欠席せずに参加することが必要。前時の講義の確認のための小テストも継続的に行うので欠席を避ける。講義には国語辞書（携帯に便利なもので可、電子辞書も可）を必ず持参のこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習復習等）を必要とする。

[講義概要]
コミュニケーションの方法としては、書いて相手に伝える、話して相手に伝える、大まかにいえばこの二つの方法がある。大学生にはこの二つのコミュニケーション能力を適正に使えることが求められる。大学で学問・研究に触れ、さまざまな共感や疑問を持ち、それに対する自分の考えを、表現、発信する能力が求められている。ここでは主に、書くことについて学ぶ。日本語の表記、特質を理解し、与えられたテーマについて適正に構成し、論理的な文章を書くことができること。また自分の考えをまとめて上手に伝えることなどを講義、演習を通じて学んでいく。基本的に講義、演習形式の授業であるが一部ＤＶＤ等の映像を活用することもある。

■授業計画

第１回　＜予習＞（90分）シラバスをよく読んでおく。辞書、ノート等の確認。
講義の概要説明、講義の進め方、受講の際の心構え、教材、資料の説明、参考文献の紹介、日本語、文章についてのアンケート、学生諸君の簡単な自己紹介の文を書く。＜復習＞（90分）講義の概要の確認。自己紹介の文の検証。

第２回　＜予習＞（90分）日本語の表記とは何かを調べ、まとめておく。
前時のアンケートの報告
文章表現技術　演習１　日本語の表記、仮名遣い、常用漢字、句読点等文章表現上の基本的事項の確認する。説明をよく理解する。＜復習＞（90分）演習１を振り返り、基本事項を確認し、次回の小テストの準備をする。

第３回　＜予習＞（90分）漢字、仮名遣い、文章で使われる符号などについて調べ、まとめて置く。
前時の小テストの実施。
文章表現技術　演習２　同音・同訓の漢字、類義語、対照語、仮名遣い、
句読点、区切り符号の使い方等について確認する。＜復習＞（90分）演習２で学んだことの確認。漢字、仮名遣いをしっかり身につける。次回の小テストの準備をする。

第４回　＜予習＞（90分）慣用表現、仮名と漢字、文体についてまとめて置く。小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
小テスト返却、説明。
文章表現技術　演習３　慣用表現、仮名と漢字の使い分け、文体の使い分け等について。とくに文体。「です。ます体。」「である。ーだ。」体について理解を深める。＜復習＞（90分）慣用表現、返却された小テストの確認。仮名と漢字、特に文体について理解ができたか確認する。次回の小テストの準備をする。

第５回　＜予習＞（90分）接続詞と指示語について知っていることをまとめて置く。小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
前時の小テストの返却。説明。
文章表現技術　演習４　表現の工夫、比喩、擬声語、擬態語などの理解。接続詞と指示語について、接続詞と指示語を適切に使うことで論理的な文章を書くことができることを理解する。＜復習＞（90分）返却された小テストの確認。表現の工夫について、接続詞、指示語の使い方に理解が深まったか。確認する。次回の小テストの準備。

第６回　＜予習＞敬語、話し言葉、書き言葉について自分の知ることをまとめておく。小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
前時の小テストの返却、説明。
文章表現技術　演習５　敬語について。話し言葉と書き言葉について理解する。敬語の役割、必要性を知る。話し言葉と書き言葉の使い分けを理解する。＜復習＞（90分）返却された小テストの確認。敬語について理解を深めたか、話し言葉と書き言葉の使い分けの難しさが理解できたか確認する。次回の小テストの準備。

第７回　＜予習＞（90分）あいまいな表現、文の乱れとは何かを調べておく。小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
小テスト返却、説明。
文章表現技術　演習６　あいまいな表現、文の乱れついて。原因は何かを探る。主語、述語。修飾語、被修飾語。呼応の関係などについて調べて確認する。＜復習＞（90分）あいまいな表現、文の乱れの原因について理解できたか確認する。次回の小テストの準備。

第８回　＜予習＞（90分）文を区切って書くことの意味、必要性

などについて調べておく。小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
前時の小テストの返却、説明。
文章表現技術　演習７　文を区切って書くこと、つまり一つの文が長いと読み手にとってなぜ読みにくいのかを考える。簡潔に書くことの大切さを理解する。＜復習＞返却された小テストの確認。　短い文が読みやすいということが理解できたか確認する。次回の小テストの準備。

第９回　＜予習＞資料を配付しておく。それに従い悪文とは何か、なぜ悪文になるのかを検討してみる。次回の小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
前時の小テストの返却。説明。
文章表現技術　演習８　悪文治療、悪文を題材に正しい文章に直す。悪文になるいろいろな原因を探し治療して正しい文章にする。＜復習＞返却された小テストの確認。悪文になる原因について理解できたか確認する。小テストの準備をする。

第10回　＜予習＞（90分）演習８までを復習して、第10回からの作文演習に備える。小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
前時の小テストの返却、説明。
文章表現技術　演習９　感じたこと、思ったことを言葉で表現する。何かを感じれば、それが思いになる。思いがなければ、自分から文章を書くこともない。ここでは与えられた「写真」を見て文章を書き、感じること、思うことの重さを探究する。（作文は回収）また構成メモの作成を学ぶ。＜復習＞（90分）返却された小テストの確認。時間内に自分の感じたこと、思ったことを表現できたか確認する。また表現できなかったことも確認しておく。

第11回　＜予習＞（90分）再度演習８までを復習する。前時の作文についても再度検討しておく。
前回の作文の返却、講評。
文章表現技術　演習10　自分の意見を文章に書く。意見を述べるには、普段から社会のさまざまな事象に対して関心を持ち、自分自身の考えや行動を見つめ直すことが必要となる。構成メモを使いながら自分の意見をかいてみる。＜復習＞（90分）返却された作文の検証。自分の意見、主張を読み手に納得させることができる文章が書けたかを検証してみる。

第12回　＜予習＞（90分）手元にあるはがき、手紙、案内状などをみて気づいたことをまとめておく。
課題の作文の返却、講評。　　文章表現技術　演習11　手紙、はがき、案内状等の実用的な文章の形式、書き方について。個性的なものも良いが、ここでは形式を学ぶ。形式に従って書くことで相手に不快感を与えず、楽に書けることを理解する。＜復習＞（90分）形式について理解できたか、また形式に従って、はがきや手紙を書くことができたか検証する。小テストの準備。

第13回　＜予習＞（90分）作文とレポート、論文の違いについて知るところをまとめておく。小テストの準備をする。
前時の小テストの実施。
文章表現技術　演習12　レポート、論文の書き方。作文とレポート、論文の違い。レポート、論文の必要要素、構成組み立て、構成について。
＜復習＞（90分）作文とレポート、論文の違い、その他必要要素、組み立て、構成などについて理解できたかを検証する。

第14回　＜予習＞（90分）ここまで学んだことを全体的に振り返り復習しておく。
前時の小テストの返却、説明。
ここまで学んだことをまとめ、総括する。＜復習＞（90分）学んだことを復習し学期末試験に備える。

第15回　学期末試験　前期に学習した全般について試験を行う。

［成績評価］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（40％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（0％）

［成績評価（備考）］
欠席した場合の小テストの再試験は実施しないので欠席は極力避けること。授業への参加度が重要。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。小テストは必ず事前学習をして受けること。

［試験・レポート等のフィードバック］
小テストについては返却時に必ず講評する。課題についても授業時にコメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力及び総合的・実践的な学習能力に該当する。文章表現能力を身につけることにより他の人々との協働作業を創り、社会に貢献できる。また文章で表現をすることで自己を対象化でき、自分の思いや考えを深めることができる。

［テキスト］
教材はすべて担当者で作成する。

［参考文献］
「新しい国語表記ハンドブック」（第八版）三省堂　800円+税

［備考］
毎回国語辞書を持参すること。電子辞書可。

キャリアデザイン基礎

科目ナンバー	IAD2204-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
田副　真美	

［到達目標］
自らが社会で活躍している姿を描き、社会人として求められる「基礎力」を習得することを目指します。また、併せて就職活動で活用できる知識・ノウハウの獲得を目指します。

[履修の条件]
将来を考えること、また、社会人として求められる基礎力の獲得を目的としていますので、一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者を対象とします。２年生の履修も可能ですが、原則として３・４年生を対象とします。また、前期の「キャリアデザイン基礎」を発展させた後期の「キャリアデザイン実践」では、より具体的なスキル・テクニックを教授しますので、あわせて履修することを推奨します。（前期のみの履修も可）

[講義概要]
ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。
進め方：講義よりもワークを中心に進め、自分の意見・考えを伝え、他者の意見・考えを聴く機会を設けます。
（１）社会人として働いている方のお話を聴き、自分の生き方や働き方を考えるきっかけを提供します。その上で、将来の目標および大学生活での行動計画づくりを行います。
（２）社会人として求められる「コミュニケーション力（聴く、話す、書く）」について、具体的な方法を理解した上で実践します。
（３）自己理解を深め、「自分がどのように社会と関わるのか」を考えます。
（４）個人及びグループワークを通じて、自己に対する気づきを得る機会を提供します。
（５）就職活動において、自分自身をしっかりと表現する方法を学びます。（担当講師：小風泰子）

■授業計画
第１回　オリエンテーション、今後の進め方の確認、大学生の基本姿勢について
第２回　コミュニケーションを学ぶ
第３回　自己紹介ワーク
第４回　自己理解を深めよう
第５回　伝わる話し方、話法
第６回　プレゼンテーションを学ぶ
第７回　伝わる書き方①、文法
第８回　伝わる書き方②、就職活動の基礎知識
第９回　インターンシップについて学ぶ（就職関連情報）
第10回　「はたらく」とは
第11回　社会・企業を知る
第12回　グループディスカッションワーク
第13回　ビジネスマナー（面接編）、働く価値観
第14回　模擬面接
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（50％）

[成績評価（備考）]
授業態度（積極性、主体性、発言内容など）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
【予習】新聞の購読。企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料の振り返りを行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行います。また、発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、社会人として働いている方のお話を聞いたり、各種グループワーク等を実践したりすることで他者を理解していく力が身に付きます。また、社会人として求められる「コミュニケーション力（聴く、話す、書く）」について具体的な方法を理解した上で自分自身をしっかりと表現することができるようになります。

[テキスト]
毎回必要な教材を配布します。配布した教材が散在しないよう、専用ファイルの準備をお願いします（資料のサイズは、Ａ４を予定）。

[参考文献]
授業内で告知

[備考]
特になし

キャリアデザイン実践

科目ナンバー	IAD2304-S
2単位：後期1コマ	3年
田副　真美	

[到達目標]
就職活動において求められる自己分析、応募書類、業界研究、企業研究、グループディスカッション、面接、ビジネスマナー等の各種対策やテクニックを実践的に学び、自身が思い描く将来を具体化しつつ、それを実現するための自信と考え方及びスキルを身に付けます。

[履修の条件]
一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者を対象とします。原則として３・４年生を対象とします。前期の「キャリアデザイン基礎」を受講していなくても履修可能であり、授業に問題なくついていくことができる設計になっています。なお、第11回目以降はより実践に即すため、リクルートスーツの着用を必須とします。

[講義概要]
ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。
進め方：講義よりもワークを中心に進め、自分の意見・考えを伝え、他者の意見・考えを聴く機会を設けます。
（１）自己理解を深めるため、職業興味検査やワークシートを元に自己分析を行い、強み等を言語化します。

（2）応募書類のポイントを理解し、必須となる項目を実際に記入していきます。
（3）業界・企業研究の方法を理解し、具体的に調べていきます。
（4）グループディスカッション、面接の対策法を学び、実際に体験をしていきます。
（5）ビジネスマナーの基本を理解し、実践的なスキルを学びます。（担当講師：小風泰子）

■授業計画

第1回　就活キックオフ（心構え、進め方、必要な準備の理解）
第2回　自己分析　～StepⅠ～（職業興味検査）
第3回　自己分析　～StepⅡ～（自分の強みを言語化する）
第4回　応募書類対策　～StepⅠ～（卒業論文・ゼミ・実習、趣味・特技の記入）
第5回　応募書類対策　～StepⅡ～（学生時代に力を入れたことの記入）
第6回　応募書類対策　～StepⅢ～（自己 PR の記入）
第7回　業界研究
第8回　企業研究
第9回　応募書類対策　～StepⅣ～（志望動機の記入）
第10回　応募書類対策　～StepⅤ～（履歴書を書く際のポイント・注意点）
第11回　グループディスカッションワーク
第12回　ビジネスマナー
第13回　面接対策　～集団編～
第14回　面接対策　～個人編Ⅰ～
第15回　レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
授業態度（積極性、主体性、発言内容など）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
【予習】新聞の購読。企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料やテキストの振り返りを行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行います。また、発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

［ディプロマポリシーとの関連性］
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、グループディスカッションや面接、各種グループワーク等を通じて他者を理解したり、社会やビジネスで通じる実践的な自己表現を獲得できるようになります。

［テキスト］
『MY　CAREER　NOTEⅢ』制作・著作/株式会社ベネッセ i–キャリア1,543円

［参考文献］
授業内で告知

［備考］
特になし

コンピュータ入門Ⅰ

科目ナンバー	GNI2114-P
2単位：前期1コマ	1～2年
佐藤　舞	

［到達目標］
①パソコンの基礎知識と基本的操作技術を身につけること。②大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得すること。

［履修の条件］
本科目は、パソコン初心者向けのクラスとして開講します。
パソコンの台数に限りがありますので、2クラス開講しますが、履修希望者が多い場合は、選考、抽選等で人数制限をすることがあります。原則、聴講はできません。
後期の「コンピュータ入門Ⅱ」については、原則、前期履修登録期間のみ履修登録を受け付けます。

［講義概要］
本講義では、実際にノートパソコンを使用して演習を行う。各回の最初に、その回で学習する技能についてレジュメに基づいて説明し、説明された操作方法に沿って各自で課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得することを目指す。なお、一部の題材についてはDVD 等映像や音楽を使用する場合もある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション（本講義の目的、概要、構成）
第2回　パソコンの基礎知識
第3回　タイピング演習
第4回　ワード（1）（和文・英文の入力）
第5回　ワード（2）（文字書式）
第6回　ワード（3）（段落書式）
第7回　課題作成・提出
第8回　ワード（4）（ページ設定・印刷）
第9回　ワード（5）（スタイル）
第10回　ワード（6）（アウトライン①）
第11回　ワード（7）（アウトライン②）
第12回　課題作成・提出
第13回　ワード（8）（その他の機能）
第14回　課題作成・提出
第15回　課題作成・提出

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（60%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
単位認定のために提出が必須の課題（60%）のほか、任意提出の課題（40%）を設ける。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げてくるよう求める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技能を身につけることができる。

[備考]
講義には USB メモリを持参すること。また、講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

コンピュータ入門 II

科目ナンバー	GNI2115-P
2単位：後期1コマ	1〜2年
佐藤　舞	

[到達目標]
①エクセルを使った表計算とグラフ作成の方法を身につけること。②エクセルの表やグラフを挿入したワード文書を作成することができるようになること。

[履修の条件]
「コンピュータ入門Ⅰ」を履修済みか、同等の操作技術を有していることが望ましい。
本科目は、パソコン初心者向けのクラスとして開講します。
パソコンの台数に限りがありますので、2クラス開講しますが、履修希望者が多い場合は、選考、抽選等で人数制限をすることがあります。原則、聴講はできません。
後期の「コンピュータ入門 II」については、原則、前期履修登録期間のみ履修登録を受け付けます。

[講義概要]
本講義では、実際にノートパソコンを使用して演習を行う。各回の最初に、その回で学習する技能についてレジュメに基づいて説明し、説明された操作方法に沿って各自で課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なエクセルの基本操作を習得することを目指す。

■授業計画

第1回　オリエンテーション（本講義の目的、概要、構成）
第2回　エクセル（1）（エクセルの基礎知識）
第3回　エクセル（2）（ワークシートの基本操作）
第4回　エクセル（3）（日付データ）
第5回　エクセル（4）（セル参照）
第6回　課題作成・提出
第7回　エクセル（5）（ソートとフィルタ）
第8回　エクセル（6）（IF 関数）
第9回　エクセル（7）（VLOOKUP 関数）
第10回　課題作成・提出
第11回　エクセル（8）（グラフ作成）
第12回　エクセル（9）（グラフの編集）
第13回　エクセル（10）（図表を含むレポート作成）
第14回　エクセル（11）（その他の機能）
第15回　試験

[成績評価]
試験（60%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げてくるよう求める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技能を身につけることができる。

[備考]
講義には USB メモリを持参すること。また、講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

視覚障害者 PC 入門

科目ナンバー	GNI2116-P
2単位：前期1コマ	1年
荒川　明宏	

[到達目標]
①パソコンの基礎知識と基本的操作技術を身につけること。
②大学生のレポート・論文作成のために必要なソコンの基本操作を習得すること。

[履修の条件]
視覚障がい学生を対象とする。

[講義概要]
本講義では、実際に受講する学生のレベルを見ながら授業をすすめる。ノートパソコンを使用して演習を行う。説明された操作方法に沿って課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なパソコンの基本操作を習得すること

を目指す。

■授業計画

第1回　オリエンテーション（本講義の目的、概要、構成）
第2回　パソコン操作と演習（1）
第3回　パソコン操作と演習（2）
第4回　パソコン操作と演習（3）
第5回　パソコン操作と演習（4）
第6回　パソコン操作と演習（5）
第7回　パソコン操作と演習（6）
第8回　パソコン操作と演習（7）
第9回　パソコン操作と演習（8）
第10回　パソコン操作と演習（9）
第11回　パソコン操作と演習（10）
第12回　パソコン操作と演習（11）
第13回　パソコン操作と演習（12）
第14回　課題作成・提出
第15回　まとめ

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

［ 成績評価（備考） ］
授業ごとに課題に取り組む。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技能を身につけることができる。

英語 Reading

科目ナンバー	GFL3104-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

［ 科目補足情報 ］
※前期・後期とも同一授業

［ 到達目標 ］
英語の文書のレトリック（文書の構造）を把握して、読解力をたかめる。また、語彙を増やす方法も教える。

［ 履修の条件 ］
(1)授業は、前期２コマか後期２コマのどちらかを履修することになる。
(2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(4)授業で課せられる課題（assignment）は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

［ 講義概要 ］
○　この授業では、常に辞書に頼ることなく、英文を効果的に英語で読んでいくためのスキルを習得することを目指している。接頭辞、接尾辞、ギリシア語・ラテン語を起源とする語幹の学習を中心とした reading に必要な語彙力の増強が授業の中心となる。
○　語彙力の増強と並行して、Scanning（特定の情報を読み出す読み方、拾い読み）、Skimming（文の大意を読みとる読み方、斜め読み）に加えて、文の複数の主題をまとめるスキル、段落の中心概念（main idea）を読みとるスキル等の習得にも強調がおかれる。時事英文にも取組む。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画

第1回　Introduction to course/Parts of speech
第2回　History of English/Using an English-English dictionary
第3回　Word study
Latin stems/prefixes
第4回　Introduction to extensive reading
第5回　Unit 1, Reading 1
第6回　Unit 1, Reading 2
Extensive Reading 1
第7回　Researching in English/reference books
第8回　Unit 2, Reading 1
第9回　Unit 2, Reading 2
Extensive Reading 2
第10回　Unit 3, Reading 1
第11回　Unit 3, Reading 2
Extensive Reading 3
第12回　Unit 4, Reading 1
第13回　Unit 4, Reading 2
Extensive Reading 4
第14回　Unit 5, Reading 1
Extensive Reading 5
第15回　Unit 5, Reading 2
第16回　Understanding Topics
第17回　Reading Patterns
Introduction to Reading Projects/Authentic materials
第18回　The Listing Pattern
第19回　The Time Order Pattern
第20回　Unit 6, Reading 1
第21回　Unit 6, Reading 2
Extensive Reading 6

第22回　The Comparison Pattern
第23回　The Cause/Effect Pattern
第24回　Unit 7, Reading 1
第25回　Unit 7, Reading 2
　　Extensive Reading 7
第26回　Unit 10, Reading 1
第27回　Unit 10, Reading 2
　　Extensive Reading 10
第28回　Unit 11
第29回　Reading Projects

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（50%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回の宿題は不可欠。特に毎週の Vocabulary　Quiz の復習がもとめられています。本科目では、各授業100分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
二回、単語のノートのチェックで、学生一人ひとりと指示します。
Reading Project は個人的指導、フィードバック。

［ディプロマポリシーとの関連性］
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［テキスト］
Richard R. Day and Junko Yamanaka, Cover to Cover 1（Oxford）定価¥3,220

［参考文献］
特になし

英語 Speaking/Listening

科目ナンバー	GFL3101-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ、アデレード・アミサ	

［到達目標］
英語の発音、発声、Formulaic　expressions（挨拶など、）実用的な会話の訓練と習得。

［履修の条件］
(1)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(2)この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する（active　participation）ことが求められ、評価の大切な要因となります。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(4)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

［講義概要］
○　授業は、充実した指導を徹底させるために２グループに分かれ、２グループがほぼ同じ内容の学習ができるように努める。
○　英語の Speaking と Listening のスキル（技能）のダイナミックスを習得することに重きが置かれる。
○　主に、自然なスピードの英語の発音・リズム・アクセント・イントネーション・発音上の省略形の学習を通して聴解力の増強に努める。実際の内容のある練習・演習も織り込んで、英語によるこの授業では、学生が今まで習ってきた英語を用いて話していくスキルとしての Speaking と Listening を促進するための実際的な方策についても学びを行う。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位がみとめられません。

■授業計画
第1回　1）Placement Test
第2回　1）Introductions
　　2）Phonetics Test
第3回　1）Practice
　　2）Clear Speech：Vowel sounds
第4回　1）Lesson 1A
　　2）Clear Speech：Vowel and Consonant sounds
第5回　1）Lesson 1A
　　2）Clear Speech, pp. 2–6
第6回　1）Lesson 1B
　　2）Clear Speech, pp. 7–9
第7回　1）Lesson 1B
　　2）Clear Speech, Unit 2
第8回　1）Lesson 2A
　　2）Clear Speech, Units 2–3
第9回　1）Lesson 2A
　　2）Clear Speech, Unit 4
第10回　1）Lesson 2B
　　2）Clear Speech, Unit 4
第11回　1）Lesson 2B
　　2）Clear Speech, Unit 5
第12回　1）Lesson 3A
　　2）Clear Speech, Unit 5
第13回　1）Lesson 3A
　　2）Clear Speech, Unit 6
第14回　1）Lesson 3B
　　2）Clear Speech, Unit 7
第15回　1）Lesson 3B
　　2）Clear Speech, Unit 7
第16回　1）Review
　　2）Midterm Test（Phonetics/Lexicarry）
第17回　1）Review
　　2）Clear Speech, Test, pp. xiii-xv
第18回　1）Lesson 4A
　　2）Clear Speech, Unit 8
第19回　1）Lesson 4A

2）Clear Speech, Unit 8
第20回 1）Lesson 4B
2）Clear Speech, Unit 9
第21回 1）Lesson 4B
2）Clear Speech, Unit 10
Pronunciation Review
第22回 1）Lesson 5A
2）Clear Speech, Unit 11
第23回 1）Lesson 5A
2）Clear Speech, Unit 11
第24回 1）Lesson 5B
2）Clear Speech, Unit 15
第25回 1）Lesson 5B
2）Clear Speech, Unit 15
第26回 1）Lesson 6A
2）Clear Speech, Unit 15
第27回 1）Lesson 6A
2）Clear Speech Test
第28回 1）Lesson 6B/Review
2）Review
第29回 Speaking Test

［成績評価］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（20％）、課題提出（50％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
教科書のCDを復習する。本科目では、各授業100分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
試験の結果、中間テストで一人一人を評価する。

［ディプロマポリシーとの関連性］
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［テキスト］
Judy B. Gilbert, Clear Speech（4rd Edition）,（Cambridge University Press）定価¥2,499
Angela Buckingham, et al., Get Real 1（New Edition）,（Macmillan）定価¥2,500

［参考文献］
特になし

英語 Writing/Grammar

科目ナンバー	GFL3105-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

［到達目標］
英語の文書の種類、段落（paragraph）の構造を学ぶ。

［履修の条件］
（1）語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
（2）本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
（3）授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
（4）授業で課せられる課題（assignment）は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

［講義概要］
○　英語のGrammarのポイントをふまえながら、Writingの力をつけていくための学習をする。
○　授業では、個人的及びビジネス上の手紙文を書く等の実際的な書く練習も豊富に含まれる。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入し受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画
第1回 Class rules/ Common mistakes in English
第2回 Interviewing a partner（example of paragraph）Fact vs. opinion
第3回 Writing about yourself. Fact vs. Opinion
第4回 Unit 1. The paragraph form：Topic sentences
第5回 Unit 1. Supporting sentences, Unity, Coherence
第6回 Unit 1 Concluding sentences, Simple sentences
第7回 Unit 1 Run-on sentences, Review
第8回 Unit 2 Descriptive paragraphs, use of the articles
第9回 Unit 2. Descriptive paragraphs, specific details
第10回 Unit 2. Adjectives, adjective order
第11回 Unit 2. The Be Verb, Review
第12回 Unit 3 Example paragraphs, sentence type
第13回 Unit 3. Examples as supporting details, Clustering
第14回 Unit 3. Simple present, review of sentence type, developing an outline
第15回 Unit 3. Review
第16回 Unit 4. Process paragraphs,
第17回 Unit 4. Time-order words in process paragraphs
第18回 Unit 4 Imperative sentences, advice, necessity, prohibition modals
Review
第19回 Personal letter/ Giving directions

第20回　Unit 5. Narrative paragraphs
第21回　Unit 5. Narrative paragraphs, sensory details, order of events
第22回　Unit 5 The simple past, past continuous
Review
第23回　Business letters
第24回　Unit 6. Opinion paragraphs
第25回　Unit 6. Opinion paragraphs, facts and opinions
第26回　Unit 6. Mechanics：there is/are; because/because of
Review
第27回　Final writing composition：brainstorming, outlining
第28回　Final composition：sentences, organization
第29回　Final Composition

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（20％）、小テスト（0％）、課題提出（80％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
毎回の宿題の提出、復習が必要。宿題のなおし、2回目のチェック。本科目では、各授業100分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
宿題の個人的指導、説明。学生は宿題を一回書きなおして、もう一度チェックを受ける。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［ テキスト ］
Alice Savage and Masoud Shafiei, Effective Academic Writing, The Paragraph
Second Edition, Oxford¥3696

英語特別演習（Independent Study）

科目ナンバー	GFL 3201-S
1単位：適宜	2〜4年
ジャン・プレゲンズ	

［ 到達目標 ］
学生のニーズにあわせて授業を計画します。

［ 履修の条件 ］
（1）特別に英語の学力があると認められる者ー帰国子女等ーーが履修できる。
（2）次の手続きを経て、履修が認められる。
・履修希望者は、次の学年はじめのオリエンテーション期間中に担当教員に申し出、履修内容、履修計画等を提出する。
・履修届最終期限前に教養部の教授会で承認を得て、履修届をする。
（3）通常の授業（1コマについて、90分授業を少なくとも13回）と同じかそれ以上の教員との学習、そのための予習・復習の学習が必要である。
（4）学習状況が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

［ 講義概要 ］
学年度始めの履修計画に基づいて、1コマについて少なくとも週1回の指導を受け、勉強を続けていく。

■授業計画
第1回　Orientation/Needs Assessment
第2回　First reading
第3回　Homework/Second reading
第4回　Homework/Third reading
第5回　Homework and discussion/Fourth reading
第6回　Homework/Fifth reading
第7回　Homework/Sixth reading
第8回　Homework/Seventh reading
第9回　Homework/Next reading
第10回　Homework and discussion/Next reading
第11回　Homework and discussion/Next reading
第12回　Homework and discussion/Next reading
第13回　Homework and discussion/Next reading
第14回　Homework and discussion/Next reading
第15回　Final project

［ 成績評価 ］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（70％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
先生の提供するプリントを事前によく読んでおくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
毎回の宿題のフィードバック。個人的指導、先生と一対一の授業。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［ テキスト ］
学生の履修計画に基づいて、適切なテキストを担当教員が選択する。

［ 参考文献 ］
必要な時に授業内で情報提供する。

英語 Speaking/Listening 演習

科目ナンバー	GFL3204-S
2単位：前期2コマ	2〜3年
ジャン・プレゲンズ、アデレード・アミサ	

[到達目標]
英語での情報交換、発表の技術の学びと訓練。

[履修の条件]
(1)原則として「英語 Speaking/Listening」既修者及びそれと同等の英語力があると担当責任者が認定する者が履修できる。
(2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(3)この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する(active participation)ことが求められ、評価の大切な要因になります。
(4)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(5)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
(6)最新版の教科書が必要

[講義概要]
○　前期の継続として、いろいろな演習を通して学生の実際的な Speaking/Listening の力を高めていくことに努める。
○　教科書の学習に加えて、英語による発表(presentation)、短いスピーチ、諸々の英語による情報伝達を計画していく演習も行われる。

■授業計画
第1回　Introductions/Review
第2回　Communication Strategies
第3回　Lesson 1A
第4回　Lesson 1B
第5回　Lesson 2A
第6回　Lesson 2B
第7回　Lesson 3A
第8回　Lesson 3B
第9回　Review
　　Presentation Skills
第10回　Review
　　Presentation Skills
第11回　Lesson 4A
第12回　Lesson 4B
第13回　Lesson 5A
第14回　Lesson 5B
第15回　Lesson 6A
第16回　Lesson 6B
第17回　Review
　　Midterm Test
第18回　Communication Activities
　　Midterm Test
第19回　Lesson 7A
第20回　Lesson 7B
第21回　Lesson 8A
第22回　Lesson 8B
第23回　Lesson 9A
第24回　Lesson 9B
第25回　Review
第26回　Lesson 10A
第27回　Lesson 10B
第28回　Presentations
　　Test explanation
第29回　Speaking Test

[成績評価]
試験(20%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
スピーチ及びプレゼンテーション。
小テスト

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
宿題の実施、提出は不可欠です。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回のスピーキング宿題の評価、ピアーでの評価。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
Angela Buckingham, et al. Get Real! 2(New Edition)Macmillan 定価¥2,500

[参考文献]
特になし

英語特別プログラム(English for Special Purposes)

科目ナンバー	IAD2101-S
1単位：後期1コマ	1〜2年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
学生のニーズにあわせて授業を計画します。

[履修の条件]
(1)留学、あるいはインターンシップ海外インターンシップのための準備、学生のニーズに合わせて行う。
(2)次の手続きを経て、履修が認められる。
・履修希望者は、次の学年はじめのオリエンテーション期間中に担当教員に申し出、履修内容、履修計画等を提出する。

・履修届最終期限前に教養部の教授会で承認を得て、履修届をする。
(3)通常の授業(1コマについて、100分授業を少なくとも13回)と同じかそれ以上の教員との学習、そのための予習・復習の学習が必要である。
(4)学習状況が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

[講義概要]
学年度始めの履修計画に基づいて、1コマについて少なくとも週1回の指導を受け、勉強を続けていく。

■授業計画
第1回　Orientation/Needs Assessment
第2回　First reading
第3回　Homework/Second reading
第4回　Homework/Third reading
第5回　Homework and discussion/Fourth reading
第6回　Homework/Fifth reading
第7回　Homework/Sixth reading
第8回　Homework/Seventh reading
第9回　Homework/Next reading
第10回　Homework and discussion/Next reading
第11回　Homework and discussion/Next reading
第12回　Homework and discussion/Next reading
第13回　Homework and discussion/Next reading
第14回　Final project
　　Writing, presentation, etc.
第15回　Speaking Test

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
先生の提供するプリントを事前によく読んでおくこと。本科目では、各授業200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業に内容によって、個人的指導、など。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
学生の履修計画に基づいて、適切なテキストを担当教員が選択する。

[参考文献]
必要な時に授業内で情報提供する。

ドイツ語初級 I

科目ナンバー	GFL2104-S
1単位：前期1コマ	1〜2年
多田　哲	

[到達目標]
文字の読み方や発音などの初歩から始めて、ドイツ語の理解に不可欠である基礎を身につけます。

[履修の条件]
指定のテキスト(教科書)と独和辞書を用意してください。
後期の「ドイツ語初級 II」を履修するには、この「ドイツ語初級 I」を履修しておくこと。
「ドイツ語初級 I」と「ドイツ語初級 II」は連続した講義を行う。

[講義概要]
ドイツといえば、ビールやソーセージを思い浮かべるでしょうか。あるいは、中世そのままに残る美しい街並みや壮麗なお城を思い浮かべるでしょうか。ドイツは、宗教改革者マルティン・ルターが生まれ育ったところであり、ルーテルの始まりの地です。音楽の父バッハや、文豪ゲーテ、哲学者カントを育んだドイツの歴史と文化は、ドイツ語によって綴られてきました。ドイツ語を学ぶと、その歴史と文化、そしてルーテルの精神に直に触れることができます。ドイツ語は元々、英語と同じ言語から派生した姉妹言語で、文法がよく似ています。講義では基本的な文法を習得しながら、簡単な会話にも挑戦し、ドイツ語圏諸国の文化事情なども扱います。

■授業計画
第1回　ドイツ語を話す国々、アルファベート
第2回　ドイツ語のあいさつ、発音の基本(1)
第3回　ドイツ語の独特の音、発音の基本(2)
第4回　ドイツ語のならべ方、動詞の現在
第5回　ドイツ語の自己紹介、小テスト!
第6回　ドイツ語のカタチ、冠詞と性・数・格
第7回　ドイツ語の作文、代名詞と疑問詞
第8回　ドイツ語の数え方、数字と時間
第9回　ドイツ語の不規則、動詞の変化
第10回　ドイツ語の家族関係、小テスト!
第11回　ドイツ語の否定、冠詞類の数々
第12回　ドイツ語の空間、前置詞と格支配
第13回　ドイツ語の構造、複合動詞と前綴り
第14回　ドイツ語の復習、前期で習ったこと
第15回　ドイツ語の試験、後期も待ってます

[成績評価]
試験(40%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価(備考)]
授業内容にかかわる積極的な発言、質問等。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には付属 CD が付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学

習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
小テストのフィードバックは次回の授業時に行うか、あるいは各自の答案にコメントを添えて返却します。

［ディプロマポリシーとの関連性］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

［テキスト］
西村佑子、ルドルフ・ペトリック著「新・行ってみたいなドイツ」郁文堂、2013年、本体2,500円+税。

［参考文献］
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめ　―改訂版―』白水社、2003年、本体1600円+税。
独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

ドイツ語初級 II

科目ナンバー	GFL2105-S
1単位：後期1コマ	1〜2年
多田　哲	

［到達目標］
ドイツ語の基礎を学び、平易な文章や日常会話の理解に不可欠な要素を習得します。

［履修の条件］
指定のテキスト（教科書）と独和辞書を用意してください。
この「ドイツ語初級 II」を履修するには、前期の「ドイツ語初級 I」を履修している必要があります。
「ドイツ語初級 I」と「ドイツ語初級 II」は連続した講義を行う。

［講義概要］
ドイツといえば、ベンツや BMW を思い浮かべるでしょうか。
あるいは、サッカーのブンデスリーガや脱原発・エコロジーを思い浮かべるでしょうか。ドイツは、宗教改革者マルティン・ルターが生まれ育ったところであり、ルーテルの始まりの地です。楽聖ベートーベンや、科学者アインシュタインを育んだドイツの歴史と文化は、ドイツ語によって綴られてきました。ドイツ語を学ぶと、その歴史と文化、そしてルーテルの精神に直に触れることができます。
ドイツ語は元々、英語と同じ言語から派生した姉妹言語で、文法がよく似ています。講義では基本的な文法を習得しながら、簡単な会話にも挑戦し、ドイツ語圏諸国の文化事情なども扱います。

■授業計画
第1回　ドイツ語のムード、話法の助動詞
第2回　ドイツ語のレシピ、命令法と提案
第3回　ドイツ語のカレンダー、形容詞
第4回　ドイツ語の響き、基数と序数
第5回　ドイツ語の興味、小テスト!
第6回　ドイツ語のそれ自身、zu 不定詞
第7回　ドイツ語の時間、動詞の過去
第8回　ドイツ語のメルヘン、比較表現
第9回　ドイツ語のゲ、現在分詞と過去分詞
第10回　ドイツ語の完了、小テスト!
第11回　ドイツ語のメール、手紙の書き方
第12回　ドイツ語のちょっと難しい文法
第13回　ドイツ語のけっこう難しい文法
第14回　ドイツ語の復習、後期で習ったこと
第15回　ドイツ語の試験、初級の総仕上げ

［成績評価］
試験（40%）、レポート（0%）、小テスト（20%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

［成績評価（備考）］
授業内容にかかわる積極的な発言、質問等。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には付属 CD が付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
小テストのフィードバックは次回の授業時に行うか、あるいは各自の答案にコメントを添えて返却します。

［ディプロマポリシーとの関連性］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

［テキスト］
西村佑子、ルドルフ・ペトリック著「新・行ってみたいなドイツ」郁文堂、2013年、本体2,500円+税。

［参考文献］
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめ　―改訂版―』白水社、2003年、本体1600円+税。
独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

外国の言語と文化 初級（韓国語）

科目ナンバー	GFL2107-S
1単位：前期1コマ	1〜4年
金　元恵	

［到達目標］
言語はコミュニケーション及びその国の文化理解のために大切な手段です。一番近い外国である韓国の言語を楽しく身につけて、新しい世界を発見することを目指す。

［履修の条件］
言葉（言語）と文化に興味ある学生で、積極的に発音と会話の習得を望む学生。

［講義概要］
①文字と発音から始め、読み書きができ、韓国語で「自己紹介」ができるまで練習する。
②基本的な単語の意味と発音を練習する。そして、基本的な文法を習得して、単文作成を学ばせる。
③テーマに従って会話の練習をする。教師と学生、および学生間の会話の形式をとる。

■授業計画
第1回　ハングルの由来と文化
第2回　文字の母音について　発音を書く練習
第3回　文字の子音について　発音を書く練習
第4回　文字の濃音・激音について　発音を書く練習
第5回　文字の終音（パッチム）の練習
第6回　日常生活の基本的な単語の意味と発音の練習
第7回　自己紹介の文章を作成
第8回　文法①　単文作成を学ぶ・発音のテスト
第9回　文法②　単文作成を学ぶ
第10回　自己紹介の練習
第11回　形容詞とその連体形を学ぶ
第12回　動詞の語幹につける語尾変化（1）
第13回　動詞の語幹につける語尾変化（2）
第14回　アオガエル物語
第15回　自己紹介の発表　試験

［成績評価］
試験（40%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
配布した課題プリントを次回授業のために50分予習すること。授業で学んだ文法を身につけ、毎日新しい単語を5つずつ覚えるために、50分復習すること。

［試験・レポート等のフィードバック］
講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。また、発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
この科目を習得することによって、韓国語による他者理解と自己表現を身につけることができる。

［テキスト］
特定の教科書は使用せず、随時必要なプリントを配布する。

［参考文献］
随時、必要な参考文献を提示する。

［備考］
授業への参加などの態度が良好で、かつ三分の二以上の出席が評価の前提となる。

外国の言語と文化（フィリピノ語）

科目ナンバー	IAD2102-S
1単位：後期1コマ	1〜4年
原島　博	

［到達目標］
本講座を通じて、フィリピンへの海外研修、海外インターンシップA（フィリピン）で使えるフィリピノ語の日常表現を習得することに加え、フィリピン社会・文化を理解することを目標とします。

［履修の条件］
語学学習は継続することが大切ですので、最後までついてきてほしい。フィリピンへの海外研修、海外インターンシップへ参加を予定している学生は履修してください。

［講義概要］
フィリピン共和国は、100以上の言語と1100の島から成り立つ、東南アジアの多民族、多言語国家であります。マレー半島から人々の移動、定住する前から先住民がすでに現在のフィリピン諸島には暮らしていました。欧米の植民地主義の過程でスペイン、米国、日本の支配を受けました。今日において日本とフィリピンの経済関係は密接な関係にあります。文化の面においても日本のアニメやJポップも普及しています。また、フィリピン人は国際結婚、看護師・介護士として近年来日しています。授業では、フィリピノ語学習を通して、社会や文化についても学んでいきたいと思います。

■授業計画
第1回　あいさつ：Magangdang umaga po.
第2回　呼びかけと自己紹介：Kumusata ka?
第3回　別れのあいさつ：Sige. Mauuna na ako.
第4回　相手についてたずねる：Sino siya? Ano siya?
第5回　ほめる表現：Masarap!
第6回　形容表現：Mainit ba sa Maynila?
第7回　時間の表現：Anon oras na? Ala una na ngayon.
第8回　欲求を伝える：Gusto kong kumain ng adobo.
第9回　用事を伝える：May miting ako mamayang hapon.
第10回　所有をたずねる：Kanino ang kotse na iyon?
第11回　依頼の仕方：Paki sabi lang sa kaniya.
第12回　〜しましょう：Magsine tayo ng iwojima karano tegami.
第13回　まとめ1
第14回　オーラル・プレゼンテーション
第15回　ー

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（70%）

［成績評価（備考）］
授業で学んだ表現方法を活用したオーラルプレゼンテーションを実施する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習

等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
学んだことをオーラルプレゼンテーションしてもらい、その内容に応じてその場でコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力を高めることに該当する。アジアの一員である日本人として、フィリピノ語を学ぶことを通して、コミュニケーションスキルを身に付ける。歴史や文化を学ぶことを通してフィリピン人の理解を深め、日本とフィリピンを取り巻く国際関係についての理解を深める。

[テキスト]
『ゼロからはじめるフィリピノ語』澤田公伸、下平英輝著　三修社　2007年
各自で購入のこと。

[参考文献]
『ニューエクスプレス　フィリピン語』山下美智子著　白水社　2010年
『ゼロからはじめるフィリピノ語』澤田公伸、下平英輝著　三修社　2007年
『フィリピン語文法入門』大上正直著　語研　2003年
『フィリピン語単語2000』山下美智子　白水社　1989年
『現代フィリピンを知るための61章』大野拓司、寺田勇文編著　2007年
『フィリピンの辞典』「東南アジアを知るシリーズ」同朋会、1992年

日本語特講(留学生)I

科目ナンバー	GFL2111-S
1単位：前期1コマ	1〜2年
ドイル　綾子	

[到達目標]
①日本語の学術的文章作成に必要な技能、知識を習得する。(通年)
②自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。(通年)

[履修の条件]
これから卒業論文や修士論文、博士論文を執筆する予定であること。

[講義概要]
本授業では、日本語で学術的文章を書く上で必要な技能を、講義と演習によって身につけていきます。毎週、授業で扱う技能を使って小論文を書く課題が出されます。翌週の授業では、課題文章を他の受講生と検討し合います。そのため、「書く」課題と授業への積極的な取り組みを期待します。

■授業計画

第1回　ガイダンス　講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介、
　　学術的文章とは何か
第2回　学術的文章にふさわしい日本語−講義−
第3回　学術的文章にふさわしい日本語−文章検討−
第4回　一文一義で書く−講義−
第5回　一文一義で書く−文章検討−
第6回　文と文の関係を明示する−講義−
第7回　文と文の関係を明示する−文章検討−
第8回　明確な語句を使う−講義−
第9回　明確な語句を使う−文章検討−
第10回　「マップ」を使って書く−講義−
第11回　「マップ」を使って書く−文章検討−
第12回　全体を構成する−講義−
第13回　全体を構成する−文章検討−
第14回　全体を構成する−文章検討−
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストの指定箇所を読む。
毎週習った技能を意識し、文章を作成する。
本科目では各授業回に約50分の準備学習を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
対話によって文章を検討しながら行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。
学術的文章の書き方を学ぶことを通して、自己の考えを深化し、その考えを他者に端的に伝えることができる能力の獲得を目指す。

[テキスト]
佐渡島紗織・吉野亜矢子(2008)『これから研究を書くひとのためのガイドブック−ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房　2,160円

[参考文献]
浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版　2,700円

[備考]
留学生以外の履修も歓迎する。ただし、履修希望者が多数の場合には、履修を遠慮していただくことがある。

日本語特講(留学生)II

科目ナンバー	GFL2112-S
1単位：後期1コマ	1〜2年
ドイル　綾子	

[到達目標]
①日本語の学術的文章作成に必要な技能、知識を習得する。

（通年）
②自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。（通年）

［履修の条件］
これから卒業論文や修士論文、博士論文を執筆する予定であること。

［講義概要］
本授業では、日本語で学術的文章を書く上で必要な技能を、講義と演習によって身につけていきます。毎週、授業で扱う技能を使って小論文を書く課題が出されます。翌週の授業では、課題文章を他の受講生と検討し合います。そのため、「書く」課題と授業への積極的な取り組みを期待します。

■授業計画
第1回　論点を整理して書く−講義−
第2回　論点を整理して書く−文章検討−
第3回　数え上げて書く−講義−
第4回　数え上げて書く−文章検討−
第5回　パラグラフを作る−講義−
第6回　パラグラフを作る−文章検討−
第7回　抽象度を調節する−講義−
第8回　抽象度を調節する−文章検討−
第9回　参考文献を示す−講義−
第10回　参考文献を示す−参考文献リスト検討−
第11回　ブロック引用をする−講義−
第12回　ブロック引用をする−文章検討−
第13回　要約引用をする−講義−
第14回　要約引用をする−文章検討−
第15回　−

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
テキストの指定箇所を読む。
毎週習った技能を意識し、文章を作成する。
本科目では各授業回に約50分の準備学習を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
対話によって文章を検討しながら行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。
学術的文章の書き方を学ぶことを通して、自己の考えを深化し、その考えを他者に端的に伝えることができる能力の獲得を目指す。

［テキスト］
佐渡島紗織・吉野亜矢子（2008）『これから研究を書くひとのためのガイドブック−ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房　2,160円

［参考文献］
浜田麻里・平尾得子・由井紀久子（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版　2,700円

［備考］
留学生以外の履修も歓迎する。ただし、履修希望者が多数の場合には、履修を遠慮していただくことがある。

人間・文化とキリスト教Ⅰ

科目ナンバー	ICS3201-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
藤原　佐和子	

［到達目標］
①アジアの人間・文化についての基礎的知識を身につけること
②アジアの国や地域にキリスト教がもたらした影響について、説明できるようになること

［履修の条件］
原則的にプリントを配布しないため、授業中に必要なノートテイクができること（講義にはスライドを使用する）。

［講義概要］
キリスト教には「西洋の宗教」というイメージがあるかもしれない。しかし、キリスト教を信仰する人々の過半数が非西洋諸国に分布している点に注目してみると、「アジアの宗教」の一つとしてのキリスト教の姿が見えてくる。
この科目では、私たちの「隣人であるアジア」（特に東アジア）の人間・文化について理解するために、歴史、経済、文化、社会、宗教、日本との関係などについてのアウトライン、また、アジアにおいてキリスト教がどのような役割を果たし、どのように展開されてきたかの要点を学ぶ。また、時事的な課題についても取り上げていく。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：「隣人」としてのアジアの人間・文化
第2回　韓国の現在：第二次世界大戦から現在まで
第3回　韓国の宗教事情
第4回　朝鮮半島のキリスト教史①
第5回　朝鮮半島のキリスト教史②
第6回　台湾の現在：国際関係①
第7回　台湾の現在：国際関係②
第8回　台湾の宗教事情
第9回　香港の現在：香港返還から現在まで
第10回　雨傘運動とキリスト教
第11回　中国本土の現在：人権問題を中心に
第12回　香港と日本、労働、家族
第13回　中国本土、香港のキリスト教（課題の配布）
第14回　総括　（課題の提出）
第15回　−

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（60%）、そ

の他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
第13回目に、授業内容の理解度を問い、受講者の考えの論述を求める「課題」を配布する。第14回目に教室内で提出すること。授業内での受講者への質いかけに対する回答、リアクションペーパーでのコメントをその他の評価方法に含む。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
講義で取り扱うテーマについて、書籍、新聞、インターネット等を用いた情報収集を行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」、「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目の履修を通して、アジアの国や地域との共同性の感覚（隣人であること）についての理解を深めることができる。

［ 備考 ］
受講者の人数、理解度、関心等に合わせて、授業計画を適宜変更する可能性がある。授業内容に関連するイベント、会議、プレスリリース等の情報発信が国内外において行われた場合には、授業内で紹介することがある。スライドの撮影、講義の録音・録画は認めない。

人間・文化とキリスト教 II

科目ナンバー	ICS 3202-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
藤原　佐和子	

［ 到達目標 ］
①様々なSOGIを生きる「人間」についての基礎的知識を身につけること
②「文化」や「キリスト教」の抑圧的側面と解放的側面について、具体的に説明できるようになること

［ 履修の条件 ］
原則的にプリントを配布しないため、授業中に必要なノートテイクができること。

［ 講義概要 ］
キリスト教の長い歴史において、「人間」という言葉がたいていの場合、「男性」を指してきたという事実は否定しがたい。しかしながら、私たちの多くがすでに知っているように、今日、「人間」という言葉が指し示すべきものは、複数形の男性たち、女性たち、LGBTIQの人々など、あらゆる“SOGI”（sexual orientation and gender identity）を生きる人々に開かれるべきだと考えることができる。この科目では、「文化と神学のためのアジア女性資料センター」（Asian Women's Resource Centre for Culture and Theology）が編纂したモジュール（Modules on Asian Feminist Theologies）をベースとした講義を通して、SOGIの視点から「人間・文化」と「キリスト教」のあり方を探求し、よりインクルーシブ（包括的）になっていくための実践について考えていく。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：キリスト教は「男性」だけのものか
第2回　「アンプリファイ」とアジア・エキュメニカル女性総会
第3回　女性に「なる」ということ（セックスとジェンダー）
第4回　フェミニズム（ス）を理解する
第5回　なぜアジアで女性が「神学する」のか
第6回　アジアの女性たちの神学運動史
第7回　旧約聖書における女性たち①（古代イスラエル社会の女性たち）
第8回　旧約聖書における女性たち②（沈黙の女性たち、大胆な女性たち）
第9回　旧約聖書における女性たち③（神の「女性的」イメージ）
第10回　新約聖書における女性たち①（イエスの時代の女性たち）
第11回　新約聖書における女性たち②（イエスと女性たち）
第12回　新約聖書における女性たち③（パウロと女性たち）
第13回　セクシュアリティとキリスト教（クィア神学）：（課題の配布）
第14回　総括（課題の提出）
第15回　－

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（60％）、その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
第13回目に、授業内容の理解度を問い、受講者の考えの論述を求める「課題」を配布する。第14回目に教室内で提出すること。授業内での受講者への質いかけに対する回答、リアクションペーパーでのコメントをその他の評価方法に含む。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
講義で取り扱うテーマについて、書籍、新聞、インターネット等を用いた情報収集を行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」、「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目の履修を通して、人間・文化とキリスト教について、SOGIの視点から理解を深めることができる。

［ 備考 ］
受講者の人数、理解度、関心等に合わせて、授業計画を適宜変更する可能性がある。授業内容に関連するイベント、会議、プレスリリース等の情報発信が国内外において行われた場合には、

授業内で紹介することがある。スライドの撮影、講義の録音・録画は認めない。

キリスト教の人間観 I

科目ナンバー	ICS 3203-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
ジェームズ・サック	

[到達目標]
1.われわれは多元的な社会に住んでいるので、いろんな視点から(心理学的、社会的、神学的、人類学的な)人間を理解して、人間の存在の生きがいを探る。
2.いろいろな角度から現代の人間問題と取り組む。
3.課題図書を読み、小グループで議論して、自分の意見を積極的に表現するように奨励する。コミュニケーション・スキルを高める。

[履修の条件]
履修者の積極的な参加と発言を期待する。キリスト教という視点から人間を考える興味を持つ、意欲的な学生が望ましい。

[講義概要]
読書とグループ・ディスカッションを通して人間の喜び、悩みとジレンマを討議して、自分の思考と意見を伝える。講義と体験学習方式で授業を行い、人間って、どんな存在でしょうかということを検討しながら、人間理解をする。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：講義の進め方、授業にしようするテキストや参考文献を紹介する。
第2回　方法論・主な課題：この学期取り上げる主な課題を説明する。「脳：限るな創造性」のビデオを見てから、意見交換をする。
第3回　ヘンリ・ナウエン　「静まりから生まれるもの」第１章を考える
第4回　ヘンリ・ナウエン　「静まりから生まれるもの」第２章を考える
第5回　受容と曖昧さを考察する。
第6回　「コミュニケーションとは?」というテーマを勉強する。ポール・トゥルニエ氏が書いた「人間：仮面と真実」(第１章)を読んで、少人数と全体として討議する。
第7回　自己概念の体験学習をする。トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第２章)を読んで、少人数と全体として討議する。
第8回　「サヴァン症候群」のビデオを見る。トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第３・４章)の抜粋を読んで、少人数と全体として討議する。
第9回　家族関係と出産順位の体験学習をする。
第10回　トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第８章)の抜粋を読んで、少人数と全体として討議する。
第11回　トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第９章)を読んで、少人数と全体として討議する。
第12回　ビデオ：「命は誰のものなのでしょう」を見てから意見交換をする。
第13回　ビデオ：「ＡＬＳとの戦い」と「モリー先生との火曜日」を見てから意見交換をする。
第14回　ビデオ：「ピーターの教室」を見てから"Mainstreaming"(普通学級参加)の長所と短所について話し合う。
第15回　レポートの提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(25%)、その他の評価方法(25%)

[成績評価(備考)]
成績評価のその他は少人数グループの話し合いの内容を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
キリスト教の人間観(I)では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。授業前に配布された資料を予め読んでおく。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートに対するフィードバックを次回の授業内容において行なう。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。物事の本質を把握し、問題点の発見、解決策を提言をし、実行できるように、必要とされる他の人々の協働作業を創り、積極的に参与できるようになることを身につける。

援助者になる学生がきちんと人間の話を聞いて、援助するようになることが出来る。

[テキスト]
「人間・仮面の真実」ポール・トゥルニエ　山村嘉己・渡辺幸博
ヨルダン社　1,900円
プリントをまとめたものを配布する。

[参考文献]
教材としてビデオを使用します。

キリスト教の人間観 II

科目ナンバー	ICP 3201-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
ジェームズ・サック	

[到達目標]
1.心理学的、社会的、神学的、倫理的、人類学的な視点から人間を理解して、人間の存在の生きがいを探る。
2.現代の人間問題と取り組む。
3.講義や小グループとしてジレンマのケース・スタディを提出することやグループで議論して自分の意見を積極的に表現するように勉強する。
4.授業の勉強と知識に基づいて、深く議論したり、意見を交換したりする。

[履修の条件]
キリスト教の人間観(I)を履修しなくても、キリスト教の人間観(II)を履修できる。

[講義概要]
講義、グループ・ディスカッションとケース・スタディを通して人間のジレンマを討議して、自分の思考と意見を伝える。講義とジレンマのケース・スタディ方式で授業を行なう。少人数のグループは一緒に特定のジレンマのケースを授業で提出する。全員でケースの選択を配慮してそれぞれの選択の当然の成り行きを検討する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：講義の進め方、授業に使用する教材や参考文献の紹介。ジレンマのビデオ：「無罪か有罪か」を見る。
第2回　ジレンマや少人数のケース・スタディとグループの発表を説明する。
第3回　講義：「自我」
　　少人数のケース・スタディの準備
第4回　講義：「他者関係」
　　少人数のケース・スタディの準備
第5回　講義：「神との関係」
　　少人数のケース・スタディの準備
第6回　少人数のケース・スタディの準備
第7回　少人数のケース・スタディの準備
第8回　最終の少人数のケース・スタディの準備
第9回　ケース・スタディの発表(グループ１)
第10回　ケース・スタディの発表(グループ２)
第11回　ケース・スタディの発表(グループ３)
第12回　討議：「解離性」
　　ビデオ：「私の中の他人」を見てから一緒に考える。
第13回　討議：「ウイリアムス症候群」
　　ビデオ：「ウイリアムス症候群」を見てから討議する。
第14回　マインドフルネスを考えると後期のまとめ
第15回　レポートの提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
成績評価のその他はグループ・ディスカッションの発言内容です。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
キリスト教の人間観(II)では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。配布された資料を読む。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートに対するフィードバックを次回の授業内容において行なう。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。援助者になる学生がきちんと人間の話を聞いて、援助するようになることが出来る。

[テキスト]
プリントをまとめたものを配布する。

[参考文献]
「甘えの構造」　土居健郎、弘文堂、1985年

社会福祉の基礎

科目ナンバー	ISW3201-L
2単位：前期1コマ	2年
浅野　貴博	

[科目補足情報]
３・４年次で「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績(※「良」以上)で単位取得済みであることが必須条件となる。

[到達目標]
①社会福祉関係法制度それぞれの成り立ちと内容についての基礎的な知識を習得する。
②ソーシャルワーク実践活動がどのような法制度の枠組みで行われているかを理解する。
※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、"主体的に"学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

[履修の条件]
・「社会福祉入門」を履修済みであること。但し「社会福祉入門」が単位取得できていなくても「ソーシャルワーク実習」の履修を希望する場合は必ず履修すること。
・編入生で「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する場合は、この「社会福祉の基礎」から履修すること。

[講義概要]
本講義では、実習に臨むにあたって必要とされる、社会福祉関係法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基礎的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、老人福祉法、介護保険法について学ぶ。受講生の問題関心を深めるために、適宜参考文献・資料を紹介したり、新聞記事等を教材として活用し小グループでの討議も行う。

■授業計画
第1回　・オリエンテーション：授業の概要と方針について
　　・レポートのまとめ方
第2回　障害者福祉法制度の歴史と今日的動向①
第3回　障害者福祉法制度の歴史と今日的動向②
第4回　障害者総合支援法の理解①
第5回　障害者総合支援法の理解②
第6回　身体障害者福祉法の理解
第7回　知的障害者福祉法の理解①
第8回　知的障害者福祉法の理解②

第9回　精神保健福祉法の理解①
第10回　精神保健福祉法の理解②
第11回　老人福祉法の理解①
第12回　老人福祉法の理解②
第13回　介護保険法の理解①
第14回　介護保険法の理解②
第15回　定期試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
実習及び実習関連科目を履修するための必須科目であるため、遅刻・欠席に関しては厳しく対応する。なお、実習及び実習関連科目履修の可否については、成績をはじめ、授業態度等を勘案し、社会福祉領域の会議にて審議し最終的に決定する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定された参考資料・文献を読んで授業に参加すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計14回の授業で90時間となる。定期試験に備えて復習を欠かさないようにすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題レポートに関して、オフィスアワーを用いて質問等を受け付ける。なお、課題レポートの評価および定期試験の結果については、希望者には開示する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、ソーシャルワーカーとして必要な社会福祉関係法制度に関する基本的知識を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

[テキスト]
参考文献に挙げた2点は必須ではないが、持っておくことが望ましい。その他必要な資料は適宜配布する。

[参考文献]
①『社会福祉小六法』(各社から出版されている最新版)
②厚生労働統計協会『国民の福祉と介護の動向2019/2020年版』
※上記以外の参考文献については「リザーブブック」として紹介する。

ソーシャルワーク論Ⅰ

科目ナンバー	ISW3202-L
2単位：前期1コマ	2年
福島　喜代子	

[到達目標]
①相談援助の専門職(ソーシャルワーカー)としての価値、理念を理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる知識を理解する。
③包括的・総合的な援助を考える力を得る。

[履修の条件]
社会福祉入門、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱを履修しているか並行履修していること。社会福祉の基礎(社会福祉入門Ⅱ)を並行履修していることが望ましい。
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目である精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰへ読み替えをする科目でもある。

[講義概要]
授業は、講義と演習からなる。継続的な講義、演習により、ソーシャルワークの基盤となる知識を理解し、専門職としての価値と倫理を身につけ、包括的・総合的な援助を考える力を得る。演習では、グループごとに、現場のスタッフ役のロールプレイを行いながら、課題の解決に取り組み、全体発表を行う。

■授業計画
第1回　授業のねらい、方針について、ソーシャルワークとは
第2回　ソーシャルワークの定義
第3回　ソーシャルワークの構成要素
第4回　ソーシャルワークと価値、理念
第5回　ソーシャルワークにおける権利擁護
第6回　クライエントの尊厳と自己決定
第7回　ノーマライゼーションと社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)
第8回　アウトリーチ、ケースワークとケアマネジメント
第9回　チームアプローチ、ネットワーキング、ソーシャルサポート、地域ケアシステム
第10回　ネットワーキング、他職種との連携(演習)
第11回　総合的かつ包括的な相談援助
第12回　社会資源の活用・調整・開発(演習)
第13回　ソーシャルワークの形成過程(歴史その1)
第14回　ソーシャルワークの形成過程(歴史その2)
第15回　-

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価(備考)]
参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助を行う基盤を身につけることができる。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座『相談援助の基盤と専門職』中央法規出版
初回授業で注文数を確定して、取り寄せ販売する。

[参考文献]
岩田正美著、『社会的排除−参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣 Insight。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、ソーシャルワークに関しての理念、倫理、多職種連携などについての講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論 II

科目ナンバー	ISW3203-L
2単位：後期1コマ	2年
浅野　貴博	

[科目補足情報]
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。3年次以降の社会福祉関連施設・機関におけるソーシャルワーク実習や精神保健福祉実習の基礎として位置づけられる。

[到達目標]
ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ、ソーシャルワーカーに必要な知識・技術・価値について、個別援助の方法（ケースワーク）を中心にさらに理解を進める。
※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、"主体的に"学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

[履修の条件]
原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅰを履修しているか並行履修していること。

[講義概要]
ソーシャルワーク実践を支える基礎理論、ソーシャルワーク実践のプロセス（展開過程）、相談援助をする上での基礎的な面接技術等を主に学ぶ。授業は講義と演習からなり、講義だけでなく、グループでのディスカッションやロールプレイ等のワークを適宜取り入れて進められる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　ソーシャルワークの機能と構造
第3回　人と環境の交互作用
第4回　相談援助における援助関係①
第5回　相談援助における援助関係②
第6回　小テスト①（予定）
第7回　相談援助のための面接技術①
第8回　相談援助のための面接技術②
第9回　相談援助のための面接技術③
第10回　相談援助の展開過程①
第11回　相談援助の展開過程②
第12回　ソーシャルワーク実践の基礎理論①
第13回　ソーシャルワーク実践の基礎理論②
第14回　小テスト②（予定）
第15回　※定期試験は実施しない

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（60%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
グループでのディスカッションやロールプレイ等のワークにおける授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定された参考文献を読んで授業に参加すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計14回の授業で90時間となる。小テスト（※計2回）に備えて復習を欠かさないようにすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テスト（※計2回）の実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、ソーシャルワーカーとして必要な基本的な知識と技術を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

[テキスト]
特定のテキストは使用しないが、各社から出版されている社会福祉士養成講座の『相談援助の理論と方法Ⅰ』『相談援助の理論と方法Ⅱ』

[参考文献]
①川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
②北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編（2010）『ソーシャルワーク実践の基礎理論（改訂版）』有斐閣
③空閑浩人編著（2009）『ソーシャルワーク入門〜相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房

ターミナルケアとグリーフワーク

科目ナンバー	ISW 2215-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
加藤　純（コーディネーター）	

［ 到達目標 ］
ターミナルケアとグリーフワークにおける人の尊厳の保持の必要性、人の生き方の尊重など、理論と方法を習得するプロセスを経て、理解力を深める。

［ 履修の条件 ］
コースを問わず２年生から４年生を対象とします。この科目は現場実習の準備教育または事後教育の一環として組み入れているため、実習やインターンシップに参加を予定している学生・参加した学生は、ぜひ履修してください。講義の他に、体験学習や討論形式を採用するため、事前準備・事後学習として文献による学習が求められます。

［ 講義概要 ］
開講方法）おおよそ隔週で１回につき２コマ開講します。下記の授業日程や授業題名は変更される場合があります。初回授業の際に授業日程と授業題名一覧表を配布します。
授業内容）人との関わりを取り上げ、人の尊厳の保持について、宗教的、哲学的、心理的、社会的、芸術的、精神的、物理的、身体的側面から考えます。喪失体験や喪の作業を中心に実践でのさまざまな専門家による、生と死について、人の生きざまについて理解させる。このような人たちに出会う機会を通して、人の理解や存在価値について考えます。

■授業計画

第１回　喪失とソーシャルワーク体験。
　　オリエンテーション（授業の趣旨・目的、日程と内容、課題と評価）
第２回　ホスピスと在宅診療から見たより良い看取りとは
第３回　グリーフワークの理論
第４回　グリーフワークの実際
第５回　終末医療における患者のケア
第６回　ソーシャルワークの視点から見たターミナルケアとグリーフワーク
第７回　終末医療における家族心理
第８回　がんで配偶者を亡くした人の介護生活から死別後までの心理過程
第９回　アートセラピーとグリーフワーク（１）理論的学習
第10回　アートセラピーとグリーフワーク（２）体験的学習
第11回　音楽による看取りのケア
第12回　スピリチュアル・ペインとそのケア
第13回　患者の尊厳・権利と告知
第14回　本講座のまとめ（まとめの必要性、本講座が参加者各自に持つ意味）
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（10％）

［ 成績評価（備考） ］
出席日数、学期中のレポートの提出などで総合的に評価する。
課題提出は毎回の授業へのフィードバック。
その他には、参加態度、意見交換を含む。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
テキストや参考文献などにより予習・復習することを薦めます。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
ゲストスピーカー・講師が受講生の理解や感想、疑問などを把握できるように、毎回の授業でフィードバックを記していただきます。期末レポートへのコメントや返却を希望する場合には、レポートの表紙に明記してください。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目では、人のいのちと生き方を尊ぶ基本姿勢と、全人的なケアに必要な知識について学びます。

［ テキスト ］
これまでの講義をまとめたテキスト（１冊500円、残部少）を、学生支援センターで購入できます。

［ 参考文献 ］
各講師から追加資料として、参考文献が提示されます。

［ 備考 ］
2018年度から隔年開講としています。2020年度の次は2022年度に開講します。

障害者福祉の諸問題

科目ナンバー	ISW 3204-L
2単位：前期1コマ	2年
髙山　由美子	

［ 到達目標 ］
障害児者福祉諸制度の基礎となる理念・考え方を習得する。
わが国の障害者福祉をめぐる状況は大きな転換期に差しかかっている。この様な時期こそ、受講者各自が、歴史的経緯や基本理念を改めて明確にして、現状とこれからを見通す視点を持つことが必要である。したがって本講義では受講者一人ひとりがそのような素養を身に付けることができるようにすることを目標に授業を進める。

［ 履修の条件 ］
２年生以上であれば、各自の履修プランにしたがって受講可能。
障害分野での実習を検討している人、後期開講の『障害者福祉論』を履修予定の人は、本科目の履修を薦める。

［講義概要］
本講義では、障害者の各ライフステージを念頭におき、障害福祉のあり方や施策等の基盤にある考え方と今日的動向をふまえ、1回ごとにテーマを設定する。障害者福祉サービスに関する具体的な制度等については「障害者福祉論」で取り扱う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/障害者福祉の歴史的概観
第2回　障害者福祉の理念
第3回　障害者の権利条約の意義
第4回　障害者差別解消法の意義
第5回　障害と出生前診断
第6回　障害児・者とその教育
第7回　障害者と就労支援
第8回　障害者と地域生活1　−親及び当事者による運動−
第9回　障害者と地域生活2　−自立生活運動−
第10回　障害者と地域生活3　−地域に暮らしを築く①−
第11回　障害者と地域生活4　−地域に暮らしを築く②−
第12回　地域生活を支える社会資源
第13回　障害者福祉と権利擁護　−意思決定支援とは何か−
第14回　障害者にとっての自立と支援者の役割
第15回　定期試験

［成績評価］
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

［成績評価(備考)］
成績評価の「その他」30%は、各授業時のリアクションペーパーの提出状況と記入内容の評価。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。
障害者福祉に関する諸制度は大きく変化している状況にあるので、日々の報道はもちろん、図書館に備えられている各専門雑誌を常にチェックするようにしてもらいたい。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、以降の授業時に必要に応じて行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な権利擁護の視点と障害領域の今日的動向を理解し、対人援助の専門職に必要な価値、知識等を身に付ける。

［テキスト］
テキストは特に用いない。必要な資料は授業時に適宜配布する。

［参考文献］
『自立生活運動と障害文化−当事者からの福祉』、全国自立生活センター協議会編、現代書館、2001年
『障害者はどう生きてきたか戦前戦後障害者運動史』増補改訂版、杉本章著、現代書館、2008年
『障害者福祉の世界』第4版、佐藤久夫・小沢温著　有斐閣、2012年

［備考］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、障害領域の今日的動向についての講義を行う。

地域福祉論Ⅰ

科目ナンバー	ICD3201-L
2単位：前期1コマ	2年
市川　一宏	

［到達目標］
「ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること」を目的とする。そのため、人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等、地域福祉の基本的考え方を理解する。また、地域福祉の主体と対象、地域福祉に関わる組織、団体、及び専門職や地域住民の役割と実際および地域トータルケアシステムの構築方法について理解する。

［履修の条件］
毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。国家試験受験者以外も、「地域福祉論Ⅰ」受講者は、「地域福祉論Ⅱ」とあわせて履修することが望ましい。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

［講義概要］
毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメを資料として配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画
第1回　総論　地域福祉論を学ぶにあたって
1. 地域福祉の理念、2. 地域福祉の原則
第2回　地域福祉の発展過程
1. 戦後の地域福祉の展開、2. 新しい福祉としての地域福祉
第3回　新しい生活課題に対する地域福祉
1. 生活困窮、2. 孤立、3. 虐待
第4回　新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉
・福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体形成
第5回　地域福祉理論の発展と広がり
1. 構造論的アプローチ(①制度論的、②制度政策的、③運動論的)2. 機能論的アプローチ(①主体論的、②資源論的)
第6回　地域自立生活支援と地域福祉の概念
1. 福祉コミュニティ論、2. 主体形成
第7回　地域のとらえ方と福祉圏域
1. 地域のとらえ方と福祉圏域、2. 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携
第8回　地域福祉の主体と福祉教育
1. 福祉教育実践の2つの流れ、2. 福祉教育の概念、

3. 福祉教育の推進主体
第9回　地域福祉計画
1. 地域福祉計画の背景、2. 地域福祉計画の内容、3. 課題
第10回　社会福祉協議会
1. 成立背景、2. 機能、3. 課題
第11回　社会福祉法人
1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題（社会貢献）
第12回　ＮＰＯ、ボランティア活動
1. 基本的理念、2. 今日のおける意味、3. これからのあり方
第13回　民生委員児童委員、保護司
1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題
第14回　福祉コミュニティビジネス
1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題
第15回　試験

［成績評価］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［成績評価（備考）］
・期末試験の評価を中心に成績70％
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する評価30％

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
前期試験に関しては、後期授業の開始時にコメントを行う。課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
本講義は、以下のポリシーに該当する。
「ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること。」「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性：心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること」「それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること」

［テキスト］
新・社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法第3版」中央法規

［参考文献］
授業の中で紹介する

地域福祉論 II

科目ナンバー	ICD3202-L
2単位：後期1コマ	2年
市川　一宏	

［到達目標］
「コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること」を目的とする。多職種・多機関との連携を含む、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法、及びその実際について理解する。ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域福祉計画と地域福祉活動計画、サービスの評価方法を含む地域福祉の推進方法について理解する。地域での生活を支える地域福祉サービス、災害と地域福祉、地域福祉の財源について理解する。

［履修の条件］
毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。「地域福祉論Ⅰ」とあわせて履修すること。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

［講義概要］
毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメのパワーポイントを資料印刷し配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画
第1回　地域福祉論の原点
①地域福祉のとらえ方
②地域福祉の展開過程
③今日における地域福祉
第2回　地域福祉の方法論
①コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーション、コミュニティソーシャルワークの定義と実践
②専門職種のチームアプローチ、専門職と住民の関係
第3回　住民の参加と方法
①住民参加の諸形態と役割
②市町村社会福祉行政における住民参加
③求められる参加のレベル
④参加の具体的な形態
第4回　ソーシャルサポートネットワーク
①ソーシャルサポートネットワーク
②エコロジカルアプローチ
③ライフモデルにおけるソーシャルワーク実践の考え方
④６つの機能
第5回　地域における社会資源の活用・調整・開発
①社会資源と地域ネットワーク
②在宅生活を支援する仕組みの検討
③具体的検討課題
・インフォーマルな分野とフォーマルな分野
・個別ネットワーク
第6回　生活困窮者自立支援

①背景、②現状、③課題
第7回　地域のおける福祉ニーズの把握方法と実際
①地域診断の考え方
②広義の地域診断の進め方
③狭義の地区診断
④統計調査によるニーズ把握の方法
⑤質的なニーズの把握方法
第8回　地域福祉の推進方法⑴地域での生活を支える地域福祉サービス
①地域に根ざした多様な実践
②生活支援サービス→住民参加型在宅福祉サービス、食事サービス等
③見守り支援活動→小地域ネットワーク、ふれあいいきいきサロン等
④地域福祉型福祉サービス
第9回　地域福祉の推進方法⑵日常生活自立支援事業
①背景、②現状、③課題
第10回　地域福祉の推進方法⑶地域包括ケアシステム
地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・地域における福祉サービスの評価と質の確保
第11回　地域福祉の推進方法⑷地域トータルケアシステムの構築方法と実際
第12回　地域福祉の推進方法⑸ボランティアコーディネーション
①役割、②現状、③課題
第13回　地域福祉の推進方法⑹地域における福祉サービスの評価と質の確保
①福祉サービスの評価を必要とする背景
②評価の考え方
③評価の方法
第14回　災害と地域福祉
①災害救助と民間福祉
②災害時の避難支援、災害救助、被災後の生活支援
災害と地域福祉
第15回　試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
・期末試験の評価を中心に成績70%
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する評価30%

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義は、以下のポリシーに該当する。
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性：心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること。」「総合的・実践的な学習能力：ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること」「必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること」

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法第3版」中央法規

[参考文献]
授業の中で紹介する

社会保障論 I

科目ナンバー	ICD 3203-L
2単位：前期1コマ	2年
金子　和夫	

[到達目標]
社会保障制度の全体像を説明でき、かつ、少子高齢社会の進展と社会保障制度の改正を関連づけることができるようにする。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験、公務員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目であり、受験資格を希望する者は、「社会保障論Ⅱ」とあわせて必ず履修すること。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

[講義概要]
社会保障の歴史を中心に、理念・範囲・機能について概観し、次に、社会保障給付費を中心に社会保障の財政について、また、社会保障の各制度の概要などについても説明するとともに、今日の社会保障制度に大きな影響を与える少子高齢社会の状況を明らかにする。その後、社会保障の各論としての労災保険制度、雇用保険制度、生活保護制度などについて、また、民間保険の概要などについて指摘する。

■授業計画
第1回　社会保障の展開(外国での発展過程)
第2回　社会保障の展開(日本での発展過程)
第3回　社会保障の理念・範囲・体系
第4回　社会保障の財源と費用
第5回　少子高齢社会の動向
第6回　少子高齢社会と労働環境
第7回　社会保険以外の制度(社会手当制度・生活保護制度)
第8回　労災保険制度(概要)

第9回　労災保険制度（保険給付）
第10回　労災保険制度（課題）
第11回　雇用保険制度（概要）
第12回　雇用保険制度（保険給付）
第13回　雇用保険制度（課題）
第14回　民間保険
第15回　試験

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［成績評価（備考）］
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
少子高齢社会や人口減少社会、社会保障財政、労災保険や雇用保険、生活保護や社会手当などについては、新聞記事やＴＶニュースなどで数多く見受けられるので常に関心を持って事前に調べること。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

［テキスト］
テキストは使用せず、講義資料を配布する。

［参考文献］
『社会保障』<新社会福祉士養成講座>（中央法規）
『社会保障』<新社会福祉学習双書>（全国社会福祉協議会）
『保険と年金の動向』（厚生統計協会）
『厚生労働白書』（日経印刷）
『社会保障入門』（中央法規）
『はじめての社会保障』（有斐閣）
上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

［備考］
授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかり行ってください。

ボランティア・市民活動論

科目ナンバー	ICD2202-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
大曲　睦恵	

［到達目標］
①ボランティア・市民活動の意義・理念、歴史、制度、実際の活動の特色や課題等について学ぶ。
②地域の活動を体験することを通じて、活動の現状や活動者の思い、地域のニーズとボランティア・市民活動の意義を体験的に学ぶ。

［履修の条件］
ボランティア・市民活動について関心があること。地域で行われている活動に参加し、学ぶ意欲のあること。

［講義概要］
参加型授業を通じ、ボランティア・市民活動の意義・理念、歴史、制度、実際の活動の特色や課題等について学ぶ。また、フィールドワークの事前学習、実施、振り返りを通して、地域をフィールドとしたボランティア・市民活動に実際に参加する。ボランティア・市民活動を活動の実際や活動者の思いに直接触れる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、ボランティア・市民活動の意義・理念・現状（1）
第2回　ボランティア・市民活動の意義・理念・現状（2）
第3回　ボランティア・市民活動・地域福祉活動の歴史
第4回　ボランティア・市民活動の実際１−地域福祉分野/まちづくり等
第5回　ボランティア・市民活動の実際２−病院ボランティア
第6回　ボランティア・市民活動の実際３−高齢者福祉分野
第7回　ボランティア・市民活動の実際４−障害者福祉分野
第8回　ボランティア・市民活動の実際５−児童福祉分野
第9回　ボランティア・市民活動の実際６−国際ボランティア
第10回　ボランティア・市民活動の実際７−災害ボランティア
第11回　ボランティア・コーディネートについて/フィールドワークに向けた準備
第12回　フィールドワーク１
第13回　フィールドワーク２
第14回　フィールドワーク報告会・総括
第15回　課題提出

［成績評価］
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（60％）

［成績評価（備考）］
その他の評価方法の内訳は、フィールドワークへの参加状況40％、授業・報告会への貢献度20％である。
なお、4回以上授業を欠席した場合、またはフィールドワークに欠席した場合は、原則として不可とする。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習

等)を必要とする。
授業で紹介するさまざまなボランティアについて理解を深めておくこと。本シラバスに記載された参考文献を読んでおいたほうが、授業への理解度が深まる。
また、フィールドワーク先決定後は、フィールドワーク先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
各回のリアクションペーパー等を講義の内容に活用する。疑問に応え、参加型の学びに活かす。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性に該当する。この科目を履修することで、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を育む。ボランティア活動や市民活動についての理解を深め、ボランティアを体験し、今後の活動に生かしていけるようにする。

[テキスト]
その都度、資料を提供する。

[参考文献]
『ボランティア論　「広がり」から「深まり」へ』　柴田謙治・原田正樹・名賀亨編　(株)みらい
『よくわかるNPO・ボランティア』　川口清史・田尾雅夫・新川達郎編　ミネルヴァ書房

[備考]
※フィールドワーク実施先は、学生の希望と受入先の状況等をふまえて決定する。フィールドワークの受入先の都合等により、授業時間外の活動を行う場合があるので留意すること。
※「実務経験のある教員による科目」病院や地域において、チャイルド・ライフ・スペシャリストとしてボランティアに関わる活動していた経験を活かして、ボランティアの実態・実際に関する学びを提供する。

多文化ソーシャルワーク

科目ナンバー	IAD2201-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
原島　博	

[到達目標]
日本社会のなかで定住化する異文化を背景にもつ難民、移民が増加している現状を理解し、生活課題の特徴および課題への対応に必要な初歩的な多文化ソーシャルワークの知識、価値、技術を身につけることを目標とします。

[履修の条件]
本講義は、日本国内で増加する難民、移民の生活に関心があり、多文化ソーシャルワークの視点を大切にして、現場の実践から学ぼうとする意欲があることを条件とします。

[講義概要]
1980年代から1990年代にかけて日本経済の繁栄はアジアからの出稼ぎ労働者によって大きく支えられてきた時代があった。その過程で、労働、医療、超過滞在などの基本的人権や生活に関わる問題が生じました。現在では、オールドカマーと呼ばれる在日韓国・朝鮮の人々の高齢化、他方、労働や結婚でニューカマー(新たに来日した人々)と呼ばれるアジア及び南米出身の人々が日本の地域社会で暮らしています。今後、発展途上国内の失業と日本の少子高齢化により労働力不足が生じ、外国人労働者と家族が増加する可能性は高いといえます。すでに、2019年4月より、新たな外国人労働政策が始まろうとしています。このように日本社会は多文化・多民族化しつつあり、民族や国籍を超えて日本社会も変化していく必要に迫られています。現場での実践家による講義も含まれているので、有意義な学習ができます。

■授業計画
第1回　授業の概要と進め方
第2回　日本社会の多民族化と多文化社会
第3回　多文化ソーシャルワーク
第4回　在日コリアン
第5回　難民
第6回　外国人労働者
第7回　留学生
第8回　国際結婚
第9回　外国人政策
第10回　日本社会の人々の多様化と共生
第11回　実践事例報告①
第12回　実践事例報告②
第13回　実践事例報告③
第14回　事例検討結果の整理とまとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テーマに関する文献を読むことを通して、基本的理解を発展させてほしい。本科目では各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対する補足説明を次回の講義時に行う。課題レポートにコメントを付して返却を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシー1〜4に該当する。異文化社会から様々な理由で来日して生活している難民、移民の生活課題を理解し、多文化共生を実践する支援者に求められる人間性、知識を身に付ける。

[テキスト]
授業毎に資料を配布します。

[参考文献]
適宜紹介します。

児童福祉の諸問題

科目ナンバー	ICF 3201-L
2単位：前期1コマ	2年
加藤　純	

[到達目標]
1）「各自が関心を持つ専門領域」と「子どもや家族の生活課題」との関連を理解して、児童福祉への関心を高める。
2）子どもの幸せに関わる課題を家族の状況と関連付けて理解する。
3）子どもや家族の生活課題を、さらに広く、社会の状況と関連付けて理解する。

[履修の条件]
参考図書を読んだりレポートを書いたり、授業外の時間をかなり必要とするので、十分な意欲を持って履修してください。

[講義概要]
支援が必要な「諸問題」を理解する視点を学ぶ科目です。「問題」に対する制度政策的な対策は「児童福祉論」、実践的支援方法は「子どものプレイセラピー」「子どものグリーフワーク」「虐待への対応」などで学びます。
社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格取得に必要な指定科目ではありませんが、児童福祉論（社会福祉士の指定科目）を理解するために重要な内容を学びます。

■授業計画
第1回　「児童福祉」とは何か。
　　オリエンテーション（授業の目標、授業の進め方と内容、カリキュラム上の位置づけ、課題と成績評価）
第2回　児童福祉の目的（子どもの幸せとは何か）
第3回　ニーズの連続性（普通の育児～育児不安～児童虐待などを例に）
第4回　援助の連続性（子育て支援～補完～介入～家庭代替）
第5回　役割理論（子育てを役割と捉える）
　　子育て役割遂行に必要な養育条件と養育環境
第6回　家族の多様性と児童福祉１（親の離婚と子どもの課題）
第7回　家族の多様性と児童福祉２（ひとり親家庭の生活課題）
第8回　社会状況と児童福祉１（養護ニーズ発生理由の変遷）
第9回　家族の多様性と児童福祉３（里親・養子縁組）
第10回　家族の多様性と児童福祉４（里親・養子縁組）
第11回　家族内の課題と児童福祉１（アルコール依存症と家族）
第12回　家族内の課題と児童福祉２（家族内暴力）
第13回　学校と児童福祉（不登校といじめ問題を臨床心理と社会福祉の視点から理解する）
第14回　社会状況と児童福祉２（子どもの権利思想の展開）
第15回　-

[成績評価]
試験（40％）、レポート（40％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
「その他の評価方法」は期末の自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は３点、遅刻は１点の減点とします。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業時間内に必要な内容の全てを紹介できないので、参考文献の関連箇所を読んでください。新聞やニュース、テレビドラマ、映画などを観ながら、子どもの気持ちや子どもの幸せについて考えてみてください。本科目では各授業回におよそ200分の復習や課題学習等を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
期末試験は採点後返却します。期末試験と期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの返却を希望する場合は試験またはレポートに明記してください）。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することにより、対人援助職としての全人的な視点から課題を理解する能力を身に付けることができる。

[テキスト]
授業中に資料を配付します。

[参考文献]
白澤政和、岡田喜篤、高橋重宏他編（2003）『社会福祉士のための基礎知識 II』第３章と第４章
ウィンチェスター（2015訳）『だいじょうぶ！親の離婚』日本評論社
春日キスヨ（1989）『父子家庭を生きる』勁草書房
庄司洋子他（2002）『家族・児童福祉（改訂）』有斐閣
北川清一（2005）『児童福祉施設と実践方法［三訂］』中央法規
小松江里子（1996）『若葉のころ』講談社
ブラック（斉藤学訳, 2004）『私は親のようにならない』誠信書房
小林桜児（2016）『人を信じられない病』日本評論社
正高信男（1998）『いじめを許す心理』岩波書店

[備考]
実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および教育相談室での教育相談員としての経験を活かして、子どもや家族の生活課題や学校問題について指導します。

教育心理学

科目ナンバー	ICF 3202-L
2単位：後期1コマ	2年
佐藤　舞	

[到達目標]
①教育心理学の基本的な原理を理解すること。②教育に関わるさまざまな問題を科学的に捉える考え方を身につけること。

[履修の条件]
こちらから指定する条件は特にありません。

[講義概要]
心理学は実証科学的方法によって人の心を解き明かそうとする学問であり、扱う領域は多岐にわたる。なかでも教育心理学は、教え教わるなかで人が学ぶ過程に関わる諸問題を扱う。これらの諸問題はさらに、発達・教授・学習・認知など、複数の分野に細分化される。本講義では、これまでに集積されてきた知の体系を、14回の講義で可能な限り広く取り上げ、紹介する。基本的にパワーポイントで説明し、配布資料に学生が穴埋めする形式をとるが、一部の題材については DVD 等映像を使用したり、グループディスカッションを行ったりする場合もある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション（本講義の目的・概要・構成）
第2回　記憶（長期記憶・短期記憶・作動記憶・忘却）
第3回　学習（1）（古典的条件づけと道具的条件づけ）
第4回　学習（2）（観察学習・技能学習・学習の転移）
第5回　推論と問題解決（試行錯誤と洞察・問題解決・推論・メタ認知）
第6回　動機づけ（1）（動機づけとは）
第7回　動機づけ（2）（様々な動機づけ理論）
第8回　発達（1）（発達とは）
第9回　発達（2）（人間の発達）
第10回　発達（3）（発達理論）
第11回　発達（4）（LD・ADHD・ASD 等の発達障害の理解）
第12回　教授法（代表的な教授法・ATI・個に応じた学習指導）
第13回　教育評価（教育評価の目的・相対評価と絶対評価）
第14回　学級集団（集団の人間関係・教師期待効果・リーダーシップ・ソシオメトリー）
第15回　試験

[成績評価]
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内小テストについては、テストが実施された翌週にコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
教育心理学を学ぶことにより、教育に関わるさまざまな問題を理解する枠組みを獲得するとともに、教育現場においてつまずきや困難を抱える子どもへの支援について包括的な知識を得る。

[備考]
講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

発達心理学

科目ナンバー	ICF 3203-L
2単位：後期1コマ	2年
石川　与志也	

[到達目標]
（1）発達心理学の基本概念を理解する
（2）日常生活や臨床現場における現象を発達心理学の視点から理解する基礎を身につける

[履修の条件]
与えられることを待つのでなく、自らの好奇心と探究心を持って心の発達について理解しようとする熱意のある学生の履修を期待する。「心理学」「心理学概論」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
生涯発達の観点から発達心理学の基本概念や理論について学ぶ。
社会構造が大きく変化し、人間の発達に関わる現象も変化を呈してきている現代において、臨床現場や生活場面における発達に関わる現象をどのように理解することができるのか、ディスカッションをしながら学びを深める。

本講義は、以下の内容を含む。
①認知機能の発達及び感情・社会性の発達
②自己と他者の関係の在り方と心理的発達
③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達
④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方
⑤高齢者の心理

■授業計画

第1回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第2回　乳児期①：世界を知りはじめる
第3回　乳児期②：人との関係のはじまり
第4回　幼児期①：イメージと言葉の世界
第5回　幼児期②：自己の発達と他者との関係
第6回　児童期①：思考の深まり
第7回　児童期②：社会性の発達
第8回　青年期①：自分らしさへの気づき
第9回　青年期②：他者との関係とアイデンティティの発達
第10回　成人期：社会におけるアイデンティティの成熟と親密性の獲得
第11回　老年期：老いと円熟
第12回　教育と発達
第13回　発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方①
第14回　発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方②
第15回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
ディスカッションへの参加を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。
発達心理学に関連する基本的事項の理解ならびに自分が関心を持ったテーマを、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・中間試験の解答・解説は、原則としてテストが実施された翌週に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
主に、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、発達心理学に関する基本的知識および、現代の日本社会における人間の発達を理解する能力の基礎が身に付く。

[テキスト]
特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

[参考文献]
E.H.エリクソン〔仁科弥生訳〕(1950/1977)幼児期と社会１　みすず書房.
E.H.エリクソン＆J.M.エリクソン〔1997/2001〕ライフサイクル,その完結　増補版　みすず書房.
藤村宣之(2019)発達心理学〔第２版〕ミネルヴァ書房.
杉山登志郎(2007)発達障害の子どもたち　講談社現代新書.
その他、適宜クラス内で紹介する.

[備考]
「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、発達心理学に関わる具体的内容に関する教育を行う。

国際社会福祉概説

科目ナンバー	IAD 2202-L
2単位：前期1コマ	2年
原島　博	

[到達目標]
世界の人々の福祉を実現するためには、世界の人口の3分の2を占める発展途上国に暮らす人々の福祉を抜きして考えることはできません。国際社会福祉の目標は、地球に暮らす人々の社会問題が解決されることにあるといえます。本科目では、今日の地球社会を取り巻く変化に注目しながら、問題現象を国際的視点から理解することができるようになります。

[履修の条件]
世界の３分の２の人びとが暮らす発展途上国社会の福祉の課題を国際協力の視点から学ぶ意欲のある学生諸君の履修を期待します。海外インターンシップ（３年）の履修を考えている場合は、必ず履修してください。

[講義概要]
20世紀の国際関係に影響を与えた出来事から世界で暮らす人々のこれからの地球社会（global　society）の姿を考えたいと思います。相互依存が進む国際社会においてどのような地球規模の福祉の諸課題が生み出されているかを把握しながら、すべての人びとの安全が守られる社会のあり方を考えます。具体的には、国連憲章、世界人権宣言から人類不偏の願いを概観し、各種国際条約に基づき、平和と暴力、貧困、難民、子ども、女性、多民族共生、ガバナンスや市民社会の役割などに関する課題を扱います。そして、21世紀における私たちの近未来を描いてみたい。授業では、講義のほか、視聴覚教材を利用します。

■授業計画
第１回　世界はどのように歩んできたか
第２回　戦後の世界と今日の「人間の安全」
第３回　発展途上国と先進国の関係
第４回　「貧富の格差」と「貧困の悪循環」
第５回　「子どもの権利」
第６回　「女性と開発」
第７回　「難民と平和構築」
第８回　「移民と多文化共生」
第９回　持続可能な開発
第10回　“共有の未来”の実現とソーシャル・アクション
第11回　持続可能な開発目標（MGD s）
第12回　国際協力とソーシャルワーク
第13回　ワーカーの役割
第14回　地球社会の課題と地球市民の役割
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
参考文献を読んでおく。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回以降の講義内容において行う。課題レポートについては、コメントを付して返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシー１～４に該当する。地球規模の共通課題について総合的に学び、人間がどのように持続可能な社会を構築していくことができるかを、講義、グループ討議、ゲスト講師から学ぶことにより、全人的なヒューマンケアな高度な専門性の基礎的な学びを行う。

［テキスト］
特定の教科書は使わず、必要な資料を配布します。

［参考文献］
適宜紹介します。

カウンセリング実技の基本

科目ナンバー	ICP3202-L
2単位：前期1コマ	2年
植松　晃子	

［到達目標］
人が人を援助する際に重要なことは何か、知識の整理だけでなく頭と身体を動かしながら、体験的に対人援助の基本としてカウンセリング実技に必要な基礎を学びます。

［履修の条件］
2年生以上が履修可能です。体験型の授業ですので、授業のルールを守り、全ての授業に出席し、積極的な参加ができる人を求めます。初回に授業の概要を説明します。関心のある方は出席して、履修の際の参考にしてください。

［講義概要］
カウンセリングでの援助について、具体的な体験の中で理解しながら、専門家がどのように人と関わっていくのかを理解します。前半は討論を交えた知識の整理を中心に、後半はロールプレイを用いた体験学習を中心に授業を構成しています。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することもあります。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：授業の説明・ルールの説明
第2回　カウンセリングとはどのような援助なのか(1)心の構造と機能
第3回　カウンセリングとはどのような援助なのか(2)欲動
第4回　カウンセリングとはどのような援助なのか(3)神経症のメカニズム
第5回　カウンセリングを成り立たせるもの(1)治療的環境
第6回　カウンセリングを成り立たせるもの(2)臨床的態度1：自分の心に向う
第7回　カウンセリングを成り立たせるもの(3)臨床的態度2：共感的理解とは
第8回　カウンセリングを成り立たせるもの(4)臨床的態度3：無条件の肯定的関心とは
第9回　カウンセリングの技術(1)治療的環境をつくる1
第10回　カウンセリングの技術(2)治療的環境をつくる2
第11回　カウンセリングの技術(3)主訴を聴くとは1
第12回　カウンセリングの技術(4)主訴を聴くとは2
第13回　カウンセリングの技術(5)治療同盟1
第14回　カウンセリングの技術：まとめのロールプレイ
第15回　-

［成績評価］
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

［成績評価(備考)］
授業後に作成するワークシートによって評価する。
体験学習を含むため、その他の評価方法として、出席や積極性を重視する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
カウンセリングについての理解を深めるために、各自ノートやワークシート、また参考文献による予習と復習を薦めます。ワークシートには授業で掴んだこと、また次の授業で取り組みたいことを記入します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

［試験・レポート等のフィードバック］
毎回の授業で、各自が作成したワークシートをもとに、質問やフィードバックをする時間を設ける。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
カウンセリングに関する知識や臨床的態度とは何かを学ぶことにより、カウンセリングの基礎を学ぶ。

［参考文献］
適宜、授業内で紹介する。

心理学研究法Ⅰ(データ解析)

科目ナンバー	ICP3203-L
2単位：前期1コマ	2年
松田　崇志	

［科目補足情報］
公認心理師の資格試験の受験資格を得るためには，心理学研究法Ⅰ(データ解析)と心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)の両方を履修する必要があります。

［到達目標］
①統計の基礎を復習する
②エクセルを用いて，データ入力・図表の作成・関数が使用できる
③SPSSを用いて，代表的な統計的検定を行い，その解釈ができる

［履修の条件］
心理学統計法を履修済みであることが望ましい。
また，ワードやエクセルで文書を作成できることが望ましい。そのため，パソコンに不慣れなものはパソコンの授業を履修しておくことが望ましい。
2年後期の心理学実験で必要となるデータ処理技法を実習するものであるため，2年前期で履修すること。

［講義概要］
記述統計や推測統計の理解を基礎にして，エクセルおよびSPSSを用いてデータ分析を行い，データを用いた実証的な思考方法の獲得を目指す。
第1回の授業において，第2回以降のクラス分け(4時限または5

時限に分ける)を行うので,4時限目の授業に履修を希望する人は全員必ず出席すること。
受講生の理解に応じて,シラバスの内容は若干変動する可能性がある。

■授業計画

第1回　オリエンテーションとデータ解析の意義
第2回　データの要約①：代表値と散布度
第3回　データの要約②：Excelを用いた表と図の作成
　　課題①
第4回　相関係数と回帰分析の理解
第5回　SPSSを用いた相関係数と回帰分析の実習
第6回　統計的仮説検定の基礎
第7回　t検定の理解
第8回　SPSSを用いたt検定の実習
　　課題②
第9回　カイ二乗検定の解説と実習
第10回　要因計画と分散分析の理解
第11回　SPSSを用いた1要因分散分析(対応なし・対応あり)の実習
　　課題③
第12回　SPSSを用いた2要因分散分析(対応なし×なし)の実習
第13回　SPSSを用いた2要因分散分析(対応あり×あり)の実習
　　課題④
第14回　SPSSを用いた2要因分散分析(混合要因計画)の実習
第15回　試験

[成績評価]
試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。前回までの授業を理解したものとして進行していくので復習は必ずしてほしい。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。
提出された課題は随時返却するので,必ずどこを間違えたか,内容を確認すること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。ものごとの本質を把握し,問題点の発見,分析,事態の改善,解決策の提言をし,実行できるようになることを目指し,自らデータを分析し,その分析結果について考える作業を行っていく。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
①小塩真司『SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析』東京書籍
②山内光哉『心理・教育のための統計法』サイエンス社

[備考]
遅刻,途中退出,居眠りは厳禁。
授業内容については,毎回積み重ねの学習となる。理解できなかったところがあったら,そのままにせず,教員かTAに申し出るようにすること。
必要に応じてパソコン室で自主学習を行うことを推奨する。

心理的アセスメント

科目ナンバー	ICP3204-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
田副　真美	

[科目補足情報]
公認心理師指定科目である

[到達目標]
1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解
3. 検査者および被検査者の体験
4. 自己理解を深める
5. 心理検査結果におけるアセスメントについての理解

[履修の条件]
1. 検査の十分な知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
2. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分に理解できること
3. 検査所見などのすべてのレポート提出が可能なこと

[講義概要]
この講義では理的アセスメントの目的及び倫理および心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)を学ぶ。心理検査では、医療や教育現場および研究で使用されている質問紙法、作業検査法、知能検査を取り上げる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　授業のねらい
第2回　心理的アセスメントの目的及び倫理
第3回　心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)
第4回　心理検査の目的と留意点
　　心理検査の概要
第5回　パーソナリティの検査①　体験と解説
第6回　パーソナリティの検査②　体験と解説
第7回　状態や症状の検査①　体験と解説
第8回　状態や症状の検査②　体験と解説
第9回　状態や症状の検査③　体験と解説
第10回　内田クレペリン精神検査の体験と解説
第11回　知能検査総論
　　WISC-Ⅳ：解説、結果のまとめ方
第12回　WISC-Ⅳ・WAIS-Ⅲ：DVD視聴

第13回　田中ビネー知能検査Ⅴ：解説、DVD 視聴
第14回　事例およびまとめ
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
授業参加態度、小レポート、レポート試験により評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と秘術を身に付けることができる。

[テキスト]
必要な資料を適宜配布する。

[参考文献]
小山充道「臨床心理アセスメント」　金剛出版8,500円
沼　初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版　2,100円
願興寺礼子、住吉隆弘（編）「心理検査の実際の初歩」ナカニシヤ出版　2,600円

[備考]
「実務経験のある教員による科目」医療領域等における心理臨床経験を活かして心理的アセスメントの指導を行う。

心理学実験

科目ナンバー	ICP3205-S
2単位：後期2コマ	2年
松田　崇志、祥雲　暁代	

[到達目標]
①客観的に計測できる「行動」を指標として，人間の心の働きを科学的に捉える方法を理解する。
②心理学の代表的な実験を実施・体験することにより，実験の計画立案ができるようになる。
③小グループおよびペアで，実験データの実施・収集，統計的検定によるデータ処理，結果の適切な解釈および実験レポートの作成という過程を経験することによって，科学論文を作成する技能を身につける。

[履修の条件]
①「心理学研究法Ⅰ（データ解析）」「心理学統計法」「臨床心理フレッシュマンゼミ」を履修済みであることが望ましい。
②グループ編成を行うため，必ず初回から受講すること。また，全ての授業への出席，積極的な授業参加を求める。そのため，5回以上欠席した場合は単位を認めない。ただし，やむを得ない事情がある場合は，担当教員に相談すること。

[講義概要]
本授業では，代表的な心理学実験をいくつか取り上げて，小グループ，またはペアで実際に実験を行い，データを集計し，統計ソフトでデータ解析を経て，結果を読み取る力を身に付ける。そしてレポート作成するまでの流れを体験的に学ぶ。
なお，本授業は毎週2コマ連続で開講しており，授業計画は2コマで1回分としている。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，レポートの書き方，講義の進め方・参考文献の紹介
第2回　ミュラー・リヤー錯視：実験の手続き説明，実験，データ集計
第3回　ミュラー・リヤー錯視：実験結果の統計検定，解説
第4回　記憶の系列位置効果：実験の手続き説明，実験，データ集計
第5回　記憶の系列位置効果：実験結果の統計検定，解説
第6回　触2点閾の測定：実験の手続き説明，実験，データ集計
第7回　触2点閾の測定：実験結果の統計検定，解説
第8回　質問紙による性格の測定：実験の手続き説明，実験，データ集計
第9回　質問紙による性格の測定：実験結果の統計検定，解説
第10回　ストループ効果：実験の手続き説明，実験，データ集計
第11回　ストループ効果：実験結果の統計検定，解説
第12回　鏡映描写：実験の手続き説明，実験，データ集計
第13回　鏡映描写：実験結果の統計検定，解説
第14回　授業の振り返り
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
各実習のレポート提出に加え，各実習への参加状況，授業でのディスカッションの参加・貢献度によって評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
心理学統計法・データ解析の知識，心理学分野におけるレポートの書き方の知識が必須となるため，必ず復習しておくこと。また各実験実施後には，次週までにデータ入力が課題となる場合がある。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また，レポートのフィードバックに関しては，授業内で適宜コメントしたり，添削したレポートを返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで，論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

[テキスト]
特に定めない。授業内で必要に応じてテキストを配布する。

[参考文献]
①B.フィンドレイ著「心理学実験・研究レポートの書き方　学生のための初歩から卒論まで」北大路書房　1996年（本体価格：1,300円+税）
②西口利文・松浦均編「心理学実験法・レポートの書き方」ナカニシヤ出版　2008年（本体価格：2,200円+税）
③日本心理学会認定心理士資格認定委員会（編集）「認定心理士資格準拠実験・実習で学ぶ心理学の基礎」　金子書房　2015年（本体価格：2,500円+税）
④小河妙子・斉藤由里・大澤香織「心理学実験を学ぼう！」金剛出版　2010年（本体価格：2,200円+税）
⑤宮原英種・宮原和子監修「心理学実験を愉しむ」ナカニシヤ出版　2003年（本体価格：2,400円+税）

[備考]
①詳細はオリエンテーションで伝えるが，授業内で実験の実施・データ収集を行う関係上，遅刻・欠席は厳禁である。
②全ての課題に対してレポートを提出しないと単位は認められない。
③受講者数などによって、実験種目を変更する場合がある。

いのち学序説

科目ナンバー	ICP3101-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
宮本　新	

[到達目標]
「いのち」をめぐるこんにちの諸問題に目を向け理解する。特にキリスト教の視座に立った捉え方を中心に学び、継続して思索するための基礎的知識と方法を獲得することを目標とする。

[履修の条件]
「いのち」に関する諸問題に関心を持ち、クラスでのディスカッション、またグループワークに積極的に取り組む者。

[講義概要]
現代社会における「いのち」をめぐる諸問題を踏まえ、キリスト教の視座に学び考える授業。毎回の授業では、主体的に考え、「いのち」について自らの考えを他者に伝えたり、また他の意見に耳を傾ける学習を通して、より深い学びを求めることになる。

■授業計画
第1回　イントロダクション・いのち学。オリエンテーション、講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介
第2回　いのちと生命
第3回　いのちと社会
第4回　いのちと身体
第5回　いのちとこころ
第6回　いのちと自然
第7回　いのちと医療
第8回　いのちと福祉
第9回　いのちと福祉
第10回　いのちと宗教
第11回　いのちと宗教
第12回　死生観
第13回　死生観
第14回　まとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では毎授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）を要する。主に授業等で紹介された参考文献にあたり、授業ごとの主題について自分の意見をまとめられるよう学習する。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとのディスカッションや質問について、クラスでさらに取り上げ、議論を積み重ねて深い理解に到達することを目指している。学期末試験はそれぞれの学びの理解をはかる機会となる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を養うことに関わる。キリスト教的人間理解を広く学ぶこと、また個別研究をクラス履修者と共同して行う。

[テキスト]
テキストは特にない。適宜、聖書を用いる。

[参考文献]
参考書は、その都度クラスで紹介する。

人間・いのち・世界 I

科目ナンバー	ICP3301-L
2単位：前期1コマ	3〜4年
石居　基夫	

[到達目標]
人間とは何か、生きるとはどういうことか。私たちの生を深く掘り下げる視点に触れ、「いのち」の問題に迫っていくためのキリスト教的な思索の基本を身につけることを目標とする。

[履修の条件]
キリスト教概論、聖書入門などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。キリスト教学科の２年次必修科目。

[講義概要]
関係の存在としての私たち人間のあり方を深く学びながら、生きることの神秘と可能性とを宗教（キリスト教）という地平から探っていく。

■授業計画
第１回　イントロダクション・人間、また宗教に関して学ぶ。
第２回　人間とは何か①
第３回　人間とは何か②
第４回　世界とは何か①
第５回　世界とは何か②
第６回　生きることの意味と価値
第７回　わたしがわたしであること
第８回　心とからだ
第９回　自然の中で
第10回　働くこと
第11回　性と結婚
第12回　人間の罪
第13回　宗教と国家
第14回　神を信じるということ
第15回　-

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることにおよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーや提出物について次回授業内で応答する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「3.総合的・実践的な学習能力」に関わり、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

[テキスト]
聖書（日本聖書協会・新共同訳）

[参考文献]
パスカル『パンセ』、サン・テグジュペリ『星の王子様』など、授業内で紹介する。

人間・いのち・世界 II

科目ナンバー	ICP 3302-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
石居　基夫	

[到達目標]
現代と宗教の関係について考えるための基礎的な視点と考え方に触れ、現代世界における宗教の持つ意味を深く探求する力を獲得する。

[履修の条件]
キリスト教概論、聖書入門などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。キリスト教学科の２年次必修科目。「人間・いのち・世界　I」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
この授業では宗教が持っている役割、その問題性や可能性を探りながら、「現代社会」と「いのち」の問題を深く考察していく。

■授業計画
第１回　イントロダクション
第２回　現代日本と宗教①
第３回　現代日本と宗教②
第４回　科学・理性時代と宗教
第５回　情報化社会と人間
第６回　マテリアリズムの世界
第７回　ニヒリズムと宗教
第８回　歴史を生きること
第９回　自然を生きること
第10回　戦争と平和
第11回　安らかな死
第12回　世界の宗教
第13回　文化の中のスピリチュアリティ
第14回　宗教の否定
第15回　ー

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることにおよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーや提出物については次回授業の中で応答する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「3.総合的・実践的な学習能力」に関わり、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

[テキスト]
聖書（日本聖書協会・新共同訳）

[参考文献]
授業内で紹介する

キリスト教の倫理

科目ナンバー	ICP 3208-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
田島　靖則	

[到達目標]
自由、平等、博愛といった近代以降は自明とされてきた価値観もまた、西欧キリスト教の精神的土台の上に成立した観念である。しかし、そういった近代的価値観の成立は一朝一夕に成ったものではない。本講義は、近現代の人間観を構成するキリスト教的価値観の成立を、歴史的経過を追いながら学び、現代を生きる私たちを支えるキリスト教的人間観について考えてみたい。

[履修の条件]
キリスト教の基礎知識を前提とした講義であるため、1年次で履修すべきキリスト教科目の単位取得者を対象とする。

[講義概要]
キリスト教の価値観に基づいて建国されたアメリカ合衆国においても、「平等」についての考え方は1960年代までは優生思想のパラダイムを脱することは出来なかった。本講義においては、アフリカ系米国人の公民権運動を中心として、それ以前のキリスト教倫理の視点とそれ以後の視点の違いを検証する。また合わせて、人種差別を受けたアフリカ系米国人の多くが、なぜ抑圧者の宗教であったキリスト教を受け入れたのかについても考えたい。アフリカ系米国人の公民権運動は、マーティン・ルーサー・キング Jr.牧師と、マルコム X の主張を軸として学びを進める。

■授業計画
第1回　絵本「ちびくろさんぼ」はなぜ廃刊になったのか?
　　アフリカ系米国人を誕生させた奴隷制度について
　　米国の国民的画家、ノーマン・ロックウェルの描くアフリカ系米国人の姿
　　映画「アミスタッド」
第2回　アフリカ系米国人はなぜ、アメリカ合衆国独立宣言（1776年）によって庇護されなかったのか?
　　「ジム・クロー法」の成立まで
第3回　アフリカ系米国人のアイデンティティー
　　ブッカー T.ワシントン、W. E. B.デュボイスの思想
第4回　デイヴィッド・ウォーカーの指摘
　　アフリカ系米国人キリスト教徒の誕生
　　アフリカン・メソジスト・エピスコパル教会の創設
第5回　米国の教育と人種隔離政策
　　リトルロックのセントラル高校の事例
　　ミシシッピ大学の J.メレディスの事例
第6回　ローザ・パークス事件（1955年）とキング牧師
　　モンゴメリー・バス・ボイコット運動
　　映画「グローリー」
第7回　非暴力主義の源泉、マハトマ・ガンジーの「サティヤグラハ」思想
　　マーティン・ルーサー・キング Jr.牧師の生い立ちとキリスト教思想
　　キング牧師の「非暴力部隊」とその「入隊誓約」
第8回　バス・ボイコット運動から統合教育運動、フリーダムライド運動へ
　　映画「ミシシッピー・バーニング」
第9回　プロテスト・ソングとしての黒人音楽 1
　　ビリー・ホリディ「Strange Fruit」
　　もう一人の黒人指導者、マルコム X.
　　映画「マルコム X」
第10回　マルコム X の「民族的威信」と「黒人民族主義」
　　マルコム X のキング牧師批判
第11回　キング牧師は「アンクル・トム」なのか?
　　「左の頬をも向けなさい式」は正しい方法か?
第12回　アフリカ系米国人と犯罪
　　ロドニー・キング事件
第13回　現代の憎悪犯罪（ヘイト・クライム）
　　社会の縮図であるアメリカ合衆国の軍隊
　　民族主義と宗教
第14回　プロテスト・ソングとしての黒人音楽 2
　　マヘリア・ジャクソン「Joshua fit the battle of Jericho」
　　「Let the church roll on」「Come on children, let's sing」
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
講義期間中に実施する「小レポート（20%）」と受講後に提出する「レポート（80%）」の完成度

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
絵本「ちびくろさんぼ」、ハリエット・ビーチャー・ストウ「アンクルトムの小屋」は事前に読んでおくこと。各自が好みのアフリカ系米国人に関する芸術（文学、音楽）について調べ、授業中にディスカッションできる知識を得ておくことが望ましい。各講義の前後に予習復習を行うこと。合計14回の講義で46時間程度の準備学習時間が求められる。

[試験・レポート等のフィードバック]
「小レポート」は、翌週の講義内で数名の提出物についてその内容を発表し、ディスカッションの資料としたい。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この講義で取り上げる事例は、すべて「他者との出会い」と「他者理解」をテーマとしている。

[テキスト]
テキスト購入は不要

[参考文献]
ジェイムズ・H.コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』日本基督教団出版1996年

社会福祉と国際協力

科目ナンバー	IAD2203-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
原島　博	

[到達目標]
本科目は、国際協力を実践する上で必要な社会・経済開発理論、知識や価値感を習得します。また、国境を越えた社会福祉における社会開発課題の解決への取り組みについて事例検討することで、ワーカーの役割を理解することができるようになります。

[履修の条件]
授業では、資料、ビデオなどの視聴覚教材以外に、人数を考慮してワークショップ形式を取り入れていくので、グループ活動への積極的な参加を条件とします。国際協力の実践を社会福祉の視点から学びたいと考えている学生諸君の参加を期待します。海外インターンシップで実習を考えている場合は、必ず履修してください。

[講義概要]
「社会福祉と国際協力」では、対象社会の単位を地球社会（Global　Society）と位置づけています。地球社会では、一日1ドル以下の収入で生活する家族、ストリートチルドレン、児童労働、予防できる感染症による死亡、民族紛争、環境破壊など反福祉的状況が存在しています。世界人口70億人の内、3分の2を占める人々は開発途上国に暮らしています。雇用、保健、栄養、教育、居住環境など、基本的な生活ニーズを満たせないこれらの人々の福祉は、国境を越えて暮らす先進国社会の私達の課題でもあります。いくつかのテーマを取り上げ、現場での取組みと日本の国際協力のあり方についてNGOスタッフの講義も含まれています。21世紀の福祉は「国家」という枠組みから「世界」という枠組みに移行し、国際主義を再構築することが人類には求められています。是非、「福祉国家」を超え、「福祉世界」の思想と国際協力の在り方を一緒に考えてみましょう。

■授業計画
第1回　授業の概要及び進め方
第2回　「開発」という背景と概念
第3回　「国際協力」の背景と概念
第4回　人間の安全保障の概念
第5回　持続可能な開発目標
第6回　国連と国際協力
第7回　国連と国際協力
第8回　政府と国際協力
第9回　NGOと国際協力
第10回　NGOと国際協力
第11回　国際協力としての国際ソーシャルワーク
第12回　国際協力としての国際ソーシャルワーク
第13回　国際協力としての国際ソーシャルワーク
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テーマに関連する参考文献を読み、テーマの理解を深めてください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対してコメントするとともに、授業の中でフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
グローバルな課題に対して、人間の尊厳、相互理解、地球規模の共生社会を国際福祉の視点から考える。事例検討を通して問題、分析、解決の方法を学び、国際協力の理解を深める。グループワークを通じて、参加者同士のコミュニケーション能力を高める機会を提供する。

[テキスト]
授業毎に資料を配布すると同時に、個別に参考文献を紹介します。

[参考文献]
適宜紹介します。

海外インターンシップ前ゼミ

科目ナンバー	IAD2301-S
2単位：後期1コマ	3年
原島　博	

[到達目標]
海外インターンシップに参加するにあたり必要な心構え、テーマの設定、インターンシップ計画作成、その他の事前準備を行います。

[履修の条件]
自分の持っている知識や技術を活かして海外のNPOおよびNGOの仕事を経験することに積極的に取り組む意志があることを前提条件とします。「海外インターンシップ」を履修する学生は、本科目は必修となります。7月に選考（TOEIC、志望動機書、面接）を行い、許可された学生が最終的に履修が可能となります。科目「国際社会福祉概説」「社会福祉と国際協力」「多文化ソーシャルワーク」などを履修しておいてください。

[講義概要]
海外インターンシップ前ゼミでは、海外インターンシップを行う国の社会（歴史、政治、経済、文化）について基礎的な知識を身につけ、インターン先機関/施設の概要を学びます。また、履修者各自がテーマ及び実習目標を設定し、実習計画の作成を行います。2018年度の海外インターンシップは、フィリピンとアメリカを対象に

行います。海外インターンシップに向けた英語科目の履修も条件とします。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　海外インターンシップ先の国もしくは地域について調べる。
第3回　海外インターンシップ先の国もしくは地域について調べる。
第4回　インターンシップのテーマを選択する。
第5回　インターンシップのテーマを選択する。
第6回　インターンシップの目標設定を行う。
第7回　インターンシップの目標設定を行う。
第8回　インターンシップの実施計画書の作成を行う。
第9回　インターンシップの実施計画書の作成を行う。
第10回　異文化社会適応訓練　その１
第11回　異文化社会適応訓練　その２
第12回　海外インターンシップ計画の発表を行う。(使用言語：英語)
第13回　海外インターンシップ計画の発表を行う。(使用言語：英語)
第14回　出発前オリエンテーションを行う。
第15回　ー

[成績評価]

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

課題について予習、復習を行う。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

個別指導をとおして必要なフィードバックを行う。インターンシップ計画作成を課題として、それに対するコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]

海外インターンシップは総合的な実践学習能力を身に付けることをねらいとする。他者とのコミュニケーションを通じて、グローバルな視点から社会づくりに貢献できる人材を養成する。海外インターンシップ前ゼミは、そのために必要な準備の機会である。実際のインターンシップを実施するための計画、外国語でコミュニケーションができるよう準備を行う。

[テキスト]

「海外インターンシップ・ガイド」を使用します。

[参考文献]

適宜紹介します。

海外インターンシップA(アジア)

科目ナンバー	IAD2302-T
2単位：集中	3年
原島　博	

[到達目標]

総合人間学の視点から1ヶ月間にわたる海外のインターンシップとして現場実習を行います。異文化社会に入り、多様な人々の生活、心、価値観を尊重できるようになることを目標とします。人びとの直面する困難を理解し、対応できるようになるための準備の機会となることを成果とします。また、実戦的な英語学習を通じて、日常的に活用できるコミュニケーションスキルを身につけます。

[履修の条件]

ＴＯＥＩＣ(英語)の模擬試験と面接を行い(7月)履修の可能性について判断します。後期開講科目「海外インターンシップ前ゼミ」を同時に履修することが条件となります。また、実習は英語で行うことになりますので、指定された英語科目を履修してもらうことを条件とする場合があります。

[講義概要]

2020年度は、2021年2月中旬から3月中旬の1カ月間の現場実習をフィリピンで行います。フィリピンには、開発途上国に共通に見られる現象としての貧困、社会的排除、健康、環境、宗教など幅広い社会的課題が存在します。主な実習先は、低所得者、子ども、女性、障害者、民族的少数者などを支援する施設、機関を考えています。現地で実習先機関との調整は交流協定校のAsian Social Institute(ASI)が窓口になります。実習の一日の流れは、午前中は、英語レッスン(30時間を目安)を受講します。そして、午後から実習先で働くことになります。(英語によるコミュニケーションが十分な学生ついては、英語レッスンを免除する場合があります。)実習記録の作成、週末にはスーパービジョンを受けることができます。実習終了時には、実習報告会を開催し、学びを共有します。帰国後は、学内で報告会を開催し経験したことをプレゼンテーションします。最後に報告書を作成して終了します。

■授業計画

第1回　フィリピン社会の現状に関するレクチャー
第2回　実習先のスーパーバイザーとの打ち合わせ
第3回　実習先での実習(1週目)
　　英語レッスン
第4回　大学(ASI)にてスーパービジョン(1回目)
第5回　実習先での実習(2週目)
第6回　実習先での実習(2週目)
第7回　大学教員による個別スーパービジョン(2回目)
第8回　実習先での実習(3週目)
第9回　大学教員による個別スーパービジョン(3回目)
第10回　実習先での実習(4週目)
第11回　大学教員による個別スーパービジョン(4回目)
第12回　実習のまとめ作業
第13回　ケース・プレゼンテーションと実習評価
第14回　帰国後の報告会
　　報告書の作成
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習記録を毎回作成して、実習先のスーパーバイザーと大学のスーパーバイザーに提出すること。また、毎週1回持たれるグループスーパービジョンと個別スーパービジョンに必ず参加すること。実習の最後には、ケースプレゼンテーションを実施するので、しっかり準備しておく必要があります。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ期間中に記録を書き、その記録に対してスーパーバイザーがコメントする。インターンシップ終了時の終了時評価において、フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
異文化社会において自己理解を深めるとともに豊かな人間性を身に付ける。さまざまな条件の下に生きる人の尊厳を理解するとともに、他者を支えるために必要な問題発見力、分析、解決に至る方策を探る。個人の痛みを癒し、人権が尊重され、豊かな人生を送ることを支援することができるような援助者となれるよう、その原体験の機会を得る。

[テキスト]
1.「INTERNATIONAL INTERNSHIP HANDBOOK」ルーテル学院大学作成マニュアル
2. スーパーバイザーから指示された書籍、もしくは、プリントなど用いる。

[参考文献]
適宜紹介する。

キリスト教フレッシュマンゼミ

科目ナンバー	ICS2101-S
2単位：後期1コマ	1年
宮本　新	

[到達目標]
科目としての神学の内容は幅広くまた深い。その範囲とアプローチについて入門的な知識を習得する。

[履修の条件]
キリスト教の信仰と教理について学問的に取り組むことに関心がある人。

[講義概要]
はじめてキリスト教学や神学を学ぶ人のための入門講座。キリスト教にかかわる文化、心理、いのち、教理、人間と社会など幅広い専門領域について、教員たちがオムニバス形式で講義をする。「キリスト教領域」を入門的に学び、各自の研究領域を探究する演習科目となる。

■授業計画
第1回　序論：キリスト教領域の"研究範囲"①
第2回　聖書①
第3回　聖書②
第4回　キリスト教といのち①
第5回　キリスト教といのち②
第6回　キリスト教と心理①
第7回　キリスト教と心理②
第8回　キリスト教と文化①
第9回　キリスト教と文化②
第10回　暮らしの中のキリスト教①
第11回　暮らしの中のキリスト教②
第12回　キリスト教と社会①
第13回　キリスト教と社会②
第14回　まとめ：研究発表
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
期末レポートと各授業への積極的な参加。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとのディカッションや質問についてはクラス内で深め、フィードバックを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際を批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

[テキスト]
随時配布する。

[参考文献]
新共同訳聖書

ヘブル語

科目ナンバー	ICS2202-S
8単位：通年2コマ	2年
大串　肇、江本　真理	

[到達目標]
ヘブル語初級文法の取得を目標とする。辞書を使って原典を読めるようになることを目指す。後期は実際に聖書本文を翻訳し、

文法事項を確認する。

[履修の条件]
毎日予習復習するなど積極的に参加すること。

[講義概要]
初級文法を解説し、適宜練習問題を解いて基本事項を確認する。

■授業計画
第1回　ヘブル語とは何か
第2回　文字と発音について
第3回　名詞概説
第4回　練習問題
第5回　冠詞の用法と練習問題
第6回　接続詞ワウの用法と練習問題
第7回　形容詞概説
第8回　代名詞概説
第9回　練習問題
第10回　練習問題
第11回　代名詞語尾概説
第12回　練習問題
第13回　動詞概説
第14回　練習問題
第15回　カル形完了形（強変化）
第16回　練習問題
第17回　カル形完了形（弱変化）
第18回　練習問題
第19回　カル形未完了形（強変化）
第20回　カル形未完了形（弱変化）
第21回　練習問題
第22回　練習問題
第23回　ワウ継続法概説
第24回　練習問題
第25回　命令形、願望形、要求形概説
第26回　練習問題
第27回　動詞の代名詞語尾変化概説
第28回　練習問題
第29回　不定詞と分詞概説
第30回　練習問題
第31回　動詞の派生形概観
第32回　練習問題
第33回　ニファル形（強変化）
第34回　練習問題
第35回　ニファル形（弱変化）
第36回　練習問題
第37回　ピエル形（強変化）
第38回　練習問題
第39回　ピエル形（弱変化）
第40回　練習問題
第41回　プアル形（強変化）
第42回　練習問題
第43回　プアル形（弱変化）
第44回　練習問題
第45回　ヒフィル形（強変化）
第46回　練習問題
第47回　ヒフィル形（弱変化）
第48回　練習問題
第49回　ホファル形（強変化）
第50回　練習問題
第51回　ホファル形（弱変化）
第52回　練習問題
第53回　ヒトパエル形（強変化）
第54回　練習問題
第55回　ヒトパエル形（弱変化）
第56回　練習問題
第57回　ー
第58回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（100%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
与えられた宿題や課題を行う。特に復習が大事。本科目では各授業回に約200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テストについては採点後、講義内でフィードバックを行う。課題については、次回の講義の際、コメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
世界三大宗教キリスト教、ユダヤ教、イスラム教思想に共通する旧約聖書原典を読む上で必須となるヘブル語基本文法を学び、最古の古典を通じて世界の文化宗教歴史を重んじ、人間のいのちの尊さ、多様な生き方を知り、自己理解を深め、豊かな人間性を身に着ける基礎を習得する。

[テキスト]
Gary D.Pratico etc.,
Basic of Biblical Hebrew Grammar:third edition,Zondervan

[参考文献]
講義のとき指示する。

ギリシア語

科目ナンバー	ICS2302-S
8単位：通年2コマ	3年
挽地　茂男	

[到達目標]
新約聖書のギリシア語本文を読む

[履修の条件]
1回目の授業から文法の学習が始まりますから、1回目の授業に必ず参加すること。

[講義概要]
新約ギリシア語の文法をマスターし、新約聖書の本文を難易度

を上げつつ講読していく。

■授業計画

第1回　アルファベット
第2回　アクセント
第3回　直説法現在能動態
第4回　第二変化、語順、可動的ヌン
第5回　第一変化
第6回　冠詞、形容詞
第7回　第一変化男性名詞、前置詞
第8回　後接辞、人称変化、エイミの直説法現在
第9回　指示代名詞
第10回　直接法現在中態、受動態
第11回　直接法未完了過去能動態
第12回　直接法未完了過去中態、受動態
第13回　直説法未来能動態、中態
第14回　直説法第一不定過去能動態、中態
第15回　直説法第二不定過去能動態、中態
第16回　直説法不定過去受動態、直説法未来受動態
第17回　第三変化1
第18回　第三変化2
第19回　現在分詞、分詞の用法1
第20回　現在分詞、分詞の用法2
第21回　不定過去分詞能動態と中態
第22回　不定過去分詞能動態、独立属格
第23回　接続法
第24回　不定法現在、不定法不定過去
第25回　合音動詞
第26回　流音動詞
第27回　第三変化の名詞と形容詞
第28回　数詞、前置詞句
第29回　疑問代名詞、関係代名詞1
第30回　疑問代名詞、関係代名詞2
第31回　命令法
第32回　完了時制
第33回　形容詞の比較級、格の用法
第34回　ミ動詞(1)
第35回　ミ動詞(2)
第36回　ミ動詞(3)、希求法
第37回　ギリシア語本文講読の準備
第38回　ヨハネ福音書1：1–18
第39回　ヨハネ福音書1：19–34
第40回　ヨハネ福音書1：35–51
第41回　ヨハネ福音書2：1–22
第42回　ヨハネ福音書2：23–3：15
第43回　ヨハネ福音書3：16–30
第44回　ヨハネ福音書3：31–4：15
第45回　ヨハネ福音書4：16–30
第46回　ヨハネ福音書4：31–45
第47回　ヨハネ福音書4：46–5：9
第48回　ヨハネ福音書5：10–30
第49回　ヨハネ福音書5：31–47
第50回　ヨハネ福音書講読のまとめ、マルコ福音書講読の準備
第51回　マルコ福音書1：1–15
第52回　マルコ福音書1：16–28
第53回　マルコ福音書1：29–45
第54回　マルコ福音書2：1–17
第55回　マルコ福音書2：18–3：6
第56回　マルコ福音書3：7–19
第57回　マルコ福音書3：20–35
第58回　マルコ福音書4：1–20

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
成績は達成度と、授業への取り組みの姿勢および参加度を考慮して評価します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
テキストの練習問題の解答、およびギリシア語聖書本文を講読を進めながら、文法事項の確認をする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

[テキスト]
J.G.メイチェン『新約聖書ギリシャ語原典入門』新生宣教団、2600円。Kurt Aland, Erwin Nestle et al. ed., Novum Testamentum Graece, Nestle-Aland 28th edition, Deutsche Bibelgesellschaft Stuttgart, 2012.(3,507円)〔ネストレ版〕

[参考文献]
必要に応じて授業内で指示します。

[備考]
欠席をするとすぐに授業ついて行けなくなりますから、しっかりと決心をして参加して下さい。

ラテン語 I

科目ナンバー	ICS2303-S
2単位：前期1コマ	3〜4年
本城　仰太	

[科目補足情報]
ラテン語の基礎文法を習得する。

[到達目標]
ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン教父を読むための基礎作りをする。

[履修の条件]
原則、通年で履修すること。

[講義概要]
テキストに即して Unit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。

■授業計画
第1回　導入、J.F.Collins, Primer of Ecclesiastical Latin の Unit 1, 2
第2回　Unit 3, 4
第3回　Unit 5, 6
第4回　Unit 7
第5回　Unit 8
第6回　Unit 9
第7回　Unit 10
第8回　Unit 11
第9回　Unit 12
第10回　Unit 13
第11回　Unit 14
第12回　Unit 15
第13回　Unit 16
第14回　Unit 17
第15回　総括／期末試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
出席、授業での取り組み、試験で総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、宿題（テキストの練習問題）をやってくること。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験は採点後にコメントを付して返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性に該当。ラテン語の習得は、私たちを形成する知識や文化遺産へのアクセスを可能とし、成熟した人間性を涵養する役に立つ。

[テキスト]
担当者が用意するプリント（日本語訳）

[参考文献]
小林標『ラテン語の世界　ローマが残した無限の遺産』（中公新書、2006）、水谷智洋編『<改訂版>羅和辞典』（研究社）（各辞典については初回授業で説明する）

ラテン語 II

科目ナンバー	ICS 2304-S
2単位：後期1コマ	3〜4年
本城　仰太	

[科目補足情報]
ラテン語の基礎文法を習得し、ラテン語の文章を読んでいく。

[到達目標]
ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン語の信条、ラテン教父の文章を読むことができるようにする。

[履修の条件]
原則、通年で履修すること。

[講義概要]
テキストに即して Unit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。後半はラテン語聖書ウルガタ、ラテン語の信条、ラテン教父の文章を読んでいく。

■授業計画
第1回　J.F.Collins, Primer of Ecclesiastical Latin の Unit 18
第2回　Unit 19
第3回　Unit 20
第4回　Unit 21
第5回　Unit 22
第6回　Unit 23
第7回　Unit 24
第8回　ラテン語聖書ウルガタを読む①
第9回　ラテン語聖書ウルガタを読む②
第10回　ラテン語聖書ウルガタを読む③
第11回　ラテン語聖書ウルガタを読む④
第12回　ラテン語の信条テキストを読む①
第13回　ラテン語の信条テキストを読む②
第14回　ラテン教父のテキストを読む①
第15回　ラテン教父のテキストを読む②

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
出席、授業での取り組み、レポートで総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、宿題（テキストの練習問題、テキストの読解）をやってくること。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートは採点後にコメントを付して返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性に該当。ラテン語の

習得は、私たちを形成する知識や文化遺産へのアクセスを可能とし、成熟した人間性を涵養する役に立つ。

［テキスト］
担当者が用意するプリント（日本語訳）

［参考文献］
水谷智洋編『<改訂版>羅和辞典』（研究社）、R.Gryson（ed.）, Biblia Sacra Vulgata, Deutsche Bibelgesellschaft, Editio quinta（5th ed.）, 2007

臨床心理英専門書講読A

科目ナンバー	ICP2201-S
2単位：前期1コマ	2〜4年
中村　有希	

［到達目標］
1）精神分析の基本概念を学ぶ。
2）集団精神療法の実際を知る。
3）「集団」の現代的な意味を理解する。

［履修の条件］
授業の初回に「集団精神療法（Group　Psychotherapy）」への関心や疑問、質問を持ってくること。

［講義概要］
今や、我々人間は、孤立化しつつある。男女が愛し合うこともままならず、集団の意味や意義は体験できないまま、大人になる。人間の孤立化が心の発達や成熟に及ぼす影響は非常に大きい。心理療法や集団精神療法が病者に限られる時代は終わり、より充実した人生を追究する方向へ舵を切っている。本書は集団精神療法を実施したいビギナーに向けて書かれたものである。集団精神療法の基礎的な理論や実施方法のテキストは多くあるが、集団精神療法の実際の逐語録が掲載されているテキストはほとんどなく、初心者が実践的に学ぶにはよい書籍である。集団精神療法に初めて触れる学生たちが、本書の講読により、集団精神療法はどのように始まったのかを知ることで、その必要性を理解し、治療の実際に触れ、今の我が国における現代的な「集団」の意義を考えることができる講座である。

■授業計画
第1回　はじめに　Introduction（ix-xi）
第2回　第1章：歴史的背景　Historical Background（p.3–7）
第3回　第2章：グループサイコセラピストの訓練　The Training of the Group Psychotherapist（p.8–16）
第4回　第2章：グループサイコセラピストの訓練　The Training of the Group Psychotherapist（p.8–16）
第5回　第2章：グループサイコセラピストの訓練　The Training of the Group Psychotherapist（p.8–16）
第6回　第3章：患者の選定と準備　The Selection and Preparation of Patient（p.17–24）
第7回　第3章：患者の選定と準備　The Selection and Preparation of Patient（p.17–24）
第8回　第3章：患者の選定と準備　The Selection and Preparation of Patient（p.17–24）
第9回　第4章：グループの特徴 The Character of the Group（p.25–27）
第10回　第5章：新しいグループの最初の集まり The First Meetings of a New Group（p.28–90）
第11回　第5章：新しいグループの最初の集まり The First Meetings of a New Group（p.28–90）
第12回　第5章：新しいグループの最初の集まり The First Meetings of a New Group（p.28–90）
第13回　第5章：新しいグループの最初の集まり The First Meetings of a New Group（p.28–90）
第14回　第6章：患者の始めのグループセッション The Patient's First Group Session（p.91–95）
第15回　試験

［成績評価］
試験（100％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
受講者は、担当となった箇所を事前に日本語訳し、講義当日に翻訳した資料を持参すること。本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、自然・社会、文化環境に対して、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

［テキスト］
Pinney, E.L.（1970）. A First Group Psychotherapy Book. Springfield.

［参考文献］
小谷英文（2014）集団精神療法の進歩　ひきこもりからトップリーダーまで　金剛出版
小谷英文（2018）精神分析的システムズ心理療法ー人は変われるー PAS心理教育研究所出版部
その他は逐次、講義内で紹介する。

［備考］
テキストの必読箇所は配布する。

臨床心理英語論文読解Ⅰ

科目ナンバー	ICP2203-S
2単位：後期1コマ	2〜4年
植松　晃子	

[到達目標]
心理学の研究論文を正しく読む力を身に付ける。はじめに、研究論文がいかに構成されているかを学び、また問題、方法、結果、考察で何が表現されているかを適切に読み取ることができるようにする。

[履修の条件]
2年生以上が履修できる。受講生が翻訳を分担するため欠席せず参加し、心理学の英語の論文を読めるようになりたいと熱意を持った学生を求める。前年までに臨床心理フレッシュマンゼミ、統計法の授業を受講し、日本語の心理学の専門書や論文に触れていることが望ましい。これらの授業を受講していない場合や聴講の希望がある場合でも受講できますが、事前に相談をしてください。
初回授業で、使用する論文を見ていただき、分担も決定しますので履修予定者はできるだけ参加してください。分担が決定した後に履修を辞めることは避けてください。

[講義概要]
英語論文を最低2本、分担して読んでいく予定である。基本的にシラバスに従うが、受講生の人数や授業展開によって適宜変更がある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　：心理学の研究論文の構成・特徴についての解説と授業で読む論文の紹介
第2回　論文を読み構造を掴む1
第3回　論文を読み構造を掴む2
第4回　論文を読み構造を掴む3
第5回　論文を読み構造を掴む4
第6回　論文を読み構造を掴む5
第7回　英語論文を読む1
第8回　英語論文を読む2
第9回　英語論文を読む3
第10回　英語論文を読む4
第11回　英語論文を読む5
第12回　英語論文を読む6
第13回　英語論文を読む7
第14回　英語論文を読む8
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（80%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
各自が分担する論文の翻訳レポートと、出席によって評価する。自分の分担でない英文翻訳に対しても、積極的に参加することが望ましい。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各自、積極的な予習復習を求めます。自分の担当箇所でなくても毎回翻訳をし、授業中に修正した点については復習することで英語論文に精通していってください。担当者は翻訳の修正版を翌週までに提出します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自が分担した箇所の翻訳を事前に提出し、授業中にフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。英文の学術論文に触れることで、英語力を用いて心理学研究の方法論や研究によって分かる内容の理解を深めることができる。

[テキスト]
適宜紹介する

[参考文献]
適宜紹介する

ソーシャルワーク演習Ⅰ

科目ナンバー	ISW2101-S
2単位：前期1コマ	1年
原島　博、金子　和夫、浅野　貴博、廣瀬　圭子	

[到達目標]
社会問題と社会福祉について考える。
人々が直面する課題を、個人的な課題としてだけではなく、社会的な課題として理解する力を習得する。
具体的な課題を、個人的な課題としてではなく、社会的な課題としてとらえる力を得る。
地域福祉の基盤整備と開発を考察できるようになる。

[履修の条件]
社会福祉士や精神保健福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅰ、精神保健福祉実習開始前に履修することが求められる。

[講義概要]
少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例などを活用し、それぞれの課題を、個人的な課題としてではなく、社会的な課題としてとらえ、情報の収集・整理して伝達し、課題の発見・分析・解決の技術を学ぶ。
毎回の課題について、グループ討議に参加することが求められる。自分で調べ学習を行い考察を深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/授業のねらいと学び方
第2回　危機状態にある相談援助の事例の理解の仕方
第3回　危機状態にある相談援助の事例を社会的な課題としてとらえ、地域福祉の基盤整備と開発の方法を知る

第4回　社会的排除（事例の背景の理解）
第5回　社会的排除（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）
第6回　児童・高齢者虐待（事例の背景の理解）
第7回　児童・高齢者虐待（ニーズ把握とネットワーキング）
第8回　家庭内暴力（事例の背景の理解）
第9回　家庭内暴力（ニーズ把握と地域アセスメント）
第10回　低所得者（事例の背景の理解）
第11回　低所得者（地域福祉の計画、サービス評価）
第12回　ホームレス（事例の背景の理解）
第13回　ホームレス（社会資源の活用・調整・開発）
第14回　全体のまとめ
第15回　－

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業内での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
毎回の課題について、社会問題としてとらえることを意識して、自分で調べ学習を行うこと。
授業後に、討議内容、講義内容を復習し、ソーシャルワーカーとしてどのように社会資源の基盤整備を行い、調整し、開発できるかについて考察すること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして総合的・実践的な学習能力を身につける。また、他者との意見交換等をとおして他者への理解と自身の思いを言語化する力を身に付ける。

［ テキスト ］
授業時に示す。

［ 参考文献 ］
授業時に示す。

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会問題と社会福祉の関係についての課題提起とグループ学習の指導を行う。

ソーシャルワーク演習 II

科目ナンバー	ISW2102-S
2単位：後期1コマ	1年
原島　博、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

［ 到達目標 ］
相談援助に係る基礎的な知識と技術を身につける。具体的な相談事例について、総合的・包括的な援助の過程を理解する。

［ 履修の条件 ］
社会福祉士や精神保健福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅰ、精神保健福祉実習履修前に履修が求められる。原則としてソーシャルワーク演習Ⅰを履修済みであること。

［ 講義概要 ］
少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例等をもとに、総合的・包括的な援助について考察し、知識と技術を身につけていく。グループダイナミクスを活用しながら学びを深める。

■授業計画
第1回　オリエンテーション／相談援助とは何か
第2回　アウトリーチ
第3回　インテーク、契約
第4回　アセスメント
第5回　プランニング
第6回　支援の実施
第7回　チームアプローチ
第8回　ネットワーキング
第9回　社会資源の活用・調整・開発
第10回　モニタリング
第11回　効果測定、終結とアフターケア
第12回　グループ発表
第13回　グループ発表
第14回　全体のまとめ
第15回　－

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。前期に履修するソーシャルワーク演習Ⅰの終盤で、ソーシャルワーク演習Ⅱの担当テーマが定まる。テーマを担当する教員のもと、前期の終盤に集まるので、出された夏休みの課題に取り組むこと。後期の授業開始後も、グループごとに、メンバー全員で役割分担し、自分の分担（調べ学習、整理、まとめ、集約など）を責任をもって果たすこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。レポートについては、発表時にコメントを行う。発表時のコメントをもとに最終レポートの提出を求める。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、他者理解を深め、自己表現のためのコミュニケーション能力を伸ばし、最終的にグループとして人前で学んだことを発表する能力を身につける。

[テキスト]
授業時に示す

[参考文献]
授業時に示す

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する基本的な知識・技術等についての講義と演習、グループ学習の指導を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅲ

科目ナンバー	ISW2202-S
2単位：前期1コマ	2〜3年
髙山　由美子、福島　喜代子、浅野　貴博、廣瀬　圭子、市川　一宏、金子　和夫、原島　博	

[到達目標]
ソーシャルワーカーとして、必要となる相談援助の基礎技術を身につける。特に、コミュニケーション技術及び面接技術、マッピング技法を習得する。また、自己覚知を深め、自分が将来活動する分野を選択し、必要な基礎知識を得る。

[履修の条件]
原則として、社会福祉士や精神保健福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。精神保健福祉士の受験資格を目指す者も、履修が求められる。
ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、社会福祉入門の3科目を、「良」以上の成績で履修ずみであること。
社会福祉原論Ⅰを良以上の成績で履修ずみであるか、並行履修中であること。社会福祉原論Ⅱを良以上の成績で履修ずみであるか、後期履修予定（良以上の成績）であること。社会福祉の基礎を良以上の成績で履修済みであるか、並行履修中であること。

[講義概要]
少人数の演習で、相談援助の基礎となる技術について、ロールプレイなどの実技指導を中心に学ぶ。講義、アンケート、個別面接などを通して実習分野や将来活動する分野を決定する支援を行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/ソーシャルワーク実習と実習指導の理解
第2回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その1）
第3回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その2）
第4回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その3）
第5回　自己覚知（自分を知る）
第6回　基本的なコミュニケーション技術の習得（自己紹介と実習目的の説明）
第7回　基本的なコミュニケーション技術の習得（生活施設で利用者と関わる）
第8回　実習記録の書き方
第9回　基本的な面接技術の習得（傾聴と共感的反映、信頼関係の構築）
第10回　基本的な面接技術の習得（明確化、家族関係図の記入）
第11回　基本的な面接技術の習得（明確化、エコマップの記入）
第12回　基本的な面接技術の習得（細分化、時間の流れの中で利用者を理解する）
第13回　分野別学習
第14回　分野別学習
第15回　−

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業における発言、発表、毎回のリアクションペーパーの内容等で総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
コミュニケーション技術、面接技術などについて、授業後にふりかえりを行い、そのポイントを復習しておくこと。『実習の手引き』を読むこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学、履修者全員に配布する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、実習及び相談援助の技術に関する講義と演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅳ

科目ナンバー	ISW2301-S
2単位：前期1コマ	3年
髙山　由美子、福島　喜代子、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

[到達目標]
社会福祉の現場で、利用者、スタッフ、サービス運用などを適切に観察し、観察したことを言語化し、記録し、考察できるようになる。
社会福祉の現場で、相談援助の専門家であるソーシャルワーカーの卵として利用者等を支援することができるようになる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得を目指す学生が履修する科目である。
社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、のいずれもが「良」以上の成績で履修済みであること。
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、同Ⅲを並行履修すること。
特に指定されたコマ以外の授業はすべて出席すること。

[講義概要]
少人数（概ね10人～15人）の演習形式の授業を行う。また、小グループに分かれての実技指導を行う。
総合的かつ包括的な相談援助及び医療と協働・連携する相談援助について具体的な事例をもとに学ぶ。また、ロールプレイなどによって知識と技術を身につける。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/実習評価表について
第2回　実習指導とは、実習指導を受けるとは
第3回　個人を対象としたソーシャルワーク
第4回　個人を対象としたソーシャルワーク
第5回　観察訓練
第6回　観察したものを伝達する訓練
第7回　グループを対象としたソーシャルワーク
第8回　グループを対象としたソーシャルワーク
第9回　ケアプランの立て方
第10回　ケアプランの立て方
第11回　チームアプローチとネットワーキング
第12回　チームアプローチとネットワーキング
第13回　感染症について学ぶ
第14回　実習記録の書き方
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（60%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。テーマに沿って出された課題の予習・復習を行うこと。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に行う。課題については、授業の最終回までにコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。履修者には配布する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、相談援助に関する実践的な演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅴ

科目ナンバー	ISW2302-S
2単位：後期1コマ	3年
市川　一宏、金子　和夫、加藤　純、原島　博、髙山　由美子	

[到達目標]
ソーシャルワークの理論と実践を統合して理解する。
ソーシャルワーク実践をより適切に行えるようになる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰあるいは精神保健福祉援助実習後に履修する。本演習は「ソーシャルワーク演習Ⅵ」と連続

して履修しなければならない。なお、３年前期にゼミ(演習)の所属希望調査を行うので掲示等に注意すること。
卒業論文を執筆する者は、原則として指導教員のゼミ(演習)に所属する。

[講義概要]
少人数の演習で、各自調べてきたことをもとに発表し、討議する。各演習のテーマに基づき、ソーシャルワークの実践について具体的に学ぶ。ソーシャルワークの理論と実践の統合化を図る。

■授業計画
第１回　オリエンテーション/ソーシャルワークの理論と実践の統合とは
第２回　地域住民に対するアウトリーチ
第３回　地域住民のニーズ把握
第４回　地域福祉計画
第５回　ネットワーキング
第６回　社会資源の活用・調整・開発
第７回　サービス評価
第８回　実習体験の一般化
第９回　実習体験の一般化
第10回　実践的な知識と技術の習得
第11回　実践的な知識と技術の習得
第12回　ソーシャルワーク理論と実践の統合化
第13回　ソーシャルワーク理論と実践の統合化
第14回　発表
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。
授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
２「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」３「総合的・実践的な学習能力」４「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
授業の中で適宜紹介する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理論と方法、技術等に関する総合的な演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅵ

科目ナンバー	ISW2401-S
2単位：前期1コマ	4年
市川　一宏、金子　和夫、加藤　純、原島　博、髙山　由美子	

[到達目標]
ソーシャルワークという相談援助の理論と方法が、理論、技術、価値で体系化されたもので、ミクロ・レベルの個人だけでなく、家族集団からマクロ・レベルの社会までを対象にした高い専門性のものであることを理解し、現場実践の観察力、分析力、応用力、専門スタッフに対するスーパービジョン力を習得する。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
４年次を対象とし、「ソーシャルワーク演習Ⅴ」を履修済みであることが求められる。体験学習と討論形式を採用するため、事前準備として文献による学習が求められる。

[講義概要]
ソーシャルワークの中でも、技術の習得を主にし、理論的に把握したあと、適格に実践に生かせることができるように、スーパービジョンの実際を通して学習する。
演習ごとのテーマに沿って課題に取り組む。

■授業計画
第１回　社会福祉士の役割と意義
第２回　相談援助の概念と範囲
第３回　相談援助の理念
第４回　スーパービジョンの概念と範囲
第５回　相談援助の権利擁護の意義
第６回　相談援助に係る専門職の概念と範囲
第７回　専門職理念と倫理的ジレンマ
第８回　総合的かつ包括的な援助と他職種連携
第９回　事例分析・相談援助の実際(権利擁護も含む)
第10回　実践モデル・人の包括的理解のためのツール
第11回　ニーズ・緊急性把握(アセスメント)
第12回　ソーシャルワークの専門性の理解
第13回　アセスメント・ソーシャルアクション・ネットワーキング
第14回　まとめ
　専門職として果たす役割・機能
　実践と理論の関連性
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、そ

の他の評価方法（50％）

［ 成績評価（備考） ］
授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［ テキスト ］
授業の中で適宜紹介する。

［ 参考文献 ］
授業の中で適宜紹介する。

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理論と方法、技術等に関する総合的な演習を行う。

ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ

科目ナンバー	ISW2402-S
2単位：後期1コマ	4年
金子　和夫、市川　一宏、福島　喜代子、加藤　純、原島　博、髙山　由美子、浅野　貴博、廣瀬　圭子	

［ 到達目標 ］
大学生活の最終学期において、これまで一般教養科目、専門科目、実習関連科目で学んだ思想・理論・知識・技術等を、卒業後の実践の場に活かせるようにすることを目標とする。

［ 履修の条件 ］
「ソーシャルワーク演習Ⅴ」「同Ⅵ」から引き続き履修すること。日程、教室などは掲示を行うので注意して従うこと。

［ 講義概要 ］
本講義は、大学生活の最終学期において、社会福祉の理論と実践の統合、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験準備、就職支援、キャリア形成などを行う。4年生全体を対象とした講義形式の授業と卒業ゼミを単位としたグループ授業の組み合わせで展開する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション／国家試験受験体験と心得
第2回　キャリア形成ゼミ①
第3回　保健医療サービス
第4回　社会福祉原論
第5回　社会保障論
第6回　キャリア形成ゼミ②
第7回　福祉行財政と福祉計画
第8回　権利擁護と成年後見制度
第9回　医学一般
第10回　公的扶助論
第11回　地域福祉論
第12回　心理学
第13回　社会学
第14回　障害者福祉論
第15回　－

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（50％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（50％）

［ 成績評価（備考） ］
成績評価の「その他」は、特に「理論と実践の統合」や「キャリア形成ゼミ」等においてフィードバックが求められるので、その内容で評価を行う。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。これまで学んだ専門科目や実習関連科目等の内容をあらためて学習し、さらに、卒業後の進路・分野に関する研究を自ら行うこと。そして、本講義で再確認したこと、理解できなかったこと、あらたに発見したこと等についても自ら研究し、その上で必要に応じて教員と質疑応答を行うこと。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを必要に応じて次回以降の講義内において行う。
・講義内における小テストへの解答
・解説は授業内に行なう。
・発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。これまでに学んできた科目を振り返り、実践力を高めることと就職支援やキャリア形成等に一体的に取り組むことにより、総合的・実践的な力を習得する。

［ テキスト ］
テキストは使用しない。

［ 参考文献 ］
参考文献は、これまでの講義課目あるいは実習先等で提示された文献を参照すること。さらに、国家試験関係では、多くの出版社から「講座」としてテキストが出版されている。また、卒業後の進路関係についても、進学・就職に向けた専門的な文献が数多く出版されており、自分で使いやすいものを利用すること。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、これまで学んできた科目の講義と実践力を高めること及びキャリア支援に関する指導を行う。

キリスト教特講ゼミ Ⅰ

科目ナンバー	ICS 2203-S
2単位：前期1コマ	2年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学２
第4回　聖書と神学３
第5回　聖書と神学４
第6回　聖書と神学５
第7回　聖書と神学６
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識２
第10回　神学の基礎知識３
第11回　神学の基礎知識４
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　レポートを提出する

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミ Ⅱ

科目ナンバー	ICS 2204-S
2単位：後期1コマ	2年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学２
第4回　聖書と神学３
第5回　聖書と神学４
第6回　聖書と神学５
第7回　聖書と神学６
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識２
第10回　神学の基礎知識３
第11回　神学の基礎知識４
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　レポートを提出する

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅢ

科目ナンバー	ICS2305-S
2単位：前期1コマ	3年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学２
第4回　聖書と神学３
第5回　聖書と神学４
第6回　聖書と神学５
第7回　聖書と神学６
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識２
第10回　神学の基礎知識３
第11回　神学の基礎知識４
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　レポートを提出する

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅣ

科目ナンバー	ICS2306-S
2単位：後期1コマ	3年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学２
第4回　聖書と神学３
第5回　聖書と神学４
第6回　聖書と神学５
第7回　聖書と神学６
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識２
第10回　神学の基礎知識３
第11回　神学の基礎知識４
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　レポートを提出する

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅤ

科目ナンバー	ICS2401-S
2単位：前期1コマ	4年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学２
第4回　聖書と神学３
第5回　聖書と神学４
第6回　聖書と神学５
第7回　聖書と神学６
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識２
第10回　神学の基礎知識３
第11回　神学の基礎知識４
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　レポートを提出する

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅥ

科目ナンバー	ICS2402-S
2単位：後期1コマ	4年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学２
第4回　聖書と神学３
第5回　聖書と神学４
第6回　聖書と神学５
第7回　聖書と神学６
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識２
第10回　神学の基礎知識３
第11回　神学の基礎知識４
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　レポートを提出する

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

臨床心理フレッシュマンゼミ

科目ナンバー	ICP2101-S
2単位：後期1コマ	1年
松田　崇志、加藤　純	

[到達目標]
1)自らの関心や疑問から心理学研究としてのテーマを設定する方法を身につける。
2)設定したテーマにしたがって文献を調査し、その内容をレポートとしてまとめるまでの過程を体験的に理解する。
3)グループ・ディスカッションの中で、自分のテーマを説明し意見を求める力を養う。
以上を通して、文献研究を進める力を身につける。

[履修の条件]
臨床心理コース必修科目である。
臨床心理コース2年次編入生も原則として履修すること。
その他のコース希望者や希望コース未定者も履修できる。
3年次編入生には別途履修について説明する。

[講義概要]
大学では、知識を与えられる学習ではなく、自ら調べる学習が大切です。この授業では、自らの心理学的関心や疑問を研究可能なテーマとして設定し、文献研究とグループワークを経てレポートを作成するまでの過程を体験的に学びます。図書館でコンピュータを用いた文献検索をしますが、スマートフォンでも文献検索が可能です。レポートはコンピュータ上で作成することを勧めます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　研究の必要性(研究はどのような役に立つのか)
　　文献研究とは何か。
第2回　研究論文の構成を理解する。
　　自分の疑問を研究につなげよう(研究テーマの例示)。
第3回　インターネットで研究論文を見つける方法(1)
　　CiNii(サイニー)を使って研究論文を検索する方法を学ぶ。
第4回　インターネットで研究論文を見つける方法(2)
　　検索した論文の書誌情報を記録する(論文の著者・出版年・題名・掲載箇所)。
第5回　文献を探した結果の報告
　　ひとつの論文をまとめたレポートの書き方(1)(表紙の書き方, レポートの構成)
第6回　ひとつの論文をまとめたレポートの書き方(2)(引用と要約の違い, 注の付け方)
第7回　図書館で本を検索する方法
　　a)書籍のいろいろ。
　　b)OPACを使って図書館で本を検索する方法。
第8回　★　第1回レポート提出　★
　　複数の文献で調べた内容をワークシートにまとめる。
第9回　複数の文献を用いたレポートの書き方。
　　比べて書く(類似点を示す文・相違点を示す文)
第10回　数値データを示す文。
　　具体例を示す文・一般論を示す文。
第11回　先行研究の内容を短く紹介する文。
第12回　事実について述べる文・認識について述べる文。
　　先行研究を批評する=考察を整理する。
第13回　★　第2回レポート提出　★
　　プレゼンテーションの方法
第14回　第2回レポートへのコメントとまとめ。
第15回　最終レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
レポートは第1回の研究論文一つをまとめたレポート、第2回の複数の研究論文をまとめたレポートの2つです。最終レポートは、第2回レポートを加筆修正したものを提出してもらいます。
提出課題は文献検索の結果報告などです。その他はグループ・ディスカッションなど授業への取り組み方です。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の授業の内容を踏まえて、各自、文献研究を進めてください。毎回の課題を終えて教室に持参していることを前提に授業を進めます。レポートに用いることに決めた文献はプリントして毎回の授業に持参してください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題のいくつかは提出を求めます。提出された課題は確認をして随時返却します。
第1回レポートと第2回レポートは、提出の翌週にコメントを記して返却します。第1回レポートは再提出を求めることがあります。第2回レポートは加筆修正して期末試験期間中に最終レポートとして提出してください。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当します。この科目では、支

援が必要な課題や支援方法について自分自身で問を設定し、文献を調べ、調べた結果を他者に伝える力を養うことを目指します。

[テキスト]
特に定めない。下記の参考文献の中から自分に合っていると思うものを身近なところに置いて、授業の進行に合わせて関連する箇所を読むこと。その他、レポートや論文の書き方に関する書籍を探してみても良い。

[参考文献]
田中共子編(2009)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房
石黒　圭(2012)『この１冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社
河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門　第３版』慶応義塾大学出版会
梅棹忠夫(1969)『知的生産の技術』岩波新書
浜田麻理他(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

卒業演習プレゼミナール

科目ナンバー	ICP2301-S
1単位：後期1コマ	3年
松田　崇志	

[到達目標]
①卒業論文のテーマの設定の仕方を学ぶ。
②卒業論文の書き方の基本を学ぶ。
③卒論に良く使う統計分析に関する理解を深める

[履修の条件]
臨床心理コースまたは子ども支援コースの3年生で，来年度，心理学的方法論に基づいて卒業論文を作成するつもりの学生。但し，卒論は書かないが卒業演習のゼミには参加したい場合もできるだけ履修すること。心理学研究法Ⅰ，心理学研究法Ⅱ，心理学実験，質問紙調査法，などを履修済みか並行履修していることが望ましい。3年前期の6月頃にゼミ配属の説明会を実施するのでそれに出席し，ゼミ配属が決定していることを前提とする。本学では，卒業論文は必修科目にしていないが，将来，大学院に進学することを考えている学生は，必修に準ずると考えて，履修してほしい。学部の段階で卒業論文の作法を会得しておかないと大学院進学ならびに進学後の研究に支障がでるので，学部の勉強の集大成として取り組んでほしい。

[講義概要]
卒業論文のテーマを選ぶために先行研究の選び方と，論文の読み方，卒業論文の執筆の仕方，引用文献の表示の仕方などを学ぶ。いくつかの論文を精読し，どのように論を展開しているか，どのような統計分析を用いて結論を出しているかを理解する。

■授業計画
第1回　文献研究の方法
第2回　卒業論文の書き方
第3回　論文の読み方1：因子分析
第4回　論文の読み方2：相関と1要因分散分析
第5回　論文の読み方3：2要因分散分析
第6回　論文の読み方4：重回帰分析
第7回　論文の読み方5：共分散構造分析
第8回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
レポートに加え，毎回の授業を受けて考えたことや感想の記入によって成績評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各自で自身の研究に関連した本や論文を読みすすめてください。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートに関しては，ゼミ配属後，各担当教員ごとにフィードバックを実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的実践的な学習能力」に該当する。これまで学んできた，仮説を実証する考え方に関して，さらに理解を深める。

[テキスト]
とくになし。プリントを配布する。

[参考文献]
とくになし。

卒業演習Ⅰ

科目ナンバー	IAD2305-S
2単位：後期1コマ	3年
石川　与志也、植松　晃子、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、石居　基夫、大串　肇、上村　敏文、ジェームズ・サック、宮本　新、加藤　純	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的方法論を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

[履修の条件]
キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。3年生前期の6月頃にコース毎にゼミ配属の説明会がありますので必ず出席してください。説明会ののち希望調査を行い、ゼミの担当教員が前期の間に決まります。臨床心理コース担当教員の「卒業演習」を希望する場合は、「心理学研究法Ⅰ」、「心理学研究法Ⅲ」、「心理学基礎実験」、「質問紙調査法実習」を履修済みか並行履修することが必要です。そのため、後期の時間割では、担当教員が開設している「卒業演習Ⅰ」の曜日時間に履修をすることになります。子ども支援コースで本科目を履修したい学生は、子ども支援コース担当教員にご相談下さい。

[講義概要]
ゼミ形式で、卒業研究・論文の取り組みについて学びます。各自の専門分野に基づいた問題関心を掘り起こし、研究のテーマ設定、さらに具体的なテーゼの立て方を学びます。

■授業計画
第1回　イントロダクション
第2回　テーマの設定の仕方1
第3回　テーマの設定の仕方2
第4回　テーマの設定の仕方3
第5回　文献研究1
第6回　文献研究2
第7回　文献研究3
第8回　研究企画書の作成1
第9回　研究企画書の作成2
第10回　研究企画書の作成3
第11回　研究テーマの発表1
第12回　研究テーマの発表2
第13回　研究テーマの発表3
第14回　研究の総括
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業演習 II

科目ナンバー	IAD 2401-S
2単位：前期1コマ	4年
石川　与志也、植松　晃子、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、石居　基夫、大串　肇、上村　敏文、ジェームズ・サック、宮本　新、加藤　純	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
先行研究にあたり学術論文の取り組みについて学びを深め、テーマに即した議論の深め方や専門分野における方法論に具体的に習熟し、論文執筆のための論述を展開する力を養う。

[履修の条件]
キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。原則的に卒業演習Ⅰに引き続き、同じ指導教員に指導を受けます。

[講義概要]
原則的に卒業演習Ⅰに引き続き、同じ指導教員に指導を受けながら、研究をすすめます。
論文やプレゼンテーションの構成を考え、計画に基づいて研究と調査を実施し、結果の分析を行い、考察を経て論文を完成させる。また、執筆に伴う新たな課題の整理方法についても学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回　研究指導①
第3回　研究指導②
第4回　研究指導③
第5回　研究指導④

第6回　研究指導⑤
第7回　研究指導⑥
第8回　研究指導⑦
第9回　研究指導⑧
第10回　研究指導⑨
第11回　研究指導⑩
第12回　研究指導⑪
第13回　研究指導⑫
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業演習 III

科目ナンバー	IAD 2402-S
2単位：後期1コマ	4年
石川　与志也、植松　晃子、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、石居　基夫、大串　肇、上村　敏文、ジェームズ・サック、宮本　新、加藤　純	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的方法論を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

[履修の条件]
キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。還俗的に「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」と同じ教員に指導を受けます。

[講義概要]
卒業論文の書き方を学び、完成に向かって研究をすすめる方法を学ぶ。自分で企画した研究を、確実に前進させ、中間発表をへて最終的に論文として完成させるプロセスを学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回　研究指導①
第3回　研究指導②
第4回　研究指導③
第5回　研究指導④
第6回　研究指導⑤
第7回　研究指導⑥
第8回　研究指導⑦
第9回　研究指導⑧
第10回　研究指導⑨
第11回　研究指導⑩
第12回　研究指導⑪
第13回　研究指導⑫
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業論文

科目ナンバー	IAD2403-S
4単位：通年1	4年
市川　一宏、金子　和夫、福島　喜代子、原島　博、髙山　由美子、石川　与志也、植松　晃子、加藤　純、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、石居　基夫、大串　肇、上村　敏文、ジェームズ・サック、宮本　新	

[到達目標]
卒業論文を作成することにより、大学における専門科目および一般教養科目その他学習の総合として、一定の分野において自分の研究をし、それをまとめて発表できる能力を持つことを目標とする。

[履修の条件]
「卒業演習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」、又は「ソーシャルワーク演習Ⅴ、Ⅵ」において指導教員の指導のもと論文の作成方法を学ぶこと。

[講義概要]
指導教員の指導のもと、学生ごとのペースで研究を進める。論文執筆に関しては、各コースから示される「執筆要項」に従うこと。ゼミでの発表、2回の中間発表会で、その時点での研究の進展具合を報告する。特別な事情のない限り、2回の中間発表ができなかった場合は、卒業論文の提出はできない（ただし、ゼミ論として、指導教員に提出することは可能である）。提出前に指導教員に読了してもらい、定められた日までに卒業論文を提出する。（指導教員によって卒業論文の提出時期が異なるので注意すること。）

■授業計画
第1回　個別履修指導
第2回　個別履修指導
第3回　個別履修指導
第4回　個別履修指導
第5回　個別履修指導
第6回　個別履修指導
第7回　個別履修指導
第8回　個別履修指導
第9回　個別履修指導
第10回　個別履修指導
第11回　個別履修指導
第12回　個別履修指導
第13回　個別履修指導
第14回　個別履修指導
第15回　個別履修指導
第16回　個別履修指導
第17回　個別履修指導
第18回　個別履修指導
第19回　個別履修指導
第20回　個別履修指導
第21回　個別履修指導
第22回　個別履修指導
第23回　個別履修指導
第24回　個別履修指導
第25回　個別履修指導
第26回　個別履修指導
第27回　個別履修指導
第28回　まとめ
第29回　ー
第30回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
中間発表、最終発表、口頭試問等による合議評価

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は学生が主体的に進めるものである。その中にあって、論文テーマは受講する演習に関連するものであることが望ましく、指導教員とよく相談の上、論文執筆を進める。指導教員その他の先生からのコメントや情報提供などを自分のものとしながら進めることが大切である。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

食といのちと環境Ⅰ

科目ナンバー	ICS2205-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

［科目補足情報］
前期は農業、林業、地球温暖化など、環境問題を中心に学びます。あらゆる分野において危機的状況が叫ばれています。有限の地球資源に対して、どのような気持ちで立ち向かっていくのかを真摯に学んでいきます。

［到達目標］
さまざまの文献、資料を参照し、また映像資料を見ながら、食といのちと環境について多角的に学びます。地球の温暖化、原発問題、食糧危機などさまざまな課題について議論をしながら深めていきます。それぞれの立場で、将来の地球をしっかりと他人事ではない議論をして洞察を深めます。それぞれの体力、目標を最大限尊重しますが、自分のハードルをやや高めに設定して、積極的に講義などに取り組み、高い意識をもって環境問題に対応できる能力をしっかりとつけていくことを目標にします。

［履修の条件］
特にありませんが、アフリカから欧米、そして日本と、将来の地球全体について大きな視野で学んでいきますから、「食」「いのち」「環境」に関心がある人を歓迎しますし、また積極的に意識を高くもってこの重要な課題にチャレンジしてほしいと思います。適宜、学内外の環境調査（学内の植生、近隣の農業など）、また必要に応じて軽い作業（除草、ガーデニング）もします。軍手を各自用意すること。公開講座にも指定していますから、市民の方ともしっかりとしたコミュニケーションができることを履修条件として追加します。

［講義概要］
日本の風土と環境、そして世界の環境について、「食といのちと環境」の見地から学んでいきます。いわゆる弥生時代以降、あるいは現代の最新の研究ではすでに縄文時代から行われ始めていたと考えられる稲作と、それにまつわる文化、宗教（神道）の形成と変化、里山の形成と農業とその崩壊。鎮守の森の戦後急激な現象と都市化の影響。化石燃料を中心としたエネルギーの20世紀における消費量の急激な増加と、二酸化炭素の増大、そしてフロンガスとオゾン層の破壊などなど、従来の高度成長、競争的資本主義による根本的な社会構造の変化と危機的状況。いかにそれを克服していくかは、「意識の変化」しかありません。これからの世代が、しっかりと高い「意識」をもち、また世界が注目し始めている、縄文文化と神道の中に、その一つの打開策を見出したいと思います。「うみ　やま　あひだ」という自主映画が、小さな輪から大きな輪になりつつあり、フランスなど海外でも上映の依頼が来始めています。日本だけでなく、欧米諸国でも限られた地球資源をいかに大切に使わせていただくかということがこれからの時代にもっとも求められています。福島の原発問題も含めて、賛否両論のそれぞれの立場を把握しつつ、自然エネルギーのあり方、そして各自の「意識」をしっかりと高くもつための情報提供をしていきます。そして有機農法から自然農法の理念を学びます。栃木県西那須にあるアジア学院の事例を紹介しながら、アジア、アフリカの研修生を受け入れ、現代の最先端の農法ではなく、江戸時代の循環式農法をなぜ教えそして求められているのかを学びます。希望者には研修の情報を適宜供与します。文明社会が栄えたあとに必ず生じている砂漠化について、古代と現代を比較論証していきます。とくにアメリカの農業、そして水資源の争奪戦などを紹介していきます。すでに初代ワシントン大統領の時代からあった土地問題について、学者の間からどのような警鐘が鳴らされてきたかを学びます。最後に「いのち」ということに対して、昨今注目され始めている「平穏死」について多角的に学びます。死は必然的に、そして誰にでも予定されている事実として、徒然草にも記述があるように、生前からしっかりと学んでおく必要があります。前期はその導入をします。「いのち」の観点から、末期がんで余命１ヶ月と宣告された方（アルコール依存症、家庭崩壊など）が一つの出会いにより、新たな「いのち」を授かった実録を学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　全体構造と講義の進め方について
第2回　日本と米作り　自然との適応と文化
第3回　稲作文化と神道　農業と祭、儀礼
第4回　森と農業　その密接な関係と歴史
　　森林資源と農業について、南アルプスの自然農法について学ぶ
第5回　環境汚染と地球　微生物と土
第6回　原発と自然エネルギー　両立をはばんできたものと今後
第7回　福島と農業　「農業、やめますか?続けますか?」
第8回　自然農業の可能性　最高かつ手がかからない農業を考える
　　近未来の農業について喫緊の重要課題として討議する
第9回　有機農法とその歴史　その間違えた方向性について
　　会津農民福音学校の立体農業について
第10回　アフリカと農業　過去、現在、そして将来
　　コーヒー園などの試み
第11回　植林文化と日本　そのユニークな取り組み
第12回　砂漠化の現状と将来　アフリカ、中国、そしてアメリカを中心として
第13回　いのちの尊厳と死　だれしもが迎える「その時」をより豊かにするために
第14回　まとめ　講義内で試験を実施します。
第15回　ー

［成績評価］
試験（50％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

［成績評価（備考）］
積極的な講義の参加（ディスカッション）を望みます。毎回、リアクションペーパーなどで確認すると同時に、しっかりと講義の内容について深めるために課題図書のリーディングを指示します。しっかりとテキストを読んでいることが必要条件として求められています。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習

等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義の中で適宜ミニレポート、試験を実施します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「１、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」いくかを真剣に学んでいきたいと思っています。

[テキスト]
正木高志『木を植えましょう』南方新社

[参考文献]
山田勇『世界森林報告』岩波新書
長沼毅『鉄といのちの物語』ウェッジ選書
前田達雄、真崎明『命の恩人大山倍達』蕗書房

[備考]
参考文献は、講義の中でも適宜紹介していきます。基本的には配布資料。

食といのちと環境 II

科目ナンバー	ICS 2206-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
後期は、実際にいろいろな場所に出かけることをします。オリエンテーションには必ず出席すること。前期、そして履修期間中に日程を掲示をしますから、確認をしてください。

[到達目標]
食といのちの尊さを学ぶ。またその先には環境問題を視野に入れる。南アルプス、甲府のスモモ園、ブドウ園での農作業(雑草取り、間引き、収穫等)。地域の農家との交流をしながら日本、世界の農業、環境について考えていく。また南アルプス、山梨、あるいは会津のクリスチャン農家に分宿し対話を通して、日本の農業と環境(原子力の影響等)について考える。また、会津の特別講演を通していのちの大切さについて学ぶ。

[履修の条件]
食といのちと環境Ⅰを履修していること。希望者にはアジア学院(栃木西那須野)や、福島県の会津農民福音学校を紹介するが、参加の義務はありません(参加する場合は、目的地までの交通費、食費、宿泊費は各自実費負担)。賀川豊彦の農村伝道とキリスト教の現状を体験する。会津若松の農家に分宿してそれぞれの農家の方々と交流する。学内の講義と併行して積極的に体験型のモデルを提供するので、できるだけその機会を活用することに関心がある学生の履修を期待します。前期に引き続き、学内、近隣農家の自然環境について、できるだけ野外に出て見学、軽作業を実施します。

[講義概要]
前期の「食といのちと環境Ⅰ」に引き続いて、「食」「いのち」「環境」のキーワードに基づいて講義をします。また南アルプスの農耕放棄地への植林(すもも)、アジア学院の農業体験、またブッチャリングを通して、日本の農業、そして世界の農業へと視野を広げていくことを講義以外に希望者には情報を与えます。毎年、行われている会津農民福音学校に参加することも奨励します。日本では現在あまり知られてはいないが、世界ではガンジー、シュバイツァーと並び称された賀川豊彦の農村伝道とキリスト教の現状を体験する。会津若松の農家では分宿してそれぞれの農家の方々と交流することも希望者には情報を提供する。
オリエンテーションには改めて全体構造を把握します。学内の植生について常に心を配りつつ、その変化を記録していきます。
聖書の中から食、いのち、環境とかかわることを探しみんなで共有しつつ、日本だけではなく、アジア、アフリカ、世界にも目を向けてみるようにします。基本的には学内外で集中的に実践活動に重きを置いていきますが、定期的に各自の関心、取り組みに対応して講義をすすめていきますから、毎週、確認作業をします。農家などの都合、あるいは天候により日程は変更する場合があります。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　講義の全体構造について、特に課外活動についての説明を行う。
第2回　アフリカの農業について　飢餓とのたたかい
第3回　アジア学院(栃木県西那須野)農業研修、アジア・アフリカの研修生のチャレンジ
第4回　アメリカの農業について　土地利用と森林伐採の矛盾
第5回　世界の農業の趨勢　「水戦争」と「土地」
第6回　大学内園芸、近隣の農地を視察
第7回　近郊の農家の状況についての学習
第8回　日本の林業についての現状について
第9回　植林の文化　砂漠化と森と水
第10回　人工知能と今後の生活
第11回　人工知能と将来予測される変化について
第12回　シンギュラリティーについて
第13回　技術革新と農業
第14回　まとめ　と講義内で試験を実施します。
第15回　ー

[成績評価]
試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
発表や、野外活動などは積極的に評価していく。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の事前学習での準備。オリエンテーションには必ず参加すること。実習に関しては、天候、農家との協議により講義内で繰り返し情報提供しますから、日程、場所などを確認してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表などを通して、そのフィードバックをコメントシートなどを利用して積極的に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」いくかを真剣に学んでいきたいと思っています。

[テキスト]
正木高志『木を植えましょう』南方新社

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

科目ナンバー	ISW2203-S
2単位：後期1コマ	2～3年
髙山　由美子、加藤　純、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

[到達目標]
実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。そして、ソーシャルワーク実習指導Ⅳも履修登録すること。

[講義概要]
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習（24日間、180時間以上）を行うための準備を行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/実習の目的の理解
第2回　利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションと、円滑な人間関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを行い、適切に関わり、必要な指導を受け、円滑な人間関係を形成する
第4回　実習身上書の作成
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者やその関係者の権利擁護、エンパワメントする支援、そのあり方を評価する
第7回　多職種の連携・協働、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　社会福祉士としての職業倫理を学ぶ
第9回　施設の就業規則の理解と組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　実習先の施設・機関の理解
第12回　実習スーパービジョンの意義と理解
第13回　実習目標の設定
第14回　実習記録の意義と実際
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
実習準備の達成度等を総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。
実習の準備として必要なことを調べ、課題に取り組む。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

科目ナンバー	ISW2303-S
2単位：前期1コマ	3～4年
髙山　由美子、加藤　純、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

[到達目標]
ソーシャルワーク実習の準備が完成する。

ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

[講義概要]
ソーシャルワーク実習Ⅰと並行して履修する。週に1回帰校して、少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回　実習直前の確認事項
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　実習先の施設・機関の理解
第4回　実習先の利用者の理解
第5回　実習分野と地域社会の理解
第6回　実習分野における政策・制度の理解
第7回　実習分野における相談援助
第8回　実習先で行われる介護や保育などの関連業務の基本的理解
第9回　利用者との関わり方の確認
第10回　利用者の支援計画をたててみる
第11回　巡回指導
第12回　実習分野における相談援助と自己覚知
第13回　実習の振り返りと自己評価
第14回　実習報告書(総括レポート)の作成
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜指示する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

科目ナンバー	ISW2304-S
2単位：前期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、加藤　純、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

[到達目標]
ソーシャルワーク実習の準備が完成する。
ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

[講義概要]
ソーシャルワーク実習Ⅰの履修と並行して履修する。週に1回帰校して、少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回　実習直前の確認事項
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　実習先の施設・機関の理解
第4回　実習先の利用者の理解
第5回　実習分野と地域社会の理解
第6回　実習分野における政策・制度の理解
第7回　実習分野における相談援助
第8回　実習先で行われる介護や保育などの関連業務の基本的理解
第9回　利用者との関わり方の確認
第10回　利用者の支援計画をたててみる
第11回　巡回指導
第12回　実習分野における相談援助と自己覚知
第13回　実習の振り返りと自己評価
第14回　実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　－

［成績評価］

試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［成績評価（備考）］

参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

［試験・レポート等のフィードバック］

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

［ディプロマポリシーとの関連性］

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［テキスト］

『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

［参考文献］

授業の中で適宜指示する。

［備考］

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅳ

科目ナンバー	ISW2305-S
1単位：後期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、加藤　純、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

［到達目標］

ソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を理解する。
自身の課題について深く理解し、適切に対処することができる。
ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

［履修の条件］

社会福祉士のための実習を終えた者が履修する科目である。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅲのいずれかを履修する年度に必ず履修すること。
授業日は掲示等で確認すること。
社会福祉入門Ⅰ、Ⅱ（2014年以降入学者は社会福祉入門、社会福祉の基礎）、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲを履修済みであること。

［講義概要］

少人数（概ね10人前後）の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回　実習の達成度の確認
第2回　実習評価の確認
第3回　実習内容の振り返り
第4回　実習記録の振り返り
第5回　実習報告書の確認
第6回　社会福祉の理論と実践の統合
第7回　専門職としての自覚
第8回　実習と実習指導の総括

［成績評価］

試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［成績評価（備考）］

実習を振り返っての言語化、提出された実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］

本科目では、各授業回におよそ50分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行った他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を

行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習の振り返りと総括を行う。

精神保健福祉援助演習（専門）I

科目ナンバー	ISW2403-S
2単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉の現場で、利用者、スタッフ、サービス運用などを適切に観察し、観察したことを言語化し、記録し、考察できるようになる。
精神保健福祉の現場で、相談援助の専門家であるソーシャルワーカーの卵として精神障害者等を支援することができるようになる。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格取得を目指す学生が履修する科目である。
社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、精神保健福祉実習指導Ⅰ、のいずれもが「良」以上の成績で履修済みであること。
精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
精神保健福祉実習、精神保健福祉実習指導Ⅱ、同Ⅲを並行履修すること。
特に指定されたコマ以外の授業はすべて出席すること。

[講義概要]
少人数（概ね10人～15人）の演習形式の授業を行う。また、小グループに分かれての実技指導を行う。
総合的かつ包括的な相談援助及び医療と協働・連携する相談援助について具体的な事例をもとに学ぶ。また、ロールプレイなどによって知識と技術を身につける。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、実習評価表について
第2回　実習指導とは、実習指導を受けるとは
第3回　個人を対象としたソーシャルワーク
第4回　個人を対象としたソーシャルワーク
第5回　観察訓練
第6回　観察したものを伝達する訓練
第7回　グループを対象としたソーシャルワーク
第8回　グループを対象としたソーシャルワーク
第9回　ケアプランの立て方
第10回　ケアプランの立て方
第11回　チームアプローチとネットワーキング
第12回　チームアプローチとネットワーキング
第13回　感染症について学ぶ
第14回　実習記録の書き方
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（60%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。テーマで沿って出された課題の予習・復習を行うこと。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については、授業の最終回までにコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。履修者には配布する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、相談援助に関する実践的な演習を行う。

精神保健福祉援助演習（専門）II

科目ナンバー	ISW2404-S
2単位：後期1コマ	4年
鈴木　あおい	

[到達目標]
精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別の体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。ソーシャルワーカーとして、自身の課題について深く理解し、適切に対処できる。ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

[履修の条件]
精神保健福祉実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲを履修済みであること。精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰを履修済みであること。
精神保健福祉実習を履修する年度に必ず履修すること。授業日は掲示等で確認すること。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳを履修済みであること。

[講義概要]
少人数（概ね10人前後）の演習形式で討議を行う。また、グループ指導及び個人指導を受ける。
精神保健福祉実習の体験を踏まえて、事例検討を行い、また、ロールプレイなどの実技指導を行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション、講義のすすめ方、予習復習について
第2回　精神保健福祉実習における体験の振り返り
第3回　精神保健福祉実習における課題の発見
第4回　入院、急性期の利用者や家族への相談援助の実際
第5回　退院支援、地域移行、地域支援に向けた相談援助の実際
第6回　利用者の理解とニーズ把握、支援計画の作成の実際
第7回　利用者とその家族の権利擁護及び支援の実際
第8回　多職種連携とチームアプローチ
第9回　ピアサポート、リカバリー支援の実際
第10回　アルコール依存等への支援の実際
第11回　教育・就労支援の実際
第12回　経済的支援、住居支援の実際
第13回　精神科リハビリテーションの実施、危機介入の実際
第14回　社会福祉の理論と実践の統合、全体のまとめ
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業における授業への貢献度を評価する。実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。テーマで沿って出された課題の予習・復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポート課題、実習報告、実習記録に対するフィードバックは、実習指導の授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、相談援助に関する演習を事例を中心に行う。

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

科目ナンバー	ISW2306-S
2単位：後期1コマ	3年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。次年度に精神保健福祉実習を行う者が履修する。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、全てを「良」以上の成績で履修済みであり、かつ、そのうちの4分の3以上の科目が「優」以上であること。

２資格めの実習への準備の授業であるため、３年次前期の履修希望アンケートへの回答、事前説明会への参加等、手続きに沿って許可を得た者のみ３年次後期に履修できる。精神保健福祉分野における実習を希望する理由が明確であることが求められる。
原則として、精神保健福祉士の指定科目のうち、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」以外の専門講義科目が履修ずみ、あるいは並行履修中であること。

[講義概要]
少人数（概ね５～10人）の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、講義の進め方、授業の予習復習の仕方について
第2回　精神保健医療福祉の現状
第3回　精神保健医療福祉の利用者の理解
第4回　精神保健福祉分野における施設・事業者の理解
第5回　精神保健福祉分野における機関・団体の理解
第6回　精神障害者を取り巻く地域社会の理解
第7回　見学実習、現場体験
第8回　精神保健福祉援助に関する具体的な知識と技術
第9回　精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務
第10回　個人のプライバシー保護、守秘義務、個人情報保護法の理解
第11回　実習記録の内容と方法
第12回　実習計画の作成
第13回　利用者との関わり方について
第14回　実習指導、スーパービジョンについて
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業における授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。実習の準備教育が授業ごとにすすめられるので、ステップごとに復習すること。精神保健福祉分野の施設・機関に関する法律、制度、施設基準、サービス内容、利用者、などについて十分調べること。実習先施設・機関の法人理念、施設概要などは各自で調べること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
適宜授業の中で紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
精神科ソーシャルワーカーや医療機関の対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

精神保健福祉援助実習指導 II

科目ナンバー	ISW 2405-S
2単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。精神保健福祉実習を行う者が並行履修する。
ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
精神保健福祉実習及び精神保健福祉実習指導Ⅲ、精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰを並行履修すること。
精神保健福祉士の指定科目のうち、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」以外の専門科目が履修ずみ、あるいは並行履修中であることが強く推奨される。

[講義概要]
少人数（概ね10人前後）の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画
第1回　実習直前の確認事項、実習先への連絡の仕方等の確認
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　入院時の患者と家族への相談援助
第4回　急性期の利用者の理解
第5回　多職種との協働と連携の理解
第6回　利用者との関係の構築

第7回　実習先機関のスタッフ等との関係の構築
第8回　利用者の理解とニーズの把握
第9回　利用者の支援計画の作成
第10回　利用者との支援関係の形成
第11回　巡回指導
第12回　実習の評価
第13回　実習分野における相談援助と自己覚知
第14回　実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業における授業への貢献度を評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

［ テキスト ］
『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

［ 参考文献 ］
適宜授業の中で紹介する。

［ 備考 ］
精神科ソーシャルワーカーや医療機関の対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

精神保健福祉援助実習指導 III

科目ナンバー	ISW2406-S
2単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

［ 到達目標 ］
精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

［ 履修の条件 ］
精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。精神保健福祉実習を行う者が並行履修する。
ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
精神保健福祉実習及び精神保健福祉実習指導Ⅱ、精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰを並行履修すること。
精神保健福祉士の指定科目のうち、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」以外の専門科目が履修ずみ、あるいは並行履修中であることが強く推奨される。

［ 講義概要 ］
少人数（概ね10人前後）の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画
第1回　実習直前の確認事項、実習先への連絡の仕方等の確認
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　退院支援と家族への相談援助
第4回　地域移行支援について
第5回　多職種との協働と連携の理解
第6回　利用者との関係の構築
第7回　実習先機関のスタッフ等との関係の構築
第8回　利用者の理解とニーズの把握
第9回　利用者の支援計画の作成
第10回　利用者との支援関係の形成
第11回　巡回指導
第12回　実習の評価
第13回　実習分野における相談援助と自己覚知
第14回　実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業における授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
適宜授業の中で紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
精神科ソーシャルワーカーや医療機関の対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習Ⅰ

科目ナンバー	ISW2307-T
4単位：前期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、加藤　純、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美、廣瀬　圭子	

[到達目標]
実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。そして、ソーシャルワーク実習指導Ⅳも履修登録すること。

[講義概要]
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、24日、180時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/実習施設・機関の理解等
第2回　利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションと、円滑な人間関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを行い、適切に関わり、必要な指導を受け、円滑な人間関係を形成する
第4回　利用者を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成する
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者やその関係者の権利擁護、エンパワメントする支援、そのあり方を評価する
第7回　多職種の連携・協働、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　社会福祉士としての職業倫理を学ぶ
第9回　施設の就業規則の理解と組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　地域社会へのアウトリーチ、ネットワーキングの理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習記録の作成と自己評価
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
実習目標の達成度等を総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。実習後は実習報告書を書くこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習を行う。

ソーシャルワーク実習 II

科目ナンバー	ISW 2407-T
3単位：通年 1	4年
金子　和夫、原島　博、市川　一宏	

[到達目標]
ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を理解できる。
実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と実践を統合させて理解できる。

[履修の条件]
社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得の指定科目に該当しない実習をする者。
履修のためには、原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅰが履修済みであること。実習後には実習報告書を作成すること。

[講義概要]
原則として、福祉系の施設や機関において10日以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。大学において、事前学習、実習中・実習後の指導を受ける。

■授業計画

第1回　実習のオリエンテーション
　　実習施設・機関の理解
第2回　利用者との援助関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等と適切な人間関係を形成する
第4回　利用者を理解し、支援計画を作成する
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者の権利擁護、エンパワメントを理解する
第7回　多職種の連携、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　ソーシャルワーカーとしての職業倫理を学ぶ
第9回　組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　アウトリーチ、ネットワーキングの理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習報告書の作成と自己評価
第15回　－

[成績評価]
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（60％）

[成績評価（備考）]
実習目標の達成度などを総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習 III

科目ナンバー	ISW 2308-T
4単位：通年 1コマ	3～4年
髙山　由美子	

[到達目標]
ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を理解できる。
実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と実践を統合させて理解できる。

[履修の条件]
社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得の指定科目に該当しない実習をする者。

履修のためには、原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの履修をしていること。ソーシャルワーク実習指導Ⅴ←Ⅳに履修登録し、実習報告書を作成すること。

[講義概要]
原則として、福祉系の施設や機関において24日、180時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。大学において、事前学習、実習中・実習後の指導を受ける。

■授業計画
第1回　実習のオリエンテーション
第2回　利用者との援助関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等と適切な人間関係を形成する
第4回　利用者を理解し、支援計画を作成する
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者の権利擁護、エンパワメントを理解する
第7回　多職種の連携、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　ソーシャルワーカーとしての職業倫理を学ぶ
第9回　組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　アウトリーチ、ネットワーキングの理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習報告書の作成と自己評価
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
実習目標の達成度などを総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

精神保健福祉実習

科目ナンバー	ISW 2408-T
4単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉援助実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーカー実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、精神保健福祉実習指導Ⅰ全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
精神保健福祉実習指導Ⅱ、同Ⅲ、精神保健福祉援助演習(専門Ⅰ)を並行履修すること。精神保健福祉援助演習(専門Ⅱ)も履修登録すること。
その他、履修条件については、講義概要の国家資格(社会福祉士資格、精神保健福祉士資格)についての該当ページを参照すること。精神医学、精神保健学は履修済みであることが望ましい。

[講義概要]
精神保健福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、2カ所以上の施設・機関において、合わせて24日、210時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。
なお、社会福祉士の受験資格取得のための実習(ソーシャルワーク実習Ⅰ)の履修を終えた者は、必要とされる実習時間が60時間免除される。

■授業計画
第1回　入院時あるいは急性期の患者さんやその家族への相談援助を経験する。
第2回　入院中の患者さんとの関係を構築する。
第3回　退院、地域移行・地域支援の相談援助を経験する。
第4回　多職種や地域の関係機関との協働と連携、チームアプローチを経験する。

第5回　患者さんの日常生活や社会生活状の問題に対する相談援助を経験する。
第6回　障害福祉サービス事業所等における利用者との関係の構築
第7回　利用者のニーズの把握、支援計画の作成
第8回　利用者やその家族との支援関係の構築
第9回　利用者やその関係者への権利擁護、エンパワーメント
第10回　精神保健福祉士としての職業倫理、法的義務の理解
第11回　スタッフの就業規定等の理解、組織の一員としての役割と責任の理解
第12回　組織の経営や、サービスの管理運営の実際
第13回　地域へのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発の理解
第14回　実習先施設・機関における実習指導及び巡回指導
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
実習目標の達成度等を総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録に対するフィードバックは、実習指導の授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
精神科ソーシャルワーカーや医療機関の対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

インターンシップゼミ

科目ナンバー	ISW2309-S
2単位：前期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
インターンシップ生としてふさわしい、倫理観と態度を身につける。インターンシップの目標をたて、インターンシップ先の理念や事業内容、環境等について学ぶ。インターンシップ後の振り返りを通じて気づいた自身の課題について理解し、今後のキャリアについて考える。

[履修の条件]
インターンシップⅠを並行履修すること。インターンシップゼミのみの履修は認められない。

[講義概要]
インターンシップの目的について考え、インターンシップ先を選定し、その理念や事業内容、環境等について学び、インターンシップ計画を立てる。また、インターンシップ生としての倫理観や態度についてグループワーク等を通じて学ぶ。インターンシップ後の振り返りを行い、気づいた自身の課題について理解し、今後のキャリアについて考える。

■授業計画
第1回　オリエンテーション・インターンシップの目的とは
第2回　インターンシップ先の分野、組織について
第3回　インターンシップ先の選定
第4回　インターンシップ先の理念と事業内容
第5回　インターンシップ先の分野をめぐる環境、制度政策の理解
第6回　インターンシップ計画をたてる
第7回　インターンシップ生としての倫理、態度
第8回　インターンシップ日誌について
第9回　インターンシップ報告書について
第10回　インターンシップの評価
第11回　インターンシップの振り返り①
第12回　インターンシップの振り返り②
第13回　インターンシップ報告会
第14回　今後のキャリアについて考える
第15回　インターンシップ報告書の提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(70%)

[成績評価(備考)]
・インターンシップゼミへの参加状況50%、報告会への参加20%、報告書30%で評価する。
・オリエンテーション、報告展示に欠席した場合、日誌や報告書が未提出であった場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。特に、インターンシップ先が決まったら、活動先

について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題や提出資料を基に、毎回進捗状況についてコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
福祉医療現場での採用担当の経験を活かして、進路に関する相談援助を行う。

インターンシップⅠ

科目ナンバー	ICD2301-T
1単位：前期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップゼミと並行履修すること。インターンシップⅠのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO 団体、ボランティアグループ等において、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画

第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③
第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に50分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

[備考]
福祉医療現場での採用担当の経験を活かして、進路に関する相談援助を行う。

インターンシップⅡ

科目ナンバー	ICD2302-T
1単位：前期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップⅠを履修後、さらにインターンシップを続ける際に履修する科目である。よって、インターンシップゼミおよびインターンシップⅠと並行履修すること、または履修済みであることを条件とする。インターンシップⅡのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO 団体、ボランティアグループ等にお

いて、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画

第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③
第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ50分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
福祉医療現場での採用担当の経験を活かして、進路に関する相談援助を行う。

インターンシップ III

科目ナンバー	ICD2401-T
1単位：前期1コマ	4年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップⅠⅡを履修後、さらにインターンシップを続ける際に履修する科目である。よって、インターンシップゼミおよびインターンシップⅠⅡと並行履修すること、または履修済みであることを条件とする。インターンシップⅢのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO団体、ボランティアグループ等において、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画

第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③
第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ50分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
福祉医療現場での採用担当の経験を活かして、進路に関する相談援助を行う。

インターンシップⅣ

科目ナンバー	ICD2402-T
1単位：前期1コマ	4年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップⅠⅡⅢを履修後、さらにインターンシップを続ける際に履修する科目である。よって、インターンシップゼミおよびインターンシップⅠⅡⅢと並行履修すること、または履修済みであることを条件とする。インターンシップⅣのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO 団体、ボランティアグループ等において、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画

第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③
第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ50分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
福祉医療現場での採用担当の経験を活かして、進路に関する相談援助を行う。

心理実習Ⅰ

科目ナンバー	ICP2205-T
2単位：後期1コマ	2年
高城　絵里子、石川　与志也、谷井　淳一、加藤　純、田副　真美、植松　晃子	

[科目補足情報]
受講定員は30名とする。

[到達目標]
「心理実習Ⅰ」および「心理実習Ⅱ」において、公認心理師資格の取得に必要な5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）、80時間以上の実習を行う。
「心理実習Ⅰ」においては、特に以下の点を到達目標とする。
1. 実習に臨むための準備として、実習先となる分野の理解を深め、実習に取り組む姿勢と、実習に必要となる知識および技術を養う。
2. 学内実習機関の見学実習を行い、臨床現場における公認心理師の職責の理解を深める。

なお、心理実習Ⅰの学びは、以下の内容を含むものである。
①要支援者へのチームアプローチ
②多職種連携及び地域連携
③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

[履修の条件]
①2年前期までに臨床心理系科目（別紙参照）を20単位以上履修し、その成績がGPA 2.30以上であることを条件とする。なお希望人数によっては選抜試験が行われることがある。GPAの基準を満たしていても心理実習Ⅰが履修できない場合がある。
②履修に当たっては、公認心理師になるための自覚と責任と熱意をもっている者であることを原則とする。
③本科目は公認心理師資格の取得に必要な科目としての実習であるため、原則として全クラスに出席することを求める。

[講義概要]
本科目はまず実習に取り組む姿勢を理解し、つぎに実習先となる分野と機関の理解を深め、そして、実習の記録の書き方をはじめ実習に必要な知識と技能を習得する。その上で、実際に見学実習を行う。
なお、シラバスの内容やスケジュールは、実習先の都合等により変更することがある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　公認心理師になるための必要科目としての心理実習の目的と内容の概要を理解する
第2回　心理実習への動機と目標を明確にする
第3回　心理実習の位置づけと取り組む姿勢を理解する
第4回　実習先となる施設の理解①：保健医療（グループワーク）
第5回　実習先となる施設の理解②：保健医療①（発表とディスカッション）
第6回　実習先となる施設の理解③：保険医療②（発表とディスカッション）
第7回　実習先となる施設の理解④：福祉（グループワーク）
第8回　実習先となる施設の理解⑤：福祉①（発表とディスカッション）
第9回　実習先となる施設の理解⑥：福祉②（発表とディスカッション）
第10回　実習先となる施設の理解⑦：教育・司法犯罪・産業労働（グループワーク）
第11回　実習先となる施設の理解⑧：教育（発表とディスカッション）
第12回　実習先となる施設の理解⑧：司法犯罪・産業労働（発表とディスカッション）
第13回　見学実習の準備：観察学習の視点と方法，実習記録の書き方を学ぶ
第14回　心理実習Ⅰのまとめ：見学実習への配属決定；動機と目標の明確化
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法として、毎回のディスカッション・小レポートの評価および受講態度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習、復習）を必要とする。準備学習では、ここまでの心理学および公認心理師の資格に関係する必要科目の学びの内容の復習、実習先となる分野に関する知識の習得と情報収集、授業内で出された小レポート課題を求める。

[試験・レポート等のフィードバック]
見学実習のレポートは、担当教員のコメントによるフィードバックを行う。
また、授業時のディスカッションやその他の提出課題については、授業内でフィードバックを行う。
最終課題である実習関連書類については、提出後フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場への見学実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

[テキスト]
特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

[参考文献]
特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

[備考]
履修希望者は必ず第1回の授業におけるオリエンテーションに出席すること。
「実習Ⅰ」（後期）および「実習Ⅱ」（前期）とその間の春休みに学内外の実習施設において、授業時間以外に学内外の実習施設の見学実習を行う。そのための時間を確保することが求められる。詳細については、初回のオリエンテーションのときに具体的に示されるので確認すること。
「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、実習の指導を行う。

心理実習Ⅱ

科目ナンバー	ICP 2302-T
2単位：前期1コマ	3年
高城　絵里子、石川　与志也、谷井　淳一、加藤　純、田副　真美、植松　晃子	

[到達目標]
「心理実習Ⅰ」および「心理実習Ⅱ」において、公認心理師資格の取得に必要な5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）、80時間以上の実習を行う。

「心理実習Ⅱ」においては、特に以下の点を到達目標とする。
1. 実習施設の見学実習を行い、臨床現場における公認心理師の職責の理解を深める。
2. 見学実習のまとめを行うことで、各施設およびそこにおける公認心理師の仕事に関する理解を深める。特に、以下の3点に関する理解を深めることを目標とする。

なお、心理実習Ⅱの学びは、以下の内容を含むものである。
①要支援者へのチームアプローチ
②多職種連携及び地域連携
③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

[履修の条件]
①「心理演習」および「心理実習Ⅰ」の成績が良以上であること。
②履修に当たっては、公認心理師になるための自覚と責任と熱意をもっている者であることを原則とする。
③本科目は公認心理師資格の取得に必要な科目としての実習であり、授業時間が実習の必要時間に含まれるため、全クラスに出席することを求める。

[講義概要]
心理実習Ⅱでは、見学実習の体験を整理し、その理解を深めることを行う。特に、実習先となる機関、および、そこにおける公認心理師の仕事に対する理解を深める。そのために、見学実習で学んだことをグループで発表し、クラス全体でディスカッションをすることを中心とした授業となる。
なお、シラバスの内容やスケジュールは、実習先の都合等により変更することがある。

■授業計画
第1回　心理実習Ⅱのオリエンテーション：事後学習の進め方
第2回　事後学習：大学院附属臨床心理相談センター
第3回　事後学習：井之頭病院（保健医療）
第4回　事後学習：山田病院（保健医療）
第5回　事後学習：獨協医科大学埼玉医療センター子どもの心診療センター（保健医療）
第6回　長谷川病院（保健医療）
第7回　足立区子ども支援センターげんき（教育）
第8回　杉並済美教育センター（教育）
第9回　紫翠苑（司法・犯罪）
第10回　富士電機株式会社川崎工場総務部（産業・労働）
第11回　巣立ち会シンフォニー（福祉）
第12回　おいてけ堀協会すみだ地域生活支援センター「友の家」（福祉）
第13回　調布市子ども家庭支援センターすこやか（福祉）
第14回　事後学習：実習内容の理解の確認とまとめ
第15回　レポート：実習全体の振返りと自己評価

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
実習報告のプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションの内容および参加態度を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習、復習）を必要とする。準備学習では、実習体験の整理と発表の準備、および実習体験の理解を深めるために必要文献を読むことを求める。また、クラスでの発表とディスカッションを踏まえたレポート課題に取り組むことを求める。

[試験・レポート等のフィードバック]
見学実習のレポートは、担当教員によるコメントでのフィードバックを行う。
また、授業時のディスカッションやその他の提出課題については、授業内でフィードバックを行う。
最終課題である実習関連書類については、提出後フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場への見学実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

[テキスト]
特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

[参考文献]
特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

[備考]
履修希望者は必ず第1回の授業におけるオリエンテーションに出席すること。

「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、実習の指導を行う。

文化史

科目ナンバー	ICS2102-L
2単位：前期1コマ	1〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
日本文化を中心に概説的に、また大陸、外国との関係、交流にも関心を持ちつつ学んで行きます。総合的な文化的、国際的見地を養う事ができることを目標としています。

[履修の条件]
特にありませんが、広く文化に興味を持つことを希望します。積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で課題を提出していただきます。内容は文化に関することであればテーマは問いません。事前に内容について個別に協議しま

す。

[講義概要]
日本文化史を中心に学びつつ、古代においては朝鮮半島、中国との関係、あるいはシルクロードを通りはるかペルシア等、中東との関係を、国風文化においては、源氏物語や日記文学を取り上げつつ平安の世界を学び、中世の武家文化は特に折形の殿中礼法の初歩を実技とともに取り上げます。また、近現代においては欧米文化との交渉、交流史を学びます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：
　　全体構造と日本の文化概説
第2回　古代文化史　縄文と弥生　新しい考古学の成果等をふまえて
第3回　古代文化史　大陸、朝鮮半島との交渉
第4回　中古文学の世界（1）万葉集と日本文化
第5回　中古文学の世界（2）源氏物語にみられる音楽、文化
第6回　中古文学の世界（3）日記文学　女流文化の中核
第7回　香の文化　その起源と発展について
第8回　武家文化　武家礼法（折形）　伊勢流と小笠原礼法
第9回　茶道の世界とキリスト教
第10回　能楽の世界（1）　能の起源と思想
第11回　能楽の世界（2）　キリシタン能の歴史とその可能性
第12回　道の文化　武士道とキリスト教
第13回　歌舞伎、文楽の世界　庶民の文芸の勃興について
第14回　まとめ　講義内で試験を実施します。
第15回　ー

[成績評価]
試験（50%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
日本史を高校時代に選択していない場合は、高校レベルの教科書、参考書で各時代について復習をしておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義に関してのフィードバックを次回に反映させる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。いろいろな文化を学ぶことにより、より他者を理解することが出来る。キリストの心を文化の視点から、とくに日本文化の中でどのような可能性があるかを共に考察してゆく。

[テキスト]
特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介します。

[参考文献]
網野善彦「日本の歴史」岩波新書
観世清和『新訳風姿花伝』PHP
中野剛志『日本思想史新論』ちくま新書
上村敏文編『日本の近代化とプロテスタンティズム』教文館
笠谷和比古編『徳川社会と日本の近代化』思文閣
桜井徳太郎『日本人の生と死』岩崎美術社
坂部慶夫『聖書のことばと茶のこころ』淡交社

比較文化論

科目ナンバー	ICS 2307-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
上村　敏文	

[科目補足情報]
「宗教文化士」の受験に対応します。

[到達目標]
日本文化を中心として、アジア、アフリカ、欧米の文化とを比較研究していきます。領域としては、文学、音楽、美術、建築、演劇などさまざまのジャンルが交差的に関係してきますが、基本的にはそれぞれが最も関心のある領域を深めることを最大限の目標とします。各自の関心に応じてそれぞれの分野を深めて行く事が求められます。自分の関心と照らし合わせて複合的にさまざまな文化を楽しく学んでいくことができることを目標としています。

[履修の条件]
積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で発表を課します。内容は比較文化に関することであれば選択するテーマは何でも構いません。発表前に内容について個別に協議します。

[講義概要]
日本文化を基調として、古代から現代までの特徴ある文化体系を学びながら、並行的に人類発祥の地としてのアフリカの文化から地中海世界、インド、アジア、ヨーロッパなど広範な地域について比較文化的に学びます。「宗教を一つの社会文化現象」と把握する立場から、特にアフリカの伝統的宗教、キリスト教、イスラーム教の関係について比較、対比して歴史的、宗教学的な考察を加えて行きます。現在、アフリカにおいて何故、キリスト教、イスラーム教が急速に伸びているのかを日本、アジアの状況と比較する事により検討していきます。併せて、馴染みの少ないイスラーム文化についても学んで行きます。より身近になりつつあるテーマとして、当然知っておくべき事項を学び、中近東やアジア、アフリカなどで起きていることなどを客観的に学んでいきます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　講義の全体構造と到達目標を明らかにする。
第2回　比較文化方法論（1）　宣教師と文化観察からのスタート
第3回　ラフカディオ・ハーンの見聞した日本
第4回　日本文化と欧米との遭遇　キリシタン時代
第5回　ポルトガルがもたらした日本文化　能楽との関係
第6回　「安土桃山時代」における西洋社会の影響
第7回　アジアの文化と宗教　中東との交渉　シルクロード
第8回　中国の文化と宗教　儒教と道教
第9回　韓国の文化と宗教　基督教を中心として
第10回　インドの文化と宗教　アーリアの侵入と土着文化

第11回　ネパールの文化と宗教　仏教の発祥と現代
第12回　ハワイ、ブラジル社会と日系人　キリスト教受容
第13回　国際社会における日本　「無宗教」と神道、武士道
第14回　まとめ　講義内で試験を実施します。
第15回　ー

[成績評価]
試験（50%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
世界史、日本史の幅広い基本的な知識は必要です。弱点がある場合は高校時代の教科書などで適宜補強しておくことが望ましい。講義を通して、各種の新聞を読むことを奨励します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表などのフィードバックを次回の講義等で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。比較文化の方法論を学ぶことにより、より他者、異文化を理解することが出来るようになる。ミッションスクールとして、キリスト教精神のルーツを比較文化、比較宗教の視点から考察を深めていく。

[テキスト]
特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介します。

[参考文献]
シュペングラー『西洋の没落』五月書房
島岡由美子『我が志アフリカにあり』朝日新聞社
笹森建美『武士道とキリスト教』新潮新書
松原久子『驕れる白人と闘うための日本近代史』文春文庫
井上章一『日本人とキリスト教』角川ソフィア文庫

日本における死生学

科目ナンバー	ICS 2403-L
2単位：前期1コマ	4年
石居　基夫	

[到達目標]
日本人の伝統的死生観に学び、現代日本の死と生に関する問題を考察する力を養う。

[履修の条件]
特になし。通年で履修することが望ましい。

[講義概要]
日本の宗教・文化に一貫して流れる死生観を取り上げ、日本人にとってこの問題をめぐる霊的ニーズのあり方に一つの焦点を当てていきたい。
日本人の霊性は聖書的信仰とどのように出会うのか。
前期の「Ⅰ」では、日本の伝統的な死生観の形成に付いて、歴史的な視点から見ていくことが大きなテーマとなる。

■授業計画
第1回　イントロダクション　日本人の死生観
第2回　古事記（神道）に見る死生観①
第3回　古事記（神道）に見る死生観②
第4回　日本の仏教受容と死生観①
第5回　日本の仏教受容と死生観②
第6回　日本的な美意識と死生観①
第7回　日本的な美意思と死生観②
第8回　死の問題を考えること
第9回　山岳信仰と死生観
第10回　民間信仰と死生観
第11回　輪廻、生まれ変わりの思想
第12回　祖先儀礼
第13回　伝統的死生観と現代①
第14回　伝統的死生観と現代②
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
日頃から、新聞や雑誌、小説などの題材をとおして「死と生」に関する現代的な問題に関心を持つように務める。授業の復習と読書やノート作成に毎週各授業におよそ200分の準備学習を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーには次回の授業で応答する。提出のレポートの返還。

[ディプロマポリシーとの関連性]
日本人の死と生についての理解を歴史的に学ぶことによって、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
加藤周一他『日本人の死生観　上・下』（岩波新書）、
石居基夫『キリスト教における死と葬儀～現代の日本的霊性との出会い』（キリスト新聞社）
その他、授業内で参考文献を紹介する。

キリスト教と死生学

科目ナンバー	ICS 2404-L
2単位：後期1コマ	4年
石居　基夫	

[到達目標]
キリスト教の死と生、また復活の思想の形成とその神学的考察の

意味を理解し、キリスト教がこの死といのちについて、現代の私たちに何をメッセージとしているか深く考察する。

[履修の条件]
特にないが、前期の「死生学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
前期の「Ⅰ」で学んだ、日本の伝統的な死生観にもとづき日本の実践的な死者儀礼について理解を深めつつ、日本のキリスト教における死や葬儀をめぐる問題、課題にせまる。キリスト教における死や死者に対する聖書的理解、また具体的な思想の展開を追うことを大きなテーマとしながら、私たちの経験する「死」という出来事にある問題の理解を深める。

■授業計画
第1回　イントロダクション・死と生についてキリスト教史における課題と理解を深めることについて
第2回　旧約聖書の死の理解①
第3回　旧約聖書の死の理解②
第4回　新約聖書の死の理解①
第5回　新約聖書の死の理解②
第6回　教会教父たちの死の理解①
第7回　教会教父たちの死の理解②
第8回　中世神学における死の理解
第9回　宗教改革の神学における死の問題
第10回　ルターと「死の問題」
第11回　近現代神学における死の理解
第12回　現代における「いのち」へのまなざし
第13回　キリスト教と葬儀
第14回　日本の葬儀とキリスト教
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
キリスト教の歴史を含めた総合的な予習、授業内で紹介した聖書や図書の読書など復習に各授業回におよそ200分の準備学習を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーなどについては次回の授業において応答する。またレポートは返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。キリスト教についての歴史的理解を深めつつ、特に死と生の理解を通し理論と実践を関連づける力を身につける。

[テキスト]
聖書(日本聖書協会・新共同訳)

[参考文献]
ヨハネ・パウロⅡ世『いのちの福音』など、必要に応じて、クラスにおいて紹介する。

キリスト教カウンセリング

科目ナンバー	ICS2308-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
河村　従彦	

[到達目標]
一般的なカウンセリングとキリスト教カウンセリングの異同を理解する。臨床心理学の知見をベースに、キリスト教の神学と理念に基づく心理援助のあり方を学ぶ。将来、心理援助に関わることも視野に、自己洞察を深めることを目的とする。

[履修の条件]
特になし

[講義概要]
基本的に講義形式で授業を進めるが、随時ディスカッションを行うため、積極的な質問やコメントは歓迎する。キリスト教や心理学の知識(information)を身につけ、さらにディスカッションを行うことで、自分ならどう考えるか、自らのスタンスを構築する(formation)ための時間とする。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、キリスト教カウンセリングの意味と特徴
第2回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎①　〜聖書の人間観、臨床心理学との異同
第3回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎②　〜聖書の人間観、自立してゆく人間
第4回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎③　〜聖書の人間観、信仰発達論
第5回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎④　〜キリスト論的視座
第6回　援助者の資質　〜自己の人格形成の評価、自己洞察の深化
第7回　キリスト教カウンセリングの基本的姿勢　〜基本スタンス、プロセス、解決
第8回　スピリチュアリティ　〜存在の根拠への目線
第9回　ターミナルケア　〜たましいへの究極の援助
第10回　援助の具体例　▼ビデオ視聴　「See You in the Morning」
第11回　苦難と悲嘆の理解　〜神学的理解に基づく援助、喪失への寄り添い
第12回　諸領域への対応　〜薬物依存、自死、DV
第13回　神さまイメージ理論　〜神さまイメージの内在化と援助の可能性
第14回　総括と振り返り　▼ビデオ視聴　「ヤコブへの手紙」
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。参考図書の講読とともに、学期末の課題・レポート作成に役立つように、自己洞察について与えられた「気づき」は、ノートにまとめておくことを勧める。

[試験・レポート等のフィードバック]
リポートはコメントを加えて返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリスト教理念に土台を置いた心理の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、総合的な人間理解に立って、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。

[テキスト]
特に指定しない。毎回講義ノートを配布

[参考文献]
『現代キリスト教カウンセリング・第１巻～キリスト教カウンセリングとは何か』（三永恭平他監修、日本基督教団出版局　2800円+税）
『子供服を着たクリスチャン』（ディビッド・シーモンズ著、イムマヌエル出版局、1500円+税）
『ヨブ記に見る試練の意味』（河村従彦著、いのちのことば社、2017年、1300円+税）
『なぜ私だけが苦しむのか』（ハロルド・クシュナー著、岩波現代文庫、1080円+税）
『神さまイメージ豊かさ再発見～聖書から心理臨床まで』（河村従彦著、イムマヌエル出版事業部、1500円+税）
その他、授業の中で提示する。

キリスト教の歴史 II

科目ナンバー	ICS 2310-L
2単位：後期1コマ	3年
挽地　茂男	

[到達目標]
キリスト教の前史からキリスト教が成立する諸要因を理解し、宗教改革から現代までの歴史を理解する。

[履修の条件]
キリスト教の歴史に興味のある人。

[講義概要]
ルターの宗教改革の始まりにおいて人々が何を大切し、何を問題にして教会の信仰と歴史を形成していったのか、またその後の多様なキリスト教の発展の様相を学びます。歴史項目について、キリスト教資料および周辺史料を参照しながら、学んでいきます。授業は講義形式で行いますが、適宜、視覚教材を用います。

■授業計画
第1回　オリエンテーション―キリスト教史をどう見るか。講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介
第2回　プロテスタントの時代1―宗教改革の先駆者たち
第3回　プロテスタントの時代2―さまざまな宗教改革
第4回　カトリックの反応―対抗宗教改革
第5回　近代世界のキリスト教1―プロテスタント勢力の拡大
第6回　近代世界のキリスト教2―プロテスタント諸派の成立
第7回　近代合理主義とキリスト教―啓蒙主義的キリスト教
第8回　現代キリスト教の潮流1―近代主義
第9回　現代キリスト教の潮流2―原理主義
第10回　現代キリスト教の潮流3―現代神学
第11回　現代キリスト教の潮流4―宗教間対話
第12回　日本のキリスト教1―キリシタン時代
第13回　日本のキリスト教2―明治の開国とキリスト教の再渡来
第14回　日本のキリスト教3―日本の社会活動とキリスト教
第15回　まとめ―キリスト教史をどう見るか

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
レポートを中心に、授業における参加態度等を含めて、総合的に評価します。授業の出席は厳しく取り扱います。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業で扱う歴史項目について、テキストを考えながら熟読すること。本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業時の質問に答える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」キリスト教の歴史を通して、古代・中世の人々の信仰と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

[テキスト]
フスト・ゴンサレス『キリスト教史』下巻、『旧新約聖書』（いずれの訳でもよい）

[参考文献]
授業の進度に応じて紹介します。

[備考]
授業中の私語と惰眠は厳禁にします。

聖書入門 II（新約）

科目ナンバー	ICS 2211-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
徳野　昌博	

［ 到達目標 ］

新約聖書についての理解を深めることを目標とし、そこに収められている27の文書について、文学類型（ジャンル）ごと、福音書、歴史書、書簡、牧会書簡、公同書簡、黙示録に分けてその内容を把握、理解すること。そして、新約聖書の中心とも言えるイエス・キリストについて、いかなる存在で、どういう生涯を送り、何を語り教え、何をしたのか等を、新約聖書だけでなく、旧約聖書の証言に基づいて、厳密に考察することで、目標に到達したい。

［ 履修の条件 ］

授業には聖書必携。14回の授業には全部出席することを当然のこととし、真摯に受講することを期待する。遅刻、早退、中抜けはしないように。

［ 講義概要 ］

新約聖書の27文書をジャンルごとに、あるいは、単体で取り上げ、その内容や、そこに登場する重要な人物や、文言についてや、説明する。いずれの文書に関しても、聖書本文を読みつつ、その特徴や背景についても学び、その思想、メッセージを理解するようにする。また、イエス自身と、その弟子たち、十二使徒の言動についても、考察し、その背景を探っていく。また、キリスト教の最初の伝道者と言われたりするパウロについても、彼の書簡を読みつつ、その人となり、思想、神学について考察する。そして、使徒たちの働きによって誕生したキリスト教会、キリスト教についても、新約聖書の証言に基づいて学ぶ。

■授業計画

第1回　イントロダクション。授業内容、成績評価、試験についての説明。教科書は定めないが、参考図書について紹介。新約聖書の構造について概要を説明。

第2回　使徒パウロについて、その生涯と、「回心」について、また、彼と当時のキリスト教会との関係を知るために、「エルサレム会議」、「アンティオキアの衝突」について、『使徒言行録』とパウロ自身の証言から学ぶ。

第3回　使徒パウロの書簡から、『テサロニケの信徒への手紙一』を取り上げ、その本文を読みつつ、そこに記されている彼の思想について学び、メッセージを聞き取る。この書簡は、新約聖書中、最古の文書とされる。

第4回　使徒パウロの書簡から、『コリントの信徒への手紙一』を取り上げ、その本文を読みつつ、そこに記されている彼の思想について学び、メッセージを聞き取る。その13章は「愛の賛歌」と呼ばれている。なぜ、ここで、パウロは愛について語るのか、それについて考察する。

第5回　使徒パウロの書簡から、『ガラテヤの信徒への手紙』を取り上げ、その本文を読みつつ、そこに記されている彼の思想について学び、メッセージを聞き取る。「キリスト教のマグナ・カルタ」と称されたりする書簡であるが、その強靭なキリスト教の信仰思想の淵源を探る。

第6回　使徒パウロの書簡から、『フィリピの信徒への手紙』、『フィレモンへの手紙』、『コリントの信徒への手紙二』を取り上げ、本文を読みつつ、そこに記されている彼の思想、特に、『コリントの信徒への手紙二』では『使徒』とは何かについて学び、彼のメッセージを聞き取る。

第7回　使徒パウロの書簡から、はからずも遺言となった、『ローマの信徒への手紙』を取り上げ、その本文を読みつつ、そこに記されている彼の思想、とりわけ、彼の神学思想の総括ともいえる、この書簡について学び、メッセージを聞き取る。

第8回　福音書の学び。最古の福音書とされる『マルコによる福音書』の本文を読みつつ、マルコの描くイエス・キリストを復元し、そもそも「福音書」なる文学類型についても考察する。

第9回　福音書の学び。『マタイによる福音書』。「山上の説教」を読み、そこからイエスの教えについて学ぶ。そして、マタイの描くイエス像と、このこ福音書の特徴を考察する。

第10回　福音書の学び。『ルカによる福音書』。この福音書からは、主に、イエスの「譬話」を取り上げ、その内容について学びつつ、ルカの描くイエス像に接近し、そのメッセージを聞きとる。

第11回　福音書の学び。『ヨハネによる福音書』。独特の表現に満ちた「異色」とも言える「第四の福音書」の特徴的な表現を取り上げ、考察し、そのイエス像に接近し、時代状況についても学ぶ。

第12回　歴史書『使徒言行録』の学び。著者ルカの描く、使徒パウロについて、初代のキリスト教会について学ぶ。

第13回　牧会書簡、公同書簡、『ヘブライ人への手紙』の学び。

第14回　『ヨハネの黙示録』の学び。

第15回　試験

［ 成績評価 ］

試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］

試験の点数が大きく、決定的に影響する。「その他の評価方法」とは、授業中の態度、積極な取り組み。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］

本科目では各授業ごとに、およそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］

期末に試験を実施。試験実施前、第13回の授業の最後に「模擬試験」を配付。第14回の授業の最後に、模擬試験に関して、質問があれば、受け付ける。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］

自己理解を深め、豊かな人間性を身につけて、自然・文化・宗教・歴史を重んじ、さまざまな条件のもとにある一人ひとりの人間のいのちと価値を尊び、他者を理解し支え、共に生きることを喜ぶことができるようになること。

［ テキスト ］

新約聖書

［参考文献］
必要に応じて、授業で紹介する。

新約聖書精読

科目ナンバー	ICS2312-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
後藤　由起	

［到達目標］
はるかな時を超え、現代を生きるわたしたちに語りかけ続ける聖書。この講義では新約聖書を精読し、その宣教使信を聞き取ることを目標とします。

［履修の条件］
特にありません。新約聖書に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。

［講義概要］
マルコによる福音書を釈義しながら精読し、その意図を聞き取ります。
講師による講義と学生によるディスカッションを中心とし、適宜、パワーポイント等の教材を用います。12回目は日曜日に実際に教会に礼拝に出席し、どのように福音書が生きた説教の言葉として語られているかを体験します。

■授業計画
第1回　イントロダクション　オリエンテーションとマルコによる福音書緒論
第2回　マルコによる福音書1：1−45 イエスの活動の始め
第3回　マルコによる福音書2：1−3：35 カファルナウムでの活動
第4回　マルコによる福音書4：1−34 神の国のたとえ
第5回　マルコによる福音書4：35−6：6a 奇跡物語とナザレでの活動
第6回　マルコによる福音書6：6b-8：26 ガリラヤでの宣教1
第7回　マルコによる福音書6：6b-8：26 ガリラヤでの宣教2
第8回　マルコによる福音書8：27−10：52 受難予告と苦難への備え
第9回　マルコによる福音書11：1−12：44 エルサレムでの活動
第10回　マルコによる福音書13：1−37　黙示的説教
第11回　マルコによる福音書14：1−15−47 イエスの受難1
第12回　礼拝で聖書を語るということ
第13回　マルコによる福音書14：1−15：47 イエスの受難2
第14回　マルコによる福音書16：1−20 イエスの復活
第15回　試験レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
リフレクションペーパーとディスカッション参加度　50%、試験レポート　50%

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
指示された聖書の該当箇所をあらかじめ読むこと。ディスカッション準備も含め各授業回に200分の準備学習（予習・復習など）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
ディスカッションやリフレクションペーパーについて、適宜口頭でコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、自らの存在と他者との対話、社会と世界観について思考を深めるとともに、全人的なケアの精神的な土台となる神学の専門的な知識を得ることができる。

［テキスト］
新共同訳聖書

［参考文献］
毎回、新共同訳聖書を持参すること。

旧約聖書の人間観

科目ナンバー	ICS2313-L
2単位：後期1コマ	3年
大串　肇	

［到達目標］
旧約聖書は神のみならず、人間について語っています。人間の本質は変わっていません。男も女も、からだ、魂、心をもった人間です。旧約聖書はその姿をいきいきと、立体幾何学的に描き出しています。その人間像とはどのようなものなのか。旧約聖書の人間理解について学ぶことを目標にします。

［履修の条件］
特にありません。

［講義概要］
旧約聖書の人間理解の上で、重要なキーワードや聖書箇所を取り上げながら展開します。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　聖書の基本的な読み方や用語、参考文献について概説します。
第2回　男と女
第3回　人間が生きる意味
第4回　人間が死ぬ意味
第5回　苦難と困窮
第6回　人間の欲望と魂
第7回　からだと弱さ
第8回　強められた人間
第9回　霊と心はどこにあるのか。
第10回　分別のある人間-意志の座１）
第11回　分別ある人間ー感情２）

第12回　分別ある人間ー理性３）
第13回　分別ある人間ー記憶４）
第14回　講義のまとめ
第15回　ー

［成績評価］
試験（0％）、レポート（100％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
配布されたプリントに基づいて聖書を自分で読み返す。予め指定された聖書箇所を読む。
本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
課題レポートについては講義時にコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
旧約聖書に描かれている自然、文化、宗教、歴史を学び、その人間像を通して、いのちの価値を重んじながら自己理解を深め、豊かな人間性を身に着ける。

［テキスト］
新共同訳聖書　講義中にプリントを配布します。

［参考文献］
講義中に指示します。

聖書に見るジェンダー

科目ナンバー	ICS2315-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
梁　熙梅	

［到達目標］
人はだれも幸せに生きる権利があります。女性でも男性でも、身体的・精神的にハンディーがあってもなくても、貧しいか豊かであるかを問わず、人は尊い存在です。けれども、わたしたちが生きる社会、国、世界はこの権利を犠牲にするように強い、とくに弱い立場にいる人を犠牲に強いる場合が多いです。この授業では、自分らしさを大切にすることを基本にして、いくつもの仕組みの中に失われている自分を探す作業をします。そして、他者や他の自然とも共に生きるように作られた、本来人が生きるべき道を見つけることを目指します。さらには、家、社会、国、世界の構造的仕組みの暴力性を暴くとともに、平和と自由の道をも開くことを目標とします。

［履修の条件］
まずは、クラスに出席し、クラスディスカッションに積極的に参加すること。聖書の知識が必要とされるので、特に授業で扱われる箇所が示されたときには事前に読んでくること。

［講義概要］
ジェンダー及び性（セックス）についてより具体的に学びます。そして、自分の中に位置づけられているジェンダー概念に気づく学びをします。さらには、家や社会の中でシステム化されてしまっているがゆえに、歪められ失われている人権、または正義について考えます。そして、関連のある聖書テキストをいくつか選び、ともに考えながら学びます。このような学びを通して、本来の人間のあり方、多様性、神と人間の関係について深く考察していきます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション。コースの目的、シラバスの説明、授業の進め方、課題についてなど。
第2回　ジェンダーとはなにか
　　家父長制・父権制とはなにか
第3回　多様な性とジェンダーとの関係
第4回　自然界と人類のはじまり
　　〜聖書、創世記１〜３章〜
第5回　わたしたちの神イメージ
第6回　プリンセスストーリとジェンダー
　　〜シンデレラ・コンプレックス〜
第7回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第8回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第9回　悪女と善女は誰が決める?
　　〜眠れる森の姫物語〜
第10回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第11回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第12回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第13回　「共に生きる」ということの考察
第14回　生命共同体としての人間の関わり
第15回　ー

［成績評価］
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（20％）

［成績評価（備考）］
出席とディスカッションへの積極的な参加と授業の中で出される課題提出とレポート提出。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業の中で示された参考文献や聖書箇所をよく読んでくること。学んだことを自分のものにできるようにしてくること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
考えを深めてディスカッションできるように、授業の中で、次回の授業のために準備してくる課題を伝えます。クラスで挙げられたテーマの中から一つ選んでレポートを提出するようにします（最終評価）。

［ディプロマポリシーとの関連性］
ディスカッションへの積極的な参与により、自己理解を深められる。それによって、他者を理解し受け入れられる豊かな人間性を身につけ、他者と自然界との共存の大切さを深め、他者の思いや考えの理解と共感、さらには自己思索と思いを言葉化し、状況に応じて適切な発言ができること。

[テキスト]
聖書(新約・旧約)がおさまっているもの。

[参考文献]
山口里子「あなたらしい聖書の学び」新教出版社、2009
山口里子「虹は私たちの間に」新教出版社、2008
絹川久子「ジェンダーの視点で読む聖書」日本基督教団出版局、2003
絹川久子「女性たちとイエス」日本基督教団出版局、1997
若桑みどり「お姫さまとジェンダー」ちくま新書、2003
ニューサム、リンジ編「女性たちの聖書注解」新井・山内監修、新教出版社、1998
エリザベス・シュスラー・フィオレンツァー「フェミニスト聖書注解」絹川・山口(里)日本語監修、日本基督教団出版局、2002

[備考]
受講生の関心、経験、希望によってシラバスが変更される場合があります。

美術史

科目ナンバー	ICS 2212-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
真下　弥生	

[到達目標]
芸術作品の歴史的背景への洞察や複眼的な観察眼を総合的に用いながら、批判的な視点を培い、美術作品、主に造形芸術作品を鑑賞・分析する力を養う。

[履修の条件]
・高等教育課程の歴史(世界史、日本史等)を履修していることが望ましいが、未履修者も歓迎する。好奇心および柔軟な思考をもって、楽しみながら学ぶ姿勢を歓迎する。
・後期「キリスト教美術特講」は、この講義を踏まえた内容となる。
・理由なく遅刻、早退をしないこと。出席が全体の2/3に満たない場合は、評価の対象としない。

[講義概要]
古今東西の美術作品(主に視覚を用いて鑑賞する造形芸術表現)を幅広く題材に取り、美術表現を複眼的かつ批判的に分析する視点を培う。作品の検討にはスライドを使用する。
また、美術研究は実作に触れることが非常に重要なので、学外での見学を予定している。日程は授業開始後に、受講生と相談の上決定する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、デモンストレーション：ひとつの作品をさまざまな視点から見る
第2回　「美術」とは何か：その多様性、他の芸術表現との比較
第3回　造形芸術表現分析の視点1・絵画/平面/二次元上に展開する作品を題材に：構図・表現−まず観察すること
第4回　造形芸術表現分析の視点2：主題
第5回　造形芸術表現分析の視点3：史的背景、コンテキスト
第6回　造形芸術表現分析の視点4：素材
第7回　造形芸術表現分析の視点5：見せ方、展示方法、環境
第8回　彫刻1/立体/三次元上に展開する作品：絵画・平面作品へのアプローチを応用して
第9回　彫刻2：公共の場と彫刻、彫刻の概念の拡張
第10回　建築1：美術としての建築
第11回　建築2：建築から受け取る形とメッセージ
第12回　工芸：暮らしの中の造形芸術
第13回　非欧米圏の美術
第14回　現代美術
第15回　学期末試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
講義内容に関する試験を学期末に実施する。
レポートは、学期中に各自美術館等の展覧会に行き、その内容や感想を総合的に記述する。執筆要綱は学期中盤に配布・説明する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
原則として、次回の授業の詳しい内容を事前に予告しないため、事前学習は要さないが、授業に集中し、主体的かつ批評的に作品を見る視点を養うこと。また、興味を持った展覧会に、積極的に足を運ぶことを勧める。
試験・レポート課題作成前には、講義のノートを見直し、これまで学んだことを復習すること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験・レポートの採点時に、分析・批評の手法や内容についてコメントを付して返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」さまざまな文化圏の造形表現を通して、それぞれの作品に流れる歴史の蓄積と制作者の息遣いに触れ、踏み込んだ人間理解と共感を深める。
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」作品をさまざまな角度から把握・分析し、そこから導き出される客観的事実を踏まえて自身の意見を培い、またそれを自分の言葉で表現する。

[テキスト]
なし(参考図書リストおよびプリントを必要に応じて配布する)

[参考文献]
なし(第1回の講義で紹介する)

[備考]
授業計画の内容や順序は、受講生の関心等に合わせて変更す

る可能性がある。

キリスト教美術特講

科目ナンバー	ICS2213-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
真下　弥生	

[到達目標]
キリスト教に関わる美術/主に造形芸術表現を、歴史的背景への洞察や複眼的な観察眼を総合的に用いながら、批判的視点を培いつつ鑑賞・分析する。

[履修の条件]
・高等教育課程の歴史（世界史、日本史等）を履修していることが望ましいが、未履修者も歓迎する。好奇心および柔軟な思考をもって、楽しみながら学ぶ姿勢を歓迎する。
・前期「美術史」を履修していること。前期で学んだことを踏まえた内容となるが、未履修者は相談に応じる。
・理由なく遅刻、早退をしないこと。出席が全体の2/3に満たない場合は、評価の対象としない。

[講義概要]
前期で培った美術作品（主に視覚を用いて鑑賞する造形芸術表現）への分析的観点を活用しつつ、主に西洋における、キリスト教に関わる美術作品に焦点をあてて学ぶ。作品の検討はスライドを使用する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、デモンストレーション：複眼的にキリスト教美術を見る（前期復習）
第2回　美術とは何か、そして「キリスト教美術」とは何か、キリスト教美術の特徴・他の宗教美術との比較、キリスト教美術の持つ「問題」
第3回　キリスト教美術の時間軸概説1：主に西洋美術の流れ
第4回　キリスト教美術の時間軸概説2
第5回　キリスト教美術の時間軸概説3：日本のキリスト教美術
第6回　キリスト教美術における素材
第7回　建築1（教会建築）
第8回　建築2（教会建築）
第9回　物語とキリスト教美術1（「物語」とは何か、旧約聖書物語）
第10回　物語とキリスト教美術2（旧約聖書物語）
第11回　物語とキリスト教美術3（新約聖書物語：イエスの生涯）
第12回　物語とキリスト教美術4（新約聖書物語：降誕物語）
第13回　物語とキリスト教美術5（聖人伝説）
第14回　現代社会とキリスト教美術
第15回　学期末試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
講義内容に関する試験を学期末に実施する。
レポートは、学期中に各自キリスト教美術に関する展覧会/教会建築を見学し、その内容や感想を総合的に記述する。執筆要綱は学期中盤に配布・説明する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
原則として、次回の授業の詳しい内容を事前に予告しないため、事前学習は要さないが、授業に集中し、主体的かつ批評的に作品を見る視点を養うこと。また、興味を持った展覧会やキリスト教に関わる建築に、積極的に足を運ぶことを勧める。
試験・レポート課題作成前には、講義のノートを見直し、これまで学んだことを復習すること。
→本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験・レポートの採点時に、分析・批評の手法や内容についてコメントを付して返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」キリスト教圏を主に、さまざまな文化圏の造形表現を通して、それぞれの作品に流れる歴史の蓄積と制作者の息遣いに触れ、踏み込んだ人間理解と共感を深める。
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」作品をさまざまな角度から把握・分析し、そこから導き出される客観的事実を踏まえて自身の意見を培い、またそれを自分の言葉で表現する。

[テキスト]
なし（参考図書リストおよびプリントを必要に応じて配布する）

[参考文献]
なし（第1回の講義で紹介する）

[備考]
授業計画の内容や順序は、受講生の関心等に合わせて変更する可能性がある。

キリスト教音楽実技 I

科目ナンバー	ICS2104-P
2単位：通年	1〜4年
湯口　依子、深井　李々子	

[到達目標]
希望する鍵盤楽器の基礎的な技術を習得し、読譜力と表現力を身につける。

[履修の条件]
ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が

望ましい。
パイプオルガンはJ.S.バッハ「インヴェンション２声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。通年での履修。充分な練習を行うこと。

[講義概要]
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術を学びながら教会音楽の作品を学ぶ。

■授業計画

第1回　オリエンテーション。各々のレベルを確認し、レッスンの進め方やどのような曲に取り組むか説明し、課題を与える。
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　実技演習。前期の総まとめ、および後期に取り組む課題を与える。
第15回　―
第16回　―
第17回　実技演習
第18回　実技演習
第19回　実技演習
第20回　実技演習
第21回　実技演習
第22回　実技演習
第23回　実技演習
第24回　実技演習
第25回　実技演習
第26回　実技演習
第27回　実技演習
第28回　実技演習
第29回　実技演習
第30回　実技演習
第31回　実技試験

[成績評価]
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（70％）

[成績評価（備考）]
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にして取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分～40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分ほどの準備で臨むことになる。14回の授業（レッスン）でおよそ56時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
実技試験時に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

[テキスト]
それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。
例）ピアノ：「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」（音楽之友社）等
オルガン：「教会オルガン基礎教程」（パックスエンタープライズ）「80コラール前奏曲集」「Ｊ．Ｓ．バッハオルガン曲集」（ペータース）等

[参考文献]
特になし

キリスト教音楽実技 II

科目ナンバー	ICS2214-P
1単位：前期1コマ	2～4年
湯口　依子、深井　李々子	

[到達目標]
キリスト教音楽実技Ｉをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

[履修の条件]
すでにキリスト教音楽実技Ｉを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、またはJ.S.バッハ「インヴェンション２声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。充分な練習を行うこと。

[講義概要]
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオ

ルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。

■授業計画

第1回　オリエンテーション。キリスト教音楽実技Ⅰで習得した曲を踏まえて各々のレベルに合わせて課題曲を決める。
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　総まとめとして実技試験をする。
第15回　__

[成績評価]
試験（30%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（70%）

[成績評価（備考）]
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30～40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分の準備で臨み、14回の授業（レッスン）で56時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
実技試験時に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。、音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

[テキスト]
それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。
例）ピアノ：「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」（音楽之友社）等
オルガン：「教会オルガン基礎教程」（パックスエンタープライズ）「80コラール前奏曲集」「Ｊ．Ｓ．バッハオルガン曲集」（ペータース）「ブクステフーデオルガン曲集」（ハンセン）
「パッヘルベルオルガン曲集」（ベーレンライター）等

[参考文献]
特になし

キリスト教音楽実技 III

科目ナンバー	ICS 2215-P
1単位：後期1コマ	2～4年
湯口　依子、深井　李々子	

[到達目標]
キリスト教音楽実技Ⅱをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

[履修の条件]
すでにキリスト教音楽実技Ⅱを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、またはJ.S.バッハ「インヴェンション２声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。充分な練習を行うこと。

[講義概要]
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。自分が学ぶ楽器に対する理解を深め、基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。また音楽的表現力を高めることを目標にする。

■授業計画

第1回　オリエンテーション。キリスト教音楽実技Ⅱで習得した曲を踏まえて各々のレベルに合わせて課題曲を決める。
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　総まとめとして実技試験を行う。
第15回　__

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

[成績評価(備考)]
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分から40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分の準備で臨み、14回の授業(レッスン)で56時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
実技試験時に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。、音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

[テキスト]
それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。
例)ピアノ：「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等
オルガン：「教会オルガン基礎教程」(パックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「Ｊ．Ｓ．バッハオルガン曲集」(ペータース)「ブクステフーデオルガン曲集」(ハンセン)
「パッヘルベルオルガン曲集」(ベーレンライター)等

[参考文献]
特になし

日本の宗教 I

科目ナンバー	ICS2216-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
古事記の上巻を中心に読破する。適宜、対応する日本書紀の部分とを比較検討する。また万葉集についても可能な限り導入する。

[履修の条件]
基本的な、日本の宗教の源流、背景について学びます。

[講義概要]
現存する日本最古の書物としての『古事記』の上巻を中心に読んでいきます。中巻、下巻についても適宜取り上げます。また、比較資料として『万葉集』『日本書紀』も参考として使用しつつ、日本の宗教の源流を探訪します。文化、宗教、歴史等多角的に古代の日本を検証し、どのように日本人の宗教観が醸造されたかを学びます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　古事記　序文の構造について
第3回　古事記と日本書紀の共通点と相違
第4回　古事記本文　国生み神話(天地開闢)
第5回　古事記本文　黄泉と中国
第6回　古事記本文　「罪と罰」　スサノヲノミコト
第7回　日本の仏教　黎明期
第8回　日本の仏教　展開
第9回　日本の仏教　鎌倉仏教
第10回　仏教の将来について
第11回　チベット仏教について
第12回　ヨガと仏教
第13回　神道と仏教、キリスト教
第14回　日本宗教のまとめ　講義内で試験を実施します。
第15回　ー

[成績評価]
試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
積極的に講義とディスカッションに参加すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
古事記の音読をしますから、しっかりと読めるように準備すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートなど、コメントシートを使用して次回の講義で反映します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

[テキスト]
倉野憲司『古事記』岩波文庫

[参考文献]
網野善彦『海民と日本社会』新人物文庫
唐木順三『日本人の心の歴史』筑摩書房
所功『伊勢神宮』講談社学術文庫
島田裕巳『神道はなぜ教えがないのか』ベスト新書
村松剛『死の日本文學史』中公文庫

日本の宗教 II

科目ナンバー	ICS 2217-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
前期に続いて、古事記の中巻を中心に読破する。適宜、対応する日本書紀の部分とを比較検討する。また万葉集についても可能な限り導入する。

[履修の条件]
基本的な、日本の宗教の源流、背景について学びます。

[講義概要]
現存する日本最古の書物としての『古事記』の上巻を中心に読んでいきます。中巻、下巻についても適宜取り上げます。また、比較資料として『万葉集』『日本書紀』も参考として使用しつつ、日本の宗教の源流を探訪します。文化、宗教、歴史等多角的に古代の日本を検証し、どのように日本人の宗教観が醸造されたかを学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　日本の源流についての考察
第2回　日本宗教の原風景　アイヌ
　　縄文と弥生
第3回　熊野古道と三輪大社、出雲
第4回　伊勢神宮と古事記
第5回　古事記本文　黄泉と中国
第6回　古事記の神々
第7回　渡来の神々と古事記
第8回　日本の仏教　奈良、平安
第9回　日本の仏教　鎌倉仏教
第10回　仏教の将来について　日本的仏教
第11回　白山信仰と仏教
第12回　神仏習合の歴史
第13回　日本的キリスト教　無教会
第14回　まとめ　講義の中で試験を実施します。
第15回　ー

[成績評価]
試験（50%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
積極的に講義とディスカッションに参加すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
古事記の音読をしますから、しっかりと読めるように準備すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートなど、コメントシートを使用して次回の講義で反映します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

[テキスト]
久保田展弘『日本の聖地　日本宗教とは何か』講談社学術文庫

[参考文献]
網野善彦『海民と日本社会』新人物文庫
唐木順三『日本人の心の歴史』筑摩
川勝平太『文明の海洋史観』中公文庫
島田裕巳『神道はなぜ教えがないのか』ベスト新書
村松剛『死の日本文學史』中公文庫

キリスト教の信仰

科目ナンバー	ICS 2405-L
2単位：前期1コマ	4年
宮本　新	

[到達目標]
聖書を基本テキストにして、キリスト教の信仰と教理の基本構造を学ぶ。

[履修の条件]
聖書とキリスト教の伝統的な教理に関心があり、学ぶ意欲がある人。

[講義概要]
キリスト教には長年の歴史を通じて、その信仰内容に系統立てられた構造がある。これを学びながら、さらにそれを現代社会の様々な出来事との関連について考えます。

■授業計画

第1回　概論
第2回　神学の方法
第3回　神学の資料
第4回　聖書の神
第5回　キリスト教の世界観
第6回　イエス・キリストについて
第7回　イエス・キリストについて
第8回　信仰論
第9回　聖霊論
第10回　教会論
第11回　洗礼と聖餐
第12回　救いについて
第13回　終末について
第14回　まとめ
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
レポート評価。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとのディカッションや質問についてはクラスでさらなる討議、フィードバックなどを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際を批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

[テキスト]
適時、印刷物の配布。

[参考文献]
適時、紹介します。

社会福祉入門

科目ナンバー	ISW2103-L
2単位：後期1コマ	1年
髙山　由美子	

[到達目標]
①我が国の社会福祉制度の成り立ちを理解する。
②社会福祉制度の根幹である社会福祉関係法(特に社会福祉法、生活保護法、児童福祉法)について、それぞれの成り立ちとその内容についての基礎的な知識を習得する。

[履修の条件]
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験を希望している学生は必ず履修すること。
3・4年次で「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績(良)以上で単位取得済みであることが必須条件となる。
編入生で上記について希望している場合は「社会福祉の基礎」を履修済みであること。
欠席が3分の1を超えた場合は、定期試験の受験資格を失うことになるので、注意すること。

[講義概要]
本講義では、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基本的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、社会福祉法をはじめとする、社会福祉関係各法・制度の枠組みを学ぶ。さらに、各法制度等の内容を理解し、課題、問題点の考察も試みる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/到達目標、講義概要、評価について
　　社会福祉入門を学ぶための準備
第2回　社会福祉法制度の歴史についての理解
第3回　社会福祉法制度の背景と社会福祉の定義についての理解
第4回　社会福祉法の理解①
第5回　社会福祉法の理解②
第6回　社会福祉法の理解③
第7回　社会福祉法の理解④
第8回　社会福祉法の理解⑤
第9回　社会福祉法の理解⑥
第10回　社会福祉法の理解⑦
第11回　生活保護法の理解①
第12回　生活保護法の理解②
第13回　児童福祉法の理解①
第14回　児童福祉法の理解②
第15回　定期試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業で取り上げる法制度に関連する出来事(ニュースや法制度の動向等)などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

[テキスト]
必要な資料は適宜配布する。
いずれの出版社のものでもよいが、必ず『社会福祉小六法』の最新版を購入すること。
配付資料(すでに授業で取り上げたものも含めて)と『社会福祉小六法』は毎回の授業に必ず持参すること。

[参考文献]
『国民の福祉と介護の動向2020/2021年版』(厚生統計協会)

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する講義を行う。

ソーシャルワーク論Ⅲ

科目ナンバー	ISW 2204-L
2単位：後期1コマ	2年
福島　喜代子	

［ 到達目標 ］
相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、グループワークの知識と技術を理解する。相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、グループ支援ができるようになる。

［ 履修の条件 ］
原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱを履修しているか並行履修していること。ただし、これらの科目を履修していなくとも、グループへの支援に興味がある者は履修をすることができる。
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」履修前に、この科目を履修することが求められている。

［ 講義概要 ］
２人以上の利用者を対象にする場面で、意図的に介入するソーシャルワークの一方法であるグループワークの理論と実際を学ぶ。
授業は、講義と演習の組み合わせで進める。演習では、実際にソーシャルワーカー役と参加者役になってもらい、グループワークを行う。積極的な参加が求められる。

■授業計画
第1回　授業方針、グループ、グループワークとは
第2回　グループの持つ力
第3回　グループワークの実際、記録の仕方
第4回　グループの力動
第5回　開始期のグループワーク（参加促進、ルールづくり）
第6回　作業期のグループワーク（相互作用の促進、凝集性）
第7回　作業期のグループワーク2（葛藤体験、直面化）
第8回　終結期のグループワーク（評価、移行支援）
第9回　グループワークの実際（家族支援）
第10回　準備期のグループワーク（構造、プログラム活動）
第11回　開始期のグループワークの実際（児童）遊び、レクリエーションの要素
第12回　作業期のグループワークの実際（障害者）芸術療法
第13回　作業期のグループワークの実際（高齢者）回想法
第14回　終結期のグループワーク（セルフヘルプグループ）
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業への貢献度を評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとしてグループへの援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助のうち、特にグループを支援する力を身につけることができる。

［ テキスト ］
適宜紹介する

［ 参考文献 ］
「福祉グループワークの理論と実際」ミネルヴァ書房
「グループワーク入門」ロナルド・トーズランド、ロバート・ライバス著、野村豊子監訳、福島喜代子他訳、中央法規出版

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、グループに対するソーシャルワークについて、実践的な内容の講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論 IV

科目ナンバー	ISW 2409-L
2単位：後期1コマ	4年
西原　雄次郎	

［ 到達目標 ］
①4年前期までに学んだソーシャルワークに関する各科目の知識を、具体的な事例等を通して総合的・統合的に学習する。
②具体的な個別援助技術実践の場を想定して体験的に学ぶ。
③ソーシャルワーカーとして巣立つ際の基本的なセンスを習得する。
④考えること、意見を聴くこと、意見を述べること、文章を書くこと等々の力を付ける。

［ 履修の条件 ］
①社会福祉士受験資格取得のためには必修科目である。
②4年生の後期に履修することが条件である。

［ 講義概要 ］
①社会福祉現場における個別援助の実際を体験的に学習する

ことを中心に進める。
②ソーシャルワーク面接の実際や、事例検討の実際等を学ぶ回には必ず出席し、体験することや議論することに積極的に参加することが必須である。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/相談援助の理念/権利擁護等の復習
第2回　ケースワークと面接①　概要の説明
第3回　ケースワークと面接②　ロールプレイ(録音)
第4回　ケースワークと面接③　ＶＴＲ等を観る(逐語録の提出)
第5回　ケースワークと面接④　逐語録から学ぶ
第6回　事例検討①　事例検討の進め方
第7回　事例検討②　事例検討の実際1(討議記録の提出)
第8回　事例検討③　事例検討の実際2(討議記録を通して考える)
第9回　事例検討④　事例検討の実際3(まとめ)
第10回　ソーシャルワークにおけるスーパービジョン再考
第11回　面接以外の様々な「相談」対応について
　自力解決が困難な生活問題に直面している人たち
第12回　ソーシャルワークと記録
第13回　ソーシャルワーク実践と他職種との連携
第14回　ソーシャルワーク実践と倫理
　全体のまとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
成績評価の「その他」30%は、各授業時に提出するリアクション用紙への記入内容や、各回の提出物の内容、及び、討議等への参加度を総合的に評価して行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
①授業に応じて逐語録の作成や、フィードバックの提出を求める。
②各回の授業時の自身の言動を振り返り、次回への課題を明確にして授業に臨んでもらいたい。
③本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
①リアクション用紙に対するフィードバックは次回の授業時に行う。
②課題レポートについてはそれぞれの授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本科目は、卒業前の総括的な学習を行う科目であり、「3. 総合的・実践的な学習能力」を育てることを中心とし、ディプロマポリシーの1,2,3,4の全てを意識しつつ授業を展開する。

[テキスト]
各授業毎に配布する担当教員作成のプリントを用いて授業を行う。
市販のテキストは使用しない。

[参考文献]
大塚達雄他『ソーシャルケースワーク論』ミネルヴァ書房他、各社から出版されている「社会福祉士養成講座」(本学図書館に配架されているもの)を、必要に応じて紹介する。

ソーシャルワーク論Ⅴ

科目ナンバー	ISW2410-L
2単位：前期1コマ	4年
髙山　由美子	

[到達目標]
相談援助の基盤、相談援助の理論と方法を体系的に理解し、実践で応用できるようにする。個人や家族(ミクロレベル)、グループや組織(メゾレベル)、地域や社会(マクロ・レベル)までを対象に、さまざまな理論をもとに介入できるよう、実践力を身につける。

[履修の条件]
原則として、「ソーシャルワーク論Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」を履修済みであること。社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目である精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰへ読み替えをする科目でもある。社会福祉の国家資格の取得を目標としないものは、既習科目に関わらず履修することが可能である。

[講義概要]
大学生活の集大成として、ソーシャルワークの中の理論を理解し、スキルを習得し、実際の現場で、総合的・包括的な相談援助が実践できるように学びを深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　授業の方針　ソーシャルワークとは何か
第2回　ソーシャルワークの歴史
第3回　社会福祉士の役割と意義
第4回　相談援助専門職の倫理1
第5回　相談援助専門職の倫理2
第6回　相談援助の理念−自己決定、ノーマライゼーション、意思決定支援−
第7回　相談援助専門職の概念と範囲
第8回　相談援助の展開過程1
第9回　相談援助の展開過程2
第10回　相談援助の展開過程3
第11回　相談援助における社会資源の活用・調整・開発
第12回　相談援助における個人情報の保護
第13回　相談援助の実際
第14回　相談援助の実際
第15回　定期試験

[成績評価]
試験(30%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価（備考）]
成績評価の「その他」40％は、各授業時のリアクションペーパーの提出状況と記入内容の評価。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。授業でのさまざまな課題提起に対して、ソーシャルワーク専門職という視点から考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義で行う。レポートについては、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座『相談援助の基盤と専門職』『相談援助の理論と方法Ⅰ』『同Ⅱ』中央法規出版　（ソーシャルワーク論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲなどの履修時に入手済みである場合、それを用いる。）

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理念、理論と方法、実際等についての総合的・包括的な講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論 VI

科目ナンバー	ISW2411-L
2単位：後期1コマ	4年
福島　喜代子	

[到達目標]
相談援助の基盤、相談援助の理論と方法を体系的に理解し、実践で応用できるようにする。個人や家族（ミクロレベル）、グループや組織（メゾレベル）、地域や社会（マクロ・レベル）までを対象に、さまざまな理論をもとに介入できるよう、実践力を身につける。

[履修の条件]
原則として、「ソーシャルワーク論Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」「同Ⅴ」を履修済みであること。また、原則として、「ソーシャルワーク論Ⅳ」と並行履修すること。
ただ、福祉相談援助、地域福祉開発、子ども支援に興味のある学生は4年次に履修をすることができる。
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目である精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰへ読み替えをする科目でもある。社会福祉の国家資格の取得を目標としないものは、既習科目に関わらず履修することが可能である。

[講義概要]
大学生活の集大成として、ソーシャルワークの中の理論を理解し、スキルを習得し、実際の現場で、総合的・包括的な相談援助が実践できるように学びを深める。

■授業計画
第1回　相談援助の理念、価値
第2回　総合的・包括的な相談援助とジェネラリスト・ソーシャルワーク
第3回　多様な実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ
第4回　多様な実践モデルとアプローチ：機能的アプローチ
第5回　多様な実践モデルとアプローチ：問題解決アプローチ
第6回　多様な実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチ
第7回　多様な実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチ
第8回　多様な実践モデルとアプローチ：認知再構成アプローチ
第9回　多様な実践モデルとアプローチ：行動マネジメントアプローチ
第10回　多様な実践モデルとアプローチ：家族システムズアプローチ
第11回　ソーシャルワークと記録
第12回　スーパービジョン、コンサルテーション
第13回　ケア会議、ケースカンファレンス
第14回　社会資源の活用・調整・開発
第15回　-

[成績評価]
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（40％）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとしてグループへの援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするために、モデルやアプローチを活用するときどのようにすれば良いか考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャル

ワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座『相談援助の基盤と専門職』『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版　（ソーシャルワーク論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲなどの履修時に入手済みである場合、それを用いる。）

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、総合的・包括的な相談援助についての実践的な講義と演習を行う。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

科目ナンバー	ISW2310-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
福島　喜代子	

[到達目標]
相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に関する知識と技術を得る。
ソーシャルワーカーとして、精神障害のある人も含めて支援できるようになる。

[履修の条件]
福祉相談援助、地域福祉開発、子ども支援に興味のある学生は、3、4年次に履修をすることができる。精神保健福祉士の取得を目指していなくても、ソーシャルワーカーとして相談援助をする予定の人には履修が勧められる。また、精神障害のある人への支援について学びたい人も履修することができる。
精神保健福祉士の指定科目である。精神保健福祉士を目指している者は、「ソーシャルワーク論Ⅰ」、「ソーシャルワーク論Ⅱ」、「ソーシャルワーク論Ⅲ」を履修済み、あるいは並行履修していること。

[講義概要]
相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に直接役に立つ知識と技術を身につける。講義、プリント教材、視聴覚教材を用いながら、具体的なソーシャルワークスキルを学ぶ。

■授業計画
第1回　授業方針、包括的アセスメント
第2回　アセスメントの方法
第3回　リカバリーと病気の自己管理（IMR）
第4回　認知行動療法（主に認知に働きかける）1
第5回　認知行動療法（主に認知に働きかける）2
第6回　認知行動療法（主に行動に働きかける）1
第7回　認知行動療法（主に行動に働きかける）2
第8回　アルコール・薬物依存症者への支援（その１）
第9回　アルコール・薬物依存症者への支援（その２）
第10回　アルコール・薬物依存症者への支援（その3）
第11回　自殺危機にある人への支援の基礎1
第12回　自殺危機にある人への支援の基礎2
第13回　成年後見制度と日常生活自立支援事業1
第14回　成年後見制度と日常生活自立支援事業2
第15回　-

[成績評価]
試験（60%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業で紹介するさまざまな知識とスキルを、精神に障害のある人の支援でどのように実践していくのかについて学習すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。試験については授業内でコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、精神障害のある人を包括的・総合的な援助を行うことができる。

[テキスト]
『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ Ⅱ』中央法規出版
精神保健福祉士資格取得を目指す者については、初回授業時に注文を受付取り寄せる。

[参考文献]
『動機づけ面接法-基礎・実践編』ミラー,ウイリアム・ロルニック,ステファン著、星和書店。

[備考]
実務経験のある教員による科目
精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における総合的・包括的な相談援助に必要な実践的な内容の講義を行う。

介護概論

科目ナンバー	ISW2104-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
下ノ本　直美	

[到達目標]
①介護の役割と範囲を理解し、身体的・精神的な変化についての観察力や対処法の知識を得、福祉実践者としての基礎を身に付ける。
②介護の目的、技能および展開過程を理解し、高齢者や障害

者に対する援助の視点を学ぶ。
③介護の実践的課題について理解を深め、社会福祉士としての資質向上を目指す。
④社会の変化に伴う介護概念の変化を理解する。

[履修の条件]
毎回配布されるレジュメに沿って講義が進められる。基本的に講義形式であるが、ディスカッションへの積極的な参加と各自の意見・質問を求める。講義中盤に行われる小テストは必ず受講すること。

[講義概要]
超高齢社会を迎えたわが国において、介護ニーズは多様化、重度化し、介護に関する基礎知識を学ぶことは社会福祉士をめざす者はもちろん一社会人としても重要である。
この講義では介護に関する基礎知識を学ぶと共に介護問題の背景、介護の歴史、介護の原理、倫理を踏まえ介護過程の展開までを学んでいく。
この授業は講義形式であり、介護技術の習得を目指すものではない。介護技術については適宜映像等を通して学んでいく。介護問題における時事問題などディスカッションを交え学んでいく。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　講義の目的と意義について。講義の進め方と受講に関する注意点。テキストと参考文献の紹介。
わが国の介護制度、介護の歴史を写真資料等を基に学ぶ。

第2回　介護の概念と範囲
介護福祉制度の広がり、時代とともに変化する介護の概念について理解する。
介護の理念
介護の原則を学ぶ。これからの社会に求められる利用者の権利擁護としての介護、介護の価値について学ぶ。介護の専門性の理解し介護福祉士の義務規定についても述べる。

第3回　利用者の理解（介護を必要とする人間の理解）
生活面、心理面、社会面、身体面から全人的理解の視点を介護と関連付けて学ぶ。多様な家族形態における介護の視点を学ぶ。

第4回　介護各論①
介護予防と自立に向けた介護。ICF の視点に基づく介護を理解する。
地域包括ケアシステムの中で、介護予防の取り組みについて学ぶ。
投資的社会システムとしての介護予防システムの推進を学ぶ。

第5回　介護各論②
家事における自立支援
生活者として自立的に生きる人間を支援する生活介護について考察を行う
生活行為の連続性について学ぶ。

第6回　介護各論③
身支度・移動・睡眠の介護
人間が生活するうえで欠かせない基本的な動作を行為ごとに分析し、さまざまな活動の場での介護を学ぶ。

第7回　介護各論④
食事・口腔衛生の介護
人間の生命活動を維持するための摂食に関する介護を学ぶ。

第8回　介護各論⑤
入浴・清潔・排せつの介護
体の清潔のみではない入浴や清潔の意義を知り、人が生きていく上で欠かせない排泄のメカニズムを理解したうえで排泄の介護を学ぶ。介護をおこなう上での留意点についても学ぶ。
小テスト

第9回　住環境ケア
日常生活における心地よい生活を支える居住環境を介護の視点から考える。住環境整備について学ぶとともに、住宅問題を理解する。

第10回　認知症ケア①
認知症とは何か、認知症を引き起こす脳の疾患と障害について学び、原疾患による症状の特徴、認知症介護の困難さについて症状等を通して学ぶ。

第11回　認知症ケア②
認知症当事者と家族について、動画等を視聴しながら理解を深める。認知症ケアにおけるコミュニケーションの方法について学ぶ。

第12回　介護過程①
介護過程の概要　アセスメントからケアプラン作成までの流れを学ぶ。

第13回　介護過程②
介護過程の展開技法　グループワークにて事例を用いてケアプラン作成する。

第14回　終末期ケア
講義を通して学んだ基本的知識の集大成として、死に行く人へのケアをめぐる概念を学ぶ。全人的かかわりと人権尊重を踏まえた終末期ケアの必要性について学ぶ。最終回講義には必ず出席すること。

第15回　試験

[成績評価]
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法として、毎回のフィードバック用紙への評価や、授業への参加度、グループディスカッション時の参加度など総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習・準備学習として、次回予定の講義内容についてテキストを参考に自分なりの考えを持って臨むこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。また、テキスト以外に講義毎に配布する資料を確認し、復習することを薦める。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義はじめに前回のリアクションペーパーでの質問に対するコメントと、意見交換を行う。毎回の講義内容に対する質問を求める。試験は基本時間60分で行う。講義中盤で行う小テストは、講義

の後半40分を使い、本試験に準ずる形式で行う。小テストを受験できなかった場合は、別に課題を設けレポート提出を求める。

[ディプロマポリシーとの関連性]

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に関連する。「介護」の価値・知識・技術を学ぶことは、社会福祉の専門職として総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになるために必要である。

[テキスト]

新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度-11章～14章」中央法規

高齢者福祉論

科目ナンバー	ISW2205-L
2単位：後期1コマ	2年
市川　一宏	

[到達目標]

本講義では、①福祉にとどまらず、社会参加、社会保障、就労、保健、医療等の高齢者福祉政策を検証し、課題を明確化する。②実際の事例を通して、高齢者支援のあり方を考察する。

[履修の条件]

本講義は、社会福祉士国家試験受験のためには必要とされる。原則として、高齢者福祉の諸問題の履修が望ましい。本講義は、社会福祉士国家試験受験のためには必要とされる。なお、テキストの学習は前提とされるが、それだけでなく、授業ごとに配布される資料、視聴覚教材を参照し、関係文献を自主的に学習していくことを望みたい。

[講義概要]

高齢者福祉改革は、福祉改革の先導的役割をもった。高齢者福祉の体系的学習のため、介護保険、入所施設、在宅福祉、生活保護・年金等の経済保障、老人保健・医療とねたきり予防、介護予防、住宅対策、就労対策・生きがい対策・生涯教育、権利擁護システム、ケアマネジメント等の高齢者援助について学ぶ。なお、今日、高齢者福祉制度は、高齢者の権利地方自治体への権限の委譲と格差の拡大、担い手の広がりとセーフティネットの不明確化、保健医療福祉、産業、環境との連携とそれを妨げる現状等の課題をもっており、本講義では、今後の高齢者福祉のあり方を学習する。

■授業計画

第1回　＜オリエンテーション＞

高齢者が直面する多様な問題の理解を促進するために、基本的考え方と数値や論理的根拠の習得を目的として、①人口の高齢化、要介護高齢者、一人ぐらし高齢者、高齢者夫婦のみ世帯の増加に顕著に表れる、超高齢社会となった日本が直面する課題を明確にする。②高齢者福祉が取り組むべき課題、すなわち孤立、家族介護を含む介護の問題、健康問題、認知症高齢者、経済的貧困等の問題の現状と要因を学ぶ。

第2回　＜高齢者福祉制度の歩み＞

高齢の貧困者を対象とする施設収容を内容とした老人福祉法成立以前の養老事業について学習する。特に、恤救規則、救護法、生活保護法における高齢者保護の仕組み、収容主義から入所者の生活重視への転換、施設収容中心主義から在宅福祉への拡大について、学習する。また、①寝たきり高齢者へのサービスから始まり、対象を拡大する在宅福祉サービスの展開、②老人医療費無料化から老人保健法の成立と保健医療の展開、③ゴールドプラン等の計画の展開、④社会福祉士・介護福祉士制度と専門性の強化、⑤各種のバリアフリー法の展開等について、法律をたどり学習する。

第3回　＜介護保険制度の概要１＞

介護保険制度の成立背景と保険者、被保険者、給付、給付の受給手続、介護支援専門員等の専門職、利用負担、介護保険事業計画等の内容について検討する。また、2005年制度改革による新予防給付、地域支援事業の創設、値域包括支援センターの設立、さらに2012年度改正について学習し、また、2005年制度改革による新予防給付、地域支援事業の創設、地域包括支援センターの設立、さらにその後の改正について学習し、介護保険制度の現状と課題を学習する

第4回　＜介護保険制度の概要２＞

地域包括ケアシステムの内容を中心に、在宅福祉サービスの限界と可能性を検討し、①利用者とサービスをつなぐシステムを必要とする等の在宅福祉サービスの特徴、②介護予防・生活支援サービスの基本的内容、③地域ネットワークのあり方について学習する。

第5回　＜介護保険制度の概要３＞

①契約型施設の登場、②通所型施設の登場、③相談型施設の登場、④小規模施設の登場、⑤住宅型施設の登場、⑥保健医療と福祉の接点、⑦滞在型施設と多様化してきた施設福祉の展開を明らかにする。また、介護保険の施設給付の内容と課題を整理し、今後のあり方を考察する。

第6回　＜生活保護・年金等の経済保障＞

生活保護制度における基本原理、運用の原則、8扶助、最低生活基準等の基本的内容と高齢者世帯の受給状況について学習する。また年金制度体系と基礎年金、職域年金の内容について検討し、少額年金者、無年金者の課題について学習する。

第7回　＜老人保健・医療と介護予防、うつ予防＞

高齢者に対する保健医療制度の展開と現状について学習する。また、介護予防、うつ予防について、具体的な内容を考察する。

第8回　＜住宅対策＞

住宅対策の展開過程を概観し、高齢者の居住の安定確保に関する法律の背景と内容、サービス付き高齢者住宅などについて学ぶ。

第9回　＜就労対策・生きがい対策・生涯教育＞

①高齢者就労の必要性、目的および意義、高齢者の就労確保のための施策と展望、②社会参加活動支援の展開、ボランティアおよび学習活動の内容、今後の展望について学習する。

第10回　＜高齢者虐待予防と対応＞

①高齢者虐待の定義、②高齢者虐待の実態、③市町村の役割等の高齢者虐待の防止対策、基本的方針.虐待の早期発見・早期対応、養護者支援.関係機関の連携・協力によるチーム対応について学習する

第11回 く高齢者の権利>

憲法13条(幸福追求権)、憲法14条(平等権)、憲法25条(生存権)に基づく基本的人権、社会福祉法による利用者の権利、そして以下の具体的権利について考察する。①プライバシーの保護、②選択の権利、③手続き的権利、④成年後見、地域福祉権利擁護事業、⑤苦情対応システム

第12回 <高齢者に対する処遇>

①高齢者の生活問題が、身体的、精神的、社会的要因が複雑に関連していること等、高齢者の基本的ニーズを検討し、個別的な援助技術、②ケアマネジメントの必要性とプロセス、実際の援助過程、③認知症高齢者への援助、について学習する。

第13回 <高齢者保健福祉計画の現状と課題>

高齢者保健福祉計画の成立背景と今日における以下の課題を検討する。①介護保険事業計画との関係、②医療計画との関係、③地域福祉計画との関係、④障害福祉計画との関係、等

第14回 総括

第15回 試験

[成績評価]

試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]

試験の評価を中心に成績70%。その他の評価としては、毎回の授業での質問や討議・発表など積極的な授業参加で評価30%とする。成績は、原則として、秀、優、良とし、その基準に達しない場合には、可、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。介護保険制度の概要を理解し、地域包括ケアシステムの課題は何かを学び、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになるための知識を得る。

[テキスト]

新・社会福祉士養成講座『高齢者に対する支援と介護保険制度』第6版、中央法規

[参考文献]

厚生の指標『社会福祉と介護の動向』

障害者福祉論

科目ナンバー	ISW2206-L
2単位：後期1コマ	2年
髙山　由美子	

[到達目標]

①社会福祉士・精神保健福祉士養成課程カリキュラムに対応する障害者福祉の基本的な知識を獲得する。
②障害者の生活実態を踏まえ、相談援助の基本となる関連法制度を理解する。
③障害者福祉の基本理念と制度の展開過程をふまえて障害者福祉の課題を理解する。

[履修の条件]

社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。「障害者福祉の諸問題」を履修済みであることが望ましい。履修学年の目安は2年次である。3年次以降、障害福祉分野での実習を希望している場合は実習前に必ず履修しておくこと。

[講義概要]

授業は、配布資料やテキスト等を中心とした講義であるが、テーマによっては討議等の意見交換も行いながら、大きな変革期にある障害福祉の全体像について理解を深める。「障害者福祉の諸問題」で学んだ内容と重なる部分もあるが、繰り返しの学びを通して「障害者福祉」の理解を深めていただきたい。

■授業計画

第1回 オリエンテーション
到達目標、講義概要、評価等
障がい福祉に関するこれまでの学びのふりかえり

第2回 障害福祉の基本理念を理解する①

第3回 障害福祉の基本理念を理解する②

第4回 統計から見る障害者の動向と生活状況

第5回 障害福祉制度の発展過程の理解

第6回 障害者の権利条約の理解

第7回 障害者基本法と関連する法律の理解

第8回 障害福祉施策と計画の理解

第9回 障害者総合支援法の理解①

第10回 障害者総合支援法の理解②

第11回 障害者総合支援法の理解③

第12回 さまざまな障害と関連法制度の理解

第13回 障害福祉にかかわる専門職と関係機関の理解

第14回 障がい当事者の活動と権利擁護の理解

第15回 定期試験

[成績評価]

試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業で取り上げる出来事(ニュースや法制度の動向等)などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な権利擁護の視点と障害領域の知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

[テキスト]
その他、必要な資料は適宜配布する。
いずれの出版社のものでもよいが、最新版の『社会福祉小六法』を用意すること。
テキスト、配布資料（すでに授業で取り上げたものも含めて）、『社会福祉小六法』は毎回の授業に持参すること。

[参考文献]
『社会福祉士養成講座　障害者に対する支援と障害者自立支援制度』＜第6版＞（中央法規出版）
『障害者白書（2020年版）』（内閣府編）
『障害者総合支援法とは』（東京都社会福祉協議会）

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、障害福祉に関する歴史、理論、制度、支援の実際等に関する講義を行う。

保健医療サービス

科目ナンバー	ISW2311-L
2単位：後期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[科目補足情報]
保健医療サービスとは、医療サービスと社会サービスから構成されたものである

[到達目標]
①社会福祉と保健医療との関係を理解する。
②保健医療サービスの供給システムの概要を理解する。
③保健医療ソーシャルワークの概要を理解する。

[履修の条件]
社会福祉の主要科目、とりわけソーシャルワークの方法論系科目ならびに社会保障論を履修していること。

[講義概要]
　現在の社会福祉は、分野を問わず、保健医療とのかかわり合いが大きくなっている。そのためソーシャルワーカーは、医療との連携をはかりながら、社会福祉の視点・立場から事象をとらえ、考察し、実践していくことが求められる。
授業では、社会福祉士ならびに精神保健福祉士指定科目（共通科目）のシラバスに盛り込まれた内容を網羅しつつ、保健医療の歴史的変遷と基本的性質、保健医療ソーシャルワークの理論、医療福祉に関する課題に触れながら、能動的に保健医療と連携するソーシャルワーカーの姿勢や専門性に関する知識の獲得を目指す。

■授業計画
第1回　保健医療制度の変遷と社会福祉専門職の役割
第2回　医療法改正の概要と保険医療サービスの今日的課題
第3回　医療供給体制（1）～医療施設の機能と類型～
第4回　医療供給体制（2）～地域包括ケアシステムと在宅医療～
第5回　医療保障と診療報酬制度（1）
第6回　医療保障と診療報酬制度（2）
第7回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務（1）
第8回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務（2）
第9回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務（3）
第10回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務（4）
第11回　介護保険制度と介護報酬の概要
第12回　保健医療従事者との連携方法と医療基礎知識（1）
第13回　保健医療従事者との連携方法と医療基礎知識（2）
第14回　地域における社会資源と連携の実際
第15回　試験

[成績評価]
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（15%）、その他の評価方法（15%）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法には、受講姿勢やグループワークへの参加態度が含まれる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートについては、授業内に適宜口頭でコメントする。
試験は、最終回にテキスト全範囲を対象に実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。わが国における保険医療サービスを学ぶとともに、保険医療を必要とする利用者や家族への支援方法を身に付けることができる。

[テキスト]
社会福祉士養成講座編集委員会編（2017）『新・社会福祉士養成講座《17》保健医療サービス　第5版』中央法規　2,200円

[参考文献]
小山秀夫・堀越由紀子・笹岡真弓編（2016）『保健医療サービス（改訂版）』ミネルヴァ書房

[備考]
実務経験のある教員による科目
毎回、テキストを持参すること
福祉医療現場での経験を活かして、対人援助の方法を指導する。

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）

科目ナンバー	ISW 2207-L
2単位：前期1コマ	2年
福山　和女	

[到達目標]
精神保健福祉の領域で、人々が直面している諸問題現象について、観察力、理解力、分析力を習得する。
精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な科目、「精神保健福祉論」の前段として、２年次を対象とする。講義と討議の形式をとるため、事前準備が必要である

[講義概要]
精神保健福祉相談援助の基盤から精神科ソーシャルワーカーの専門性や役割について考える。精神保健福祉の分野において、社会福祉の視点やソーシャルワークの理論や技術が必要であることを十分理解する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　精神保健福祉士を取り巻く環境
第3回　精神保健福祉法等の制度理解
第4回　精神保健福祉分野の社会資源の種類と限界
第5回　精神保健福祉分野の支援対象者の理解
第6回　相談援助の概念と範囲
第7回　専門領域：精神障害の概念、理念、支援方法
第8回　専門領域：障害の概念、理念、支援方法
第9回　専門領域：高齢者の理解、支援方法
第10回　専門領域：児童の理解、支援方法
第11回　チーム医療体制の現状と人権尊重
第12回　精神保健福祉分野の協働の必要性
第13回　チーム支援体制の現状と社会正義
第14回　権利擁護とノーマライゼーション
　　まとめー精神保健福祉士の役割と意義
第15回　-

[成績評価]
試験（30％）、レポート（30％）、小テスト（20％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストや参考文献から、該当する理論や技術について予習・復習することを薦める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーを各授業で書くことを条件とし、そのフィードバックを授業中の話し合いで取り上げて、検討する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。人の尊厳を専門家の価値観として理解することを学ぶとともに、精神障害の人々への理解と配慮について包括的な知識を得る。

[テキスト]
新・精神保健福祉士養成講座４『精神保健福祉論』中央法規 2,700円+税

[参考文献]
厚生省大臣官房保健福祉部精神保健福祉課監修『精神保健福祉士法詳解』ぎょうせい、(1998)

[備考]
出席日数、学期中のレポートの提出、デモンストレーションなどで総合的に評価する。
参加態度、意見交換、フィードバックなどの質と量を加味する。

精神保健福祉に関する制度とサービス

科目ナンバー	ISW 2208-L
2単位：後期1コマ	2年
浅野　貴博	

[科目補足情報]
精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目である。

[到達目標]
精神保健福祉に関わる制度及びサービスの枠組みについて学ぶことを通して、精神保健福祉士に求められる役割と業務の実際を理解する。
※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、"主体的に"学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

[履修の条件]
２年次を対象にする。

[講義概要]
本科目では、精神保健福祉実習に臨むにあたって必要とされる、精神保健福祉関係法制度及びこれに基づく諸サービスに関する基礎的な知識を習得することを目的とする。その上で、授業全体を通し、ソーシャルワーカーとして精神保健福祉士に求められる役割を考える。授業は講義を中心に進められるが、グループでのディスカッションも適宜取り入れる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　DVD 鑑賞とグループディスカッション
第3回　精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化①

第4回　精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化②
第5回　精神保健福祉法の概要①
第6回　精神保健福祉法の概要②
第7回　小テスト①（予定）
第8回　精神保健福祉法の概要③
第9回　精神保健福祉法の概要④
第10回　精神病床の機能分化
第11回　小テスト②（予定）
第12回　精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①
第13回　精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②
第14回　小テスト③（予定）
第15回　※定期試験はなし

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（75％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（25％）

［ 成績評価（備考） ］
グループでのディスカッション等における授業への貢献度を評価する。また、無断での遅刻・欠席に関しては厳しく対応する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
指定された参考文献・資料を読んで授業に参加すること。各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計14回の授業で90時間となる。小テスト（※計３回）に備えて復習を欠かさないようにすること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
小テスト（※計３回）の実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、精神保健福祉関係法制度に関する基礎的な知識を身に付けることができ、精神保健福祉実習を履修する上での備えができる。

［ テキスト ］
特定のテキストは使用しないが、各社から出版されている精神保健福祉士養成講座の『精神保健福祉に関する制度とサービス』を参照のこと。

［ 参考文献 ］
①『社会福祉小六法』（各社から出版されている最新版）
②『国民の福祉と介護の動向（2019/2020）』（厚生労働統計協会）
※その他の参考文献・資料については、適宜紹介する。

精神障害者の生活支援システム

科目ナンバー	ISW 2209-L
2単位：後期1コマ	2年
小高　真美	

［ 到達目標 ］
精神障害者のリカバリーに焦点を当て、生活支援のための方法や精神保健福祉士など専門職の役割について、多面的な視点を持って理解を深めることを目指す。

［ 履修の条件 ］
精神保健福祉士の受験資格を取得するための必須履修科目である。
資格の取得を考えていない人の履修も歓迎する。

［ 講義概要 ］
講義だけでなく、演習やグループ討議、外部講師（精神障害者を支援する地域の事業所等の利用者や職員）による講演なども通じて、精神障害者の生活支援について包括的に学習する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，講義の進め方，課題の説明など
第2回　精神障害とスティグマ
第3回　精神障害の概念
第4回　精神障害者の生活とリカバリー
第5回　精神科医療および生活支援に関わる制度等の変遷
第6回　精神障害者の生活を支援するとは：事例検討
第7回　地域生活支援のための相談援助の実際
第8回　生活支援にかかわる専門職とチームアプローチ
第9回　精神障害者の居住支援
第10回　精神障害者の就業支援
第11回　精神障害者の家族支援
第12回　生活支援と危機介入
第13回　生活支援の実際
第14回　今後の課題と展望およびまとめ
第15回　期末試験

［ 成績評価 ］
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業内容について、テキストや参考資料等の該当箇所に目を通して予習・復習する。予習・復習に必要なテキスト該当箇所や資料等は、講義ごとに適宜指示する。予習・復習時間は１回につき、200分程度となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
各課題は授業時間内にグループディスカッションあるいはクラスで発表し、他の受講生や教員からのフィードバックを受ける。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。精神疾患や精神障害のある人たちへのスティグマの理解やアンチスティグマへの行

動、また疾患からのリカバリーの理念に基づく実践の理解などを主軸に学習を進める。また、事例検討や当事者による体験なども伺うことで、生活支援における専門的、包括的な理解を促進する。

[テキスト]
日本精神保健福祉士養成校協会(編集)『新・精神保健福祉士養成講座　第７巻　精神障害者の生活支援システム　第３版』中央法規　2,916円(税込)

[参考文献]
講義ごとに適宜紹介する。

[備考]
授業では、授業資料およびテキストの両方を用いる。

権利擁護と成年後見制度

科目ナンバー	ISW2105-L
2単位：後期1コマ	1～2年
金子　和夫	

[到達目標]
民法を中心に権利擁護制度について理解する。成年後見制度や消費者保護制度、損害賠償制度、虐待防止関係制度、不服申立て制度などを概観し、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験希望者は「憲法」とあわせて履修すること。国家試験を受験しない学生は「法学」を参照すること。

[講義概要]
民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護制度やそれに係る機関・専門職について、関連法制度を含めてその実際を理解する。

■授業計画
第1回　ガイダンス(相談援助の必要な法律問題)
第2回　行政法(行政処分と不服申立て)
第3回　民法(契約と消費者保護)
第4回　民法(国家賠償を含む損害賠償)
第5回　民法(夫婦とＤＶ防止法)
第6回　民法(親子と児童虐待防止法)
第7回　民法(扶養・相続と高齢者虐待防止法)
第8回　民法(権利能力、行為能力)
第9回　成年後見制度(制度の概要)
第10回　成年後見制度(任意後見を含めた動向)
第11回　成年後見制度(その実際)
第12回　権利擁護制度(専門機関)
第13回　権利擁護制度(専門職)
第14回　権利擁護制度(権利擁護制度の実際)
第15回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やＴＶニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性、および、3.総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得る。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得る。

[テキスト]
『ポケット六法』(令和２年版)(有斐閣、2,090円、税込)
その他講義資料を配布する。

[参考文献]
憲法、行政法、民法それぞれにテキストが多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。
川井健『民法入門』(有斐閣)
石川他『はじめての行政法』<有斐閣アルマ>(有斐閣)
『権利擁護と成年後見制度』(中央法規)
『法学』(全国社会福祉協議会)

[備考]
授業はキャッチボール形式で行います。教員の質問に対し多くの学生が答える方法で授業を進めます。

公的扶助論

科目ナンバー	ISW2211-L
2単位：後期1コマ	3年
岡部　卓	

[科目補足情報]
貧困・低所得者問題とその対応策について（制度・政策、方法、体制）学ぶ。

[到達目標]
・現代社会における貧困・低所得者問題とその対応策である公的扶助制度について理解を図る。
・貧困・低所得状態にある人・世帯への相談援助活動の方法とその実際を通して「人が人を支える・支えられる」支援の在り方について考える。
授業時間外（予習・復習等）の学習

[履修の条件]
社会福祉士の国家試験受験科目「低所得者に対する支援と生活保護制度」に対応。国試を目指す人は必ず履修すること。
テキストは各自必ず購入すること。

[講義概要]
講義は、大きくは、次の３つに分けて進める。（１）公的扶助の前提とする現代社会における貧困・低所得者問題、公的扶助の概念、役割・意義、公的扶助の歴史について学ぶ。（２）貧困対策としての生活保護制度や生活困窮者自立支援制度をはじめとするさまざまな低所得者対策の制度的仕組みや福祉事務所を中心とした生活保護の運営実施体制や関連機関等について学ぶ。（３）貧困・低所得者に対して行われる相談援助活動の方法などについて学ぶ。

■授業計画
第1回　現代社会と公的扶助−概念と範囲、意義と役割
第2回　公的扶助の対象としての貧困・低所得者問題
（１）貧困と社会的排除
（２）貧困・低所得者問題の現代的課題
第3回　公的扶助の歴史（１）わが国における公的扶助の歴史
第4回　公的扶助の歴史（２）イギリスにおける公的扶助の歴史
第5回　生活保護制度の仕組み（１）目的と原理、原則
第6回　生活保護制度の仕組み（２）種類と内容、方法、保護施設
第7回　生活保護制度の仕組み（３）権利および義務、不服申立てと訴訟、財源・予算
第8回　生活保護制度の仕組み（４）最低生活保障水準と生活保護基準
第9回　生活保護の動向
第10回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体
第11回　生活保護における相談援助活動と自立支援
第12回　低所得者対策の概要（１）生活困窮者自立支援法、生活福祉資金貸付制度
第13回　低所得者対策の概要（２）社会手当、ホームレス対策、その他対策
第14回　低所得者に対する相談援助活動
第15回　定期試験の実施

[成績評価]
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（50％）

[成績評価（備考）]
出席状況　35％　　リアクションペーパー　15％

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
講義後の復習と次回講義内容に関する文献・資料の紹介を行うので、次の講義までに読んでおくこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業時に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、および、3.総合的・実践的な学習能力に該当する。
専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立ち人権と生活を守り豊かな人生を送ることができるよう、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること。
ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座16『低所得者に対する支援と生活保護制度−公的扶助論』、中央法規出版　2019第5版

[参考文献]
厚生の指標・臨時増刊『国民の福祉と介護の動向』　一般財団法人厚生労働統計協会

就労支援サービス

科目ナンバー	ISW2312-L
2単位：後期1コマ	3年
岡部　卓	

[到達目標]
・雇用に関する知識と低所得者等・障害者への就労支援について理解を図る。
・就労支援について「働くこと」とは、人間・社会にとってどのような意義があるのか、また現代社会における労働と労働を支える法制度について考える。
・低所得者等や障害者の就労の実際や就労支援のあり方について考える。
授業時間外（予習・復習）の学習

[履修の条件]
社会福祉士の国家試験受験科目「就労支援サービス」に対応。国試を目指す人は必ず履修すること。テキストは各自購入のこと。

[講義概要]
講義は、大きくは、次の３つに分けて進める。（１）「働くこと」とは、人間・社会にとってどのような意義があるのか、また現代社会における労働と労働を支える法制度について学ぶ。（２）公的扶助の対象である貧困・低所得者やひとり親世帯等の就労支援の現状や就労支援のあり方について学ぶ。（３）障害者福祉の対象である障害者の就労の実際や就労支援のあり方について学ぶ。

■授業計画
第１回　「働くこと」とは、現代社会と「働くこと」
第２回　雇用・就労の法と制度
第３回　低所得者等と就労支援（１）低所得者等の就労の現状
第４回　低所得者等と就労支援（２）生活保護制度
第５回　低所得者等と就労支援（３）低所得者対策（生活困窮者自立支援、ホームレス対策等）
第６回　低所得者等と就労支援（４）ひとり親世帯対策
第７回　障害者と就労支援（１）就労の現状
第８回　障害者と就労支援（２）福祉施策
第９回　障害者と就労支援（３）雇用施策
第10回　低所得者等と就労支援（４）教育施策・民間活動等
第11回　専門職の役割と実際（１）低所得者等領域
第12回　専門職の役割と実際（２）障害者領域
第13回　専門職の役割と実際（３）連携と実際
第14回　多様な働き方への支援
第15回　定期試験を実施

[成績評価]
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（50％）

[成績評価（備考）]
出席状況　35％　リアクションペーパー　15％

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
講義後の復習と次回講義内容に関する文献・資料の紹介を行うので、次の講義までに読んでおくこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
テキストは各自必ず購入すること。リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業時に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、および、3.総合的・実践的な学習能力に該当する。
専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立ち人権と生活を守り豊かな人生を送ることができるよう、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること。
ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座18『就労支援サービス』、中央法規出版　2016第４版

[参考文献]
厚生の指標・臨時増刊『国民の福祉と介護の動向』　一般財団法人厚生労働統計協会

更生保護制度論

科目ナンバー	ISW2212-L
2単位：後期1コマ	2年
西原　雄次郎	

[到達目標]
①我が国の更生保護制度の概要を理解し、その中でソーシャルワーカーがどの様に貢献しているかを知り、今後のあるべき方向について一定の意見を形成する事が出来るようにする。
②司法福祉という考え方との関連についても理解する。

[履修の条件]
①２～４年生で各自の履修プランにしたがって自由に履修可能である。
②社会福祉士国家試験の出題範囲の科目である。

[講義概要]
①更生保護制度を中心に、司法における福祉活動の全体を概観する。
②犯罪・司法統計や犯罪事例等を活用して、巷間に流布されている間違った常識ではなく、出来るだけ正確な知識の習得に資することを前提に講義を展開する。
③新聞や雑誌に掲載されている関連情報を積極的に活用する。

■授業計画
第１回　更生保護制度と司法福祉１
　オリエンテーション‥司法福祉の中の更生保護
第２回　更生保護制度と司法福祉２
　先駆者の実践から学ぶ①
第３回　更生保護制度と司法福祉３
　先駆者の実践から学ぶ②
第４回　近年の犯罪統計から学ぶ
第５回　更生保護制度の概要Ⅰ…刑事司法と更生保護制度
第６回　更生保護制度の概要Ⅱ…少年司法と更生保護制度
第７回　更生保護制度の概要Ⅲ…更生保護を担う機関
第８回　更生保護制度の概要Ⅳ…更生保護制度の担い手①
第９回　更生保護制度の概要Ⅴ…更生保護制度の担い手②
第10回　更生保護制度と高齢累犯者
第11回　更生保護制度と累犯障がい者
第12回　更生保護と被害者支援
第13回　死刑制度を考える

…更生保護の視点でどう考えたら良いのか…
…ライファーズ…
第14回　各種虐待事件と司法福祉
民事司法と司法福祉
まとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
成績評価の「その他20%」は、各授業時に提出されるリアクション用紙への記入内容や、授業への参加度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
①日常の社会福祉の学習の中には出てこない専門用語が数多く使われるので、授業時に配布する資料類や参考文献を参照して、事前・事後学習をすることが不可欠である。
②本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
①リアクション用紙に記載された内容に対するフィードバックは、次回の授業時に行う。
②その他の質問等への対応も授業時を中心に行う。
③試験は、講義中に提供された知識・考え方を問うものである。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義を通して、受講者は、本学のディプロマポリシーに記された「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」の一端を身に付けることになる。

[テキスト]
特定のテキストは使用しない。
授業時に配布する資料と、下記に記載の参考文献等の活用を中心に授業を展開する。

[参考文献]
①中央法規出版『更生保護制度』他、各社から出版されている国試対応の文献を参考にする。
②法務省による『犯罪白書』『犯罪被害者白書』等と、最高裁判所、法務省、厚生労働省等のホームページで公開されている各種通知や最新の統計資料を用いる。
③日々の新聞等の犯罪報道に注意し、更生保護・司法福祉の視点で読む努力をしてもらいたい。

人体の構造と機能及び疾病

科目ナンバー	ISW2213-L
2単位：前期1コマ	2年
市川　雅子	

[到達目標]
社会福祉士や精神保健福祉士、及び公認心理師などの試験を受ける際に必要な医学知識を主に、人体の基本的な構造と働き、重要な疾患や障害、我が国の保健医療対策や統計などについて理解する。

[履修の条件]
社会福祉士と精神保健福祉士、及び公認心理師などを受験する予定の学生と、医学について広く学びたい学生を対象とする。また、テキストは各自必ず準備すること。

[講義概要]
社会福祉士及び精神保健福祉士は、福祉の専門職として、そして公認心理師は心理の専門職として、医師や看護師などの医療職とともにチーム医療の中で大きな役割を担っている。しかし、疾病や障害を抱えた人と関わっていくため、医学的な基礎知識を持つことは必要かつ重要なことである。また、医療機関のみならず福祉施設やＮＰＯなどで働く場合でも同様のことが言える。将来、そのような分野で働く際に必要な、心身機能と身体構造、そして基本的な医学知識をこの講義で取り扱っていく。しかし、それはまた、一般の日常生活の中でも役立つことも含まれ、将来専門職として働かない場合でも、この講義を受けることによって得るものは多いと考える。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
人の成長、発達、老化
第2回　人の成長、発達、老化
人体の構造と機能１：血液
第3回　人体の構造と機能２：循環器系・腎泌尿器系
第4回　人体の構造と機能３：呼吸器系・消化器系・神経系
第5回　人体の構造と機能４：内分泌系・生殖器系・支持運動器官・皮膚感覚器系
第6回　疾病の概要１：生活習慣病、悪性新生物、脳血管疾患
第7回　疾病の概要２：心疾患、高血圧、糖尿病
第8回　疾病の概要３：呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患、腎泌尿器疾患
第9回　疾病の概要４：骨関節疾患、目と耳の疾患、感染症
第10回　疾病の概要５：神経疾患、難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療
第11回　障害の概要１：視覚・聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害
第12回　障害の概要２：認知症、高次脳機能障害
第13回　障害の概要３：精神障害
第14回　リハビリテーションと国際生活機能分類(ICF)
公衆衛生と統計
第15回　テスト

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業のスピードがかなり早いため、テキストをあらかじめ読んでおくこと。また、覚えることも多いので復習し自分なりに授業内容をまとめること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習

等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
講義内で行う小テストの解答と解説、総評については、テスト終了後に解答＆解説集のプリントを配布し、次回の授業初めにも行う。
前期テストに関しては、テスト終了後に解答＆解説集のプリントを配布する。なお、採点した小テスト及び前期テストは、後日各自に返却する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって、人間の体の働きを知り、基本的な医学知識を身につけることができる。

［ テキスト ］
新・社会福祉士養成講座 1
人体の構造と機能及び疾病［第3版］（2015年2月改訂）　中央法規出版
＊もし、2020年3月までに、第 4 版が出た時には、第4版をテキストとするが、第3版も使用できるよう配慮する予定。

［ 参考文献 ］
①国民衛生の動向2019/2020
②プリント：必要に応じて配布する。

［ 備考 ］
小テストは、講義の進行状況をみながら講義枠内で行う。
第 2 回の講義よりテキストを使うので、各自必ず準備をしてくること。
更に、小学校から高校までに習う理科及び生物の基本的な知識は理解しているという前提で授業を進めるので、不安がある場合には市販の参考書などで見直しておくこと。

精神保健

科目ナンバー	ISW2106-L
2単位：後期1コマ	1〜4年
添田　雅宏	

［ 到達目標 ］
この講義ではわが国における精神保健の現状と対策について関心を持ち、対人援助職としての人間理解を深めていきます。
またライフステージにおける精神保健の重要性と課題を理解し、国試に必要な知識の習得と併せて、人が生きていく上で精神保健がなぜ不可欠なのか講義とグループワークを通して考えます。答えを出すための知識・技法だけではなく、心の健康を考え続ける専門職に必要な知識、初歩的な考え方やスキルを身に付けることが授業の到達目標です。

［ 履修の条件 ］
履修登録を行った者

［ 講義概要 ］
精神保健は、心の健康保持・増進を目指す学問と実践です。「心の健康とは何か」を深く知るため国試対策用の講義だけではなく、自分の心の健康を増進するための技術や具体的な実践方法を体験してもらうためのワークショップを行います。
心の健康を増進・維持するための手法を在学中に獲得しておくことは、今後の人生にとって様々な局面で役に立つと思われます。また他者を理解するためには自己を理解することが不可欠なため、自分の強み（ストレングス）と弱み（ウィークネス）に気づくセッションなども用意しています。
原則として一方的にただ聞いているだけの講義にはしません。参加型、協働型の講義となります。受講生の性格や考え方は最大限考慮しますが、積極的な参加を歓迎します。

■授業計画

第1回　精神保健の概要と課題
・自己紹介　精神保健学とは
・なぜ精神保健が必要か
・あなたの心が健康であるために

第2回　精神保健の基礎知識/こころのしくみの理解
・こころが健康であるとは
・強いこころ、弱いこころ、しなやかなこころとは
・こころのバランスの取り方（食べる、寝る、動く、話す、忘れる）

第3回　ライフサイクルにおける危機と課題
・乳幼児期
・学童期
・思春期
・青年期
・老年期

第4回　海外の精神保健事情の紹介
・イギリスの精神医療保健福祉改革の紹介
・リカバリーカレッジの実践
・ストレングス、エンパワーメント、リカバリー
・リカバリー（ディスカバリー）の考え方
・オープンダイアログの紹介
・諸外国の実践紹介
＊マインドフルネス体験など

第5回　精神障害の分類と特徴および精神保健学的アプローチ①
・代表的な精神障害の分類と説明
・統合失調症
・気分障害（うつ病、双極性障害、新型うつ）

第6回　精神障害の分類と特徴および精神保健学的アプローチ①②
・パーソナリティー障害
・発達障害

第7回　長期在院者問題
・日本固有の問題として、負の歴史として歴然と横たわっている
　精神科病院に長期入院されている方の実情を精神保健学的視点から考える
＊DVD 鑑賞

第8回　自殺対策
・わが国の自殺問題の現状を理解しその対策について考える
＊いのちの電話・東京都自殺相談ダイヤル・SNS 相談等

第9回　家族関係と精神保健
・家族関係が精神保健に及ぼす影響
・精神医療保健福祉領域における家族のあり方について
・家族を支えるシステムについて
第10回　精神保健活動の実際①
・行政機関の役割（国、都道府県、区市町村）
・保健所が果たす役割
・市区町村の実践
第11回　精神保健活動の実際②
精神保健福祉士の責務
障害福祉サービスの歴史と現状・課題
第12回　居宅生活支援における対人援助職の役割を考える（グループワーク）①
・架空の事例を用いたロールプレイ
・ソーシャルスキルトレーニング（SST）
第13回　精神保健福祉ユーザーからの視点を学ぶ
・精神保健医療福祉制度を利用している当事者を招いて、その方の歴史や支援者に対しての思いを伺う
第14回　講義のまとめ
第15回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［ 成績評価（備考） ］
評価内容
リアクションペーパーの内容等
AA：かつ自分の意見を適切に言うことができる。
A：講義の内容をよく理解しかつ自分の意見を言うことができる。
B：講義の内容が理解できている、質問の内容が適切
C：講義の内容がおおむね理解できている
D；講義の内容がほぼ理解できていない、常時文字数が少ない

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
教科書の該当箇所を読む。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、精神保健に関わる現代社会の問題を知り、人間の好ましいあり方について検討することを通して、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

［ テキスト ］
新・精神保健福祉士養成講座 2「精神保健の課題と支援　第3版」（中央法規・2,700円）

精神疾患とその治療

科目ナンバー	ISW 2214-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
肥田　裕久	

［ 到達目標 ］
精神科の患者さんの病状や困っているような事についての理解を深めて欲しいと思います。細かな知識の集積よりも、今後の職務や職分に役に立つ実践の知恵を得ることを目的とします。

［ 履修の条件 ］
特にはありません。

［ 講義概要 ］
教科書も使用しますが、あくまで参考的な使用です。各講義ごとに実臨床の話題を多くいたします。基礎的な講義が一段落ついたあとで、VR 体験もおこない、患者さんの経験している苦労を追体験でき、理解を深めるような授業構成になります。パワーポイントのオリジナル教材を使用します。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　「精神科疾患を学ぶ上で重要な事項」
身体疾患の重要性の理解。
第2回　「精神科症候学」
精神科をむずかしくしているのは用語の煩雑さです。精神科専門用語の解説を行います。
第3回　第2回目講義の継続
第2回講義でわかりにくいような点を質問をうけ、解説。理解を深める
第4回　統合失調症 1
疫学　病態生理　症状
第5回　統合失調症 2
治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第6回　気分障害 1
疫学　病態生理　症状
第7回　気分障害 2
治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第8回　神経症性障害
疫学　病態生理　症状　治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第9回　第 4 －8回目の補足
充分に触れる事のできなかったことを補足・補遺します。この段階で、総括として事前に配布する質問用紙での回答を予定しています。
第10回　当事者の話を聴く機会。
VR の機材を使い、症状を追体験する。
教材は、統合失調症、ADHD を使用します。
第11回　器質性精神障害
疫学　病態生理　症状　治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第12回　児童・思春期の精神障害
自閉症スペクトラム障害　ADHD　知的障害など。概念整理と治療方法
第13回　精神科関連の法制度などの包括的講義

なぜ法律は変わって来たのか。収容主義から現在のリカバリー志向への変遷を追いながら、人権の在り方、精神科医療への変化等を説明します。
第14回　第11回から13回目まで充分に触れる事のできなかったことを補足・補遺します。および総括。
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
自分のことば、自分の思考で書かれているものを評価します。書籍・論述の引用ではないオリジナルな意見を評価します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験・レポート等のフィードバックは講義中などで適宜コメントできるような時間を設ける予定です。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義では精神障害を学ぶ事で「いのちを尊び、他者(障害を持つ方)を慶んで支えることの出来る人間性」の涵養を目指します。

[テキスト]
標準的なテキストとして 「新・精神保健福祉士養成講座第専門科目全9巻　第1巻「精神疾患とその治療　2版」中央法規出版(2019年2月発売)」を考えています

[参考文献]
「精神科リハビリテーション　スキルアップのための11講　星和書店」

[備考]
この講座で学んでいただきたいことは教科書的な話題だけではなく、生きて生活している人間としての患者さんの理解です。そのためにおおくの事例等を話します。講師は臨床の精神科専門医ですので、興味関心を持てるような講義にしたいと思います。

聴覚障害者のコミュニケーション

科目ナンバー	ISW2107-L
2単位：後期1コマ	1〜4年
中野　佐世子	

[到達目標]
聴覚障害者の抱える問題を通して、様々な障害を持つ人々の二次的・三次的な障害についても気づき、考える力を身につける。
聴覚障害者(重複障害者を含む)との基本的なコミュニケーション方法を知る。
手話で挨拶や自己紹介などの表現ができる。

[履修の条件]
聴覚障害者(重複障害者を含む)とのコミュニケーション手段(手話、口話他)について高い関心があり、受講生同士のコミュニケーションを積極的に取れる学生を対象とする。1回目から出席すること。

[講義概要]
今日本で、どのような人達が「障害者」に認定されているのか。
その中で聴覚障害者はどの様な問題を抱えているか。
コミュニケーションとは、まず相手のことを正しく知り、理解することから始まる。
この講義では様々な障害者の多様なコミュニケーション手段を実践し、その障害の本質を学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション(授業の方針、講義の内容、進め方、使用するテキストについて)
手話とは
第2回　障害とは　障害者とは
現在日本で認定されている障害の種類
<街の中にある色々なマークから、自身の認識を振り返る>
第3回　聴覚障害とは
聞こえの仕組み
第4回　聴覚障害者とのコミュニケーション手段Ⅰ
読話、発語
第5回　聴覚障害者とのコミュニケーション手段Ⅱ
筆談、補聴器
第6回　聴覚障害者とのコミュニケーション手段Ⅲ
手話、指文字
第7回　手話通訳者を取り巻く環境から考える聴覚障害者の現状
(教育、労働、家庭生活)
第8回　視覚障害とは　　視野狭窄、色弱、視力障害
ユニバーサルデザイン
第9回　視覚障害者への接し方　(ガイドヘルプ、食事の仕方等)
DVDの視聴
第10回　視聴覚障害者(盲ろう者)とは
見えなくて聞こえないという障害の重さと可能性
第11回　視聴覚障害者とのコミュニケーション手段
指点字、ブリスタ、触手話、触指文字他
DVDの視聴
第12回　肢体不自由者とは
見える障害と見えない問題
DVDの視聴
第13回　知的障害、発達障害の特性
(ダウン症、自閉症、アスペルガー、学習障害他)
DVDの視聴
第14回　知的障害者、発達障害者とのコミュニケーション
補助犬法(盲導犬、聴導犬、介助犬)
第15回　試験

[成績評価]
試験(40%)、レポート(30%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価（備考）]
毎回講義後に考察・感想をリアクションペーパーに記載する。
それらをもとに習熟度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回手話の実技を行う。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーにコメントを記載し、ぞの内容を次回の講義時に全体に向けてフィードバックする

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、聴覚障害者や聴覚の重複障害者とのコミュニケーション姿勢や技術を身に付けることができる。

[テキスト]
講義の初めにテキスト（非売品、中野作成）の申し込みを受け付ける。

[参考文献]
「手話ソングブック１」すずき出版　中野佐世子共著
「手話ソングブック２」　〃
「手話ソングブック３」　〃
「手話ゲームブック」　〃

[備考]
講義は必ず初回から出席すること。

社会福祉特講 A

科目ナンバー	ISW2412-L
2単位：後期1コマ	4年
髙山　由美子、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

[到達目標]
社会福祉士国家試験受験科目のうち、専門科目についての必要な知識を獲得する。

[履修の条件]
社会福祉士国家試験の受験を予定していること。

[講義概要]
社会福祉士国家試験の受験に必要な知識を獲得することを目的として、社会福祉士の国家試験科目の中から、専門科目を中心に取り上げる。
なお、取り上げる科目の順序は変更する場合がある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/社会福祉士国家試験受験の心構え
第2回　小テスト（模擬試験）①
第3回　小テスト（模擬試験）②
第4回　相談援助の基盤と専門職
第5回　相談援助の理論と方法①
第6回　相談援助の理論と方法②
第7回　高齢者に対する支援と介護保険制度
第8回　児童や家庭に対する支援児童・家庭福祉制度
第9回　福祉サービスの組織と経営
第10回　就労支援サービス
第11回　社会福祉調査
第12回　更生保護制度論
第13回　小テスト（模擬試験）③
第14回　小テスト（模擬試験）④
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
評価は授業内に実施する小テストと授業時の応答によって行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。
社会福祉士国家試験に合格するためには講義以外での自主的な学びが不可欠であるので、自身の受験勉強計画をしっかりと立て、継続的な学びをしていることを前提に出席すること。
次回取り上げる科目については、必ず予習をしておくこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業時の質問等については適宜対応し、フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
２「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識と技術、課題解決力を身につける。

[テキスト]
指定しない

[参考文献]
参考文献は授業で紹介する。

[備考]
「その他」として、授業では問題への回答を求めることがある。
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉士国家試験の受験に必要な科目に関する講義を行う。

社会福祉特講 B

科目ナンバー	ISW 2413-L
2単位：後期1コマ	4年
浅野　貴博、廣瀬　圭子、古寺　久仁子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉士国家試験に合格できる力を付ける。
精神保健福祉士として活動するときに必要な法律、制度、技術を整理し、理解する。

[履修の条件]
４年生で、精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の者。毎回、事前学習を行い、授業に参加する者。

[講義概要]
精神保健福祉士国家試験の「専門科目」について、過去問の回答状況、理解できていること、理解できていないことを確認しながら、講義を行う。精神保健福祉士として活動するときに必要となる法律、制度、技術について整理し、理解を深める。

■授業計画
第1回　授業の方針、模擬試験
第2回　模擬試験
第3回　精神疾患とその治療（精神医学）1
第4回　精神保健福祉に関する制度とサービス１＜歴史＞
第5回　精神保健福祉相談援助の基盤１＜医療機関＞
第6回　精神疾患とその治療（精神医学）2
第7回　精神保健福祉の理論と相談援助の展開１　地域移行、地域定着
第8回　精神保健の課題と支援（精神保健）１＜家族、学校問題、発達障害者支援法＞
第9回　精神障害者の生活支援システム１＜居住支援、就労支援＞
第10回　精神保健福祉に関する制度とサービス２＜社会保障、相談支援事業所、更生保護制度＞
第11回　精神保健福祉相談援助の基盤２＜多職種連携、医療機関における精神障害者リハビリテーション＞
第12回　精神障害者の生活支援システム２＜精神保健福祉相談員、精神保健福祉センター、精神医療審査会、精神保健審議会＞
第13回　精神保健福祉の理論と相談援助の展開２＜精神保健福祉士法、自殺対策基本法＞
第14回　精神保健の課題と支援（精神保健）２＜勤労、現代社会　ひきこもり等＞
第15回　※定期試験は実施しない

[成績評価]
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業までに、指定した過去問を自分で解答してみること。また、授業後、正答できなかった問題については、その内容と理由について再確認し、復習すること。精神保健福祉に関係する法律、制度、サービス、統計、疾病等の確認をすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実施してきた過去問に対するフィードバックは、必要に応じ講義の中で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、精神保健福祉士に必要な知識を包括的・総合的に復習し、統括していくことになる。それにより、学習をすすめられるようになる。

[テキスト]
『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』、『精神保健福祉士国家試験受験ワークブック（専門科目編）』、最新版。中央法規出版。予定。（授業開始時に周知する。）

[参考文献]
『精神保健福祉白書』中央法規出版。
その他、推薦図書を授業内で紹介する.

社会保障論 II

科目ナンバー	ICD 2203-L
2単位：後期1コマ	2年
金子　和夫	

[到達目標]
少子高齢社会の進展に伴い、制度改正が継続的に行われ、かつ、制度内容が複雑・多岐にわたっている社会保険制度の概要を説明できるようにする。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験、公務員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目であり、受験資格を希望する者は、「社会保障論Ⅰ」とあわせて必ず履修すること。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

[講義概要]
社会保障制度の中心となる年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度の概要およびそれらの問題点・課題について指摘する。年金保険制度は、全国民を対象とする国民年金、民間企業の一般被用者を対象とする厚生年金保険、医療保険制度は、地域住民対象の国民健康保険、民間企業の被用者を対象とする健康保険を中心に、そして介護保険制度について述べる。

■授業計画
第1回　年金保険制度の概要
第2回　国民年金保険制度

第3回　厚生年金保険制度
第4回　その他の年金関連制度
第5回　年金保険制度の動向・課題
第6回　医療保険制度の概要
第7回　健康保険制度
第8回　国民健康保険制度
第9回　高齢者医療制度
第10回　医療保険・医療制度の動向・課題
第11回　介護保険制度の概要
第12回　介護保険制度における保険給付
第13回　介護保険制度の財源と負担
第14回　介護保険制度の動向・課題
第15回　試験

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
年金保険、医療保険、介護保険は、少子高齢社会・人口減少社会の進展において重要な政策課題であり、新聞記事やＴＶニュースで取り上げられない日はないので常に関心を持って事前に調べること。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

[テキスト]
テキストは使用せず、講義資料を配布する。

[参考文献]
『社会保障』<新社会福祉士養成講座>（中央法規）
『社会保障』<新社会福祉学習双書>（全国社会福祉協議会）
『保険と年金の動向』（厚生統計協会）
『厚生労働白書』（日経印刷）
『社会保障入門』（中央法規）
『はじめての社会保障』（有斐閣）
上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

[備考]
授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかり行ってください。

地域支援技法Ⅰ

科目ナンバー	ICD2303-L
2単位：前期1コマ	3〜4年
原島　博、和田　敏明、長島　明子	

[科目補足情報]
3年次から履修可能。地域活動に関心があれば、コースを問わず履修できる。

[到達目標]
地域住民とともに地域の課題について考え調査しまとめるプロセスを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

[履修の条件]
①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
②「地域支援技法Ⅰ」のみの受講も可能。後期の「地域支援技法Ⅱ」のみの受講は不可。
③この科目は、木曜日３限および４限で、７月～９月のうち８回不定期に開講する。8月に現場フィールドワークでヒヤリング調査を行う。その授業すべてに出席できること。詳細日程は４月に提示する。
④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業を目指している、もしくは子どもや高齢者、外国人などを対象にした地域活動に関心があること。
⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

[講義概要]
本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、３市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を受講するものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域の社会資源や福祉課題について考え、小グループに分かれて実際に地域で展開されている活動を調査し、まとめて発表する。

■授業計画
第1回　これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割
第2回　地域で役立つ社会資源を発見する
第3回　地域でサポートするときの人とのかかわり方を学ぶ（１）
第4回　地域でサポートするときの人とのかかわり方を学ぶ（２）
第5回　地域の福祉課題を考える（１）
第6回　地域の福祉課題を考える（２）

第7回　地域で実際に展開されている活動を知る（1）
第8回　地域で実際に展開されている活動を知る（2）
第9回　地域の福祉課題を調査する-ヒアリング項目を考える
第10回　報告会にむけてヒアリングの結果をグループでまとめる（1）
第11回　報告会にむけてヒアリングの結果をグループでまとめる（2）
第12回　報告会にむけてヒアリングの結果をグループでまとめる（3）
第13回　地域の福祉課題について調査結果を報告する（1）
第14回　地域の福祉課題について調査結果を報告する（2）
第15回　ー

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

［成績評価（備考）］
その他の評価方法の内訳は、フィールドワークへの参加状況30%、授業・報告会への貢献度30%、リアクションペーパー等による学び40% である。
なお、4回以上授業を欠席した場合、またはフィールドワークに欠席した場合は、原則として不可とする。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
三鷹市・小金井市・武蔵野市の3市の福祉行政および社会福祉協議会の事業について事前に学んでおくとよい。本科目では各授業回におよそ200分（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーなどの援助者としての知識と技術を体験的に学ぶ。

［テキスト］
特になし。

［参考文献］
その都度、資料を提供する。

地域支援技法 II

科目ナンバー	ICD 2304-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
原島　博、和田　敏明、長島　明子	

［科目補足情報］
3年次から履修可能。地域活動に関心があれば、コースを問わず履修できる。

［到達目標］
地域住民とともに「新たな支えあい活動」を企画開発することを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

［履修の条件］
①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
②「地域支援技法Ⅱ」のみの受講は不可。
③この科目は、木曜日3限および4限で、9月〜1月のうち6回不定期に開講する。その授業すべてに出席できること。詳細日程は4月に提示する。
④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業を目指している、もしくは子どもや高齢者、外国人などを対象にした地域活動に関心があること。
⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

［講義概要］
本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、3市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を受講するものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域の社会資源や福祉課題について考え、小グループに分かれて実際に福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画し、まとめて発表する。

■授業計画
第1回　地域福祉の推進に向け活動の計画をたてる手法を学ぶ（1）
第2回　地域福祉の推進に向け活動の計画をたてる手法を学ぶ（2）
第3回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する（1）
第4回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する（2）
第5回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する（3）
第6回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する（4）
第7回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する（5）
第8回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する（6）
第9回　報告会にむけて企画案をグループでまとめる（1）
第10回　報告会にむけて企画案をグループでまとめる（2）
第11回　報告会にむけて企画案をグループでまとめる（3）
第12回　報告会にむけて企画案をグループでまとめる（4）
第13回　「新たな支えあい」活動企画発表会（1）
第14回　「新たな支えあい」活動企画発表会（2）
第15回　ー

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法の内訳は、活動企画演習への参加状況30%、授業・報告会への貢献度30%である。
なお、4回以上授業を欠席した場合、または活動企画演習に欠席した場合は、原則として不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
三鷹市・小金井市・武蔵野市の３市の福祉行政および社会福祉協議会について事前に学んでおくとよい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーとしての知識と技術を体験的に学ぶ。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

[備考]
第３回目～第12回目（４回分）は、各市の社旗福祉協議会にて行われているグループ活動へ参加する。

福祉行財政と福祉計画

科目ナンバー	ICD2305-L
2単位：集中	3年
金子　和夫、市川　一宏	

[到達目標]
福祉専門職として理解しておかなければならない、行財政を含む福祉の制度的な仕組みと計画の意義について説明できるようにする。また、社会福祉士国家試験や公務員採用試験などに対応するとともに、地域において活動できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格の指定科目であり、受験希望者は必ず履修すること。また、将来公務員その他行政関連の組織・団体・機関を目指す者も履修してほしい。

[講義概要]
前半では、福祉行財政の実施体制である国・都道府県・市町村、その他関係組織・団体・専門職の役割や関係、および、福祉政策において重要な課題となる福祉財政についてその現状や問題点、課題を理解する。後半では、福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について学び、福祉計画の運営全般を理解する。

■授業計画
第１回　福祉行政における国・地方自治体の役割
第２回　福祉行政と地方分権
第３回　福祉の財源（国と地方自治体）
第４回　福祉の財源（保険料、民間の財源）
第５回　福祉行政の組織の役割（福祉事務所他）
第６回　福祉行政の組織の役割（児童相談所他）
第７回　福祉行政における専門職の役割
第８回　福祉計画の意義と目的
第９回　福祉計画における住民参加の意義
第10回　福祉行財政と福祉計画の関係
第11回　福祉計画の主体と種類
第12回　福祉計画の策定過程・策定方法と留意点
第13回　福祉計画の評価方法・福祉計画の実際
第14回　まとめ
第15回　－

[成績評価]
試験（80%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目に限らず、社会福祉の専門科目で学ぶ専門機関や専門職に関心を持つとともに、新聞記事やＴＶニュースなどで福祉行財政について調べ、かつ、関係する自治体の策定する福祉計画について、その策定過程を含めて調べてみること。また、テキストや配布された資料により必ず予習・復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

[テキスト]
市川・宇野・野口編『福祉行財政と福祉計画』MINERVA 社会福祉士養成テキストブック9（ミネルヴァ書房、最新版）

[参考文献]
『福祉行財政と福祉計画』（中央法規）
『概説　福祉行財政と福祉計画』（ミネルヴァ書房）
上記以外にもテキストが出版されており、また、行財政についても多くの文献があるので、自分で使いやすい文献を利用すること。

福祉サービスの組織と経営

科目ナンバー	ICD 2306-L
2単位：後期1コマ	3年
榊原　次郎	

[到達目標]
福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論を学び、福祉サービスに係る多様な組織や団体の経営や連携について理解を深める。

[履修の条件]
原則的には3, 4年次の学生を対象とする。

[講義概要]
ソーシャルワーカーとして働く上では、組織に属しながら、多職種・多機関との連携を含め、組織のマネジメントや人的資源のマネジメントに携わることも多く、マネジメントを理解する重要性が指摘されている。講義では、モチベーション、リーダーシップ、運営戦略などの組織論を学びながら、福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治体など）の経営の実際やサービスの質の向上にむけた課題について、学生自身が単に知識を習得するだけでなく、将来、組織で働くことを意識して考えるような授業展開としたい。

■授業計画

第1回　講義の目的と意義、福祉サービスにおける組織と経営
第2回　福祉サービスに係る多様な組織（1）法人とは、社会福祉法人
第3回　福祉サービスに係る多様な組織（2）NPO 法人、その他の法人
第4回　福祉サービスの組織と経営の基礎理論（1）戦略・事業計画
第5回　福祉サービスの組織と経営の基礎理論（2）組織・経営
第6回　福祉サービスと経営に係る基礎理論（3）管理運営
第7回　福祉サービスと経営に係る基礎理論（4）集団力学・リーダーシップ
第8回　福祉サービス提供組織の経営と実際経営体制
第9回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（1）サービス管理
第10回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（2）リスク管理
第11回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（3）人事・労務管理
第12回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（4）人材育成
第13回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（5）財務管理
第14回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（6）情報管理および全体のまとめ
第15回　期末試験

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

[成績評価（備考）]
課題としてリアクションペーパーの提出を求める。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習・復習として教科書を読むこと。自分のテーマに合わせて参考文献を読むことを薦める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。福祉サービスの組織と経営に関する学びを深めることにより、福祉サービスに関する本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになるための知識を得る。

[テキスト]
社会福祉士養成講座編集委員会偏（2017）『新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営』第5版,中央法規.

[参考文献]
参考文献は授業で紹介する。

[備考]
授業内容が変更される場合があります。

社会福祉調査

科目ナンバー	ICD 2307-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
福田　真清	

[到達目標]
①社会福祉に従事する専門家に必要な社会福祉援助技術の一つである社会調査に関する基礎知識を養う。
②社会福祉分野における社会福祉調査を理解する。
・社会福祉分野での社会調査の目的・意義・課題の理解
・社会調査法の基本の習得（統計法の概要も含む）
・社会調査における倫理や個人情報保護の理解
・社会福祉分野における量的調査法と質的調査法の具体的な調査方法や分析方法の習得

[履修の条件]
原則的に3年次と4年次の学生を対象とする。

[講義概要]
社会福祉調査は、社会福祉やソーシャルワーク実践の質を高めていくために必要な技術である。国家試験はもとより、実践にも応用可能な「社会調査の基礎」が身につくよう、体系的にスモールステップで進めていく。
まず、社会福祉における社会調査の全体を捉え、調査の目的や意義、課題のほか、倫理や個人情報保護、統計法の概要を理解する。その上で、量的調査法と質的調査法の特徴を対比させな

がら、具体的な手順と分析方法を学ぶ。さらに社会福祉実践現場を想定しながら調査と評価の方法、結果の報告と発表の仕方を身につける。
授業はテキストのほか、レジュメやスライドを用いる。

■授業計画

第1回　社会福祉と社会調査（１）：社会調査の目的と意義・課題
第2回　社会福祉と社会調査（２）：倫理と個人情報保護、統計法
第3回　社会調査の概要（１）：調査の組立て・準備、調査対象者の選定
第4回　社会調査の概要（２）：量的調査法と質的調査法の特徴と対比
第5回　量的調査法の手順と方法（１）：測定（信頼性・妥当性、調査票の作成）、データの収集
第6回　量的調査法の手順と方法（２）：データの整理（分析に向けた基礎的作業、尺度の種類など）とＳＰＳＳを用いたデータ分析（度数分布表、基本統計量、２変数間の関連など）
第7回　量的調査法の手順と方法（３）：ＳＰＳＳを用いたデータの分析（３変数のクロス集計など）、ＩＴの活用
第8回　質的調査法の手順と方法（１）：調査の手法（インタビュー、観察、アクションリサーチなど）、データの収集
第9回　質的調査法の手順と方法（２）：データの整理（文字化、コーディング）、分析（ＫＪ法、ライフストーリー法など）
第10回　質的調査法の手順と方法（３）：データの分析（ＧＴＡ、エスノグラフィーなど）
第11回　量的調査法と質的調査法の実際
第12回　社会福祉実践現場における調査・評価（１）：ニーズ調査、プログラム評価、実践評価
第13回　社会福祉実践現場における調査・評価（２）：新しい調査法（ミックス法、ＩＣＴの活用、参加型調査）、調査の普及
第14回　社会調査結果の報告・発表の方法
第15回　期末試験

［ 成績評価 ］
試験（40％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（10％）

［ 成績評価（備考） ］
「課題」としてリアクションペーパーの提出とその内容を評価する。「その他の評価方法」として授業への取り組みや問題意識、発表の度合いを評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
テキストの予習と復習、授業で配布する資料の読み返しを勧める。本科目では各授業回におよそ200時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業時に行う。期末試験とレポートの内容は第１回で説明する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。社会福祉に関する調査方法の基本を学び、地域や事業所・当事者等のニーズや実態を実証的に分析し、ソーシャルワーク実践の示唆を提言するために必要な知識を養う。

［ テキスト ］
塩谷有二・杉澤秀博・武田丈編（2010）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック５社会調査の基礎』初版, ミネルヴァ書房, 2,420円.

［ 参考文献 ］
社会福祉士養成講座編集委員会編（2013）『新・社会福祉士養成講座５　社会調査の基礎』第３版, 中央法規, 2,860円.
笠原千絵・永田祐編（2013）『地域の〈実践〉を変える社会福祉調査入門』, 春秋社, 2,750円.
その他の参考文献は授業で紹介する。

地域開発総論

科目ナンバー	ICD 2403-L
2単位：前期1コマ	4年
金子　和夫、原島　博、市川　一宏	

［ 科目補足情報 ］
オムニバス方式

［ 到達目標 ］
①地域課題や地域福祉に従事者間の多様な連携、ネットワークなどを総合的・多面的に理解する。
②多文化共生の地域社会づくりと生活基盤の開発する力を養う。

［ 履修の条件 ］
どのコースの学生も受講可能。地域福祉開発コースの学生は最終年度に履修すること。

［ 講義概要 ］
これまでの学びを統合し、誰もが地域でその人らしく安心して暮らす事ができる多文化共生の地域社会づくりと生活基盤を開発する力を養う。オムニバス方式で、地域福祉、地域開発方法、国際開発、地域人材育成の４つのテーマごとに、具体的な実践事例、地域事例をもとに、地域の様々に課題にどう取り組んでいるのか、困難を伴う課題は何か、どう対処しているのかなどを体系的に学ぶ。

■授業計画

第1回　講義の目的と意義、
【国際開発論１】人間開発（HD）と持続可能な開発目標（SDG s）
第2回　【国際開発論２】発展途上国の地域開発（Community Development）
第3回　【国際開発論３】国際協力の役割と仕組み（国連・政府・NGO・市民社会）
第4回　【国際開発論４】国際ソーシャルワーク（１）

第5回　【国際開発論５】国際ソーシャルワーク（２）
第6回　【地域人材育成論１】地域で活躍する社会福祉士
第7回　【地域人材育成論２】地域を見守る民生委員・児童委員
第8回　【地域人材育成論３】地域福祉行政を担う公務員
第9回　【地域人材育成論４】新聞で見る地域福祉に係わる人たち（１）
第10回　【地域人材育成論５】新聞で見る地域福祉に係わる人たち（２）
第11回　【地域福祉論１】生活困窮者自立支援
第12回　【地域福祉論２】社会的養護
第13回　【地域福祉論３】地域包括支援システム、介護保険の総合事業
第14回　【地域福祉論４】全体のまとめ
第15回　ー

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（50％）

［ 成績評価（備考） ］
「その他」では、授業への積極的な参加（質疑応答）、毎回のリアクションペーパーの内容などを総合的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
自分の関心やテーマにあわせて、関連文献、新聞等を読むこと。また、授業で配布された資料で復習する。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。現代における地域福祉・地域課題の最前線を学ぶことにより、地域社会における問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行ができるような知識、技術を得るとともに、地域社会の人たちとの協働作業を創り、参与できるような学習能力を身につける。

［ テキスト ］
特に指定しない

［ 参考文献 ］
参考文献は授業で紹介する。

社会福祉特講 C

科目ナンバー	ICD 2309-L
2単位：後期1コマ	3年
金子　和夫	

［ 到達目標 ］
地方自治体の公務員試験の受験、特に論文試験や面接試験に合格するために必要な能力を養成する。具体的には調査に必要な能力、文章作成に必要な能力、質問に対する応答やディベートに必要な能力を身に付け、質問やテーマに的確に応えることができるようになる。

［ 履修の条件 ］
3年次で、来春に地方公務員試験、特に福祉職採用試験の受験を予定している者。
毎回事前学習・事後学習を行い、授業中にディスカッションができる者。
提出課題を毎回提出できる意欲のある者。

［ 講義概要 ］
日本で、あるいは、特定の地方自治体で、さらには諸外国で、今日何が起きているのかを、政治・経済・社会・文化・スポーツなど、多様な側面において新聞その他さまざまなツールで確認する。さらに、その影響が地方自治体にどのようにかかわってくるのかを、考え、議論し、文章化する。現職の地方公務員や地方自治体の首長経験者などによる講義も予定している。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　今日本で何が起きているかー政治・経済に焦点を当てて
第3回　今日本で何が起きているかー社会・文化・スポーツに焦点を当てて
第4回　今世界で何が起きているかー政治・経済に焦点を当てて
第5回　今世界で何が起きているかー社会・文化・スポーツに焦点を当てて
第6回　第2回から第5回までの課題を振り返り検証する
第7回　今地方自治体で何が起きているかー政策に焦点を当てて
第8回　今地方自治体に何が起きているかー財政に焦点を当てて
第9回　今地方自治体に何が起きているかー住民生活に焦点を当てて
第10回　今地方自治体に何が起きているかー福祉に焦点を当てて
第11回　特定の地方自治体の政策を調べるー刊行された計画などから
第12回　特定の地方自治体の財政を調べるーホームページなどから
第13回　特定の自治体の住民生活を調べるー住民の生活や福祉についてホームページや各種計画などから
第14回　地方自治体の進もうとする方向について考える
第15回　これまでのフィードバック

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（50％）、その他の評価方法（50％）

［ 成績評価（備考） ］
授業中に議論されるテーマへの発言において、積極的な発言態度、着眼点、知識・技術、論理性などを総合的に勘案しながら評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、地方自治体に関する資料や、国内外を問わず社会状況に関する新聞記事を読み、それに関するまとめや感想を提出してもらう。また、記事から見出しを、あるいは、見出しから記事を記述するなど、論述試験に向けた論文作成能力を養う。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3.総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、地方自治体におけるものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる、そのために他者との協働作業を創り、参与できる、さらにそれを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を得る。

[テキスト]
使用しない。ただし新聞は毎日読むこと。

[参考文献]
「現代用語の基礎知識」などの用語辞典が参考になる。

[備考]
スマホやパソコンなどその場で調べる癖をつけてもらいたい。素早いやりとりを求めるかもしれないが、形式にとらわれず楽しく進めたい。

保育原理と保育士の専門性

科目ナンバー	ICF2201-L
2単位：前期1コマ	2年
山梨　有子	

[到達目標]
保育の原理的体系的な知識及び考え方について理解する。また、保育の内容と方法の基本について理解する。
保育の専門性について理解する。

[履修の条件]
履修の条件は特にありません。

[講義概要]
保育の概念と今日の保育の実態の概要を総合的に知る。
保育の目標や方法を知り、保育の総合的理解の上に保育者の役割について知る。
上記、保育の基本的な知識を基に保育の実際についての学びを深める。
基本的には講義形式だが、一部題材によっては、DVDや画像を活用する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　授業のねらい、方針について
　　保育とは
第2回　現在の保育の周辺状況
第3回　日本の保育の思想と歴史
第4回　諸外国の保育の思想と歴史
第5回　保育の意義①　児童の最善の利益とは
第6回　保育の意義②　保育所保育の理念と概念
第7回　保育の意義③　保育の社会的意義
第8回　保育所保育指針における保育の基本①　養護と教育の一体性・環境を通して行う保育
第9回　保育所保育指針における保育の基本②　発達過程に応じた保育
第10回　保育所保育指針における保育の基本③　保護者との密接な連携
第11回　保育の目標と方法①　保育の目標
第12回　保育の目標と方法②　生活と遊びを通して総合的に行う保育
第13回　保育の目標と方法③　保育の計画と評価
第14回　保育の現状と課題/保育士の専門性とは
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（10%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
身近な保育に関する時事情報に関心を持ちまとめておく。各自の積極的な予習・復習が望まれる。紹介文献を読んでおくこと。
本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計14回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回講義内容において行う。
課題レポートについては、次の授業の際にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。
この科目を履修することにより、子ども理解を深め、保育者のありかたについて検討し、子どもと保育を総合的に考えることができる。

[テキスト]
指定しない。適宜資料を配布する。

[参考文献]
①宍戸健夫・阿部真奈美編『戦後保育50年史第1巻保育思想の潮流』日本図書センター　6,000円
②厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（2018）フレーベル館320円

児童福祉論

科目ナンバー	ICF 2202-L
2単位：後期1コマ	2年
加藤　純	

[到達目標]
児童福祉に関する法令を自分で調べ理解し、実際の支援場面に結びつける力を身につけます。具体的には、法令の条文の見つけ方と示し方、条文の内容を理解する力を養います。力を養う方法の一つとして社会福祉士国家試験や保育士試験の過去問題を使います。

[履修の条件]
社会福祉士国家試験受験資格を得るのに必要な指定科目です。
1.「児童福祉の諸問題」を履修していなくても本科目を履修できます。
2. いずれのコースであっても履修できます。
3. 過密スケジュール下での履修はお薦めしません。3 ～ 4 年次に履修すると理解しやすく、受験対策上も効果的でしょう。
4. 科目等履修生も履修できます。法令や制度の学習に慣れるまで少し苦労するかもしれません。ご相談ください。

[講義概要]
児童福祉に関する法体系から始まり、児童福祉の主要な領域について、制度や機関、職員に関する法令を学びます。授業初期は、法令の条文を一つ一つ見つけて所在地を示し内容を理解する練習をします。後半になるに従い、要点の説明のみになりますので、各自で条文を見つけて理解するように努めて下さい。また、授業初期は授業中に社会福祉士や保育士の過去問題に取り組み丁寧に解説をしますが、後半は過去問題を列挙するだけにしますので各自で取り組んでください。

■授業計画
第1回　法令を学ぶ重要性
　　オリエンテーション（授業の目的・内容・日程・課題）
第2回　児童福祉に関する法令の体系（児童福祉六法の名称と制定年、施行令と施行規則）
第3回　法令の条文の所在地の示し方（条・項・号の規則と例外）
第4回　児童福祉法の対象児童福祉法の理念
第5回　児童福祉施設。児童福祉の事業
第6回　児童相談所の設置（自治体の設置義務）
　　児童相談所の職員（職員の職種と任用資格）
第7回　社会的養護（児童養護施設と乳児院の目的や対象）
第8回　社会的養護（児童養護施設と乳児院の設備・職員・支援）
第9回　児童福祉に関する都道府県・市・町村の業務
第10回　児童福祉施設の利用・入所経路
第11回　子育て支援（健全育成の理念、児童委員、児童厚生施設の種類と職員、市町村の相談機関）
第12回　子育て支援（母子保健）
第13回　ひとり親家庭への援助（母子及び父子並びに寡婦福祉法）
第14回　ひとり親家庭への援助（母子生活支援施設、児童扶養手当）
第15回　期末試験

[成績評価]
試験（60%）、レポート（0%）、小テスト（20%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
「その他の評価方法」は、過去問への取り組みや『小六法』活用のための工夫など授業への取り組みに関する自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は 3 点、遅刻は 1 点の減点とします。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
1）小テストと期末試験の際は『社会福祉小六法』を必ず持参して活用して解答して下さい。そのため授業中に『小六法』に付箋を付けたり、印を付けたり、書き込みをしたり、使いやすい状態にしておくことをお勧めします。
2）授業中に配布する資料に社会福祉士の過去の出題例を掲載します。授業後に、各自で六法を活用して解答例を作成してください。
本科目では各授業回におよそ 200 分の復習や課題学習等を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内小テストの解答と解説は小テストの実施後に行います。期末試験は採点後メールボックスを通して返却します。手渡しを希望する場合は、試験の末尾に明記してください。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目では、ソーシャルワーカーとしての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として特に法律や制度に関する知識を身につけることを目指します。

[テキスト]
1. ミネルヴァ書房の『ワイド版社会福祉小六法資料付』または『社会福祉小六法』をお勧めします。『社会福祉六法』ではありません。法令の改正が毎年あるので、できる限り最新版を用意してください。第 2 回の授業までに準備し、毎回持参してください。
2. 授業中に資料を配付します。なお、遅刻や欠席により入手できなかった配布資料は各自の責任で入手してください。

[参考文献]
政策や統計などの最新の動きを知るために、財団法人厚生統計協会編『国民の福祉と介護の動向』を推薦します。最新版は 9 月から 10 月頃に発行されます。

[備考]
実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および児童相談所における子供の権利擁護専門員としての経験を活かして、児童福祉分野での制度と対人援助の方法の指導を行います。

レクリエーションとグループリーダー

科目ナンバー	ICF 2203-S
2単位：後期1コマ	2年
山崎　律子	

[到達目標]
レクリエーションの基本概念の把握から、レクリエーション活動の意義を理解した上で指導の基本を演習活動を実施する事により習得する。

[履修の条件]
人と関わる活動や仕事を希望する学生。
授業数の２/３以上の出席をすること。
積極的な授業参加を希望。

[講義概要]
授業の前半は、レクリエーションを理解するだけでなく、実践を通してレクリエーション活動の楽しさを実感する。さらにレクリエーション活動の意義・役割および現在の趨勢を知る。授業の中盤は、レクリエーション活動の実践に向けての企画方法を学び、グループに分かれてレクリエーション活動の体験演習を実践・考察する。さらにレクリエーション活動の体験演習をフィードバックしながら指導技術を習得する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　この授業の目的と進め方　授業で使用する参考文献の紹介
第2回　レクリエーションの概念基本的理解
第3回　レクリエーション活動の体験　集団ゲーム（レクリエーション活動の企画・運営を踏まえて）
第4回　レクリエーション活動の体験　高齢者を対象とした内容（レクリエーション活動の企画・運営を踏まえて）
第5回　レクリエーション活動の体験　障害者を対象とした内容（レクリエーション活動の企画・運営を踏まえて）
第6回　レクリエーション活動の企画と運営　その基本的理解
第7回　レクリエーション活動の企画と運営　基本を踏まえた上で体験演習に向けての企画書作成
第8回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第9回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第10回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第11回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第12回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第13回　レクリエーション活動の指導法　演習で学んだレクリエーション活動を指導する際　注意をしなければならない事をまとめる
第14回　まとめ、質疑応答、フリーディスカッション　レクリエーション活動を今後　自分の生活や仕事にどのようにどのように取り入れていくかを具体的に考える。
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
講義内容の確認として提出されたリアクションペーパーの評価
グループでの体験学習の企画書を評価

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、次週の授業の資料を配布する。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。
担当した活動の企画書を演習実施前に提出をすること。実施後に評価をして企画書を再提出する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
この科目を履修する事で、私達が生きる喜びを感じて歩んでいくために必要な知識・技能・態度をレクリエーションの考え方から学ぶ。

[テキスト]
資料を配布する。

[参考文献]
1. 余暇問題研究所編著　現代人とレジャー・レクリエーション　不昧堂出版　1977
2. 髙橋和敏・川向妙子編著　図解ゲームの指導事典　不昧堂出版　1986
3. 余暇問題研究所編　アメリカの公園・レクリエーション行政　不昧堂出版　1999
4. 髙橋和敏・山崎律子編　たのしい要介護シニアの運動・スポーツ　ミネルヴァ書房　2002
5. 山崎律子著　参加したくなる介護現場のレクリエーション　中央法規　2015

障害者・障害児心理学

科目ナンバー	ICF 2204-L
2単位：前期1コマ	2年
楠見　友輔	

[到達目標]
①身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。
②障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説

明できる。
③障害と自己を関係づけて論じることができる。

［履修の条件］
テキストについては初回授業で説明をします。オリエンテーションまでに準備をする必要はありません。

［講義概要］
障害者と関わる施設における実習や将来障害者と関わる仕事に就く際に必要となる、障害（児・者）に関する知識と理解を深めることを目指します。障害理解に終わりや正解はなく、立場や歴史文化の違いによって著しくその捉え方も異なります。そこで、今後のキャリア発達の中で障害とは何かについて学び続けるための、基礎的な知識や態度を身につけることが求められます。毎回30～50分程度のグループディスカッションの時間やビデオの視聴の時間を設けます。グループ発表を１回実施します。

■授業計画

第１回　【オリエンテーション】
本科目の進め方や評価の仕方についての説明、障害者・障害児心理学を学ぶことの目的や意義について概説をします。
キーワード：共生社会、国際生活機能分類（ICF）、インクルージョン、障害理解、障害者心理と仕事

第２回　【障害児教育の歴史とインクルーシブ教育】
わが国の特別支援教育システムの歴史、世界のインクルーシブ教育におけるわが国の特別支援教育の位置づけについて議論を行います。
キーワード：障害児教育史、就学の猶予と免除、優生思想、養護学校義務化、発達保障・共生教育論争、インクルーシブ教育

第３回　【視覚障害の理解と支援】
視覚障害の定義と種類や知覚の特徴、視覚障害児の学習や視覚障害者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：視覚機構と視機能、弱視と盲、墨字と点字、情報アクセシビリティ、視覚障害者心理

第４回　【聴覚障害の理解と支援】
聴覚障害の定義と種類やコミュニケーションの特徴、聴覚障害児の学習や聴覚障害者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：聴覚機構と聴機能、難聴と聾、口話と手話、ろう教育史、聴覚障害者心理

第５回　【肢体不自由の理解と支援】
肢体不自由の定義と種類、肢体不自由児の学習・発達や肢体不自由者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：脳性まひ、二分脊椎、進行性筋ジストロフィー、医療と肢体不自由児教育、療育、医療的ケア

第６回　【知的障害の理解と支援①】
知的障害の診断に関わる知能検査、知的障害と関連する障害、知能と学習の関係について議論を行います。
キーワード：知能、知能検査、ダウン症、知的障害特別支援教育

第７回　【障害者施策の草創期：（グループ発表）】
有名な障害者施設や障害児教育学校についてグループで調査をしてもらい、調査結果の発表をしてもらいます。
キーワード：障害者福祉施設、障害児教育学校、障害の分類

第８回　【発達障害の理解と支援①】
発達障害と知的障害の関係、発達障害の種類、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。特に広汎性発達障害を扱います。
キーワード：広汎性発達障害（自閉症スペクトラム障害）、心の理論、高機能広汎性発達障害、授業のユニバーサルデザイン

第９回　【発達障害の理解と支援②】
特に学習障害と注意欠陥・多動性障害を扱い、ニーズに応じた支援の在り方についての議論を行います。
キーワード：学習障害、注意欠陥多動性障害、二次障害、薬物療法

第10回　【病弱児の理解と支援】
病弱の定義や病弱児が抱えやすい心理発達的課題について学びます。入院・通院治療中のケアや退院後における心理的支援の在り方について議論します。
キーワード：病弱と身体虚弱、体の病気、心の病気、病弱児教育史、ターミナル期と生活の質

第11回　【障害者の社会参加と法制度】
障害者権利条約への署名から批准にかけてのわが国の障害者関連法の整備過程についての議論を行います。
キーワード：障害者権利条約、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者雇用促進法、障害者の自立

第12回　【障害当事者と家族】
障害児・障害者自身の障害の受容、家族の障害の受容と理解、家族の障害者からの自立、専門家の家族との接し方についての議論を行います。
キーワード：障害受容、障害児の親、障害児の同胞（きょうだい）

第13回　【障害の捉え方（様々なモデル）】
障害に関する多様なモデル、「しょうがい」という言葉のニュアンスなど、歴史文化的な視点から障害全般の捉え方についての議論を行います。
キーワード：社会モデル、医療モデル、国際生活機能分類、「しょうがい」の表記

第14回　【障害者と健常者の交流】
障害当事者が自己と障害をどのように複雑に意味づけているか、健常児・者との交流場面において障害児・者がどのように自他関係を意味づけるかという社会的アイデンティティについて議論を行います。
キーワード：社会的アイデンティティ、交流、スティグマ、カミングアウト

第15回　【試験】
【障害理解と自己理解】
受講者自身と障害との関係、障害という概念を通して自己を見つめなおすと健常や障害がどのように捉えられるかを考え、障害という概念自体の問い直しを行います。

キーワード：障害理解、他者理解、自己理解

[成績評価]
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（0％）

[成績評価（備考）]
10回分の課題提出（3点×10回）と最終試験（70点満点）の合計によって評価を行います。何らかの事由によって課題提出や試験への参加が困難な場合には事前に授業者に相談をしてください。（詳細は第1回授業で説明します）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、次回の授業範囲の内容に関するプリントの宿題を出します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
最終試験のフィードバックは行いません。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することによって、将来的に障害児・者に対する理解や支援を進んで行うことができるための基礎となる知識や態度を習得することができる。

[テキスト]
授業で配布する課題プリントをテキストとします。

[参考文献]
田中新正・古賀精治（2013）『新訂　障害児・障害者心理学特論』放送大学大学大学院教材
太田信夫（2017）『シリーズ　心理学と仕事15　障害者心理学』北大路書房

家族心理学

科目ナンバー	ICF 2205-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
松野　航大	

[到達目標]
（1）家族心理学および家族療法の基礎理論を理解し，説明できる。
（2）現代社会におけるさまざまな家族の問題を理解し，それらを実生活と関連づけることができる。
（3）家族の問題に対するさまざまな支援方法を知り，それらを実生活に活かすことができる。

[履修の条件]
・初回の授業でオリエンテーションを行います。そのため，大学が認める理由での欠席でない限り，初回の授業に必ず出席してください。

[講義概要]
「家族」は，我々の生活に密接に関わっており，心理学・臨床心理学においても非常に重要なテーマです。本授業では，家族心理学および家族療法の基礎理論とその応用について概観し，家族心理学および家族療法の理論と実践に関して学習します。
授業は，講義を中心に構成されますが，ビデオ視聴，個人ワーク，グループワークも適宜行います。

■授業計画
第1回　オリエンテーション（授業の方法，成績評価の説明など）
第2回　家族とは何か（家族の定義，家族システム理論など）
第3回　独身の若い成人期
第4回　結婚による家族の成立期
第5回　乳幼児を育てる段階・小学生の子どもとその家族
第6回　若者世代とその家族・老年期の家族
第7回　家族療法（1）家族療法とは①（家族療法の基礎）
第8回　家族療法（2）家族療法とは②（さまざまな家族療法と家族療法の実際）
第9回　夫婦関係の危機と支援
第10回　子育てをめぐる問題と支援
第11回　家族が経験するストレスと支援
第12回　ジェノグラム
第13回　アサーション
第14回　授業総括（試験とまとめ）
第15回　-

[成績評価]
試験（40％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（60％）、その他の評価方法（0％）

[成績評価（備考）]
※なお，出席回数が全講義回数の2/3に満たない者は評価の対象になりません。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
【事前学習】　各回の授業について，教科書の各講義に該当する部分を通読しておいてください。また，各講義のテーマについて，関連書籍等にあたって知識を深めてください。
【事後学習】　各回の授業について，配布資料を復習し，必要に応じて内容要約を行ってください。また，各回の授業のテーマについて，教科書や参考書などの書籍や論文など読んで理解を深めてください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
・授業内で実施する課題について，講義時間内に適宜口頭でフィードバックを行います。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本科目を履修することにより，自己や他者を含めたさまざまな家族について理解を深め，個人や家族を広い視点でとらえることができるようになる。また，家族を支援するための基礎的なスキルを身につけることができる。

[テキスト]
家族心理学第2版, 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子(2019)., 有斐閣, 2750円

[参考文献]
家族の心理　第2版, 平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義(2019)., サイエンス社, 2090円

[備考]
※初回の授業で, 本授業の目的・方法・成績評価法等の重要事項を説明します。
※質問は授業後に受け付けます。
※学習進度により授業内容を一部変更することがあります。

子どもと教育

科目ナンバー	ICF 2301-L
2単位：前期1コマ	3年
崔　善愛	

[到達目標]
こどもを一人の人格として尊重する感性を習得する。いじめや差別に苦しむ人の立場に身を置き、問題の所在を考え、問うことができるようにする。また、多様な生き方に出会い、自分と異なる思想や個性を受け入れられるようにする。健やかな教育の場をどのように実現できるか、あるべき姿を見いだせるようにする。

[履修の条件]
なし

[講義概要]
こどもたちの抱える問題は、その家族や学校教育と切り離せない。家庭での DV、学校のいじめ問題は、社会の縮図ととらえ、日本の教育の歴史や特徴を近代教育史とくに「教育勅語」「教育基本法」そして「子どもの権利条約」をたどる。新聞や DVD を活用し、現代の問題の中にあって、こどもたちが生かされる教育を考える。

■授業計画
第1回　オリエンテーション・授業の概要
第2回　日本の近代教育史1
第3回　日本の近代教育史2「教育勅語」
第4回　教育基本法「改正」前と後
第5回　優生思想とは
第6回　学校における思想・信条の自由
第7回　教科書問題
第8回　いじめと差別
第9回　「子どもの権利条約」1
第10回　「子どもの権利条約」2
第11回　「子どもの権利条約」とわたし(発表)
第12回　「子どもの権利条約」とわたし(発表のつづき)
第13回　教育の力と役割
第14回　まとめ
第15回　レポート提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価(備考)]
毎時間の講義のリアクションペーパーと授業への積極性を評価対象にします。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各授業で配布される資料を各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)をすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義で行う。
課題レポートについては、講義内で説明する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。さらに「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を授業での発表、討論で身につけることができる。

[テキスト]
「日本教育小史」(山住正己著)、「子どもの権利条約」(岩波ジュニア新書)中野光・小笠毅編著

[参考文献]
適宜、資料と参考文献を配布する

子どもと家族の国際問題と支援

科目ナンバー	ICF 2302-L
2単位：後期1コマ	3年
原島　博	

[到達目標]
子どもと家族を取り巻く国際関係の構造や地域特性を理解することができる。また、国内社会および国際社会の変化によって生じる子ども家族への影響について考察し、問題解決方法について批判的意見を持つことができるようになる。

[履修の条件]
グループ討議への参加や提示された課題を行うことを条件とする。

[講義概要]
今日、世界経済や国際関係が要因となり、子どもや家庭の脆弱性が高まっている。子どもや家族の安全を守る地域社会の機能が低下している。子どもの人身売買や紛争により子どもが家族から引き離され、子どもたちが戦争に徴用される場合もある。また二つの国家間にまたがる国際結婚の子どもの認知や夫婦間の法的課題なども広がりを見せている。複雑化する国際的な環境の中で、子どもと家族に生じている問題を取り上げてその原因および生じている問題を子どもの権利の立場から考察し、問題解決について検討してみたい。

■授業計画

第1回　授業のオリエンテーション
　　子どもと家族の国際問題と支援
第2回　社会変化と家族の変容、そして子どもへの影響
第3回　人身売買：
　　性的搾取と強制労働
第4回　児童虐待とストリートチルドレン
第5回　エイズ孤児と社会的養護
第6回　少年兵と紛争予防
第7回　難民の子どもと家族
第8回　子どもの権利条約からテーマを選び教材を作成する①
第9回　子どもの権利条約からテーマを選び教材を作成する②
第10回　子どもの権利条約からテーマを選び教材を作成する③
第11回　子どもの権利条約からテーマを選び教材を作成する④
第12回　子どもの権利条約からテーマを選び教材を作成する⑤
第13回　子どもの権利条約からテーマを選び教材を作成する⑥
第14回　発表する。
第15回　ー

［ 成績評価 ］

試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（50％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］

テーマに関連する参考文献を読み、テーマの理解を深めてください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］

子どもの権利に関してストーリーを作成する。
課題レポートを提出する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］

子どもと家族についてテーマとして、子どもの権利の視点から、そこに生じる問題の発見、文分析、解決につして事例検討を行う。子どもと家族の国際的な問題を理解する上で、それぞれの国や地域の人々を取り巻く自然環境、文化、宗教などは重要な側面としてとらえる必要がある。支援者の立場として、異なる環境における個人の痛みや普遍的な人権の立場に立ち、国際社会で生じている課題に対していかに共生社会の形成が可能かについて学ぶことができる。

［ テキスト ］

授業毎に資料を配布すると同時に、個別に参考文献を紹介します。

［ 参考文献 ］

初瀬龍平他編著「国際関係のなかの子ども」お茶の水書房、2009年

教育・学校心理学

科目ナンバー	ICF 2206-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
石橋　美香子	

［ 到達目標 ］

教育現場で生じる諸問題とその背景について臨床，教育，発達心理学的知見から理解を深める。主に，教育相談員，スクールカウンセラーの立場から，教育現場における子どもの心理社会的課題および必要な支援法についての理解と活用ができるようになることをこの授業の目標とする。

［ 履修の条件 ］

資料の復習をし，内容についての理解を深めること。本科目を履修するには「教育心理学」が履修済みであることが望ましい。

［ 講義概要 ］

この授業では，講義およびグループディスカッションを通して，教育相談の基礎的な知識についての理解を深めるとともに，教育現場における子どもの理解と関わり，支援の方法について学ぶ。基本的に講義形式の授業ではあるが，講義内容を基にグループディスカッションも行う。また，内容は基本的には講義計画に沿って進むが，適宜変更されることもある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション、講義の進め方、授業に使用する参考文献の紹介
　　イントロダクション−教育相談とは
第2回　教育相談の基礎　不適応の子どもの理解とかかわり
第3回　学校不適応の種類と支援−心の不健康について
第4回　学校不適応の種類と支援−発達障害について
第5回　学校不適応の種類と支援−発達障害について
第6回　学校不適応の種類と支援−不登校，いじめ，暴力行為について
第7回　学校不適応の種類と支援−不登校，いじめ，暴力行為について
第8回　小テスト
第9回　教育相談の方法−心理教育的なアセスメントについて
第10回　教育相談の方法−カウンセリングの基本的な理論と方法
第11回　教育相談の方法−学校で有効なカウンセリングの方法
第12回　予防・開発的な援助・学校内外の連携
第13回　テスト
第14回　テストフィードバック
第15回　なし

［ 成績評価 ］

試験（40％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（0％）

［ 成績評価（備考） ］

なし

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習

等)を必要とする。講義前に前回の資料の見直し，講義後は資料の復習をすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義時に行う。テストのフィードバックは，最終回に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
この科目はディプロマポリシーに定める「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。
心理および福祉の高度な専門職に必要とされる知識及び技術を学び，総合的な人間理解から，対人援助についての知識を身に着けることを目的とする。

[テキスト]
特に指定はしない。

[参考文献]
黒田祐二(編著)2014, 実践につながる教育相談, 北樹出版.
その他，適宜授業中に紹介する。

[備考]
授業後に講義の内容を見直し，復習すること。疑問点などはその都度質問すること。取り上げられた事例やディスカッションで共有された情報の取り扱いには十分な配慮をすること。

小児と高齢者の栄養

科目ナンバー	ICF 2208-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
江草　愛	

[到達目標]
1.健康な体と心を育むために必要不可欠な「栄養」の基礎について理解できるようになる。
2. ライフステージの中でも特にケアが必要な小児期と老齢期の栄養管理に関する知識の習得を通して、自己の食生活にも応用できる能力を身につける。

[履修の条件]
高校で生物基礎を履修した者は、「細胞とエネルギー」、「遺伝情報とタンパク質合成」、「体内環境の維持のしくみ」の単元について復習をしておくことが望ましい。

[講義概要]
栄養と栄養素の基本について学んだ上で、小児(胎児期〜学童期)、妊婦、高齢者の各ステージで必要となる栄養サポートについて掘り下げて解説を行う。基本的にはパワーポイントを用いて講義を進めるが、こちらから課題を提示し、その内容について受講者が発表する場合もある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション(講義概要の解説と参考書の紹介)、「食品のおいしさと栄養・機能」に関する講義
第2回　身体のしくみと栄養素の消化・吸収
第3回　代謝と代謝調節
第4回　糖質・脂質・タンパク質の栄養
第5回　ビタミン・ミネラル・非栄養素の働き
第6回　遺伝子発現と栄養−時間栄養学−
第7回　栄養所要量と食育
第8回　胎児期(妊婦)の食と栄養
第9回　乳児期の食と栄養
第10回　幼児期の食と栄養
第11回　学童期の食と栄養
第12回　高齢者の食と栄養−身体機能の変化−
第13回　高齢者の食と栄養−低栄養と認知症−
第14回　「小児と高齢者の栄養」の総括
第15回　試験

[成績評価]
試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(15%)、課題提出(15%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
課題に対し、調べて発表した内容を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回あたり予習プリントの学習を含む事前学習が100分間、小テスト対策も含めた事後学習が100分間必要であり、計200分(約3時間半)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テストの解答・解説は実施した授業回で行う。プレゼンテーションについては、その場で適宜、講評を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本科目の履修を通して、小児から高齢者までの全人的なヒューマン・ケアに必要な栄養に関する専門知識を習得し、自身や周りの方の栄養管理についても実践出来るような総合的な能力を身につける。

[テキスト]
講義に必要な資料は適宜配布する。

[参考文献]
1. 五明紀春、渡邉早苗、山田哲雄編「スタンダード人間栄養学 基礎栄養学」朝倉書店　2700円
2. 堤ちはる、土井正子　編著「子どもの食と栄養」萌文書林 2400円
3. 下田妙子　編集「高齢者の栄養管理ガイドブック」文光堂 2600円

[備考]
特になし

子ども支援キャリアデザイン

科目ナンバー	ICF2101-S
2単位：前期1コマ	1〜3年
加藤　純	

[到達目標]
1）子どもや家族を支援する施設や機関の機能や、働く職員の役割などについて具体的なイメージを持ち、各自が将来の進路を現実的に描けるようになることを目指します。
2）将来の進路希望に向けて、本学の科目をどのように組み合わせて履修するか計画を立てられることを目指します。

[履修の条件]
子ども支援コースに関心がある学生に特にお勧めしますが、コースを問わず履修できます。

[講義概要]
子どもや家族の支援に関連する仕事や資格について解説します。
先輩の学生や卒業生などをゲストスピーカーとして招き、ボランティアや実習、仕事の体験を踏まえて、子どもと関わる支援のやりがいや難しさなどについて話して頂きます。学生や卒業生の来校可能日により、下記の日程を変更することがあります。
子どもや家族の支援についてイメージを作るために映像資料をみます。
まとめとして、具体的な仕事の内容を理解するために各自が調べた成果を発表してもらいます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　子ども支援に関連する本学の授業科目
第2回　子どもと家族を支援する社会福祉と臨床心理の仕事
　　子どもと家族に関する社会福祉と臨床心理の資格
第3回　『明日ママがいない』のウソ・ホント。児童養護施設での入所から退所までのファミリーソーシャルワーク。
第4回　保育所での保育士の仕事と資格
第5回　発達支援センターにける障害児への支援
第6回　子ども家庭支援センターにおける子育て支援
第7回　児童福祉施設における心理療法担当職員の仕事と資格
第8回　学童保育や児童館での仕事と資格
第9回　野外活動やレクリエーションによる子ども支援
第10回　海外の子ども達を支援する仕事と本学での教育プログラム
第11回　スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー
第12回　保育カウンセリングと保育ソーシャルワーク
第13回　子ども支援とソーシャルワーク実習・心理実習
第14回　子どもと家族を支援する仕事について調べたこと（発表）
　　将来の進路設計と大学での学習計画
第15回　レポート提出

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
レポート（50%）自分が目指したい仕事について調べ、どのような役割を持つ専門職か、その役割を果たすためにどのような知識や技術、価値観が必要かを説明してください。また、これから大学でどのように学んでいきたいかを記してください。
その他（50%）毎回の授業への参加および発表、発展的な学習の取り組み状況。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
児童福祉や児童臨床心理の仕事について具体的なイメージが思い浮かべられるように本を読んだり、テレビやDVDを観たりしてください。また、ボランティアなど体験を通して学ぶ機会を作ることをお勧めします。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの返却を希望する場合はレポートに明記してください）。レポートをメールで提出された場合、メールへの返信によりコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目を履修することにより、各自が目指す専門職のイメージを描き、大学において学習すべき専門性とは何かを明確にすることを目指します。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
汐見稔幸（2011）『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書683号

[備考]
実務経験のある教員による科目。児童養護施設、教育委員会、児童相談所などでの職務経験を活かして、子どもを支援する様々な職員の役割と専門性について指導します。

野外活動とキャンピング

科目ナンバー	ICF2102-P
2単位：前期1コマ	1〜4年
伊藤　光太郎	

[科目補足情報]
公益社団法人日本キャンプ協会公認「キャンプインストラクター資格」取得可能

[到達目標]
①　野外活動またキャンプの楽しさを体感する。
②　①を通して、指導者・支援者として子どもを対象とした野外活動またキャンプにたずさわる場合（引率などをする場合）の要点を学ぶ。
③　基本的かつ実践的で、安全を重視した技術を得る。

④　本授業を通して、キャンプインストラクター資格を取得する（希望者のみ）。

[履修の条件]

・キャンパスキャンピング（キャンプ実習）に出席すること。（キャンパス内にテントを張り、野外料理など含めた実習）

☆キャンパスキャンピング実施予定日[６月５日（金）午後から６月６日（土）の１泊２日]

※天候ほかにより、変更・延期・中止もあり得る。

・アウトドアフードとキャンパスキャンピングで必要な食材費2500円と教材用具費2000円と合わせて4500円分の券を学生支援センター前の券売機で購入して履修登録の際に貼付すること。（荒天などで本実習が延期また中止になった際も授業内で実習があるため返金できません。）

・キャンプインストラクター資格希望者は，本科目の履修後の試験期間に資格試験を実施する。テキストの購入（2200円）資格試験の受験料や資格登録費15000円のなど資格にまつわる費用が必要。※試験に合格しなかった場合は15000円は返金する。※テキストと併せて17200円を要する。資格取得は希望者のみであり、授業での説明を要することから、授業開始後（履修登録後）の検討また手続きで良い。

[講義概要]

野外活動は愉快でなければならない。笑顔と小さなチャレンジでいっぱいの体験型講義。災害時にも支えになる具体的な技術を大いに含む。

キャンパス内でのアウトドア実技・演習中心の講義とする。野外活動（自然体験活動、組織や団体でのキャンプなど）の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全（野外におけるリスクマネジメント）・支援者の役割を学ぶ。

キャンパス内にカマドを作り、それを利用して野外料理をし、雨天でも授業ができるようにシートで屋根を張るなど、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に会得する。

晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施するため、授業内容の差し替え・変更が大いにあり得る。また、キャンパス内の資源（剪定木やリサイクル可能資源）を活用するため、資源の質量により活用方法を検討して内容の変更もある。

■授業計画

第１回　オリエンテーション、アイスブレイク、授業フィールド紹介、ねらい・持ち物などの説明　自己紹介など

第２回　火を学ぶ①　かまどの作り方、薪作り・薪割りの方法、火起こしの基本

第３回　火を学ぶ②　様々な火起こし、焚き火でスイーツ作り

第４回　アウトドアスキル①　ロープワーク、シートワーク（野外でのシートの使い方）

第５回　アウトドアスキル②　基本的な道具でネイチャークラフト

第６回　災害時教育プログラム　災害時クッキング、サバイバル技術の演習
・キャンプの説明・組織作り

第７回　キャンパスキャンピング（実習）準備　野外料理のメニュー作成、アクティビティの制作　実習組織やグループの構築

第８回　キャンパスキャンピング　キャンパス内で１泊２日のキャンプを実施。授業４回分をこれに充てる。
キャンパスにテントを設営し、キャンプを実施。テント設営・タープ設営・野外料理・キャンプファイアー・学生トークナイト・朝食コンテスト・アクティブアクティビティー、などキャンププログラムを実施。
組織キャンプの実際。※内容は、授業の進度や天候ほかで変更の可能性があります。

第９回　キャンパスキャンピング　※８～11回をキャンパスキャンピングに充てる。

第10回　キャンパスキャンピング　※８～11回をキャンパスキャンピングに充てる。

第11回　キャンパスキャンピング　※８～11回をキャンパスキャンピングに充てる。

第12回　キャンパスキャンピングフィードバック　グループ発表　実習での学び、気づきを共有する。

第13回　こどもとキャンプ　キャンプ概論、キャンプ組織論　などアウトドア活動の指導についての座学　14回実施項目の抽出

第14回　学生リクエスト　もっと経験したい・ぜひ経験してみたいを実施　ほか、試験説明　試験準備

第15回　試験（レポート試験を予定している）（授業進度により、14回を試験とし、15回を評価にする可能性もある。）

[成績評価]

試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（65％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（35％）

[成績評価（備考）]

授業またレポートで各自課題を認識し、課題への取り組みを確認し、評価に加える。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

資料の理解、アウトドアスキルの確認と復習、用具管理や授業実施前の備品準備、授業のための装備準備、などを内容とし、各授業回に200分の準備学習を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

レポート試験への評価またコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]

主に、3. 総合的・実践的な学習能力　に該当する。野外活動またキャンプは、生きる力を育む機会と捉えられ、この科目を履修することで、・自然・命・ヒューマンスキル・安全また安心・他者理解、協力、共有　などを実践的かつ総合的に学び、自身が野外活動を指導する場面でより確かなスキルで自信をもって行動できるようになる。

[参考文献]

公益社団法人日本キャンプ協会発行

「キャンプ指導者入門」　価格：二千円（税込み送料別）

※キャンプインストラクター資格希望者は必須。資格試験受験前にNPO法人東京都キャンプ協会から各自購入する。

[備考]
・軍手、雨具、帽子、など安全に活動するための用具や野外活動に適した服装が必要。
（基本的に、長袖・長ズボン・しっかりした靴で受講する。）
・特に雨具（レインウエア）は必須。初回授業でどのような雨具が良いかレクチャーする。
・屋外活動が多いため、虫除け、UV 対策、多目の水分など対策をすること。
・天候により、教室での授業になる場合や、授業内容の入れ替えなどがある。
・キャンパス裏庭にあたる屋外スペースをキャンプ広場として利用し、キャンパスの剪定木などを薪に利用するなどキャンパス環境の影響が大きく、それによる内容変更もありうる。

保育士特講Ⅰ

科目ナンバー	ICF2103-L
2単位：前期1コマ	1〜4年
原島　博	

[到達目標]
①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学習スキルを身につける。
②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

[履修の条件]
・保育士「国家資格」取得を目指していること。
・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅱと合わせて通年で受講することが望ましい。
・第1回目の授業後、第2回目の授業前にテキストの販売を行うので、第2回目の授業前までに各自テキストを購入しておくこと。テキストを購入せずに第2回目以降の授業を受講することは認めない。

[講義概要]
保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　保育士試験に臨むにあたっての心構えと保育士資格を取得することの社会的メリット
第2回　保育所保育指針　保育所保育指針の全体像と必要性についての学習
第3回　保育原理　科目（保育の基本と子どもの発達及び保育の計画と評価）の理解
第4回　保育原理　科目（保護者支援と保育の現状と課題）の理解
第5回　保育の心理学　科目（子どもの発達と各発達段階の特徴）の理解
第6回　保育の心理学　科目（子どもの生活と遊び、保育の発達援助と保育、保育実践）の理解
第7回　子どもの保健　科目（子どもの発育・発達と疾病への対応）の理解
第8回　子どもの保健　科目（子どもの精神保健と事故の処置及び母子保健）の理解
第9回　子どもの食と栄養　科目（栄養の基礎知識と献立や調理の基本）の理解
第10回　子どもの食と栄養　科目（小児期の食生活と栄養）の理解
第11回　子どもの食と栄養　科目（保育現場の食育と配慮が必要な子どもの栄養）の理解
第12回　問題演習【発達編】　学習した4科目について復習と問題の解き方の演習
第13回　保育内容（保育実習理論）科目（乳幼児期の言語発達と理論）の理解
第14回　絵画理論（保育実習理論）科目（乳幼児期の絵画発達と理論）の理解
第15回　試験　受講科目の基礎的な理解度を確認する

[成績評価]
試験（100％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を学ぶことができる。

[テキスト]
受講するには、下記の備考欄に記載する①〈テキスト通年セット〉または、②〈テキスト前期セット〉の購入が必須。尚、購入後の返金は行わない。

[参考文献]
特になし。

[備考]
①キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト通年（保育士特講Ⅰ・Ⅱ）セット〉20,000円（税込）
テキスト10冊（保育原理、教育原理、社会的養護、子ども家庭福祉、社会福祉、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論、楽典）、法令資料、問題集。

②キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト前期（保育士特講Ⅰ）セット〉11,000円（税込）
テキスト5冊（保育原理、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論）、法令資料。※問題集は任意購入。

保育士特講Ⅱ

科目ナンバー	ICF2104-L
2単位：後期1コマ	1〜4年
原島　博	

[到達目標]
①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学習スキルを身につける。
②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

[履修の条件]
・保育士「国家資格」取得を目指していること。
・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅰと合わせて通年で受講することが望ましい。
・前期に〈テキスト通年セット〉を購入していない学生は、第1回目の授業前に〈テキスト後期セット〉の販売を行うので、授業前までに各自購入しておくこと。テキストを持たずに授業を受講することは認めない。

[講義概要]
保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画
第1回　法令の読み方　科目（保育士試験関連の法令の基礎的な読み解き方）の理解
第2回　教育原理　科目（教育の意義と子ども観・教育思想）の理解
第3回　教育原理　科目（教育の実践と生涯学習、学校制度と教育制度）の理解
第4回　社会的養護　科目（社会的養護の基礎と歴史、児童の権利）の理解
第5回　社会的養護　科目（児童福祉施設と児童福祉法に基づく事業）の理解
第6回　社会的養護　科目（家庭的養護とソーシャルワーク）の理解
第7回　子ども家庭福祉　科目（児童家庭福祉の現状と歴史）の理解
第8回　子ども家庭福祉　科目（児童家庭福祉の法体系と費用、少子化対策）の理解
第9回　子ども家庭福祉　科目（社会的養護サービスと障害児保育）の理解
第10回　社会福祉　科目（社会福祉の概要と法体系）の理解
第11回　社会福祉　科目（社会保障制度と地域福祉）の理解
第12回　問題演習【福祉系】学習した4科目（実習理論以外）について復習と問題の解き方の演習
第13回　音楽理論　科目（試験範囲での音楽理論の概要）の理解
第14回　音楽理論　科目（音程とコードネーム）の理解
第15回　試験　受講科目の基礎的な理解度を確認する。

[成績評価]
試験（100%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を学ぶことができる。

[テキスト]
受講するには、前期に〈テキスト通年（保育士特講Ⅰ・Ⅱ）セット〉を購入済みか、下記の備考欄に記載する〈テキスト後期（保育士特講Ⅱ）セット〉の購入が必須。尚、購入後の返金は行わない。

[参考文献]
特になし。

[備考]
キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト後期（保育士特講Ⅱ）セット〉11,000円（税込）
テキスト5冊（楽典、教育原理、社会的養護、子ども家庭福祉、社会福祉）、法令資料。※問題集は任意購入。

心理学的支援法

科目ナンバー	ICP2102-L
2単位：前期1コマ	1年
高城　絵里子	

[到達目標]
①臨床心理学の基本的な内容や考え方を身につける
②人間関係や社会における臨床心理学的視点の重要性について考えを深める
③受身的に講義を聞くだけにとどまらない、主体的な学びのスタイルを身につける
④臨床心理学に対する関心を広げ、自身の今後の学習や研究の方向性を考える基盤として本講義で身につけた知識を活用する

[履修の条件]
①臨床心理コース1年次の必修科目である。臨床心理コースの1年生は必ず受講すること。
②公認心理師資格取得に必要な科目である。公認心理師資格を目指す学生は受講すること。
③ディスカッションやグループ課題などコミュニケーションと体験を重視した科目であるため、受講生の積極的な参加を求める。

[講義概要]

臨床心理学の基本的内容を概観するとともに、公認心理師・臨床心理士の職務とその支援について理解を深める。臨床心理学の知見や視点は公認心理師・臨床心理士として活用する以外にも非常に有用である。よって、心の健康に関する知識を身につけ、それぞれが卒業後を含めた人生の中で臨床心理学の考え方をどのように役立てていけるかについても考えていきたい。
基本的に講義形式の授業になるが、毎回の授業の中でグループディスカッションや質疑応答、毎回のリアクションペーパーへの記入とフィードバックを実施することによって、学生の理解を丁寧に進めていく。また、一部の題材についてはグループ課題とし、グループごとに研究テーマの設定、文献調査および発表を経験することによって主体的な学びのスタイルを習得する。
本講では以下の内容を扱う。
1.代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
2.訪問による支援や地域支援の意義
3.良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
4.プライバシーへの配慮
5.心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
6.心の健康教育

■授業計画

第1回　本講の目的、内容、評価に関するオリエンテーション
　　コミュニケーション実習「良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法」
第2回　臨床心理学とは何か
　　その定義と歴史
第3回　臨床心理士と公認心理師
　　①求められる役割と活動の実際
第4回　臨床心理士と公認心理師
　　②養成のための教育と訓練
　　本学臨床心理学専攻院生によるスピーチとレポート作成
第5回　臨床心理士と公認心理師
　　③資格の倫理的問題とプライバシーへの配慮
第6回　心理学的支援の対象（グループ課題）
　　①心の問題の理解～乳児期から児童期まで
第7回　心理学的支援の対象（グループ課題）
　　①心の問題の理解～青年期から老年期まで
第8回　心理学的支援の対象（グループ課題）
　　②予防と心の健康増進、心の健康教育
第9回　心理学的支援の方法
　　心理査定①‥心理査定とはなにか、心理査定面接の理解
第10回　心理学的支援の方法
　　心理査定②‥心理検査の基本とその考え方
第11回　心理学的支援の方法
　　臨床心理面接①‥その基本と考え方
第12回　心理学的支援の方法
　　臨床心理面接②‥代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
第13回　心理学的支援の方法
　　臨床心理学的地域援助①‥訪問による支援や地域支援の意義
第14回　心理学的支援の方法
　　臨床心理学的地域援助②‥心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育
第15回　まとめ‥心の健康を守るためにできること
　　試験

[成績評価]

試験（60%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]

課題提出は毎回のリアクションペーパー、および授業中に実施するワーク、小レポートの提出を指す。
その他の評価とは、授業およびディスカッション、グループ課題への参加に関する評価を指す。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
予習では、各単元で学ぶ理論や概念について文献や辞典などを用いた学習、および臨床心理士・公認心理師資格について各自あらかじめ調べておくことを勧める。
復習として、その日の単元で扱った内容の復習と課題に対する考察、授業時間外でのグループ課題への取り組みを求める。

[試験・レポート等のフィードバック]

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。
グループ発表については、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]

3. 総合的・実践的な学習能力、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。臨床心理学的支援の基本的な理論と方法を学ぶこと、またグループによる文献調査と発表を通して、現在の心の問題に関する課題の発見と分析、解決への提言へとつなげる。授業内でのコミュニケーション実習、ディスカッション、グループワークを通して他者理解と自己表現のコミュニケーションを実践する。

[テキスト]

特に定めない。必要に応じて授業内でテキストを配布する。

[参考文献]

馬場禮子「臨床心理士への道」アエラブックス入門読本　朝日出版社
日本臨床心理士資格認定協会監修「新・臨床心理士になるために（令和元年度版）」誠信書房

[備考]

「実務経験のある教員による科目」臨床心理士/公認心理師としての経験を活かして心理職の実際について講義・指導を行う。
受講生と教員との対話を重視するため、毎回授業終了後にリアクションペーパーの提出を求める。

公認心理師の職責

科目ナンバー	ICP 2206-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
石川　与志也	

[到達目標]
①公認心理師の職責について理解する
②臨床心理専門職の倫理について理解し、専門家として自らの行為の判断、選択、実行の決断をするための基礎を身につける

[履修の条件]
与えられることを待つのでなく、自らの探究心と自己責任性を持って公認心理師の職責を理解しようとする熱意のある学生の履修を期待する。

[講義概要]
公認心理師の職責の具体的内容について学ぶ。特に、公認心理師の法律と倫理についての理解を深め、専門職としての考え方の基礎を身につけることができるようディスカッションを重視したい。

本講義は、以下の内容を含む
1公認心理師の役割
2公認心理師の法的義務及び倫理
3心理に関する支援を要する者等の安全の確保
4情報の適切な取扱い
5保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務
6自己課題発見・解決能力
7生涯学習への準備
8多職種連携及び地域連携

■授業計画

第1回　公認心理師の職責とは何か
第2回　公認心理師の役割
第3回　汝自身を知れ：倫理的な行為の主体
第4回　公認心理師の法的義務
第5回　公認心理師の倫理（1）：安全の確保
第6回　公認心理師の倫理（2）：情報の適切な取り扱い
第7回　公認心理師の倫理（3）：専門家としての責任
第8回　職業倫理に関わる実際問題（1）
第9回　職業倫理に関わる実際問題（2）
第10回　公認心理師の具体的業務（1）保健医療分野
第11回　公認心理師の具体的業務（2）教育および福祉分野
第12回　公認心理師の具体的業務（3）司法・犯罪および産業・労働分野
第13回　専門家としての発達：自己課題の発見解決能力および生涯学習への準備
第14回　多職種連携と地域連携
第15回　レポート

[成績評価]
試験（30%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
ディスカッションへの参加を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
クラスで提示された課題に取り組み、クラスの内容の復習をすること。教科書および参考文献等の関連文献を自分で読み進め、公認心理師の職責の理解を深めること

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・講義内小テストの解答・解説は、原則としてテストが実施された翌週に行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
公認心理師の職責を学ぶ本科目は、「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」を基盤とし、「3.総合的・実践的な学習能力」と「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、臨床心理学の専門家になるための基盤として、上記4つのディプロマポリシーと関連する態度、知識、技術の基礎を身につけることができる。

[テキスト]
野島一彦編（2018）公認心理師の職責. 遠見書房
その他、資料を配布する

[参考文献]
Anderson, S.K. & Handelsman, M.M.（2010）. Ethics for Psychotherapists and Counselors：A proactive approach. Wiley-Blackwell.
金沢吉展（2006）臨床心理学の倫理を学ぶ. 東京大学出版会.
小谷英文（2006）心理教育的介入の倫理. 小谷英文編著　現代のエスプリ別冊　心の安全空間―価値・地域・学校・社会. 至文堂. pp.268-277.
その他、随時紹介する。

[備考]
「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、公認心理師の職責に関わる具体的内容に関する教育を行う。

心理療法演習

科目ナンバー	ICP 2207-S
2単位：後期1コマ	2〜4年
石川　与志也	

[到達目標]
集団力学の基礎理解をもとに、集団精神療法の理論と技術の基礎を学ぶことを目標とする。

［履修の条件］
「臨床心理学概説」「心理療法概説」「カウンセリングの理論」「人格心理学」等を受講していることが望ましい。
演習クラスのため、原則として毎回出席すること。欠席が３回を超えた場合は不可とする。やむを得ない事情がある場合は、担当教員に相談すること。また、遅刻２回で欠席１回換算とする。遅刻が授業時間の半分を超えた場合は欠席とする。

［講義概要］
社会システムや家族システムが大きく変化し、個人の孤立が大きな課題となっている現代社会において、個人の心の安全空間を確保し、心を育み鍛える機会を提供する集団精神療法の可能性を体験的に学ぶ。講義に加え、グループ体験やシナリオ・ロールプレイなどのワークショップを行い、体験的な理解を重視する。
なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画

第１回　オリエンテーション：授業の進め方、集団精神療法とは何か
第２回　集団精神療法の歴史
第３回　集団力学：集団サイズ
第４回　集団力学：リーダーシップと集団規範
第５回　集団力学：基底的想定グループとワークグループ（１）
第６回　集団力学：基底的想定グループとワークグループ（２）
第７回　集団力学：集団発達
第８回　集団力学と集団精神療法
第９回　個人心理療法と集団精神療法
第10回　シナリオ・ロールプレイ
第11回　演習（１）
第12回　演習（２）
第13回　演習（３）
第14回　総括：現代社会における集団精神療法の意義
第15回　レポート

［成績評価］
試験（0％）、レポート（60％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

［成績評価（備考）］
ディスカッションやワークショップへの取り組みを評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
テキストおよび参考文献等の関連文献を自分で読み進めること。また、体験型の授業のときには自分なりのまとめのノートを作成すること。

［試験・レポート等のフィードバック］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

［ディプロマポリシーとの関連性］
主として、「3.総合的・実践的な学習能力」および「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、集団力学および集団精神療法の基礎に関する知識および体験を通じた理解、さらに自己理解と他者理解とそれに関わるコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。

［テキスト］
特に指定しない.

［参考文献］
小谷英文（2014）集団精神療法の進歩. 金剛出版.
小谷英文編（2009）現代のエスプリ『グループセラピィの現在』. 至文堂.
モートン・キッセン編（佐治守夫・都留春夫・小谷英文訳）（1976/1996）集団精神療法の理論：集団力学と精神分析学の統合. 誠信書房.
アメリカ集団精神療法学会〔日本集団精神療法学会監訳〕（2007/2014）AGPA 集団精神療法実践ガイドライン　創元社.
Rutan, J.S., Stone, W.N. and Shay, J.J.(2007). Psychodynamic Group Psychotherapy. Fourth Edition. New York：Guilford Press.

［備考］
「実務経験のある教員による科目」集団精神療法の専門家としての実務経験を生かし、実際の臨床現場での現象を踏まえて集団精神療法の基礎を教える

青年心理学

科目ナンバー	ICP2103-L
2単位：前期1コマ	1〜4年
石川　与志也	

［到達目標］
ライフサイクルにおける青年期のもつ意味を検討し、現代社会における青年期の発達課題と発達危機の理解を深めることを目標とする。青年期発達の基礎理論を理解し、現代社会における青年期の具体的な現象を分析・理解する能力を身につけることを目指す。

［履修の条件］
与えられることを待つのでなく、自らの好奇心と探究心を持って心の世界の不思議を理解しようとする熱意のある学生の履修を期待する。「心理学」等の基礎的な科目や「発達心理学」を受講した上で履修するのが望ましい。

［講義概要］
これまでの青年期発達に関する理論を学ぶとともに、従来とは異なる外観を見せる現代の青年期をいかに理解することが出来るのか、具体的な現象の分析を通して探究する。
講義と討論への積極的な参加を重視する。
なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：講義の進め方、青年期とは何か
第2回　青年期の現代的問題
第3回　発達危機：青年期危機説と青年期平穏説
第4回　発達位相：潜伏期
第5回　発達位相：前思春期
第6回　発達位相：青年期前期
第7回　発達位相：青年期中期
第8回　発達位相：青年期後期
第9回　発達位相：青年期の終わり
第10回　青年期発達のブレイクダウン（1）：うつ
第11回　青年期発達のブレイクダウン（2）：引きこもり
第12回　青年期の心理療法（1）
第13回　青年期の心理療法（2）
第14回　『青年ルター』：マルチン・ルターの青年期
第15回　レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［成績評価（備考）］
ディスカッションへの取り組みを評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。
自分が関心を持った青年期の問題を、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

［試験・レポート等のフィードバック］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・講義内小テストの解答・解説は、原則としてテストが実施された翌週に行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

［ディプロマポリシーとの関連性］
主に、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、青年期の理解に関する専門的知識と態度の基礎および、現代の日本社会における青年期を分析し理解する能力が身に付く。

［テキスト］
特に指定せず

［参考文献］
R・アンダーソン／A・ダーティントン編（鈴木龍監訳）（2000）思春期を生きぬく−思春期危機の臨床実践−. 岩崎学術出版社.
Blos, P.（1962）. On Adolescence：Psychoanalytic Interpretation. New York：Free Press.
Blos, P.（1979）. The Adolescent Passage：Developmental Issues. New York：International University Press.
Briggs, S.（2008）. Working with Adolescents and Young Adults：A Contemporary Psychodynamic Approach. Second Edition. New York：Palgrave Macmillan.
E・H・エリクソン（小此木啓吾訳）（1973）自我同一性. 誠信書房.
Levy-Warren, M.H.（1996）. The Adolescent Journey：Development, Identity Formation, and Psychotherapy. Northvale：Jason Aronson Inc.
Perret-Catipovic, M. &Ladame, F.（1998）. Adolescence and Psychoanalysis：The Story and the History. London：Karnac Books.
H・S・サリヴァン（中井久夫他訳）（1990）精神医学は対人関係論である. みすず書房

その他、適宜授業内で紹介する。

［備考］
「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、青年期発達と青年期臨床に関わる具体的内容に関する教育を行う。

心理学統計法

科目ナンバー	ICP2104-L
2単位：後期1コマ	1年
谷井　淳一	

［到達目標］
①心理学の論文を読んだり書いたりする際に必要な心理統計の初歩的知識を理解する。
②統計的検定の考え方を理解して、統計的に有意かどうかを判断できる。
③統計的検定についての基本的な例題に関して、適切な計算によって、有意な違いがあるかどうかを判断する力を養う。

［履修の条件］
臨床心理コースのコース必修科目であり、1年生の後期に必ず履修するように。子ども支援コースの学生の中で、心理学的研究手法を用いて卒論を書きたいと思っている場合も履修してほしい。2年生の心理学研究法Ⅰや心理学実験はこの科目の履修を前提にしている。また、授業には簡単な電卓を持ってきてほしい。公認心理師の指定科目でもある。

［講義概要］
心理学は実証科学として発展してきた。つまり、何らかの方法を用いてデータを得、人間の行動や心をめぐるいろいろな現象やメカニズムを明らかにしてきた。データを得る方法には質問紙法、観察法、実験法、面接法等がある。
そして、これらの方法で得られたデータを適切に分析するためには、心理学統計法の理解が必要となる。初年度の科目として、記述統計並びに推測統計の初歩的な内容をゆっくり丁寧に講義していく。
なお、本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

■授業計画

第1回　なぜ数値化して考える必要があるか
第2回　研究の企画・立案、尺度の水準、シグマの計算方法
第3回　代表値と散布度、平均値と分散、標準偏差
第4回　信頼性と妥当性
第5回　正規分布と標準得点
第6回　母集団とサンプリング
第7回　記述統計と推測統計
第8回　統計的検定の考え方、帰無仮説、有意水準
第9回　95%信頼区間、99%信頼区間
第10回　zを用いた検定
第11回　母平均と1つの平均値の差に関するt検定
第12回　2つの群の平均値の差に関するt検定
　　対応のあるt検定と対応のないt検定
第13回　相関分析
第14回　ノンパラメトリック検定
　　χ^2乗検定
第15回　まとめ・復習

［成績評価］
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
復習を中心にして、授業で解説した例題は、4時間程度の学習をし、繰り返し練習して完全にマスターしてほしい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
講義で実施した小テストについては、翌週に、解説を行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目の理解を前提にして、2年生以降、データ解析や心理実験での統計処理が可能になる。

［テキスト］
「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著　北大路書房。

［参考文献］
授業で指示をする。

質的研究法

科目ナンバー	ICP2208-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
荘島　幸子	

［科目補足情報］
この授業では、学生自らが問題意識を持って課題を発見し、探求し、それを調べその課題を深めていく。1つのテーマについて理論を得るグループ実習においては、ディスカッション、協働作業が必要です。

［到達目標］
①質的研究の意義と目的を理解する、②さまざまな質的研究法の特色を知る、③質的心理学の理論について説明できる、④質的データを収集できる、⑤質的研究の分析のプロセスを学ぶ、⑥質的研究の分析を行う自分自身について内省を深めること、⑦自分の研究をまとめ、レポートを作成できる、⑧グループで協働し、実習を行うことができる、⑨研究をまとめて発表できる、⑩日常生活のなかや現場実践での経験を研究に結び付ける意欲とスキルを養う

［履修の条件］
①日常生活のなかに問いや驚きを感じられること、②グループワーク、グループディスカッション、発表を行うため、ほかの受講生と互いに協力したり、自分の意見を述べたりすること、③各回の授業の間で内容的な関連が強い授業であるため、欠席しないこと。これらを十分に理解し行動に移せる学生である必要がある。

［講義概要］
この授業は研究法(つまり、方法)を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。具体的な質的研究法としては、観察法とインタビュー法を取り上げる。実際に質的データに触れ、あるいは質的データを生み出し、得られたデータの分析を行う。分析の技法はステップを分けて細かく解説し、データをまとめあげて文章化する作業を行う。また、テキストや質的研究法を用いた論文を読み、さまざまな質的研究法を概観する。なお、講義を行う際にはパワーポイントの提示や配布資料を用いる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　①受講者の研究的関心、本講義への期待を話し合う　②講義：質的研究とは
第2回　①質的研究に関する宿題(観察課題)の報告　②講義：質的研究の特徴、理論的背景について
第3回　①質的研究に関する宿題(観察課題)の報告　②講義：さまざまな観察法
第4回　①質的研究に関する課題(観察課題)の報告　②実習：園児同士の相互作用の観察(文脈をみつける)
第5回　①質的研究に関する課題(観察課題)の報告　②実習：園児同士の相互作用の観察(分析の視点を見出す)
第6回　①実習：園児同士の相互作用の観察(焦点的にみる)
第7回　①文献購読(発表)：観察法を用いた質的論文を読む　②ディスカッション
第8回　①講義：インタビュー法　②文献購読(発表)：インタビュー法を用いた質的論文を読み込む③インタビュー法の実習：グループに分かれてインタビューガイドを作成する
第9回　①質的研究に関する宿題(インタビューガイド)の報告　②講義：インタビューの仕方
第10回　①実習：インタビューを実践する　②講義：トランスクリプトの作成
第11回　①実習：インタビューデータの分析(KJ法)②講義：何を意味ある語りとして選択するか

第12回　①実習：インタビューデータの分析（KJ 法）②講義：グループ編成
第13回　①実習：インタビューデータの分析（KJ 法）②講義：A 型図解化と B 型文章化
第14回　①分析結果の発表と相互評価②グループレポートの講評
第15回　－

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（80％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
グループディスカッションでの積極的な発言や質問意欲を評価する

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。従って、分析資料や参考文献を読んでくること、課題をまとめることなどの課題を行った上で授業を受けることになる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
①リアクション・ペーパー、課題の報告に対して、その都度、コメントする。
②実習の際は、教室内を周り、学生の作業内容や質問に対して指導、コメント、評価する。
③分析のまとめ発表の際には、課題達成レベルや問題点についてレポート作成の参考になるようなコメントをする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
ヒューマン・ケアに必要な資質は、現場で出会う課題の本質をとらえ、問題点の発見と適切な分析を行って改善・解決への提言を行い、自らも実践と研究の回路を歩むことである。本講義では人間への深い関心と共感に基づき、実践・研究に重要な問題の把握や分析力、コミュニケーション能力を養う。

［ 参考文献 ］
川喜田二郎（1967）「発想法」（中公新書）
無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ（編）（2004）質的心理学−創造的に活用するコツ（ワードマップ）　新曜社

［ 備考 ］
観察法の授業ではビデオデータを扱うため、CD-ROM ドライブのある PC を使用する。

質問紙調査法

科目ナンバー	ICP2303-S
2単位：前期1コマ	3年
谷井　淳一	

［ 到達目標 ］
①質問紙調査の方法論を理解し調査のスキルを学ぶ。
②実際に調査票を作成し、調査実施、統計処理の一連の流れを学ぶ。
③統計処理としては、因子分析を使うので、因子分析の使用方法を副次的に学ぶことになる。

［ 履修の条件 ］
臨床心理コースで卒論に取り組むつもりの人は必ず履修してほしい。原則として3年前期で履修すること。「心理学研究法Ⅲ（データ解析）」「心理学実験」を履修済みまたは並行履修することが望ましい。特に調査や実験的手法を用いて卒業論文に取り組もうと考えている人は必ず履修すること。質問紙調査を学ぶ大切な科目であるので、できるだけ多くの学生が履修してほしい。
（編入生の履修時期）
３年への編入生は、できるだけ３年で履修すること。卒業論文のことを考えると、３年で履修しないと調査のイメージができず不利である。心理学研究法Ⅲ（データ解析）の履修後が望ましいが、3年への編入生は同時履修して頑張ってほしい。グループ作業が多いので、パソコン操作についてもある程度は何とかなる。しかし努力が必要である。

［ 講義概要 ］
心理学研究の方法には、観察法、実験法、面接法などがあるが、その中でも、質問紙調査法は中心となる研究法である。この授業では、グループで実際に調査票を作成し、調査実施する。得られたデータをパソコンを用いて入力しデータをチェックする方法を学ぶ。そののち、因子分析を用いて、項目内容を精選する。これら一連の流れを5-6 人のグループを作って体験的に実習する。

■授業計画
第1回　質問紙調査とは
第2回　質問紙調査を用いた論文を読む
第3回　因子分析表の意味の理解
第4回　尺度概念の検討
第5回　尺度概念の精緻化
第6回　概念に沿った項目の作成
第7回　調査票の作成準備
第8回　調査票の完成
第9回　調査実施
第10回　データ入力とデータチェック
第11回　SPSS を用いた因子分析の方法
第12回　因子分析による質問紙項目の精選
第13回　因子数の決定と因子の命名
第14回　下位尺度得点の算出と男女別の平均値の求め方
第15回　ー

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（30％）

［ 成績評価（備考） ］
調査の実施、データ入力,その後のグループ作業など。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各段階ごとに課題があるので、それを確実に、すすめていくことが必要となる。文献探しから始まり、調査の実施、データ分析など、本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復

習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
グループ学習なので、各段階で、グループごとの成果をチェックしながら学習をすすめる。質問があればそれに応える形でフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的実践的な学習能力」に該当する。これまで学んできた、仮説を実証する考え方を、実際に質問紙作成に取り組み、さらに理解を深める。

[テキスト]
プリントを配布する

[参考文献]
「社会心理学研究入門」末永俊郎編　東京大学出版会

[備考]
谷井は、国立オリンピック記念青少年総合センターで、主任研究官としての実務経験を有してして、その経験を生かして実践的な授業を行っている。

心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)

科目ナンバー	ICP2304-S
2単位：前期1コマ	3〜4年
松田　崇志	

[科目補足情報]
公認心理師の資格試験の受験資格を得るためには, 心理学研究法Ⅰ(データ解析)と心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)の両方を履修する必要があります。

[到達目標]
1)心理学研究における実証的な研究法である面接法・観察法・実験法それぞれの特徴を理解する。
2)面接法・観察法・実験法の計画, 実施, 分析, まとめまでの一連の手続きを理解し, データを用いた実証的な思考方法ができるようになる。
3)研究における倫理を理解する。

[履修の条件]
発展的な内容であるため、「心理学実験」,「心理学統計法」,「心理学研究法Ⅰ(データ解析)」を履修済みであると望ましい。

[講義概要]
心理学はこれまで幅広い研究領域をカバーするため, さまざまな方法論を発展させてきた。したがって, 心理学研究を行う際には, 自らの研究課題にもっとも適した方法を選択することが必要になる。本講義では, 心理学の代表的な研究法のうち「面接法」「観察法」「実験法」を取り上げる。それぞれの特徴をふまえた上で, 計画から実施, 分析, まとめまで一連の手続きを学んでいく。本講義では, 実際のデータ分析の体験を通して, 学べるようにする予定である。

■授業計画
第1回　オリエンテーション, 授業の進め方, 研究における倫理
第2回　質的研究と量的研究
第3回　面接法(1)：種類と方法論
第4回　面接法(2)：面接法の実習
第5回　観察法(1)：種類と方法論
第6回　観察法(2)：観察法の実習：時間見本法
第7回　観察法(3)：観察法の実習：結果の整理
第8回　実験法の基礎
第9回　研究計画の作り方と実験上の工夫
第10回　実験法(1)：実験法の実習①：1要因参加者間計画
第11回　実験法(2)：実験法の実習①：結果の整理
第12回　実験法(3)：実験法の実習②：1要因参加者内計画
第13回　実験法(4)：実験法の実習②：結果の整理
第14回　授業の振り返りとまとめ
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
各実習のレポート提出に加え、各実習への参加状況、授業でのディスカッションの参加・貢献度によって評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
事前予習：t 検定までの統計の基本的な知識を復習しておくこと。
復習：授業内で示す参考文献などを読んで, 理解を深めること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで, 論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
①中澤潤・大野木裕明・南博文(編著)「心理学マニュアル観察法」 北大路書房　1997年　(本体価格：1,300円+税)
②村井潤一郎(編著)「Progress & Application 心理学研究法」 サイエンス社　2012年　(本体価格：2,200円+税)
③サール, アン(著)宮本聡介・渡辺真由美(訳)「心理学エレメンタルズ　心理学研究法入門」 新曜社　2005年　(本体価格：2,200円+税)
④山田剛史・林　創「大学生のためのリサーチリテラシー入

門　研究のための８つの力」 ミネルヴァ書房　2011年　（本体価格：2,400円+税）

［備考］
本講義の内容は受講生の人数や状況に合わせて修正することがある。

心理検査技法演習

科目ナンバー	ICP2209-S
2単位：後期1コマ	2〜4年
田副　真美	

［科目補足情報］
心理的アセスメントを履修済みでないと、この科目は履修できない。

［到達目標］
1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）の理解
3. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解
4. 検査者および被検査者の体験
5. 自己理解を深める
6. 検査結果によるアセスメントやテストバッテリーについての理解
7. 心理検査を実施する際の倫理上の問題への理解を深める

［履修の条件］
1.「心理的アセスメント」を履修済みであること
2. 検査の十分な知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
3. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分理解できること
4. 検査所見などのすべてのレポート提出が可能なこと

［講義概要］
心理検査では、投映法を中心に講義する。各検査の概説、実施方法の説明の後、検査の実施と結果のまとめ方について体験する。結果のアセスメントやテストバッテリーについてふれ、検査の実際について具体的な事例を提示し説明する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　授業のねらい
第2回　投映法総論
第3回　SCT
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第4回　P-F スタディ①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第5回　P-F スタディ②
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第6回　バウムテスト①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第7回　バウムテスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第8回　HTP テスト①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第9回　HTP テスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第10回　風景構成法①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第11回　風景構成法②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第12回　TAT
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第13回　ロールシャッハ・テスト
　　実施方法の説明と解説
第14回　テストバッテリーについて
　　相談、助言、指導等への応用の仕方
　　事例提示、全体のまとめ
第15回　レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

［成績評価（備考）］
授業参加態度、小レポート、レポート試験により評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と秘術を身に付けることができる。

［テキスト］
必要な資料を適宜配布する。

［参考文献］
小山充道「臨床心理アセスメント」　金剛出版8,500円
沼　初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版　2,100円
願興寺礼子、住吉隆弘（編）「心理検査の実際の初歩」ナカニシヤ出版　2,600円

［備考］
心理検査技法演習を履修するには、心理的アセスメントの単位を取得済みであることが必要。
「実務経験のある教員による科目」医療領域等における心理臨床経験を活かして心理検査演習の指導を行う。

学習・言語心理学

科目ナンバー	ICP2210-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
上田　卓司	

[到達目標]
本授業では「学習」「行動」「言語」にまつわる心的現象や基本的知識を取得する事と同時に,「客観的な事実による裏付け」がどのように得られるのか, どのように「事実」を解釈するかについても見つけることを目標とします.

[履修の条件]
「心理学」等の基礎的な科目を受講した上で履修するのが望ましい. 欠席せずに, 毎回参加できる学生に向いた科目です.

[講義概要]
本授業では「学習」「獲得」という観点を元に種々の心理学的現象について考察します. 講義形式を中心としますが, 適宜マルチメディア資料を活用したり, 実験の体験を行ったりしながら理解を深めてゆきます.

■授業計画

第1回　導入：心理学における「学習」と「言語」の位置付け
第2回　生得的行動と学習
第3回　条件付け(1)：古典的条件付け
第4回　条件付け(2)：道具的条件付け
第5回　般化と弁別：学習の諸要素
第6回　学習における認知的要因
第7回　学習・獲得における動機の役割
第8回　社会的学習：模倣と観察学習
第9回　行動療法(1)：心理的障害への学習・行動主義的アプローチ
第10回　行動療法(2)：行動療法と認知的変容
第11回　言語の獲得と発達
第12回　言語の障害と喪失
第13回　言語とコミュニケーション
第14回　まとめと予備的話題
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(70%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業内容についてノートを整理し, 指示した参考文献に目を通します. 本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします

[試験・レポート等のフィードバック]
ほぼ毎回行われることになる小テストについては, 実施直後に解説・復習を行い, 新たな授業トピックの導入の役割を果たします.

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します. 本科目を履修することにより, 基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます.

[テキスト]
特定の教科書は用いません.

[参考文献]
教場で, 必要な資料を適宜配布します. 参考文献情報は資料に掲載されています.

知覚・認知心理学

科目ナンバー	ICP2211-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
上田　卓司	

[到達目標]
1.私たちの経験を「心の情報処理」という観点から捉えられるようになる
2.知覚・認知情報処理過程に関する基礎知識を得る
3.日常生活での様々な活動や判断でどのような心的情報処理が行われているか, 考察できるようになる

[履修の条件]
「心理学」等の基礎的な科目を受講した上で履修するのが望ましい, 欠席せずに, 毎回参加できる学生に向いた科目です.

[講義概要]
私たちの知覚や認知のあり方について考察する授業です.「情報処理」という観点から理論的に考察し, 経験的に検証することを目的としています. 講義形式を中心としますが, 適宜マルチメディア資料を活用したり, 実験の体験を行ったりしながら理解を深めてゆきます.

■授業計画

第1回　導入
第2回　心の情報処理について：知覚認知研究の目標と方法論
第3回　知覚(1)：視知覚情報処理の基礎
第4回　知覚(2)：知覚の理論
第5回　知覚(3)：知覚の生涯発達と障害
第6回　注意と意識(1)
第7回　注意と意識(2)
第8回　イメージと表象
第9回　知識構造と認識
第10回　記憶の緒側面
第11回　記憶の性質と障害
第12回　推論と問題解決
第13回　判断・意志決定とそのバイアス
第14回　感情・身体と認知
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(70%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業内容についてノートを整理し，指示した参考文献に目を通します．本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします．

[試験・レポート等のフィードバック]
ほぼ毎回行われることになる小テストについては，実施直後に解説・復習を行い，新たな授業トピックの導入の役割を果たします．

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します．本科目を履修することにより，基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます．

[テキスト]
特定の教科書は用いません．教場で，必要な資料を適宜配布します．

[参考文献]
西本武彦（編著）（2012）.認知心理学ラボラトリー．弘文堂（ISBN：9784335651533）
その他，教場にて必要な資料を適宜配布します．参考文献情報は資料に掲載されています．

生理心理学

科目ナンバー	ICP 2212-L
2単位：集中	2〜4年
大木　紫	

[到達目標]
生理心理学は神経心理学同様、バイオサイコロジーの一分野で、生理学と心理学にまたがる領域である。講義を通して、ヒトの行動と脳の関わりについて理解することを目標とする。

[履修の条件]
履修の条件は、特にない。短期集中講義なので疑問をそのままにせず、積極的な討論と発言を期待する。

[講義概要]
生理心理学の概要と方法を説明したのち、異なる心理機能の脳基盤について各論の講義を行う。福祉・教育の現場に関わる心理機能について、基本的な知識を得ることを目指す。

■授業計画
第1回　生理心理学概論
第2回　脳の発生・解剖学的基礎
第3回　脳機能に関する基礎知識
第4回　脳の検査法
第5回　睡眠と生体リズム
第6回　情動
第7回　学習と記憶
第8回　性差
第9回　摂食
第10回　不安障害・注意欠陥
第11回　自閉性障害
第12回　ストレス障害
第13回　薬物嗜癖
第14回　認知症・統合失調症
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（100%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（特に復習）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートについては、採点後、特に不足している点（内容、書式等）をフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、臨床心理における脳科学の基盤について理解し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

[テキスト]
講義毎に、プリントを配布する。

[参考文献]
泰羅雅登等訳、カールソン　神経科学テキスト　脳と行動　丸善、18,000円

神経・生理心理学

科目ナンバー	ICP 2213-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
重宗　弥生	

[到達目標]
①脳の生理学的・解剖学的な構造を理解する（脳神経系の構造及び機能の理解）
②脳を基盤とする認知機能の機序を理解する（記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解）
③脳領域の損傷や疾患によってみられる障害を理解する（高次脳機能障害の概要の理解）

[履修の条件]
この授業では、教員と学生の質疑応答や、学生同士での心理検査の実施やディスカッションの機会を設けますので、受け身ではなく、能動的に講義に参加する姿勢が求められます。
特別な理由なく2回以上講義に欠席した場合や、一定時間以上の遅刻や早退が認められた場合には、単位の取得が難しくなりますので注意してください。

[講義概要]
神経心理学は、脳が損傷された場合に起こる知覚や行動の障

害から、その障害された認知機能のメカニズムや対応する脳領域を明らかにする学問です。本授業では、脳の生理学的・解剖学的な構造を理解した上で、スライドやビデオ映像による症例の紹介、心理検査の実施、ディスカッションを通して、脳の損傷によって起こる障害について理解してもらいます。

■授業計画

第1回　神経心理学の位置付けと方法
第2回　脳神経の生理学的・解剖学的構造と機能
第3回　視覚・聴覚の障害①
第4回　視覚・聴覚の障害②
第5回　言語の障害①
第6回　言語の障害②
第7回　記憶の障害①
第8回　記憶の障害②
第9回　運動の障害
第10回　感覚の障害
第11回　情動の障害
第12回　実行機能の障害
第13回　精神疾患と発達障害
第14回　神経心理検査と臨床での利用実例の紹介
第15回　試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本講義では、脳の領域名や症状名など専門的な用語を憶え、様々な認知機能の機序について理解する必要があります。そのため、それらを自分の知識にできるよう本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テストは翌週の講義で採点したものを返却し、解説を行います。試験は事務を通して採点したものを返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
この科目は、ディプロマポリシーに定める「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当し、この科目を履修することにより、高次脳機能障害や精神疾患、発達障害についての知識を身に付け、その知識を当事者やその家族の理解や援助に役立てることができます。これらの能力は、公認心理士に必要な「クライエントへの臨床的支援能力」「他職種の専門家と連携する能力」にあたります。

[テキスト]
教科書は使いません。授業中に配布する資料を中心に授業を進めます。

[参考文献]
神経心理学入門　山鳥重　医学書院
高次脳機能障害学　石合純夫　医歯薬出版株式会社

[備考]
私語など他の学生に迷惑をかける行為は厳禁です。

臨床心理学概論

科目ナンバー	ICP 2105-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
植松　晃子	

[到達目標]
現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解する。精神分析を中心に、分析心理学、行動療法、来談者中心療法の理論を成り立ちから学びます。

[履修の条件]
心理臨床とは何か、基礎となる理論を学ぶ意欲を持った学生であること。地域の方にも開かれた公開講座です。本学の学生で聴講を希望する場合は事前に相談してください。

[講義概要]
臨床心理学が提案する様々な理論やアプローチは、「人」を理解するためのものです。この講義では、臨床心理学の理論に焦点を当て、それぞれの理論の背景や核となる考え方を学びます。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することがあります。(1.臨床心理学の成り立ち　2.臨床心理学の代表的理論)

■授業計画

第1回　授業についての説明：心理臨床とはどのような支援なのか
第2回　精神分析(1)導入：背景の理解
第3回　精神分析(2)局所論・構造論
第4回　精神分析(3)心理力動論
第5回　精神分析(4)発達論
第6回　分析心理学(1)導入：背景の理解
第7回　分析心理学(2)タイプ論、集合的無意識、元型
第8回　分析心理学(3)夢分析、箱庭
第9回　行動療法(1)導入：背景の理解
第10回　行動療法(2)様々な技法1
第11回　行動療法(3)様々な技法2
第12回　来談者中心療法(1)導入：背景の理解
第13回　来談者中心療法(2)理論の展開
第14回　来談者中心療法(3)人格論
第15回　定期試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
毎回授業後に質問の時間を設けます。分からないことはクラスの為にも積極的に質問してください。
その他の評価方法としては、出席と質問時間における積極的参加になります。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
積極的な予習・復習を勧めます。授業で扱う内容を1回ですべて理解しようとせず、各自復習することを勧めます。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とし

ます。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業内容についての質問や授業で掴んだことのフィードバックの時間を毎回設ける。
定期試験では、授業で作成したノートのみ、持ち込みを可としています（教科書や辞書は不可）。授業内容については、板書を中心に各自でノートを作ってください。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解し、臨床心理学を学びを深める。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
授業時に適宜紹介する
＜心理学における臨床心理領域の概説書として＞
・無藤隆他「心理学」有斐閣のうち、第４部「心の適応と臨床」
・スミスら「ヒルガードの心理学」ブレーン出版のうち、第13章「人格」
＜各理論ごとの参考文献＞
・小此木啓吾「フロイト思想のキーワード」講談社現代新書
・河合隼雄「ユング心理学入門」培風館
・山下敏子「方法としての行動療法」金剛出版
・佐治守夫・飯長喜一郎「新版　ロジャースクライエント中心療法」有斐閣

[備考]
実務経験のある教員による科目。臨床心理士として実践経験のある教員が、人の心の理解のために臨床心理学の各理論がどのような視点を提供しているのかを講義する。

サイコドラマⅠ

科目ナンバー	ICP 2214-L
1単位：前期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

[到達目標]
①集団心理療法の１つであるサイコドラマを体験し、その目的を理解する。
②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
④このグループで得た新たなつながりによって、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになって欲しいと考えている。いいキャンパス仲間をこのグループの中で一緒に作り共通の良い体験を味わいましょう。
⑤サイコドラマはこころを扱うので、その適用の限界や実施上の注意点についても理解をする。

[履修の条件]
希望者を２つのグループに分け、全7-8回を隔週（2週間に1回のペース）で実施する（単位数は１）。サイコドラマを初めて受講するものは原則として前期から始めてほしい。1グループは15人程度としたいので、何らかの方法で、人数制限か人数調整をする。授業開始日にグループ分けを行うので第1日目は必ず出席してください（1回目だけ大きめの別の教室で行い、2回目からは小さめの教室に移動する。掲示に注意してほしい）
後期に初めてサイコドラマを履修したい場合は相談してください。

[講義概要]
(1)サイコドラマの目的
サイコドラマは、即興的なドラマ表現を媒介として、個人に自己理解あるいは自己洞察をもたらすことを期待した心理療法である。臨床心理学を学ぶものとして、個人を対象にした技法とともに集団を対象としたスキルを身につけることも将来的に必要となる。そこで、集団心理療法の１つである「サイコドラマ」を体験的に学習する。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し体験的に学ぶ。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法について体験的に理解をはかる。

■授業計画

第1回　サイコドラマについての概要を説明する。
　　グループ分けとグループメンバーを知るワークを実施する。
　　サイコドラマ実施上の限界や注意点についても理解する。
第2回　サイコドラマの構成の体験的理解
　　これまでのサイコドラマの記録を読んで、サイコドラマのすすめ方に関する理解を深める。
第3回　「自分にプレゼントをする」のワークから連想するテーマに関するドラマ体験（ただし第3回以降のテーマは変わる可能性もある）
第4回　「自分の気持ちを形であらわす」をテーマにしたドラマ体験
第5回　「エンプティチェア」から連想したテーマに基づくドラマ体験
第6回　「最近の自分に対する評価」をテーマにしたドラマ体験
第7回　「最近困ったこと」をテーマにしたドラマ体験
第8回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
授業への積極的参加（主役体験、補助自我体験）を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の復習時間をとって、各授業での体験を自分にあてはめて振り返りをしてください。以下の内容をレポートにしてもらうので、その日の役割やその日感じたことをメモしておいてください。
(1)各回ごとにどんな役割(主役・補助自我・観客)をして、何を感じたか。
(2)サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
(3)自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
(4)主役体験をする前としたあとのサイコドラマのイメージや自分のことについて違いがあったか。主役をやらなかった場合はどうしてやらなかったか。
(5)その他

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回、シェアリングの時間をとって、その授業の振り返りを行う。必要に応じてその場でフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。サイコドラマに積極的に参加することにより、他者理解だけでなく自己理解も深めることを目指す。

[テキスト]
とくになし、必要に応じて参考文献を読んでください。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

サイコドラマ II

科目ナンバー	ICP2215-S
1単位：後期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

[到達目標]
①内容そのものはサイコドラマⅠと同じであるが、経験者のクラスである。役割をとることの理解が深まっているはずなので、自発性を発揮し、ダブルや補助自我の役割をしっかりとれるようになることを目指して欲しい。
②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
④このグループで得た新たなつながりによって、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになって欲しいと考えている。いいキャンパス仲間をこのグループの中で一緒に作り共通の良い体験を味わいましょう。
⑤サイコドラマはこころを扱うので、その適用の限界や実施上の注意点についても理解をする。

[履修の条件]
サイコドラマⅠを履修済みのもの。ただし、後期からサイコドラマを履修したい場合は谷井に相談してください。
サイコドラマを始めてようやく慣れた頃に、サイコドラマⅠが終わったと思うので、引続き履修を続けて自己理解や他者理解を深めたい学生のための科目である。
最初の授業で(または事前に)履修者を2つのグループに分けるので、希望者は1回目から参加すること。

[講義概要]
サイコドラマは、主役のこころの世界を立体的に表現し、集団の力に支援されながら自分のこころを検討していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。サイコドラマⅡでは、ダブルなどの補助自我の役割を、主役の心情を理解して適切に表現できるようになることを目指したい。また、少し遊び心豊かなドラマを一緒に創って行きたい。

■授業計画
第1回　サイコドラマⅠの経験の振り返り,ダブルの練習。
第2回　「今年一番の思い出を写真にとる」をテーマにしたドラマ体験(以後の回でテーマの内容は変更する場合もある)
第3回　「自分にプレゼントをする」をテーマにしたドラマ体験
第4回　「エンプティチェア」から出発したドラマ体験
第5回　「今の気持ちを表す物になる」のワークから思い浮かんだことをテーマにしたドラマ体験
第6回　「カードを選んでメッセージをもらう」のワークから思い浮かんだことをテーマにしたドラマ体験
第7回　「今年一番重要だった月」をテーマにしたドラマ体験
第8回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
授業への積極的参加(主役体験・補助自我体験)を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業での体験を自分にあてはめて振り返りをしてください。以下の内容をレポートにしてもらうので、その日の役割やその日感じたことを簡単にメモしておいてください。
(1)各回ごとにどんな役割(主役・補助自我・観客)をして、何を感じたか。
(2)サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
(3)自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
(4)主役体験をする前としたあとのサイコドラマのイメージや自分についてのことで違いがあったか。主役をやらなかった場合はどうしてやらなかったか。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回、シェアリングの時間を設けてその日の授業の振り返りを行う。必要に応じてその場でフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。サイコドラマに積極的に参加することにより、他者理解だけでなく自己理解が深まることを目指す。

[テキスト]
とくになし、必要に応じて参考文献を読んでください。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

サイコドラマ III

科目ナンバー	ICP2216-S
1単位：前期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

[科目補足情報]
サイコドラマⅠⅡを履修した人は、「監督がどのようにしてドラマを進めていっているのか」について学ぶことでサイコドラマがさらに楽しくなると思うので、3・4年生は是非履修してほしい。

[到達目標]
①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。
④主役体験についても、同時に参加者が体験するのでよりサイコドラマに関する理解が深まり、癒しの体験を集団で味わうことができると思う。

[履修の条件]
①原則としてサイコドラマⅠ（またはⅡ）を履修済みのこと。
②3・4年生でサイコドラマⅠ・Ⅱと同時に並行履修したい場合は相談してください。

[講義概要]
(1)将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校で集団活動の指導の機会を持つ可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画
第1回　ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
第2回　ウォーミングアップのいろいろ
第3回　主役選択の方法とファーストインタビュー
第4回　ロールリバーサルの使い方
第5回　ドラマをどのように展開するか(1)
第6回　ドラマをどのように展開するか(2)
第7回　ウォーミングアップから主役選択までの監督体験
第8回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
授業への積極的参加を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
この授業を履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどういう学びがあったかを復習しながら参加してほしい。将来サイコドラマのスキルが必要になったときにもう一度学びなおせるように基本的な考え方を体得してもらう。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業後に自分が今回の授業でとった役割を振り返り、どのような気づきがあったかをまとめておいてください。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、その際に出た質問について、フィードバックを実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。監督をすることにより、主役のテーマを把握しどのようにドラマを組み立てるかを学習する。

[テキスト]
必要であれば以下の参考文献を参照してください。谷井の著作は監督としてドラマをどのようにすすめるかを平易に説明しています。サイコドラマの構成の仕方について事例も豊富に取り上げていますので、楽しみながら読めると思います。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

[備考]
レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々にA4判用紙2枚ずつ程度書いてもらう予定である。主役体験はこれまでの授業と同じ観点から書いてください。監督体験（ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成）に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含め

やってみた感想や考察を書いてください。

サイコドラマ III 演習

科目ナンバー	ICP 2217-S
1単位：前期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

[科目補足情報]
サイコドラマⅢのリピート科目である。サイコドラマⅢだけでは時間が少ないのでさらに監督の体験を重ねたい人は履修してください。

[到達目標]
①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。

[履修の条件]
①サイコドラマⅢを履修済みで、もう少し監督のトレーニングを継続して学びたい人。
②前期と後期で同じ内容を繰り返し実施する。
③サイコドラマⅢ演習は、リピート授業なので、できれば、前期のサイコドラマⅢから履修してほしい。ただし、後期から履修したい場合も相談に応じます。

[講義概要]
(1)将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校において、集団活動を指導する機会が出てくる可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画

第1回　ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
第2回　ウォーミングアップのいろいろ
第3回　主役選択の方法とファーストインタビュー
第4回　ロールリバーサルの使い方
第5回　ドラマをどのように展開するか(1)
第6回　ドラマをどのように展開するか(2)
第7回　ウォーミングアップから主役選択までの監督体験
第8回　ウォーミングアップからドラマ化・シェアリングまでの監督体験

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
授業への積極的参加を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
この授業を履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどういう学びがあったかを復習しながら参加してほしい。将来サイコドラマのスキルが役に立つと感じた時にあらためて学びなおしてほしい。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。」

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとに、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、疑問や今回のドラマのポイントについて、フィードバックを行っている。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。主役のテーマを把握しどのようにサイコドラマを組み立てていくかを学習する。

[テキスト]
必要なら参考文献を参照してください。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

[備考]
レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々にA4判用紙2枚ずつ程度書いてもらう予定である。主役体験はこれまでの授業と同じ観点から書いてください。監督体験(ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成)に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含めやってみた感想や考察を書いてください。

感情・人格心理学

科目ナンバー	ICP 2218-S
2単位：後期1コマ	2〜4年
村田　夏子	

[到達目標]
・感情および人格(パーソナリティ)についての主要な理論を学ぶ。
・感情、人格をめぐる問題について、科学的・客観的な視点から考えることができるようになる。
・心理学的知見を学ぶことにより、直接「見る」ことのできない感情・人格について、他者についても自分自身についても、偏見のない建設的なとらえかたをすることを目指す。

[履修の条件]
感情や性格は、他ならぬ自分のことであってさえ、よくわからなかったり持て余したりすることがしばしばある。しかし心理学は、それに対してお告げのように「解決」をもたらすものではない。
本講義で扱う心理学的な研究について意欲的に学び、感情や人格をめぐる諸問題を科学的な観点から主体的に考えることを期待する。

[講義概要]
感情とパーソナリティ（人格）について心理学がどのように研究してきたか、主要な理論をそのアプローチの方法を含めて学ぶ。さらに感情とパーソナリティについて、認知、発達、適応といった視点から多角的に考察する。
各回、関連する今日的な話題に言及しながら解説するので、自分の生き方に活かすことを視野に入れつつ主体性を持って授業に取り組んで欲しい。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　この講義で何を学ぶかを概観し、授業の進めかた、評価のしかたなどを説明する
第2回　感情とは何か
第3回　感情と脳・身体
第4回　感情の機能
第5回　感情と認知
第6回　感情と発達
第7回　感情の健康・病理
第8回　パーソナリティとは何か
第9回　類型論と特性論
第10回　５因子論
第11回　個人差をどう測定、記述するか
第12回　パーソナリティの発達・適応
第13回　パーソナリティの成熟
第14回　総括
第15回　試験

[成績評価]
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題、リアクションペーパーおよび質問に対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修すると、他者理解が深まり、コミュニケーションの取りかたの幅が広がる。

[テキスト]
特に指定しない。毎回資料を配布する。

[参考文献]
授業内で適宜紹介する。

[備考]
授業の内容や進度は、状況に応じて変更する場合がある。

交流分析

科目ナンバー	ICP2219-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
白井　幸子	

[到達目標]
「交流分析」はフロイトの精神分析理論を背景にもち、それを具体的で分かりやすい日常語を使って表現した人間の心と行動に関するパーソナリティー理論です。6つの基本理論より成り立っており、これらの基本理論を学ぶことによって客観的な自己理解・他者理解が得られます。
さらに、V.Joines、I.Stewart によって創始された「交流分析による人格適応論」も学びます。乳幼児期の親子関係がその後の人格形成、行動様式、適応スタイルにどのような影響を及ぼすかなどについての理解が得られます。自分の適応スタイルを知り、自分とは異なる適応スタイルを持つ人とどのように望ましい関係性を築いていくかを学ぶことによってストレスの少ない人間関係を築くことが可能になります。

[履修の条件]
学部２年生以上誰でも履修できます。公開します。

[講義概要]
交流分析は以下の６つの基本理論より成り立っています。
１）自我状態の分析
２）やりとりの分析
３）ストロークへの欲求とディスカウント
４）心理的ゲームの分析
５）人生における基本的構え
６）人生脚本の分析
上記の６つの基本理論は１）パーソナリティ理論、２）コミュニケーション理論、３）発達心理学、４）精神病理学などの領域を含み、人間の心と行動を分析します。交流分析の基本理論に基づいて開発されたのが「交流分析による人格適応論」です。

■授業計画
第1回　授業へのオリエンテーション：１）交流分析とは
２）自己紹介　３）この授業より望むもの
第2回　自我状態の分析（その１）
「エゴグラム」を通して自己理解をする
第3回　自我状態の分析（その２）
１）自我状態の汚染の問題、２）臨床の現場での応用
第4回　やりとりの分析
１）やりとりのタイプ：相補的やり取り、交差したやり取り、隠されたやりとり
２）他の人との望ましいやりとりとは
第5回　ストロークへの欲求とディスカント（その１）

１）ストロークとは
２）ストローク経済の法則
第6回　ストロークの欲求とディスカウント（その２）
１）各発達段階に必要なストローク
２）ストロークの体験学習
第7回　心理的ゲームの分析（その１）
１）心理的ゲームとは
２）心理的ゲームの種類
第8回　心理的ゲームの分析（その２）
１）なぜ心理的ゲームを行うのか
２）心理的ゲームをやめるには
第9回　人生における基本的構え：1）私もあなたもOK、2）あなたはOK、私はOKではない、3）私はOK,あなたはOKではない、4）私もあなたもOKではない
第10回　人生脚本の分析（その１）
１）人生脚本とは
２）人生脚本の構成要素：1）禁止令、拮抗禁止令、行動のプログラム
第11回　人生脚本の分析（その２）
１）自分の脚本テーマを知る
２）脚本の種類（プロセス脚本）
第12回　「幼児決断」から「再決断」へ
再決断療法の実際
第13回　交流分析による「人格適応論」（その１）
「人格適応論とは」
親の養育スタイルと６つの人格適応タイプ
第14回　交流分析による「人格適応論」（その２）
１）各適応タイプの特徴
２）質問紙を用いて自分の適応タイプを知る
第15回　レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
１）授業・実習への参加態度
２）授業を受けての感想文（毎回）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業前にその日の講義内容をテキストを通して理解しておくと授業が分かりやすく、より興味深いものになるでしょう。「エゴグラム」と「ジョインズによる人格適応質問紙」などは授業前に記入しておくとよいでしょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
フィードバックについての回答を次の授業でおこない話し合う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで人間の心理的理解を深め他者とのコミュニケーション能力を高める。

［テキスト］
白井　幸子　臨床にいかす心理療法.医学書院、2004.¥2,310
必要に応じてプリントを配布します。

［参考文献］
ジョインズ、スチュアート（白井、繁田監訳）。
交流分析による人格適応論.誠信書房、2007.¥6,090.
ジョインズ、スチュアート（深沢　道子監訳）ＴＡ　ＴＯＤＡＹ
最新交流分析入門、実務教育出版. 1991.¥4,500
白井　幸子. 看護にいかす交流分析.医学書院. 1983.¥2,200
エリック・バーン人生脚本のすべて人の運命の心理学―「こんにちは」の後に,あなたは何と言いますか?星和書店、エリック・バーン（著）,江花昭一（監修,翻訳）,¥3,888

［備考］
成績評価の「その他」は以下の内容を含みます。
１）体験学習への参加
２）ディスカッションへの参加
３）講義セッションの感想提出

社会・集団・家族心理学

科目ナンバー	ICP 2220-L
2単位：集中	2～4年
芳賀　道匡	

［到達目標］
①社会心理学の基本的な考え方, 概念や理論を理解する。
②社会心理学の実験例や調査例を通し, 実証的アプローチの仕方について理解する。
③生活における身近な現象や臨床心理学で扱われる問題を, 社会心理学の枠組みから考えられるようになる。

［履修の条件］
・「心理学」「心理学概論」を履修済みであること（が望ましい）。
・集中講義期間中、休まず出席できること。
・事前にテキストを購入して予習と復習ができること。当日テキストを持参しない場合、受講を認めない。

［講義概要］
社会心理学は人と人との相互作用に関して研究する学問である。本講義では、個人とあらゆるレベルの他者ないし集団（家族や社会含む）の相互作用と、それに起因する臨床心理学的問題について考える。具体的には、第1回・第2回で社会心理学とそれを支える実証的アプローチへの導入を行い（第Ⅰ部）、第3回から第4回で自己と他者の関係について（第Ⅱ部）、第6回から第9回で対人関係の形成から崩壊について（第Ⅲ部）、第11回から第14回では集団現象（家族、社会、文化）について（第Ⅳ部）紹介しつつ、関連する臨床心理学的問題についても併せて言及し考える。なお、第5回・第10回はそれぞれの日程における学習内容の復習とテストを、第15回は本講義の全日程における学習内容すべての復習とテストを行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション:社会心理学の考え方、臨床心理学との関連（テキスト p.2-7）
第2回　社会心理学の研究法:実証的アプローチ、実験研究と

調査研究（テキスト p.7-15）
第3回　自己と他者１：自己意識、認知的不協和（テキスト p.18-27、p.231-232）
第4回　自己と他者２：原因帰属と適応（テキスト p.34-56、p.221-225）
第5回　復習と小テスト１
第6回　対人関係１：関係の開始（テキストp.27-32、p.78-83）
第7回　対人関係２：関係の親密化、崩壊（テキスト p.83-101）
第8回　対人関係３：援助行動、援助要請（テキスト p.104-122）
第9回　対人関係４：ソーシャル・サポート（テキスト p.122-123）
第10回　復習と小テスト２
第11回　集団現象１：家族とDV・虐待（テキスト p.126-147）
第12回　集団現象２：内集団と外集団、同調、服従といじめ（テキスト p.48-49、p.166-170、p.150-160）
第13回　集団現象３：ステレオタイプ、偏見と障害（テキスト p.47-56）
第14回　集団現象４：ソーシャル・キャピタルと社会的ジレンマ（テキスト p.170-175、参考書 p.1-67）
第15回　復習と試験

［成績評価］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
集中講義のため、各自で１ヶ月前（目安）にテキストを購入の上、シラバスに示してある各事項を中心に読み、身近な現象と結びつける（200分×12回=2400分）。復習は、当日配布資料を中心に行うこと（200分×3回=600分）。

［試験・レポート等のフィードバック］
講義内小テスト、試験の解答・解説はその授業内で行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
本授業を履修し、社会心理学を心の問題と関連づけて学ぶことにより、他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力の基礎を身につける。

［テキスト］
『ポテンシャル社会心理学』岡・坂本　サイエンス社（2,400円+税）

［参考文献］
『ソーシャル・キャピタル入門:孤立から絆へ』稲葉　中公文書（760円+税）

産業・組織心理学

科目ナンバー	ICP2221-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
中村　洸太	

［到達目標］
産業社会の激変やグローバル化の進展により雇用社会も大きく変化しています。加えて超少子高齢時代となり、また、多様化が叫ばれる時代に個人の価値観も大きく変化しています。こうした背景をもとに、産業・組織心理学についての知識と考え方を知り、働く人のストレスの増大からくる心の健康問題、人間関係の希薄さなどによる職場の状況と企業の課題について、講義と演習を交えて理解を深め、広い学識を身につけます。
そのうえで、より良い職業人生を送るためのメンタルヘルス対策、キャリア開発、良好なコミュニケーションづくりについて学習することを目的とします。この目的を達成するために、集団・組織や職場・職業に関わる心理学の理論を学びながら、産業・労働分野についての知識と考え方をバランスよく身につけることを目指します。

［履修の条件］
近年の社会においては、インクルージョン＆ダイバーシティの考えに基づいて、一人一人の個を尊重しつつ協働していくことが重要とされます。協働していく際に重要なひとつはコミュニケーションです。コミュニケーションは、単に情報を伝達しあうだけではなく、それぞれの思いや意見の違いを理解していくプロセスが重要となります。他者の話に興味・感心をもち、情報や気持を聴く一方で、自身の考えや思いを発信するスキルは実践して身に付くと考えられます。授業の場も一つの集団です。授業内でのコミュニケーション演習は、価値観の相違を感じ取り、他者の異なる視点で見る目を養い、自分の意見を安全に発信する貴重な機会です。日常会話とは異なるコミュニケーションを通して、日ごろの友人とだけでなく、広く良好な関係性を築く準備をしましょう。

［講義概要］
レジュメを中心に講義します。また、授業においてはテーマを設定し、グループ演習を実施します。
毎授業の最後には、講義内容と演習を含めた「フィードバックシート」を作成し提出します。「レポート」は２回予定しています。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、産業・組織心理学
第2回　個人と集団１（力動）
第3回　個人と集団２（病理）
第4回　個人と集団１（協働と競争）
第5回　リーダーシップ理論
第6回　動機づけ理論
第7回　組織風土と組織文化
第8回　職場における心理的問題と支援１（過労死、精神疾患）
第9回　職場における心理的問題と支援２（ハラスメント）
第10回　職場における心理的問題と支援３（ストレスチェック制度）
第11回　障害者の就労支援
第12回　個人にとっての職業１（職業選択と自己実現）

第13回　個人にとっての職業２（リワーク、キャリアコンサルティング）
第14回　個人にとっての職業３（ワークライフバランス）、講義のまとめ
第15回　試験

［成績評価］
試験(40%)、レポート(20%)、小テスト(10%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(20%)

［成績評価（備考）］
終講時試験が（産業・組織心理学についての知識と考え方についての把握度を評価）、レポート（小論文２回）に加えて、授業参加態度の評価を行います。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
予習は、該当する項目を自習しておきましょう。復習は、講義配布資料やノートを整理し、演習（ワーク＆シェア）で実施したワークやディスカッションの内容を振り返っておきましょう。

［試験・レポート等のフィードバック］
毎授業のフィードバックは、基本的には、次回の講義において行いますが、数回分をまとめることもあります。
また、レポートは翌々週にはフィードバックします。発表については、授業内に適宜口頭でコメントします。

［ディプロマポリシーとの関連性］
他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになることを研鑽するとともに、専門家としての資格を取得しようとする者は、クライエントを尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し、遵守姿勢と遵守に必要な実践能力を有するよう心構え、目指しましょう。

［テキスト］
毎授業で、参考テキストをベースにしたレジメを配布します。

［参考文献］
テキストは原則使用しません。授業中に適宜、必要な資料を配布します。
ただし、公認心理師関連科目のため、以下の書籍など入手をお勧めいたします。
参考書１　産業・労働分野（公認心理師分野別テキスト5)平木典子他、創元社
参考書２　安全衛生教科書メンタルヘルス・マネジメント(R)検定Ⅱ種Ⅲ種テキスト＆問題集　第２版　EAPコンサルティング普及協会（著）　翔泳社
参考書３　心理教科書　公認心理師完全合格テキスト　公認心理師試験対策研究会　翔泳社

参考書１に関連した内容を全体的に扱っています。
参考書２は、学習+資格取得を目指す学生にはオススメです。
参考書３は、公認心理師試験に関するテキストです。産業領域に限らず全体概要をつかむのには適しています。

［備考］
毎回、前回のレジメを持参すること。

精神分析学

科目ナンバー	ICP 2222-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
石川　与志也	

［到達目標］
フロイトの人生とそこで成された彼の仕事、そしてフロイトに端を発する精神分析学の展開の意味するところを多角的に理解する。その上で、精神分析学が生み出した産物の一端を、現代社会の様々な現象や自身の体験等を踏まえ、実際的に吟味する。

［履修の条件］
「心理学」等の基礎的な科目や「カウンセリングの理論」「臨床心理概説」などを受講した上で履修するのが望ましい。

［講義概要］
精神分析がその根底に有している人間に対する思想、方法、成果を理解し、人間個々人が有する内なる宇宙への関心を高め、その現代的意義を問うことを目的とする。
なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画
第１回　オリエンテーション：授業の進め方、精神分析とは何か
第２回　精神分析の歴史
第３回　フロイトの人生
第４回　心のモデル（１）情動外傷モデル
第５回　心のモデル（２）局所論モデル
第６回　心のモデル（３）構造論モデル
第７回　不安と防衛機制
第８回　内的世界の起源(1)エディプス・コンプレックス（Ⅰ）
第９回　内的世界の起源（２）エディプス・コンプレックス（Ⅱ）
第10回　内的世界の起源（３）プレエディパルの発達
第11回　転移と逆転移
第12回　夢、象徴、冗談
第13回　フロイトの症例
第14回　改めて精神分析とは何か
第15回　レポート

［成績評価］
試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

［成績評価（備考）］
ディスカッションやワークショップへの取り組みを評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習

等)を必要とする。
参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。
精神分析学の基本的事項の理解を、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
主に、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、精神分析学の視点から人間存在や社会について理解し、探求する基礎が身につく。

[テキスト]
特に指定しない

[参考文献]
フロイト全集. 岩波書店.
ベイトマン, A.&ホームズ, J.(1995/2010)臨床家のための精神分析入門. 岩崎学術出版社.
土居健郎(1956/1988)精神分析. 講談社学術文庫.
土居健郎(1961)精神療法と精神分析. 金子書房.
藤山直樹(2008)集中講義・精神分析(上). 岩崎学術出版社.
ピーター・ゲイ〔鈴木晶訳〕(1997)フロイト１　みすず書房.
ピーター・ゲイ〔鈴木晶訳〕(2004)フロイト２　みすず書房.
ネヴィル・シミントン(1986/2006)分析の経験. 創元社.
ソフォクレス(1967)オイディプス王. 岩波文庫.
十川幸司(2003)精神分析. 岩波書店.
十川幸司(2019)フロイディアン・ステップ―分析家の誕生ー　みすず書房.
I・ザルツバーガー―ウィッテンバーグ(1970/2007)臨床現場に生かすクライン派精神分析：精神分析における洞察と関係性 岩崎学術出版社.
その他、適宜クラスで紹介する。

[備考]
「実務経験のある教員による科目」精神分析的心理療法の専門家としての実務経験を生かし、実際の臨床現場での現象を踏まえて精神分析学を教える

健康・医療心理学

科目ナンバー	ICP 2223-L
2単位：前期1コマ	2～4年
田副　真美	

[科目補足情報]
公認心理師指定科目である

[到達目標]
1. 健康心理学の特徴と実際的な活動が説明できる。
2. 医療機関の心理職の役割が説明できる。
3. 保健医療領域におけるチーム医療の一員ある心理職の役割と多職種協働の重要性が理解できる。

[履修の条件]
実践の基礎となる科目(心理学、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、発達心理学など)を履修しておくことが望ましい。

[講義概要]
1. 本講義では、健康心理学および医療心理学の概要
2. ストレスと心身の疾病との関係
3. 医療現場における心理社会的問題と必要な支援心理社会的支援
4. 災害時などに必要な心理に関する支援
5. ゲストスピーカーをによる心理職の実際についての講義

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　授業のねらい：健康心理学とは　医療心理学とは
第2回　健康心理学とは
　　健康心理学におけるアセスメントと支援
第3回　健康心理学におけるアセスメント
第4回　健康心理学の実際①ストレスとストレスマネジメント
第5回　健康心理学の実際②各種の心理療法
第6回　医療心理学とは
　　医療心理学におけるアセスメント
第7回　医療心理学の実際②精神科・児童精神
第8回　医療心理学の実際③院内独立型心理室
第9回　医療心理学の実際③心療内科
第10回　医療心理学の実際④小児科
第11回　医療心理学の実際⑤緩和医療
第12回　医療心理学の実際⑥産業保健
第13回　地域保健活動とその実際
第14回　災害心理学
　　多職種協働と医療連携
　　まとめ
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
授業参加態度、授業内で実施する課題レポートおよび 試験レポートにより評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
連続した内容の講義では、必ず前回の資料などに目を通し講義に臨むこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容に

おいて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と秘術を身に付けることができる

[テキスト]
宮脇稔他(編)健康・医療心理学　医歯薬出版株式会社　3,000円

[参考文献]
宮脇稔他(編)健康・医療心理学　医歯薬出版株式会社　3,000円
鈴木伸一(編・著)医療心理学の新展開−チーム医療に活かす心理学の最前線−　北大路書房　2,500円

[備考]
「実務経験のある教員による科目」医療領域等における心理臨床経験を活かして指導を行う。

福祉心理学

科目ナンバー	ICP 2305-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
加藤　純	

[科目補足情報]
公認心理師に必要な科目です。

[到達目標]
公認心理師に必要な科目に含まれる事項として、下記の3点について理解することを到達目標とします。
1.福祉現場において生じる問題及びその背景
2.福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援
3.虐待についての基本的知識

[履修の条件]
1.3〜4年生であればコースを問わず履修できます。
2.公認心理師に必要な科目です。2018年度以降に入学した学生で公認心理師を目指す学生は必ず履修してください。
3.この科目で学ぶ内容の前提として「児童福祉の諸問題」を履修してください。また、「児童福祉論」を履修しておくか、または後期に並行履修してください。

[講義概要]
福祉分野に関する心理的支援の理論と実際を学びます。
資料に基づく討議や短いロールプレイなどにより、社会生活で生じる問題の現状と社会的背景について理解を深めます。また、事例検討を通して、生物・社会・心理など諸側面から包括的にアセスメントし、多職種と協働して支援する力を養います。
学習内容を公認心理師国家試験と関連付けられるように、公認心理師の出題基準と過去問題を紹介します。

■授業計画

第1回　オリエンテーション(授業の目的・内容・日程・課題)。
福祉分野における心理職の活動の場：
　心理職として福祉分野に就職先はあるのか?
第2回　福祉分野における支援課題の問題性：
　普通と問題の境目はあるのか?
　生活課題はどのようにして社会問題として成立するのか?
第3回　福祉分野における支援課題の定義：
　問題の命名・定義をするのは誰か?
(法令・専門家・当事者による問題の定義・命名)
第4回　問題を定義することと包括的アセスメントとは何が違うのか?
　子育て家族の事例検討を通して
地域における子育て支援と環境調整
第5回　福祉分野におるけ対象者の定義：
　福祉分野では誰のどのような問題を支援の対象とするのか?
　要保護児童、要支援児童、特定妊婦、虐待、配偶者暴力など児童家庭福祉を例として
第6回　相談機関における家族・専門職への心理支援：
　暴力がある家庭を心理職はどのように支援しているのか?
　どのように他職種へのコンサルテーションをしているのか?
第7回　入所施設における家族への心理支援：
　親子分離を経験している子どもや家族をどのように支援したら良いか?
(家族システム論、家族療法、解決志向アプローチ)
第8回　社会問題から派生する心理的課題の理解：
　暴力や喪失は子どもにどのように影響するか?
(愛着形成、誤学習、生活習慣、2次被害)
第9回　入所施設の生活場面での心理支援：
　児童福祉施設の生活場面でどのように支援しているか?
第10回　入所施設での面接室での心理支援：
　性的虐待を受けた児童への心理治療面接の事例を通して
第11回　福祉分野におけるリスクアセスメントの理論と実際
　家庭から子どもを保護すべきかどのように判断するのか?
　施設から家庭に子どもを帰して良いかどのように判断するのか?
第12回　行政機関の法的権限と介入過程(1)：
　虐待を発見した場合、通告義務はあるか?
　どこに通告するか?(児童虐待、障害者虐待、高齢者虐待を比べてみよう！)
第13回　行政機関の法的権限と介入過程(2)：
　通告を受けた児童相談所はどのように対応するか?
第14回　高齢者への心理支援
　認知症の状態を把握するためにどのような検査があるか?
　公認心理師の過去問題に挑戦してみよう！
第15回　ー

[成績評価]
試験(40%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業には全て出席することを原則としますので、欠席は減点材料となります。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要です。

[試験・レポート等のフィードバック]
期末試験および提出課題はメールボックスを通して返却します(手渡しでの返却を希望する場合は期末試験や提出課題に明記してください)。

[ディプロマポリシーとの関連性]
この科目では「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」を養成します。対人援助職としての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として、特に問題理解と支援方法に関する知識を身につけることを目指します。

[テキスト]
授業中に資料を配ります。
授業では、下記の文献の内容を紹介します。
上野加代子・野村知二(2003)『〈児童虐待〉の構築』世界思想社教学社
M. Durrant(1991) "Residential Treatment." W. W. Norton.
衣斐哲臣(1997)「体罰習慣がある家族に対する助言指導と保母・教師へのコンサルテーション」『家族療法研究』14巻2号

[参考文献]
公認心理師の資格取得を目指してこの科目を履修する学生は、公認心理師養成のために出版されている『福祉心理学』の教科書を参考にしてください。

[備考]
実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および児童相談所における子供の権利擁護専門員としての経験を活かして、社会福祉分野での心理的支援方法について指導する。

司法・犯罪心理学

科目ナンバー	ICP 2224-L
2単位：集中	2〜4年
室城　隆之	

[到達目標]
(1)犯罪・非行, 犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。
(2)司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。

[履修の条件]
特になし。

[講義概要]
以下の内容について学習する。なお, 基本的にはパワーポイントの資料を用いた講義形式の授業になるが, 一部については視聴覚教材を活用した授業を実施する。
(1)犯罪の原因に関する生物学的, 社会学的, 心理学的諸理論について学習する。
(2)各種犯罪の特徴について検討する。
(3)犯罪者の捜査, 司法手続き, 処遇, 立ち直りという一連のプロセスにおける心理的支援について学習する。
(4)犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。
(5)家庭裁判所における家事事件の内容とプロセス及び心理的支援について学習する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　司法・犯罪心理学とは何か〜対象と方法
第2回　犯罪の原因(1)生物学的要因・社会学的要因
第3回　犯罪の原因(2)社会学的要因・心理学的要因
第4回　犯罪の原因(3)環境との相互作用・犯罪原因の統合的理解
　　小テスト
第5回　犯罪捜査と心理学的支援
第6回　非行・犯罪に対する司法手続き〜アセスメントを中心に
第7回　非行・犯罪者の処遇・矯正
第8回　家庭裁判所の家事事件と心理的支援
第9回　犯罪からの立ち直り
　　小テスト
第10回　犯罪各論(1)暴力犯罪, 殺人
第11回　犯罪各論(2)性犯罪, 放火
第12回　犯罪各論(3)窃盗等の財産犯, その他の犯罪
第13回　犯罪各論(4)少年非行
第14回　犯罪被害者支援と犯罪予防
　　まとめ〜司法・犯罪心理学の課題
　　小テスト
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(55%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(45%)

[成績評価(備考)]
各講義の終了時に提出するリアクション・ペーパーで評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では, 予習においては, テキストおよび参考文献の該当箇所を読んでおくこと。復習においては, 講義資料を読み直すことが求められる。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回提出されるリアクションペーパーに対するフィードバックを, 翌朝の講義時に行う。
最終日の講義のリアクションペーパーに対するフィードバックおよ

び小テストの解答・解説は，第14回の講義の中で行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって，犯罪や非行の加害者の理解と更生のための援助能力を身につけるとともに，犯罪や非行の被害者の痛みを癒すための援助能力を身につけることができる。また，様々な家庭問題の解決のための援助方法を学ぶことができる。特に，臨床心理士と公認心理師に必要な「臨床心理の専門職としての使命と社会的責任」「倫理や法令の理解と遵守」「クライエントへの臨床的支援能力」「他職種の専門家と連携する能力」の習得を目指す。

［ テキスト ］
河野荘子・岡本英生編著『コンパクト犯罪心理学』北大路書房 1944円
その他，毎回資料を配布する。

［ 参考文献 ］
大渕憲一『犯罪心理学』培風館　3,024円
越智啓太著『犯罪心理学』サイエンス社　2,376円
藤岡淳子著『犯罪・非行の心理学』有斐閣　2,592円

［ 備考 ］
特になし

関係行政論

科目ナンバー	ICP2225-L
2単位：後期1コマ	2年
西原　雄次郎、谷井　淳一	

［ 到達目標 ］
(1) 公認心理師の活躍が期待される５分野（保健医療・教育・福祉・産業労働・司法犯罪等の５分野）に関しての、法制度を理解する。
(2) ５分野の法制度の理解を前提に、関係他職種や地域の中で、心の問題に関する連携の中心的役割を担える存在になるための基礎を会得する。

［ 履修の条件 ］
公認心理師の指定科目の１つであり、公認心理師を目指している人は必ず履修してください。

［ 講義概要 ］
今後、公認心理師の活躍が期待される関係５分野（保健医療・教育・福祉・産業労働・司法犯罪等の５分野）に関しての、法制度を理解する科目である。公認心理師全般と保健医療・教育・産業を主として谷井が担当し、福祉と司法・犯罪を西原が担当する。どの分野で働く場合も最低限身に着けてほしい知識であるので、しっかり、勉強してほしい。

■授業計画
第１回　公認心理師法と日本における関連法規（谷井）
第２回　保健医療分野に関係する法制度（1）谷井
第３回　保健医療分野に関係する法制度（2）谷井
第４回　保健医療分野に関係する法制度（3）谷井
第５回　福祉分野に関係する法制度（1）西原
第６回　福祉分野に関係する法制度（2）西原
第７回　福祉分野に関係する法制度（3）西原
第８回　福祉分野に関係する法制度（4）西原
第９回　司法・犯罪分野に関係する法制度（1）西原
第10回　司法・犯罪分野に関係する法制度（2）西原
第11回　教育分野に関係する法制度（1）谷井
第12回　教育分野に関係する法制度（2）谷井
第13回　産業・労働分野に関係する法制度（1）谷井
第14回　産業・労働分野に関係する法制度（2）谷井
第15回　公認心理師と法制度全般

［ 成績評価 ］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
成績評価の「その他」20％は、各授業時に提出されるリアクション用紙への記入内容や授業への参加度を評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各分野の法制度についてはこの授業でしか扱わない分野もある。各授業ごとに200分間の予習復習の時間が必要である。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
(1)リアクション用紙に記載された内容に関するフィードバックは次回授業で行う。
(2)その他の質問等への対応も授業時を中心に行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
本講義を通じて、本学のディプロマポリシーに示されている、「2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」の一端を身に着けることになる。

［ テキスト ］
公認心理師の基礎と実践23関係行政論　元永拓郎編（遠見書房）

［ 参考文献 ］
参考文献は授業時に適宜指示する

［ 備考 ］
西原は、家庭裁判所調査官や福祉施設理事長の経験があり、谷井は保護観察所保護観察官や公立高校教員の経験があり、その経験を生かした講義を行っている。

心理演習

科目ナンバー	ICP 2226-L
2単位：後期1コマ	2年
分島　芳子、村上　律子、谷井　淳一、加藤　純、田副　真美	

[科目補足情報]
受講定員は30名とする。

[到達目標]
心理支援が様々な対人援助場面でどの様に実践されているのか、その実際を学びます。
具体的な場面を想定した役割演技や事例検討を通して、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とします。

[履修の条件]
公認心理師資格取得のための指定科目です。臨床心理系科目（別紙参照）を20単位以上履修し、その成績がGPA 2.30以上であることを条件とします。なお希望人数によっては選抜試験が行われることがあります。GPA の基準を満たしていても心理演習が履修できない場合があります。
体験型の授業ですので、すべての授業に出席し、積極的な授業参加を求めます、

[講義概要]
小人数グループでの体験学習を重視します。
心理支援に必要な基本的な態度、心理療法、心理検査、及び地域支援に関して、実際にはどの様なプロセスで実践されているか、前半は具体的な場面を設定しながら役割演技を行い、知識の整理をします。後半は医療、教育、産業、福祉、司法等の臨床場面での事例素材により、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、現実生活を視野に入れたチームアプローチをグループデスカッションにより検討します。さらに、公認心理師としての職業倫理、及び法的義務の理解も考えます。
なお、第1回の授業において第2回以降の体験学習の際のクラス分けを行いますので、履修希望者は必ず出席して下さい。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　学習の目標と概観、授業の進め方、評価、参考文献の紹介等
　（体験学習の進め方と注意点の説明　及びクラス分け）
第2回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　情報の適切な取り扱い
第3回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　心理アセスメントの意義
第4回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　インテーク面接実習①
第5回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　インテーク面接実習②
第6回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　心理検査事例検討
第7回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　事例検討（教育）
第8回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　地域支援事例検討（高齢者）
第9回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　事例検討（福祉）
第10回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　事例検討（児童）
第11回　心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームワーク
　事例検討（医療）
第12回　心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームワーク
　事例検討（司法）
第13回　多職種者連携及び地域連携
　事例検討（産業）
第14回　まとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
課題提出：毎回授業後にリアクションペーパー（①授業で興味を持ったところ・感想。②疑問点　③質問・要望等）を提出。
心理演習・心理実習Ⅰの成績が良以上の場合に、心理実習Ⅱの参加を認めます。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回授業で扱ったテーマ・事例に関して、自分でその内容を振り返り知識を整理し考察を深めること。心理学的支援や対人援助に関しては様々な文献が出ています。それぞれ興味のある所から自己学習し学び深めてほしい。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行います。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当します。この科目を履修することにより、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要する者等に関する実践的な知識と技能の基本を身につけることができます。さらに役割演技、事例検討におけるディスカッション、グループワークを通じて他者理解と自己表現の力を高めます。

[テキスト]
特に定めません。必要に応じてテキストを配布します。

[参考文献]
心理療法序説
河合隼雄著 岩波現代文庫
精神分析的心理療法の手引き
鑪幹八朗監修　誠信書房
臨床面接のすすめ方−初心者のための13章−
M. ハーセン、V. B. ヴァンハッセル　編　深澤道子監訳　日本評論社
心理臨床へのまなざし　経験の意味を支えるコンテクストと理念
小川　恵著　日本評論社
公認心理師エッセンシャルズ
子安　増生、丹野　義彦、石垣　琢磨、石隈　利紀、他　有斐閣

[備考]
実務経験のある教員による科目。
担当教員それぞれは、臨床心理士として医療・教育・児童・福祉・産業において心理支援の業務を行ってきています。その経験を生かし、心理支援に関しての様々な知識、基本的な技能について具体的な事例を提示して演習を行います。

臨床心理特講 A（大学院進学支援講座）

科目ナンバー	ICP 2227-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
松田　崇志	

[到達目標]
本講義では，受講者が心理学系または臨床心理学系の大学院の受験準備に主体的に取り組めるようになることを目標とする。また，進路に関する目標を設定できることを目指し，自身の職業適性や関心のある研究テーマについて理解を深めることを目標とする。
①大学院の試験の仕組みの基本を理解する。
②専門試験に向けての学習方法を身につける。
③職業適性について考えることができるようになる。
④関心のある研究テーマについて研究計画を立てることができるようになる。

[履修の条件]
大学卒業後あるいは近い将来、心理学・臨床心理学系の大学院への進学を考えている2〜4年生が対象である。
※早い時期に履修すると、ふだんの授業で学んでいる内容を大学院受験の準備にも活かせるようになることが期待される。
※とりあえず大学院の進学でも考えてみようかという程度の動機付けだと、宿題に取り組む意欲が続かない。就職進路相談室による説明会などを活用して進路を考え、目標を持って参加することを期待する。

[講義概要]
本講義では，心理学・臨床心理学系の大学院進学を目指す受講者の目標設定を支援する。
具体的には，①大学院の試験の仕組み，②職業適性，③心理学の各領域のトピックの学習（専門知識に関する問題への解答と英文読解），④研究テーマの設定の4つについて学ぶ。
授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，大学院受験に向けての心構えと勉強方法
第2回　大学院の試験の仕組み①：入学試験と大学院の選び方について
第3回　大学院の試験の仕組み②：過去問の分析
小テスト①（英文読解）
第4回　職業適性①：心理援助専門職に必要とされる能力・適性
第5回　職業適性②：先輩大学院生の体験談
第6回　重要用語・人物の知識整理①：認知
第7回　重要用語・人物の英語学習①：認知
第8回　重要用語・人物の知識整理②：発達
第9回　重要用語・人物の英語学習②：発達
第10回　重要用語・人物の知識整理③：教育
第11回　重要用語・人物の英語学習③：教育
第12回　重要用語・人物の知識整理④：臨床
第13回　重要用語・人物の英語学習④：臨床
第14回　研究計画を考える：研究計画の立て方と書き方
小テスト②（英文読解）
第15回　−

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
英文読解に関する小テスト（2回×15%），専門知識についての200字要約および英文読解の宿題の提出（8回×5%），毎回の授業の感想の記入および授業への参加・貢献度によって成績評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
①関心に応じて進学先候補となる大学院をインターネットや資料請求によって，情報収集を事前に行っておくこと。
②予習として，「重要用語・人物の知識整理」と「重要用語・人物の英語学習」の回では，対応する領域に関する書籍やこれまでの授業資料を読むなどして専門用語を確認しておくこと。
③復習として，「重要用語・人物の知識整理」の回では，配布プリントをもとに200字要約を行うこと，「重要用語・人物の英語学習」の回では，英文の日本語訳を行ってくることを課題とする。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また，小テストの解答・解説はテストが実施した当日の授業内あるいは翌週の授業で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得する

ことで，心理職を志す者としての態度，自主的に学ぶ学習能力を身に付けることができる。

［テキスト］
テキストは指定しない。
※図書館に，臨床心理学専攻大学院進学に関連する書籍をリザーブブックとして設置している。

［参考文献］
①山田剛史・林　創「大学生のためのリサーチリテラシー入門 研究のための８つの力」 ミネルヴァ書房　2011年 （本体価格：2,400円+税）
②マリアン・コーリィ・ジェラルド・コーリィ著（下山晴彦監訳）「心理援助の専門職になるために　臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト」 金剛出版　2004年 （本体価格：3,800円+税）
③遠田論他「合格ナビ！臨床心理士指定大学院 〔研究計画書〕」 東京出版　2014年 （本体価格：2,800円+税）
④渋谷寛子他「臨床心理士指定大学院対策　鉄則10＆サンプル18　研究計画書編」講談社　2016年（本体価格：2,600円+税）

［備考］
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。
「重要用語・人物の知識整理と英語学習」では予習・復習にしっかりと取り組むこと，また，通常授業では積極的な参加を期待する。
この授業に出席しただけでは，大学院に合格できるところまでは達しないので，継続的な学習が重要である。